

目 次

1. 設置の趣旨及び必要性 -----	4
1-1 大学設置に至る経緯(大阪信愛女学院及び短期大学の沿革)	
1-2 中央教育審議会答申を踏まえた本学の役割	
1-3 設置の趣旨	
1-4 設置の必要性	
1-5 本学の教育理念	
1-6 養成する人材像と三つのポリシー	
1-7 中心的な学問分野	
1-8 既設の短期大学との違い	
2. 学部・学科等の特色 -----	20
2-1 教育学部の特色	
2-2 看護学部の特色	
3. 学部・学科の名称及び学位の名称 -----	24
4. 教育課程の編成の考え方及び特色 -----	25
4-1 共通教育科目の編成の考え方及び特色	
4-2 教育学部の教育課程の編成の考え方と特色	
4-3 看護学部の教育課程の編成の考え方と特色	
5. 教員組織の編成の考え方及び特色 -----	46
6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 -----	52
6-1 教育方法	
6-2 履修指導の方法等	
6-3 成績評価	
6-4 卒業要件	
6-5 履修科目の年間登録上限(CAP)制の導入	
7. 施設、設備等の整備計画 -----	62
7-1 キャンパスの構成	
7-2 校地、運動場の整備計画	
7-3 校舎等施設の整備計画	
7-4 情報学修環境の整備	
7-5 図書等の資料及び図書館の整備計画	

8. 入学者選抜の概要	73
8-1 基本方針	
8-2 選抜方法	
8-3 選抜及び選考体制	
9. 取得可能な資格	86
9-1 教育学部	
9-2 看護学部	
10. 実習の具体的計画	89
10-1 教育学部の実習計画の概要	
10-2 看護学部の実習計画の概要	
11. 教職インターンシップの学外実習の具体的計画	111
11-1 教育学部における教職インターンシップ	
11-2 看護学部（養護教諭一種免許状取得）における教職インターンシップ	
12. 管理運営	114
12-1 大学評議会	
12-2 教授会	
12-3 各種委員会	
13. 自己点検・評価	116
13-1 自己点検・評価の実施体制	
13-2 点検・評価項目	
13-3 PDCA サイクルに基づく自己点検・評価	
13-4 自己点検・評価結果の公表	
14. 情報の公表	118
14-1 基本方針	
14-2 実施方法	
14-3 公表項目	
15. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	119
15-1 基本的な考え方、方針	
15-2 実施体制	
15-3 取組内容	

16. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制 ----- 121

16-1 基本的な考え方、方針

16-2 教育課程内の取組みについて

16-3 教育課程外の取組みについて

大学の設置の趣旨・必要性

1. 設置の趣旨及び必要性

1-1 大学設置に至る経緯（大阪信愛女学院及び短期大学の沿革）

大阪信愛女学院は、フランスに本部を置く「ショファイユの幼きイエズス修道会」（恵まれない子どもたちへの奉仕を使命とし、1859年フランスにおいて設立されたカトリック修道会）から派遣された4名の修道女による日本における活動に端を発する。その4名の修道女によって、最初に取り組みされたのが社会福祉事業であり、明治10年（1877年）に神戸に孤児養育施設（神戸センタンファンズ）が、次いで明治12年（1879年）に大阪に孤児養育施設（大阪センタンファンズ）が開設された。

その後、女子教育の推進を目的に教育事業が開始され、明治17年（1884年）に信愛女学校が開設され、明治41年（1908年）には大阪信愛高等女学校の設立が認可された。

戦後の学制改革で、大阪信愛女学院高等学校、中学校、小学校、幼稚園などが設置され、昭和31（1956）年に開所した幼稚園教員養成所を基に昭和34（1959）年に大阪信愛短期大学が開学し保育科が設置された。その後、初等教育学科に改組、平成13（2001）年には保育士養成校として認可され、さらに平成24（2012）年子ども教育学科に名称変更し、現在に至っている。

子ども教育学科で取得できる主な資格は、幼稚園教諭二種免許状、小学校教諭二種免許状、保育士資格で、毎年ほぼ全員がこれらの資格を取得して、ほぼ全員が京阪神地区を中心に、幼稚園、小学校、保育所等に就職してきた【資料1-1：就職実績資料 子ども教育学科】。また、ピアノの個人レッスンによる教育をはじめ、音楽・図工・体育に関する実践的な教育を特色とし高く評価されてきた。

昭和36（1961）年に二つ目の学科として家政科が設置され、昭和45（1970）年に家政学科、昭和63（1988）年に生活文化学科、平成13（2001）年には人間環境学科に改称され、時代の要請にこたえて教育内容を充実させ、女子教育を継続して、実践力のある人材を社会に輩出してきた。

しかし、これら分野の教育が主に大学で行われるようになり、また18歳人口の減少に伴い志願者が減少したため、平成21（2009）年短期大学開学50周年の年に人間環境学科に代わり新たな学科として看護学科が設置された。

看護学科は、臨地実習に関して、本学の近辺にある病院や各種施設において行えるという実習環境に恵まれ、とくに学生全員が、地域の中核となる大学病院や市民病院などの公的な総合病院で実習を行える体制が高く評価されている。このような実習体制の確立は、本学の長年にわたる教育実践と地域貢献、本学の看護教育に対する期待の表れであり、卒業後は、ほぼ全員が病院就職を希望し、就職希望者のほぼ全員が実習病院を

はじめ京阪神地区の総合病院を中心に就職している【資料1-2：就職実績資料 看護学科】。

短期大学は、平成19(2007)年度と平成26(2013)年度に短期大学基準協会による第三者評価において適格と認証され【資料2：学校法人大阪信愛女学院 大阪信愛女学院短期大学期間別評価結果】、引き続き、時代の変化に対応した教育の改革・改善を図るべく努力を重ねてきた。しかしながら、現代社会の要請に応える人間力や実践力を兼ね備え、指導的役割を果たせる教師、保育士及び看護師の養成を行うためには短期大学での教育では不十分であるとの認識のもとに4年制大学「大阪信愛学院大学」の設置を志向することとなった。

なお、現在の短期大学は、大学の開設年度において学生募集を停止し、その時点での在学生在が卒業する年度をもって廃止する。在学生在が卒業するまでは、短期大学の建学の精神と目的、各学科の目的等に従い教育を継続していくことは言うまでもない。

教員の多くは大学に移行するが、短期大学を廃止するまでは短期大学の教育などに支障がないように、短期大学教員の大学への移行計画を段階的に進め、短期大学に必要な専任教員を残す。

1-2 中央教育審議会答申を踏まえた本学の役割

大阪信愛学院大学（以下、本学）は、専門的職業人である教師、保育士、看護師の養成を主たる目的とし、教育学部と看護学部を設置する。

中央教育審議会答申（平成17年1月28日）の「我が国の高等教育の将来像」において、高等教育は、人格の形成、能力の開発、知識の伝授、文明の継承など幅広い役割があることが示されている。本学では、キリストの人間愛を基盤とする人間性と倫理観の育成を大切にする一方で、学士力、社会人基礎力を備えた専門的職業人を養成する。教育学並びに看護学のそれぞれの専門分野において、研究、教育、地域貢献事業を通して、知の創造・継承・活用を行うために修士以上の学位取得者によって教員を編成し、教授の過半数は博士学位の取得者によって編成した。

教育学部で養成する教師、保育士と看護学部で養成する看護師は共にヒューマンケアを実践する専門的職業人であることに着目し、中央教育審議会答申（平成30年11月26日）の「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」に示されている多様な社会における多様で柔軟な教育プログラムを設けることを目的に、共通教育科目を設定するという特色を有している。さらに、両学部の学生が共に学びながら人格形成を行うことが期待される。共通教育科目では教育学部と看護学部の教員がそれぞれの専門性を活かし、学部の枠を超えて、授業を担当することも本学の特色である。

本学では、地域貢献を主たる機能とする「しんあい教育研究ケアセンター」を設置し、地域の教育・保健医療福祉のニーズや課題の明確化や地域の教育職・看護職を対象としたリカレント教育を実施する。さらに、地域の乳幼児期から老年期にある人々を対象に

した心身の健康促進につながる相談やケアを行う。そのケアの場に学生もボランティアとして参加し、地域住民の多様な人々と触れ合うことで学生のキャリア形成の機会にする。

1-3 設置の趣旨

大阪信愛学院大学を設置し、教育学部と看護学部を置き男女共学とする。教育学部は科学的根拠に基づいて児童の教育、乳幼児の保育を主体的に実践できる心豊かな教師、保育士を養成することを目的とし、取得できる主な資格は、小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状、保育士資格である。看護学部は科学的根拠に基づく論理的思考でヒューマンケアを主体的に実践できる看護師を養成することを目的とし、取得できる主な資格は、看護師国家試験受験資格、養護教諭一種免許状である。

短期大学は戦後新たに設置された高等教育機関であり、大学に比べ短期間で、専門的な知識や技術を身につけ、社会に貢献できる職業人を養成することにより、長らく社会に貢献してきた。大阪信愛学院短期大学において多くの専門的職業人を社会に送り出し、高い評価を受けてきた。しかしながら、科学技術の発展や情報化の進展などに伴い、教育や医療も大きく発展・変化し、教師、保育士、看護師とも、学ぶべき知識・技術が変化するとともに、学んだ知識・技術を不断に更新・発展させてゆかなければならない時代になった。そのような状況において、短期大学では新たな時代に対応できる専門職の養成は困難になってきた。加えて、人間教育、教養教育を基礎とする建学の精神に基づく教育実践を行う時間の確保も厳しくなり、大阪信愛学院らしい人材の養成を行うことが難しくなってきた。さらに、短期大学を志望する生徒が大きく減少し、4年制大学に移行する短期大学が急増しているという背景もある。短期大学進学者は18歳人口に対し平成6年の13.2%をピークに減少し、平成30年には4.6%となった。短期大学数も平成8年の598校をピークに平成30年には331校と、ピーク時から約55%に減少している【資料3：高等学校卒業者の進学率推移、各高等教育機関の学校数推移】。

教育学部、看護学部ともに人間を対象とし、ヒューマンケアリングを大きな柱とする学部であり、両学部が連携して教育及び社会貢献を行うことを特徴とする。そのために、「しんあい教育研究ケアセンター」を設立し、両学部のリソースを十分に生かし、地域社会と密接に関わり、地域社会の福祉の増進と啓発に貢献し、地域のニーズに応えることを企図している。また、学生教育における活用も考えている。

さらに、将来構想としては、教育学部においては、中学校教諭、高等学校教諭免許状が取得できる課程の設置、社会で指導的立場として貢献する人材の養成のために大学院修士課程の設置を完成年度以降に順次進める予定である。中学校教諭、高等学校教諭免許状取得については、近年の小学校教育での英語必修化や英語専科指導の充実をふまえ、英語科の免許状取得を目指す。その際、本学院全体で現在行っている国際教育機

関「グローバルコモンズ」においてネイティブ教員とのフリートークや英語の個別指導を行うアシスタントスタッフ経験による英語教育の機会を提供し、実習先の新規開拓、教育学部の英語科専任教員の拡充によって、英語科教員養成のための学修環境の充実を図ることを構想している。

看護学部においては、大学院修士課程を設置し、指導的な役割を果たす看護師の養成を行うとともに、保健師や助産師の養成課程を設け、保健師や助産師の養成を行うことを構想している。

1-4 設置の必要性

1) 教育学部

(1) 教師・保育士の需要について

文部科学省「学校基本調査」、厚生労働省「社会福祉施設等調査」によると、2013年度から2018年度にかけて幼稚園の本務教員数は減少しているが、保育所等常勤換算従事者数は増加しており、合計の従事者は2011年度に対して2017年度は26%以上の増加である。

幼稚園及び保育所の児童数及び対象人口については、2011年から2017年にかけて0歳から6歳の推計人口の減少傾向にある一方で、幼稚園及び保育所の利用者を含めると若干増加している【資料4：幼稚園本務教員数、保育所等種別常勤換算従事者数、幼稚園・保育所の児童数及び対象人口の推移】。これは共働き世帯が、1997年以降男性雇用者と無業の妻から成る世帯数を上回り増加し続けている影響によるものと考えられる【資料5：共働き等世帯数の推移】。

現在、保育分野の人材不足が問題となっており、平成29年末では保育士は全国で46万人必要であるが、38.6万人が就業しているにすぎず、7.4万人不足している（厚生労働省「保育人材確保のための魅力ある職場づくりに向けて」平成26年8月）【資料6：保育分野における人材確保の必要性】。

求人倍率は平成26年1月での2.44倍から平成31年1月での3.64倍へと年々高くなっている。平成31年4月の比較では、全国的には2.52倍に対して、大阪府は4.09倍とかなり高く、京阪神地区の他の府県よりも高くなっている（厚生労働省「職業安定業務統計」、厚生労働省「保育の動向と保育士養成課程について」、令和元年7月7日）【資料7：保育士の有効求人倍率の推移】。このように現時点では、保育士不足が著しい。しかし、出生数の減少が進む中、今後の長期的需要の予測は重要である。2040年までの保育ニーズについての試算がある（日本総研による報告書「2040年までの保育ニーズの将来展望と対応の在り方」（2017年10月31日）を詳説した論文

「保育ニーズの将来展望と対応の在り方」JRI レビュー 2017 Vol.3 No42)。出生率を中位（現状）と高位、妻の就業率を中位（OECD 平均レベル）と高位に仮定したとき、両方高位の場合、保育園・幼稚園ニーズは約 10%増、両方中位の場合、約 15%減としている。これは全国平均であり、地域的には出生率の違いによりかなり異なる。大阪府は、中位・中位の場合、10%減となるが、高位・高位の場合 17.9%増となり、全国平均よりかなり高い。大阪市の出生数の将来予測において、2015 年に対する 2035 年の 4 歳未満の人口の比率は、本学が立地する鶴見区では 86.1%、近隣の中央区では 94.7%と、先に述べた出生率高位の 81.3%よりかなり高く、本学が立地する城東区の 77.2%、都島区の 75.6%も出生率中位の 72.1%を上回っている（大阪市各区分将来推計人口：大阪市ホームページ）。大阪市全体、大阪府全体については、年少人口（15 歳以下）でみると 73.3%と 72.2%である（大阪府将来推計人口について）。

本学の近隣地区を中心にみると、保育ニーズが満たされるに従い、妻の就業率が高まり、出生数も高まり、幼稚園教員や保育士に対するニーズも同様に現状以上に維持されることは十分予測される。

（2）小学校教員の需要について

文部科学省「公立学校教員採用選考試験の実施状況について」【資料 8：全国の公立小学校教員の採用選考試験状況】によると、過去 10 年間の公立小学校及び公立特別支援学校の教員採用者数は、受験者数の変化はほとんどなく、採用者数は増加しており、倍率は 2011 年以降減少傾向が継続している。2018 年度の小学校における倍率は、全国平均 3.2 倍とあり、採用数は前年度比で 6.1%増となっている。近畿圏における小学校の教員採用選考試験の状況は、本学が立地する大阪府では倍率がほぼ横ばい状態にあるが、近隣の滋賀県、京都府、和歌山県では、近年倍率は減少傾向にある。現在、小学校教員不足が深刻な問題となっている。大阪市の小学校教員採用試験では、平成 31 年は 463 名採用で、倍率も 2.4 倍と低く、前年の 322 名を大きく上回っている（文部科学省「令和元年度公立学校教員採用試験の実施状況」）。

現時点では教員不足の状況があるが、今後出生数が減少していく中、中長期的な需要の動向については、出生数だけでなく、教員の定年による離職も含め推計する必要がある。教員の定年による離職と今後の見通しについて、文部科学省の「学校教員統計調査」によると、公立小学校本務教員の離職理由は「定年（大学設置勸奨含む）」が最も多く、全国では、令和 7（2025）年の 11,360 人から 2027 年を除いて減少が続くが、12 年後の 7,517 人から 12 年間は、増加に転じていく。近畿圏でも、完成年度の 1,072 人から、11 年後の 1,085 人まで 1,000 人前後で推移するが、その後は増加に転じ、20 年後には 2,129 人、24 年後には 2,099 人となる【資料 9：公立小学校本務教員の離職理由別離職者数・占有率推移、公立小学校の年齢別本務教員数（全国・近

【資料 10】。今後の教員採用者数について、前述の退職者数及び年少人口の推計に基づく具体的な推計がなされた情報はない。

一方、文部科学省「学校における働き方改革の取り組み状況について」（2019年5月8日）によると、教員の勤務時間の適正化、英語等専科指導の充実、学校運営体制の強化、などにおいて教員の増員が図られ、児童生徒13人に対して教員1人（現状は16.5人）になる予定である。

このような状況を総合的に考えると、出生数の減少に直接対応するような教員の需要の減少はないと考えられる。教育の質の確保からは採用試験においてある程度高い倍率の中で質の高い教員が採用される状況が望ましく、むしろ、質の高い教員の養成が望まれる。

（3）地域における要請等について

教員養成機関【資料 10：幼稚園教諭養成大学、小学校教諭養成大学、保育士養成大学、看護師養成大学】について、三重県を除く近畿圏において、幼稚園教員を養成する国公立大学7大学、私立大学は大阪府に17大学、滋賀県に1大学、京都府に8大学、兵庫県に13大学、奈良県に3大学、和歌山県に1大学ある。小学校教員を養成する国公立大学は7大学、私立大学は47大学ある。私立大学は大阪府に20大学、滋賀県に1大学、京都府に9大学、兵庫県に13大学、奈良県に3大学、和歌山県に1大学ある。保育士を養成する国公立大学は3大学、私立大学は43大学ある。私立大学は大阪府に19大学、滋賀県に1大学、京都府に9大学、兵庫県に10大学、奈良県に3大学、和歌山県に1大学ある。一方、幼稚園教員・小学校教員、保育士を養成する大学は大阪市内では2大学のみである。大阪信愛学院の立地する城東区や鶴見区、近隣の旭区や都島区、また門真市や守口市など近隣の京阪沿線にも教育系の4年制大学はない。近年、地域と高等教育機関の連携が重要な課題となっているが、大阪信愛学院短期大学はこれらの自治体と連携の実績があり、大阪信愛学院大学ではさらに連携が期待されているところである。

現在、質の高い教員の養成が課題となっており、地元自治体からは、地元の大学において、学生時代からインターンシップなどを通じて教育に関わり、教育実践力のある教員が養成され、卒業後、地元の小学校に就職することが要請されている【資料 11：大学設置賛同書、自治体等協定書】。本学は「しんあい教育研究ケアセンター」を設置し、地域連携を積極的に推進する予定である【資料 12：しんあい教育研究ケアセンター規程（案）】。

大阪信愛学院大学はカトリックミッション校である。日本にはカトリック系大学が18大学あるが、関西には2大学あるのみである。いずれの大学も教員と保育士の養成課程を有している。しかし、大阪府内には、大阪信愛学院大学が最初のカトリック

ク系大学となり、人間教育に基づく教員と保育士の養成には、期待されるところである【資料 13：日本カトリック大学一覧、日本カトリック大学連盟会長メッセージ】。短期大学では、卒業生の大多数が教員・保育士を希望し、ほぼ 100%が就職を実現しているが、短期大学の就職先となっている幼稚園や保育所からもその就職に期待がよせられている【資料 1】。

大阪信愛学院には高等学校が設置されており、教育コースがあるが、大多数は 4 年制大学に進学し、大阪信愛学院短期大学への進学者は数名である【資料 14：大阪信愛学院高等学校進学実績】。この高等学校から、4 年制大学設立への期待があり、4 年制大学が設置されれば、多数進学することが期待される【資料 15：大阪信愛学院高等学校からの大学設置要望、大阪信愛学院短期大学同窓会からの要望】。さらに、姉妹校の和歌山信愛高等学校、久留米信愛高等学校、熊本信愛等学高校からの進学もかなり期待される。

大阪信愛学院短期大学の歴史は 60 年を超え、卒業生は 9,000 人に上る。これらの卒業生は同窓会「めぐみ会」を組織しているが、4 年制大学設置の要望は非常に高く「めぐみ会」の協力により学生募集にも強力な支援が期待できる【資料 15】。

今後小学校教員に求められるものは、教育の質を高めるための授業実践に加え、教育現場での様々な問題に柔軟、かつ適切に対応できる実践力のある教員であり、質の高い教員養成ができれば、自ずから教員採用の道は開けてくると考えられる。

(4) 卒業後の進路、就職の見通し

大阪信愛学院大学を卒業する学生に対する採用意向調査を、2021 年 1 月から同年 2 月に、大阪信愛学院短期大学子ども教育学科の卒業生の採用実績がある教育保育機関や、求人があった教育保育機関、キリスト教カトリック系教育保育機関を含む近畿圏を中心とした幼稚園、保育所、認定こども園、児童福祉施設合わせて 500 施設を対象に実施した【資料 16：大学設置に伴うニーズ調査（教育保育機関・病院対象調査）結果報告の概要】（詳細は「学生確保の見通しを記載した書類」pp. 31～32、資料 43）。

調査票と本学が養成する人材像を示す大阪信愛学院大学(仮称・設置認可申請中)の説明書を配布し、275 事業所から有効回答票を回収し、回収率は 55.0%であった。

回答施設は、認定こども園が111件（40.4%）、幼稚園が83件（30.2%）、保育所・保育園が71件（25.8%）であった。

所在地は、「大阪府」が236件（85.8%）、「兵庫県」が18件（6.5%）、「奈良県」が12件（4.4%）、「京都府」が9件（3.3%）であった。

大阪信愛学院大学教育学部教育学科の卒業生の採用については、「採用したい」が 142 件（51.6%）、「採用を検討したい」が 101 件（36.7%）であった。採用予定人

数は「採用したい」施設で計 345 人であった。

以上の結果から、本学卒業生の採用意向については、入学定員を大きく上回っており、希望者全員が就職できる状況は整っている。

2) 看護学部

(1) 看護師の需要について

就業看護職員数の推移は、厚生労働省医政局看護課調べによると、平成 18(2006)年の 1,333,045 人から平成 28(2016)年の 1,660,071 人と、10 年間で 327,026 人増加した。うち看護師は 848,185 人から 1,210,665 人と 362,480 人の増加であった【資料 17: 看護基礎教育を取り巻く現状等について】。この間、人口は 68,000 人減少し、高齢化率は 20.8%から 27.3%となっており、高齢化の進展と医療の高度化、在宅医療の推進を背景に、看護師の需要が高まり、就業者の増加につながったと考えられる。平成 28 年における看護師・准看護師の人口対比は 1227.7 であり、都道府県別で大阪府は 973.3 と 35 位であった【資料 18: 看護職員需給推計関係資料】。

令和元(2019)年 11 月に公表された「医療従事者の需給に関する検討会 看護職員需給分科会中間とりまとめ」によると、令和 7(2025)年の看護職員の需要の推計は、1,880,682 人から 2,019,773 人で、平成 28(2016)年の就業者 166 万人に比べ、約 22 万人から 36 万人増となっている。この推計には、令和 7(2025)年に向けての高齢化の進展や、平成 30(2018)年度を始期とする第 7 次医療計画や第 7 期介護保険事業計画等看護職員の需給見通しに与える影響等、さらに短時間勤務者の増加に伴う常勤換算対実人員の比率が加味され、ワーク・ライフ・バランスの実現を前提に労働環境の変化に対応して幅を持たせたシナリオを踏まえたものである。一方、令和 7(2025)年の供給は、就業者数、新規就業者数、再就業者数、離職率を用いて推計され、1,746,664 人から 1,819,466 人で、需給ギャップは最小 6 万人から最大 27 万人とワーク・ライフ・バランスの充実度合いによって大きく左右されるものとなっている。都道府県別にみると、大阪府の供給推計は東京に次いで多い 108,938 人であるが、供給推計/需要推計では東京都、神奈川県、大阪府が 70%台で、大阪府は神奈川県に次ぐ低さであり、大阪府以外の近畿の 1 府 4 県も 90%台となっており、近畿全体でみると 80.8%から 86.8%であり、供給推計を上回る需要推計の人数は 42,502 人から 66,274 人となっている【資料 19: 医療従事者の需給に関する検討会 看護職員需給分科会 中間とりまとめ】。

令和 8(2026)年は、本学 1 期生が卒業し、看護師としての勤務を開始する年である。大学の定員は、現在の短期大学と同数であることから、短期大学卒業生の就職先が活用され、さらに需給推計では需要が高い時期であることから、就職先の確保は容易で

あると言える。

令和7（2025）年以降の需給推計は出されていないが、高齢化率は2060年まで上昇し、中でも東京都、神奈川県、大阪府などの大都市圏に属する都府県で65歳以上人口が急増し【資料20：我が国の高齢者を取り巻く状況 平成28年版 厚生労働白書】、医療機関はじめ介護保険施設や居宅でのケアサービスの増大が見込まれること、また医療従事者の中でも医師の働き方改革の一環として看護師へのタスク・シフティングも進められること【資料21：医師の働き方改革に関する検討会 報告書】、さらに2035年までに必要な保健医療のパラダイムシフトの一つに「キュア中心からケア中心へ」があること（平成27（2015）年6月公表「保健医療2035」）【資料22：保健医療2035 提言書】などを踏まえると大学卒をはじめとする質の高い看護師の需要はさらに高まると予想される。

第1回国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議における資料（平成28年9月）によると、公立学校（小中高）教員の新規採用者数の推移から平成16年から令和4年頃は定年退職者の増加による需要旺盛期Ⅲとされている。令和7年の近畿の需要推計値は、小学校で1,270人、中学校で939人であり、児童生徒数減少と退職者数の減少が需要減の主な原因となっている【資料23：今後の小中学校教員需要の動向について】。

大阪府公立学校の養護教諭については、平成28年度から令和2年度までの5年間で採用予定数175人、合格者数175人であった。全国的に志願者数の減少によって教員採用倍率の低下が続いているが、大阪府の養護教諭については、採用予定数の減少に伴い、志願者数も減少傾向にあるが、最終倍率は11.3倍から16.2倍に上昇している（「2020年度大阪府公立学校教員採用選考テストについて」2019年10月25日、大阪府ホームページ）。大阪市公立学校・幼稚園の養護教諭については、平成28（2016）年度から令和2（2020）年度までの5年間で採用予定数115人、合格判定者数152人であった。幼稚園については各年度5人の採用予定数に対し、最終倍率は4.0倍から15.0倍、小中高については年度によって若干名から40人の採用予定数で、最終倍率も5.4倍から49.3倍と幅が大きい（「大阪市教員採用選考テスト実施結果（競争倍率）」2020年3月2日、大阪市ホームページ）。

このような中で、大阪信愛学院大学は養護教諭一種免許状を取得することができる教職課程を設置する。これは、保健・医療・福祉の知識の活用や多職種協働について看護学実習で学ぶ看護師免許を有する養護教諭の必要性が高まりつつあるからである。

義務教育段階の児童生徒数は減少傾向にあるが、特別支援学校や特別支援学級の在籍数、通級による指導を受ける数は平成29（2017）年5月現在約41.7万人（4.2%）と増加傾向にあり（文部科学省「日本の特別支援教育の状況について」令和元（2020）年9月26日）、また医療的ケア児も増加している【資料24：医療ケアが必要な子どもへ

の支援の充実に向けて】。また、家庭での虐待、発達障害等による集団生活不適応、不眠など心身の健康問題を抱える児童生徒の増加に伴い、養護教諭にはスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等専門スタッフとの協働によってきめ細やかな支援が求められている。子どもの健康課題を学校・家庭・地域の視点から的確にアセスメントし、教育・保健・医療・福祉の視点から多職種と協働しながら、子どもが予防・健康増進・問題解決できる環境づくりや能力形成を支援する力を持った養護教諭は、学校・幼稚園の教職員のチームの一員として役割を果たすことが期待されている。

(2) 地域等における要請について

看護師養成数については、平成 29(2017)年度は 66,412 人で、内、大学は 22,481 人である。平成 19(2007)年度約 55,000 人で、約 10 年間で約 11,500 人の増加である【資料 25：看護師学校・養成所入学定員の推移】。養成機関について、三重県を除く近畿圏において、看護師養成課程を有す 4 年制国公立大学は 12 大学、私立大学は 38 大学あり、私立大学は、大阪府には 15 大学、京都府に 7 大学、兵庫県に 12 大学、奈良県に 3 大学、滋賀県に 1 大学ある【資料 10】。しかし、大阪市内では 2 大学のみである。大阪信愛学院の立地する城東区や鶴見区、近隣の旭区や都島区、門真市や守口市など近隣の京阪沿線には看護系の 4 年制大学はない。

近年、地域と高等教育機関との連携が重要な課題とされているが、地元で医療系大学が設置されれば様々な連携は期待される。

大阪信愛学院大学はカトリックミッション校である。日本にはカトリック系大学が 18 大学あるが、関西には 2 大学あるのみで、医療系の大学はない【資料 13】。大阪府内では大阪信愛学院大学が最初のカトリック系大学となり、最初の医療系大学として人間教育に基づく看護師養成に期待される場所である。短期大学では、卒業生の大多数が京阪地区の病院への就職を希望し、ほぼ 100%が就職を実現している。短期大学の就職先となっている医療機関からも大阪信愛学院大学卒業生の就職に期待がよせられている【資料 1 - 2】。

大阪信愛学院には高等学校が設置されており、看護医療コースがあるが、大多数は 4 年制大学に進学し、大阪信愛学院短期大学への進学者は数名である【資料 14】。高等学校からは、4 年制大学設立への期待があり、4 年制大学が設置されれば、多数進学することが期待される【資料 15】。さらに、姉妹校の和歌山信愛高等学校、久留米信愛高等学校、熊本信愛高等学校からの進学もかなり期待される。

大阪信愛学院大学では養護教諭一種免許状取得の教職課程を設置するが、養護教諭養成校は、近畿で 33 大学、大阪府内で 12 大学あるが、近隣自治体では初めての養成校であり、近隣自治体において養護教諭の要請は期待される場所である。

大阪信愛学院短期大学の歴史は60年を超え、卒業生は9,000人に上る。これらの卒業生は同窓会「めぐみ会」を組織しているが、4年制大学設置の要望は非常に高く「めぐみ会」の協力により学生募集にも強力な支援が期待できる【資料15】。

(3) 卒業後の進路、就職の見通し

大阪信愛学院大学を卒業する学生に対する採用意向調査を、2021年1月から同年2月に、大阪信愛学院短期大学看護学科の卒業生の採用実績がある病院や求人があった病院及びキリスト教カトリック系病院を含む近畿圏を中心とした500病院を対象に実施した【資料16：大学設置に伴うニーズ調査（教育保育機関・病院対象調査）結果報告の概要】（詳細は「学生確保の見通しを記載した書類」pp.32～33、資料43）。

調査票と本学が養成する人材像を示す大阪信愛学院大学（仮称・設置認可申請中）の説明書を配布し、126病院から有効回答票を回収し、回収率25.2%であった。

回答病院の所在地は、「大阪府」が65件（51.6%）、「兵庫県」が22件（17.5%）、「京都府」が12件（9.5%）、「奈良県」が7件（5.6%）であった。

大阪信愛学院大学看護学部看護学科の卒業生の採用については、「採用したい」が38件（30.2%）、「採用を検討したい」が55件（43.7%）であった。採用予定人数は「採用したい」病院で計156人、「採用を検討したい」病院で計121人であった。

以上の結果から、本学卒業生の採用意向については、入学定員を上回っており、希望者全員が就職できる状況は整っている。

1-5 本学の教育理念

本学の教育理念は、「一つの心、一つの魂」である。それを踏まえ、「建学の精神であるキリスト教的人間観に基づき倫理観を大切に、幅広い教養と豊かな人間性を備え、他者との良好な人間関係を築き、科学的根拠に基づいて論理的に考え、社会貢献へ向けて創造的に行動し、教育や保育、看護における質の高いヒューマンケアを実践でき、専門職としての資質の向上に努力する人材を養成する」ことを教育目的とする。

1-6 養成する人材像と三つのポリシー

1) 養成する人材像

教育目的を踏まえ次の五つの養成する人材像を設定した。

- ① 建学の精神であるキリスト教的人間観に基づき、豊かな人間性と幅広い教養

を備え、生命倫理や人間の尊厳を大切にす人材。

- ② 奉仕の精神を養い、豊かな想像力を有し、人々と良好な人間関係を形成し、他者と協働することができる人材。
- ③ 地域社会を中心に幅広く現代社会に目を向け、専門職として質の高いヒューマンケアを実践できる人材。
- ④ 学問的な知識基盤を修得し論理的に課題解決でき、国際的な視野をもって創造的な活動ができる人材。
- ⑤ 常に研鑽を重ね、主体的にキャリアを継続的に積み重ね、時代の変化に対応し続ける人材。

2) 大学の三つのポリシー

養成する人材像に基づき、大学としてのディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）を明確にし、それを達成するためのカリキュラムの編成方針をカリキュラム・ポリシーとして明確にした。また、それらを踏まえて、本学で学ぶ意欲と能力のある学生を受け入れる方針としてアドミッション・ポリシーを設定した。

(1) ディプロマ・ポリシー

- ① キリスト教の人間観と倫理観を基に、他者及び異文化を尊重し、豊かな教養や共感力、創造力をもとに、多様な場における多様な人々との良好な人間関係を形成できる。
- ② 基礎的及び専門的知識・技能を用い、適切なヒューマンケアの実践へ向けて、対象者を多角的に理解できる。
- ③ 科学的根拠に基づき、対象者の特性や実態に合わせた教育・保育、看護を計画的、継続的に実践できる。
- ④ 円滑なコミュニケーションの中で、自らの専門性を発揮し、他者と協働しながら良好なチームワークを形成し、課題解決できる。
- ⑤ 国際的視野を持ち、高度情報化に対応しながら、生涯にわたり継続的に学び、専門職者として創造的に活動し、社会に貢献できる。
- ⑥ 現代の諸問題に対して科学的、論理的に思考し、専門職者として主体的に教育・保育、看護を実践できる。

(2) カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーを達成させるために両学部共通で学ぶ共通教育科目、各学

部の学問体系で構成される専門教育科目、その他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせる。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の分類を表現するナンバリングを行い、カリキュラムの構造をわかりやすく明示する。教育内容、教育方法、評価について以下のように定める。

① 教育内容

4年間を通した大学の学修の基礎となる共通教育科目においては、i 宗教と人間に関する科目、ii 社会と人間に関する科目、iii 表現・行動と人間に関する科目、iv 情報と人間に関する科目、v 言語・文化と人間に関する科目を配置し、「人間の尊厳」や良好な人間関係を形成するための知識とスキルや、大学での学び方、学習スキルなど、将来に向けての学びの基礎となる教育を行う。

専門教育科目においては、専門分野の体系に基づき、必修科目と専攻に基づく科目配置を行う。大学での学びの総合化として卒業研究に係る科目は必修とする。

② 教育方法

アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、事前・事後課題や授業方法の工夫をシラバスに明記して実施する。また、体験重視の学修方法を積極的に取り入れ、サービ斯拉ーニング、インターンシップ、異文化交流等、社会との接点における課題解決学修に積極的に取り組む。専門教育科目においては、形成的評価を通じてリフレクションを行いながら確実な知識と実践の統合と定着を目指す。

③ 評価

各授業科目は到達目標に応じた評価方法（テスト、レポート、プレゼンテーション等）を用いて評価を行う。学期毎にGPAで評価を行いつつ、累積GPAで評価する。卒業認定においては、ディプロマ・ポリシーの達成状況の評価し、学びの質保証を行う。

(3) アドミッション・ポリシー

- ① 各学部における教育内容に興味関心があり、将来専門職として社会に貢献する意欲がある。
- ② 大学で学ぶための基礎的な学力を備えている。
- ③ 人間の尊厳を大切にし、人とよりよい関わりができる。
- ④ 常に努力を惜しまず、積極的に行動できる。

1-7 中心的な学問分野

大阪信愛学院大学における教育及び研究の中心的な学問分野は、教育学部においては「保育学・教育学」、看護学部においては「看護学」である。

1-8 既設の短期大学との違い

4年制大学になることによって、既設の短期大学とは、教育、研究、地域貢献活動の側面において大きく異なる。以下、各側面について述べる。

1) 教育の側面

卒業までに修得する単位数が、教育学部が従来の62単位から124単位に、看護学部が99単位から132単位に増加したことがまず挙げられる。ただ、単位数の増加だけではなく、教育内容としての充実を図っているののでそれについて言及しておく。

(1) 共通教育の充実

両学部とも人間を対象とする専門的職業人を養成することを目的としており、そのためには幅広く人間を形成するための共通教育の充実を図り、4年間かけて履修する体制をとった。

大学での学びの意味や目的を認識し、多様な人たちと協働し課題を解決する力を育むための科目として「基礎ゼミ」「教養ゼミ」「サービスマナー」「論理的思考力をつけるために「クリティカル・シンキング」、国際化に対応する力をつけることを目指し、体験的に理解を狙いとした「異文化交流」「国際理解」、そして基本的なスキルの獲得のため「Reading」「Writing」「Process Writing」「時事英語」「フランス語」等の語学関係の科目の充実を図った。

また、人間愛や共感力をより深く理解してもらうために、3年次、4年次にそれぞれ「人間論（哲学）」「宗教論」を配置した。

(2) 専門教育の充実

- ① 創造的に行動でき、様々な問題に柔軟に対応できる教育者・保育者・看護職の育成のために、教育学部では「教育原理」「保育者論」「教科教育論」各領域の指導法や教科の教育論、看護学部では「臨床判断論」「看護学概論」「生涯発達看護論」「生活機能論」などの専門教育科目を設定している。

- ② 専門職として創造的な活動する能力、即ち実践力を育成するために教育学部、看護学部のそれぞれに実習科目数や単位数ともに充実させている。教育学部では各実習において事前事後指導を設定し学内指導を充実させ、実習までに幼稚園、小学校で教員の日常業務を観察、体験できる「教職インターンシップ」も設定している。看護学部では講義、演習、実習と学習を進めた後に実習の振り返り科目として演習を設定している。さらに、実習での学びを最大限にするために、実習委員会、実習連絡協議会などの会議を通して、大学と実習場の教育担当者との連絡を密にするなどの工夫をしている。
- ③ 常に研鑽を重ね、主体的にキャリアアップできる能力の育成のために共通教育科目の「キャリア入門」につながる科目を専門教育科目において、教育学部では初年次から履修カルテを用いた学修の振り返りをした後に4年次に「教職実践演習（幼・小）」を設け看護学部では「キャリアデザインⅠ、Ⅱ」を設けている。
- ④ 論理的に課題解決できる人材の養成を担う科目として「研究」を重視し、両学部ともに関連科目（教育学演習、教育学研究、看護研究）を充実させ、指導に当たる専任教員を質量ともに充実した配置にしている。

（3）取得できる資格について

① 教育学部教育学科

保育士資格の他に、短期大学で取得できた幼稚園教諭二種免許状、小学校教諭二種免許状を上進させ、大学では幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状を取得できるようにした。

② 看護学部看護学科

短期大学では看護師国家試験受験資格のみであったが、選択により養護教諭一種免許状の取得も可能である。

（4）学習環境の充実

- ① 大 학교舎にラーニングcommons 4室（57㎡、40㎡、66㎡×2）及び、ゼミ室13室を新たに設置し、学習室の整備に併せて教育機材の増強もおこない、アクティブ・ラーニングや研究活動の推進を図る。
- ② 学生の学修支援を目的とした「キャリア支援センター」を開設し、チューター（担任）と連携して個々の学生の状況に応じた適切な学修サポート体制を導入する。
- ③ 図書館の電子書籍等の充実を図る。看護系では日本看護科学学会誌・日本看護研究学会誌・Applied Nursing Research、教育系では教育心理学研究・Educational Psychologist、発達など学術雑誌の閲覧可能数を増やす。特に看護系では電子ジャーナル閲覧を充実させ、洋雑誌1,400誌および学位論文

27,000件の全文が閲覧できるNursing & Allied Health Databaseを導入する。また、オープンアクセスジャーナルの情報提供に加えて海外文献検索を充実させるためにリンクリゾルバ360 Linkを新たに導入し、教育研究活動の充実した支援をおこなう。

- ④ 大学の学舎すべての学修スペース及び図書館にWiFi環境を整備し、ICT教育の充実や学生の自学自習活動の促進を図る。
- ⑤ 大学本館に理科実験室や調理実習室を新たに整備し、教育学部における実践科目である理科教育や家庭科教育の充実を図る。

2) 研究の側面

教員の研究が質の高い大学教育を提供する重要な要素であることは言うまでもないが、短期大学においてはこの点に欠けるところが多々あったので、以下のような事柄について抜本的な改善を図る。

- ① 研究環境の整備（国内外の電子ジャーナルの整備、研究報告準備用の印刷機器など）を図る。
- ② 外部資金の獲得、研究のプロセス、研究班のマネジメントなどのテーマについてファカルティ・ディプロップメントによる若手教員の研究能力の向上を図る。
- ③ 研究支援体制の整備（研究補助金、助成金等の獲得支援、研究報告用の大学紀要の発刊等）を行う。
- ④ 研究費の支給、研究日の効果的な活用支援を行う。
- ⑤ 組織横断的な共同研究のための組織の構築を図る（「しんあい教育研究ケアセンター」の研究機能の活用）。

3) 地域貢献の側面

「しんあい教育研究ケアセンター」を設置し、教育学部と看護学部の学内研究員として登録した教員及び客員研究員が共同で運営にあたる。具体的には以下の3部門を置き、例示したような活動を行うことを構想している。

- ① 学術研究部門：地域の教育、保育、保健・看護に関するニーズとその対応に関する調査・研究の実施。
- ② 教育研修部門：地域における教師・保育士、看護師を対象にしたリカレント教育の実施。
- ③ 地域ケア部門：地域の人々への教育相談、健康相談、心理相談、乳幼児期から老年期にある人々の交流や憩いの場の提供。

【資料12：しんあい教育研究ケアセンター規程(案)】

2. 学部・学科等の特色

「我が国の高等教育の将来像」答申の機能と特色

中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」（平成17年1月28日）の中で提言された「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」では、大学は「1. 世界的研究・教育の拠点、2. 高度専門職業人養成、3. 幅広い職業人養成、4. 統合的教養教育、5. 特定の専門的分野（芸術、体育等）の教育・研究、6. 地域の生涯学習の拠点、7. 社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）」の「7つの機能を併有するが各大学の選択により、保有する機能や比重の置き方により各機関の個性・特色を一層明確にしていかなければならない」としている。これを踏まえて本学学部では「3. 幅広い職業人養成」「7. 社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）」を重点的に担う教育を特色としている。以下に、「高等教育の多様な機能と個性・特色」を基に、学部ごとの特色を示す。

2-1 教育学部の特色

1) 教育学部における幅広い職業人養成

教育学部では、幅広い職業人つまり教師、保育士の養成について、次の4つの視点を重視している。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">(1) 子ども理解に優れた力量を有する教師、保育士の養成(2) 英語によるコミュニケーション能力に優れた教師、保育士の養成(3) 「知の足腰」の強い教師、保育士の養成(4) 感性豊かで実践力のある教師、保育士の養成 |
|--|

(1) 子ども理解に優れた力量を有する教師、保育士の養成

教育実践、保育実践の質の要は、教師、保育士が有する子ども理解の質である。社会が複雑になるにつれて子どもが育つ生活環境も複雑になっている。そういう生活環境の変化が子どもの生活にどのように浸透し、子どもの成長・発達にどのような影響を与えているのかについて、子ども一人ひとりに即して総合的に把握する力量を教師も保育士ももたなければならない。ただ、重要なことは、教師、保育士をめざす学生もそういう社会環境の中で生き、子どもと同時代を生きていくのであるという認識をもつことである。「私は教師だ」「私は保育士だ」という上からの目線ではない子どもの見方を謙虚に学ぶ必要がある。

そういう力量を養成するために、教育学や心理学の基本的科目はもちろん、子どもの家庭生活、子どもの食と栄養、子どもの福祉、特別支援教育、さらには社会福祉など幅広く学ぶべき科目を準備している。

(2) 英語によるコミュニケーション能力に優れた教師、保育士の養成

社会全体のグローバル化が進展し、小学校に英語教育やコンピューター教育が導入される時代となり、さらに低年齢の時期から英語によるコミュニケーション能力が求められている。そのような事態にしっかり対応できる力量をもった教師、保育士を養成するために、共通教育として1年次から「Speaking & Listening」「海外語学研修」「情報リテラシー」などの科目、2年次からの専門教育としては「初等英語論」「初等英語科教育論」「ICT活用演習」などの科目を配置している。

(3) 「知の足腰」の強い教師、保育士の養成

中央教育審議会答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」（平成24年8月28日）によれば、これからの学校に期待される役割として、「基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成や学習意欲の向上、多様な人間関係を結んでいく力の育成等を重視する必要がある」との判断が示されている。そのような力を学校で育成するためには、何よりも教員がそれらの力を体得していないといけないし、そのような力の基礎は、教師をめざす学生たちが学ぶ大学においてこそ築かれねばならない。

同日同じく中央教育審議会が答申した「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」は、学士課程において学生が身につけなければならない力として、「生涯学び続け、主体的に考える力」と副題で規定しているが、それはまさしく教職をめざす学生が大学において身につけなければならない力でもある。我々は、そのような力を「知の足腰」と呼び、それは、具体的には「見つける力」「調べる力」「まとめる力」「発表する力」「考える力」の五つの力で構成されると考えている。そのような五つの力から構成される「知の足腰」の強い教師、保育士を養成したいと考えている。

そのために「卒業研究」（必修）に5単位を配当し、2年間かけて取り組むこととしている。すなわち、3年次に「教育学演習Ⅰ」（前期）と「教育学演習Ⅱ」（後期）を開講し（いずれも必修）、教員各自の専門を通して学生の研究遂行能力を鍛え、4年次に開講する「教育学研究Ⅰ」（前期）と「教育学研究Ⅱ」（後期）を通して卒業論文を完成させる。また、この2年間の少人数のゼミ活動は、大学生生活の醍醐味を味わわせてくれることになるだろう。

上記のような力を身に付けるためには、土台となる教育の基礎概念の学修が必要であるが、その学修機会については【資料26：教育学部における教育の基礎概念の学修機会】に示す。

(4) 感性豊かで実践力のある教師、保育士の養成

本学は、短期大学の時代から、音楽・図画工作・体育の教育及び濃密な教育実習・施設実習に力を入れ、感性豊かで実践力のある幼児教育の教師を養成してきた実績を有している。教育学部もその伝統を引き継ぎ、感性豊かで実践力のある教師、保育士の養成を行う。

2) 社会貢献機能（地域貢献）

前項にも示した通り、地域貢献を主たる機能として「しんあい教育研究ケアセンター」を設置する。その中での教育学部の役割は、「①学術研究部門：地域の教育、保育に関するニーズとその対応に関する調査・研究の実施、②教育研修部門：地域における教師・保育士を対象にしたリカレント教育の実施、③地域ケア部門：地域の人々への教育相談、心理相談、乳幼児期から老年期にある人々の交流や憩いの場の提供を行う」ことである。

2-2 看護学部の特徴

1) 看護学部における幅広い職業人養成

日本看護系大学協議会の「看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標」（平成30年6月）では、「超高齢社会の進展、疾病構造の変化、様々な医療状況の変化にあわせて、病院施設での看護から地域在宅での看護活動へと、看護を提供する場の拡大が期待され」、「将来を切り拓く可能性の高い看護職を育成するには、大学として独自性を活かした特色ある教育を展開する」必要性があると提言している。

本学部は「キリスト教の人間愛、倫理観を基に人間の尊厳を守り、幅広い教養と豊かな人間性を備え、人間相互の信頼関係を形成し、自他共に成長できることを目標に科学的根拠に基づいて、主体的にヒューマンケアを実践できる看護師を養成する。人口の少子高齢化、医学医療、看護学の進歩発展、国際化によってもたらされる社会の変革や多様性に対応できる柔軟性、創造性を有し、社会的責務を果たし、生涯学び続ける看護師を養成する」ことを教育目的としている。

看護師の養成については、人間の尊厳を大切にし、看護の対象となる人々と良好な援助的人間関係を形成し、多職種と連携・協働しながら、科学的根拠に基づいて看護を実践できる人材を養成する。また、養護教諭の養成においては、看護師に求められる能力を身につけながら、養護教諭一種免許状に必要な科目を履修することで、地域社会の中での一翼としての学校保健の分野での養護教諭としての子どもの発育発達、権利擁護、安全管理などへの理解を深め、子どもと家族に応じた心身の健康管理を行

なえる看護師を養成する。

2) 社会貢献機能（地域貢献）

「しんあい教育研究ケアセンター」における看護学部の役割は、「①学術研究部門：地域の保健医療福祉のニーズ調査や研究の実施、②教育研修部門：地域における看護職を対象にしたリカレント教育の実施、③地域ケア部門：乳幼児期から老年期にある人々を対象にした健康相談、保健指導（まちの保健室の開催、子育て相談等）や交流や憩いの場の提供を行う」ことである。

【資料12：しんあい教育研究ケアセンター規程(案)】

3. 学部・学科の名称及び学位の名称

本学に設置する学部の名称は、「教育学部」（英文名称：Faculty of Education）及び「看護学部」（英文名称：Faculty of Nursing）とする。教育学部に設置する学科の名称は、「教育学科」（英文名称：Department of Education）とする。看護学部に設置する学科の名称は、「看護学科」（英文名称：Department of Nursing）とする。

授与する学位の名称は、教育学部においては「学士（教育学）」（英文名称：Bachelor of Education）、看護学部においては、「学士（看護学）」（英文名称：Bachelor of Nursing）とする。

学部	学科	学位
教育学部 Faculty of Education	教育学科 Department of Education	学士（教育学） Bachelor of Education
看護学部 Faculty of Nursing	看護学科 Department of Nursing	学士（看護学） Bachelor of Nursing

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

教育目的を達成するためにアドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを構築してカリキュラムを編成した。両学部にはキリスト教精神に基礎を置き、ヒューマンケアを実践する専門職業人を養成するという共通点があることから、共通教育科目を設定し、両学部の学生が履修できることとした。

4-1 共通教育科目の編成の考え方及び特色

1) 教育学部、看護学部に通じて求められる能力

教育学部も看護学部もともに人間に働きかける対人専門職である。したがって、基本的な資質として、「人間の尊厳」を大切にし、良好な人間関係を形成していく能力が求められる。

そのためには他者への共感を伴った理解、人間や社会についての幅広い認識、そしてコミュニケーションスキル等を欠くことができない。そしてそこには論理的な思考や科学的な根拠に基づく実践が必須である。さらに、社会状況の変化や科学の進歩による知識と技術の発展に対応し、知識や技術を自ら更新できる能力がなくてはならない。

2) 本学の養成する人材像、教育学部と看護学部のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく共通教育科目の教育目的

共通教育科目の教育目的は、本学の養成する人材像①「建学の精神であるキリスト教的人間観に基づき、豊かな人間性と幅広い教養を備え、生命倫理や人間の尊厳を大切にする人材」としてまとめられている。

そして、それは両学部の養成する人材像の①、教育学部では「キリスト教的人間観に基づき、豊かな人間性と幅広い教養を備え、生命倫理や人間の尊厳を大切にする人材」として、看護学部では「人間の尊厳を大切にし、良好な援助的人間関係を築ける人材」として表され、ディプロマ・ポリシー①において、教育学部では「キリスト教精神に基づいて他者及び異文化を尊重し、豊かな教養や共感力・想像力を基に、国際的な視野を持ち、多様な場における多様な人々との良好な人間関係を形成できる」、看護学部では「人間の尊厳を大切にし、良好な人間関係を築くための幅広い教養と知識を身につける」とそれぞれ求められている。

それらを具現化するため、カリキュラム・ポリシーにおいては、教育学部の①で「キリストの精神である人間への深い愛に基づいて、人間への理解を深め尊厳を持って教育・保育を行う人材を養成するために共通教育科目及び専門教育科目の科目

群で編成し、それぞれの科目群で人間について学ぶ科目を設定する」、同②で「学修する上で必須能力であるコミュニケーションスキルや情報リテラシーの育成に関する科目を配置するとともに豊かな教養ならびに国際性を育む科目を設定する」、看護学部での①で「人間の尊厳を大切にし、関係を築くことができる能力を養うために、人間や社会についての幅広い教養、他者への共感や論理的な考え方を学び視野を広げる基礎的科目を【共通教育科目】に配置する」と規定されている。

3) 科目区分と科目設定

上記の点を踏まえ、学修しなければならない共通教育科目の知識および技能として導きたしたのものが、「キリスト教的人間観」「人間の尊厳」「人間や社会についての幅広い教養」「他者への共感」「論理的・科学的思考」「情報リテラシー」「コミュニケーションスキル」「国際性の涵養」である。

これらを、共通教育科目の学びを進める助けとなるように5つに区分した。

【資料 27 共通教育科目 学年進行】

「宗教と人間」……「キリスト教的人間観」「人間の尊厳への理解」を主として養う科目群であり、建学の精神を学ぶとともに、人間にとっての宗教が果たす意味などを考えることを目的とする。

(キリスト教と人間、現代とキリスト教、人間論 (哲学)、宗教論)

「社会と人間」……「人間と社会についての幅広い教養」を主として養う科目群であり、社会と人間の相互関係と現代社会の仕組みとあり方を学ぶことを目的とする。

(心理学、社会学、ジェンダー論、サービスラーニングなど)

「表現・行動と人間」……「他者への共感」をはじめ人間の感性や情動を主として身体表現・行動を通して学ぶことを目的とする。

(くらしと色彩、人と音楽、園芸療法入門、体育講義など)

「情報と人間」……「論理的・科学的思考」「情報リテラシー」「コミュニケーションスキル」を主として養う科目群であり、様々な情報を論理的・科学的思考に基づき読み解き活用できるための知識や技能を学ぶことを目的とする。

(文章表現、クリティカル・シンキング、社会調査法、情報リテラシーなど)

「言語・文化と人間」……「国際性の涵養」を主として養う科目群であり、文化的背景の異なる

人たちを理解する知識、交流できるコミュニケーションスキルを学ぶことを目的とする。

(Speaking & Listening、フランス語 I、国際理解(カンボジア研修)、文化人類学など)

4) 4年間を通じた共通教育科目での学びの深化

大学において何をどのように学ぶのかといったことを確認するとともに、大学での学びの基本的スキルの修得を目指す科目は初年次教育に含まれている。しかし、人間の尊厳の理解や他者への共感、国際性を育むには、時間を要するものであり、4年間にわたってゆっくと積み上げ、学び続けることが必要であるため、4年間にわたる科目設定をしている。

5) 専門を異にする学生同士の交流による学修の深化

1年生の段階から、研究目的や社会への関心・興味等の異なる両学部の教員や学生が演習形式の授業などで密度の濃いコミュニケーションを行い、互いを知ること、そのあと出会う多様な学問的あるいは社会的な課題、また人間関係や人生についての悩みについて、よき相談相手の発見につながる。

4-2 教育学部の教育課程の編成の考え方と特色

1) 教育学部の教育目的と養成する人材像

教育学部の教育目的は、「キリスト教の人間愛、倫理観を基に、人権を尊重し、人間相互の信頼を形成し、自他共に成長できることを目標に科学的根拠に基づいて児童の教育、乳幼児の保育を主体的に実践できる心豊かな教育者、保育者を養成する。国際化、情報の高度化、人口構造の急激な変化などによってもたらされる現代社会の変革や多様性に対応できる柔軟性、創造性を有し、社会の要請に応えることができ、生涯学び続ける人材を養成する」ことである。

それを踏まえ、養成する人材像を次のように設定する。

- ① キリスト教的人間観に基づき、豊かな人間性と幅広い教養を備え、生命倫理や人間の尊厳を大切にす人材。
- ② 豊かな想像力を有し、人間相互の信頼を形成し、課題解決のために他者と協働することができる人材。

- ③ 教育・保育に関わる使命感と責任感を持ち、地域社会を中心に幅広く現代社会に目を向け、子どもの状況や特性を包括的に理解し、一人ひとりに応じた教育・保育を実践できる人材。
- ④ 国際化、情報の高度化などの現代社会に目を向け、論理的に思考し対応できる柔軟性、創造的な活動を行うことができる人材。
- ⑤ 常に研鑽を重ね、主体的にキャリアを継続的に積み重ね、時代の変化に対応し続ける人材。

2) 教育学部において養成する人材像と三つのポリシーの関係性

養成する人材像と三つのポリシーの関係性を説明する前に、教育学部のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーをあらかじめ示しておく、次のようになる。

[教育学部のディプロマ・ポリシー]

- ① キリスト教精神に基づいて他者及び異文化を尊重し、豊かな教養や共感力・想像力を基に、国際的な視野を持ち、多様な場における多様な人々との良好な人間関係を形成できる。
- ② 教育・保育に関わる使命感と責任感を持ち、教育・保育を実践するために必要な基礎的及び専門的な知識・技能を身につけ、適切な教育・保育を実践できる。
- ③ 教育の対象者の発達年齢、健康状況、心身両面における特性を包括的に理解し、一人ひとりの子どもの実態や状況に応じた教育を構想し、計画的・継続的に教育・保育を実践できる。
- ④ 教育・保育の質向上を目標に、他者と円滑なコミュニケーションを取り、協働して課題解決できる。
- ⑤ 科学的な根拠に基づいて論理的に考える姿勢を身につけ、生涯にわたり持続的に学び、社会に貢献できる。
- ⑥ 専門職者として、現代の教育課題に対して確かな認識を持ち、必要とされる教育・保育を主体的に思考して実践できる。

[教育学部のカリキュラム・ポリシー]

- ① キリストの精神である人間への深い愛に基づいて、人間への理解を深め尊厳を持って教育・保育を行う人材を養成するために共通教育科目及び専門教育科目の科目群で編成し、それぞれの科目群で人間について学ぶ科目を設定する。
- ② 学修する上で必須能力であるコミュニケーションスキルや情報リテラシーの養成に関する科目を配置するとともに、豊かな教養ならびに国際性を育む科目

を設定する。

- ③ 教育・保育についての理念・理論について学び、心理的側面からも子どもの理解を深め、障害児を含む特別な支援を必要とする子どもについても理解し、教育・保育を探究する科目を設定する。
- ④ 科学的な根拠に基づいて教育・保育を展開でき、論理的に物事を考え、生涯にわたり探究する姿勢の育成に関わる科目を配置する。
- ⑤ 教育・保育の実践能力と主体的な学習態度を育成するために講義、演習、実習等の多様な学習形態を系統的に配置する。

続いて、先に示した養成する人材像とディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの関係性について説明する。

(1) キリスト教的人間観に基づき、豊かな人間性と幅広い教養を備え、生命倫理や人間の尊厳を大切にする人材

この人材養成の目標は、「キリスト教の精神に基づいて、他者及び異文化を尊重し、豊かな教養や共感力、想像力」と明示している。

これを具現化するため、人間理解を深めるための科目や、異なる視点を持った学生と共に学び他者と協働して課題を解決する力を育む科目を配置した。具体的な科目としては、「キリスト教と人間」や「現代とキリスト教」「人間論（哲学）」で建学の精神を学ぶことはもちろん、少人数ゼミによりアクティブ・ラーニングで学ぶ「基礎ゼミ」や「教養ゼミ」を設定している。大学本館にゼミ室13室を新たに設置して少人数の授業で利用できるようにするとともに学習教材の増強も行ってアクティブ・ラーニングの推進を図る。

(2) 豊かな想像力を有し、人間相互の信頼を形成し、課題解決のために他者と協働することができる人材

この人材養成の目標は「多様な場における多様な人々との良好な人間関係を構築できる」、「他者と円滑なコミュニケーションをとり、協働して課題解決できる」と明示している。これを具現化するため、学修する上で必須能力であるコミュニケーションスキルや情報リテラシーの育成に関する科目を配置している。また、子どもについて理解を深めた上で、教育・保育を探究していく科目を配置した。具体的な科目としては、「文章表現」「情報リテラシー」等のコミュニケーションスキルを養う科目や、「初等教育課程論」「保育・教育課程論」等の教育課程編成に関わる科目「特別支援教育学」「初等生徒・進路指導論」等の他者との連携が重要な科目、保育内容の指導法及び各教科の指導法に関する科目等、意見交換をしながらよりよい指導法を探る科目が挙げられる。

(3) 教育・保育に関わる使命感と責任感を持ち、地域社会を中心に幅広く現代社会に目を向け、子どもの状況や特性を包括的に理解し、一人ひとりに応じた教育・保育を実践できる人材

この人材養成の目標は、「教育・保育に関わる使命感と責任感を持ち、教育・保育を実践するために必要な基礎的及び専門的な知識・技能を身につけ、適切な教育・保育を実践できる」また、「教育の対象者の発達年齢、健康状態、心身両面における特性を包括的に理解し、一人ひとりの子どもの実態に応じた教育を構想し計画的・継続的に教育、保育を実践できる」と明示している。これらを具現化するため、教育・保育の理念・理論について学び、心理的側面等から、障害児を含む特別な支援を必要とする子どもについても理解し、教育・保育を探究する科目を設定した。具体的な科目としては、使命感・責任感を養う「教育原理」「保育原理」、基礎的及び専門的な知識・技能を身につける「教育制度論」「保育内容総論」、子どもの包括的理解に関する「教育心理学」や「障害児（者）心理学」「幼児の理解」「乳児保育Ⅰ」「乳児保育Ⅱ」、計画的・継続的な教育・保育の実践へ向けた保育内容の指導法及び各教科の指導法を配置した。

(4) 国際化、情報の高度化などの現代社会に目を向け、論理的に思考し対応できる柔軟性、創造的な活動を行うことができる人材

この人材養成の目標は「国際的な視野を持ち」、「科学的な根拠に基づいて論理的に考える姿勢を身につけ」、「現代の教育課題に対して確かな認識を持ち、必要とされる教育・保育を主体的に思考して実践」と明示している。

これらの目標を具現化するため、豊かな教養や国際性を育む科目を配置し、科学的な根拠に基づいて教育・保育を展開でき、論理的に物事を考える姿勢を養う科目、教育・保育の実践能力と主体的な学習態度を育成するための講義、演習、実習等の多様な学習形態を系統的に配置した。具体的な科目として、「文化人類学（異文化理解）」や「国際理解（カンボジア研修）」等の国際的な視野を養う科目、「データサイエンス」や「初等教育方法学」等の論理的な思考を養う科目を配置し、主体的な実践へ向けて教育実習指導や保育実習指導等の演習科目や、教育実習（幼・小）、保育実習等の豊富な実習科目を配置した。

(5) 常に研鑽を重ね、主体的にキャリアを継続的に積み重ね、時代の変化に対応し続ける人材

この人材養成の目標は、「生涯にわたり継続的に学び」と明示している。この目標を具現化するために、生涯にわたり探究する姿勢を身につけるための科目を配置

した。具体的には、現代社会や教育課題について学ぶ「社会福祉論」や「子ども家庭福祉」等や、主体的・継続的に学ぶ姿勢とそのために必要な能力（「見つける力」「調べる力」「まとめる力」「発表する力」「考える力」）を身につける「教育学演習」や「教育学研究」等が挙げられる。

最後に、以上の過程を遂行できる意欲と能力を有した学生の受け入れ方針として次のようなアドミッション・ポリシーを設定する。

〔教育学部のアドミッション・ポリシー〕

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">① 乳幼児の保育、児童の教育に興味関心があり、将来教職、保育職として社会に貢献する意欲がある。② 高校での教育課程を幅広く学び、保育者・教育者になるために必要となる基礎的な学力を備えている。③ 保育者や教育者をめざし、明朗で快活に仲間と協働ができるコミュニケーション能力を備えている。④ 幅広い関心から、主体的に課題発見に努め、その課題解決に実践的に取り組もうとする学習意欲をもっている。 |
|---|

3) 教育学部のカリキュラム編成の特色

(1) 教育学部の科目配置

教育学部のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーとの関係及び各科目配置について図式化したものを【資料 28:教育学部 カリキュラムマップ】に示した。

共通教育科目としては、人間への理解を深めるための科目群、学修する上で必須能力であるコミュニケーションスキルや情報リテラシーの育成に関する科目群、国際性を育む科目群を配置した。専門教育科目としては主に、教育・保育の理念・理論や様々な視点から見た子どもの理解に関する科目群、科学的視点からみた保育・教育を考えることができる論理的視点に関わる科目群を配置した。そして、教育者、保育者としての実践的能力養成とともに、主体的に学習を進める態度を養うため、実習に重点を置き、多様な科目配置を行った。

(2) 科目分類の考え方と、学年進行による科目配置

教育学部では、ディプロマ・ポリシーを体系的に「学科共通科目」「学科コア科目」「学科展開科目」の三層構造で学びを進める。

- ・「学科共通科目」：教育学部の根幹科目である「教育原理」を1年次前期に設

置し、3年次に「教育学演習Ⅰ」「教育学演習Ⅱ」、4年次に「教育学研究Ⅰ」「教育学研究Ⅱ」という科目を配置する。少人数教育の特性を生かし、卒業研究へ向けて学生たちが段階的に研究を進められるようにする。それは、教育現場において子どもたちを主体的な学びの主人公たらしめるには、何よりも子どもたちを教える教師自身が学びの達人でないとかなえられないと考えるからである。このことを学科の根幹とする。

- ・「学科コア科目」：教育・保育の理念や、小学校や幼稚園・保育所における教育内容と指導法に関する理解を深め、教育・保育現場において主体的に授業・保育を構想する力を養成するための授業科目を設置する。今日ニーズが高まっている特別支援教育や複雑化する子どもの心理を探究すると同時に、音楽科・図工科・体育科など高い実践性が要求される科目を設置する。
- ・「学科展開科目」：主たる専門教育科目以外に、教育・保育の対象者の幅広い発達年齢、健康状態、心身両面における特性を包括的に理解し、具体的に実践するための科目を配置する。4年次後期に「教職実践演習（幼・小）」を配置し、入学時から個別に作成している履修カルテをもとに教育・保育者となるそれまでの学びを振り返り、不足している知識や技能等を補うものとする。カリキュラム・ポリシーに基づく学びを包括し統合する卒業研究を、この学科展開科目に配置し4年間の学びの集大成とする。

以上のカリキュラム・ポリシーと科目分類の考えに基づく科目の学年進行による配置については以下のとおりである。

1年次には教育職に就くための人間的基礎を形成するために、主に共通教育科目を学び、合わせて「教育原理」や「保育原理」等の主要な専門教育科目を学習し、教育の基本的概念の理解を深める。

2年次には初等教育コースと幼児教育コースの2コースに分かれ、それぞれの専門性を高めていく。初等教育コースでは、「教職論」において教職の意義・職務内容を理解するとともに、各教科の指導内容に関する基礎的知識・技能を修得する。幼児教育コースでは、「保育者論」において保育職の意義・職務内容を理解するとともに、各領域及び保育内容に関する基礎的知識・技能及びそれらの指導法を学び、幼稚園教育実習に備える。

3年次には、両コースとも「教育学演習Ⅰ」「教育学演習Ⅱ」でゼミに分かれ、ゼミ担当教員の専門について学ぶ。同科目では、受講生が大学で初めて経験する本格的なゼミであることに鑑み、入門的で基礎的な研究テーマが取り扱われることになる。その中で調査・発表・討議の仕方について学ぶことになる。あわせて初等教育コースでは、各教科の指導力を身につけ、9月の小学校教育実習に備える。幼児教育コースでは、5月にある幼稚園教育実習でさらなる実践力を身につけ、教育相談や子育て支援に関する授業科目を履修し、保育者としての知識を深めていく。

4年次には、両コースとも「教職実践演習（幼・小）」においてこれまでの学修や実習体験の集大成を行う。あわせて副免許状取得に必要な、授業科目を履修する。さらに、卒業論文の作成に向けて「教育学研究Ⅰ」「教育学研究Ⅱ」において、受講生が自ら設定した研究テーマについて、主体的な探究を継続する。

3年次から始まる卒業論文に至る学びの過程において、学生たちは学びの達人へと育っていくことになる。このような3年次以降の学びそのものが、短期大学とは異なる四年制大学の大きな特徴である。

なお、以上の学年進行による科目配置に関する詳細は【資料29-1：教育課程編成の方針に基づいた学年進行毎の科目配置】に示す。

(3) 実習に関して修得すべき科目の体系性

教育学部の幼稚園教諭免許状、小学校教諭免許状、保育士資格取得に必須の実習について、実習前に修得すべき科目を体系的に配置している。実習に関して修得すべき科目の体系性については、【資料29-2：実習に関して修得すべき科目の体系性を示す表】で示す。

4-3 看護学部の教育課程編成の考え方と特色

1) 看護学部の教育目的と養成する人材像

看護学部の教育目的は、「キリスト教の人間愛、倫理観を基に人間の尊厳を守り、幅広い教養と豊かな人間性を備え、人間相互の信頼関係を形成し、自他共に成長できることを目標に科学的根拠に基づいて、主体的にヒューマンケアを実践できる看護師を養成する。人口の少子高齢化、医学医療、看護学の進歩発展、国際化によってもたらされる社会の変革や多様性に対応できる柔軟性、創造性を有し、社会的責務を果たし、生涯学び続ける看護師を養成する。」ことである。

それを踏まえ、養成する人材像を次のように設定する。

(1) 人間の尊厳を大切にし、良好な援助的人間関係を築ける人材

学士課程においては、様々な生活背景からくる多様な価値観や世界観を尊重し、看護の対象となる人々を擁護するヒューマンケアの実践能力が求められている。カトリックミッション校である本学の特色を活かし、キリスト教的人間観に基づいた一人ひとりを大切にする豊かな人間性と人間の尊厳を根幹にして、看護専門職として人間と生命に対する深い畏敬と倫理観に基づいて、看護の対象となる人々の健康、

生活の質の向上を目指して誠実で良好な人間関係を築ける人材を養成する。

(2) 科学的根拠に基づいて看護を実践する能力を有する人材

学士課程においては、多様な対象の特性や状態を理解した上で、科学的な最新の知識・技術を用いて、必要とされる看護を提供する能力が求められている。そのために、看護の対象となる人々を生物学的、心理社会的存在の統合であること、生活者として存在していることを前提に、包括的に捉えることができ、科学的根拠に基づいて看護を実践する能力を有する人材を養成する。

(3) 多職種と連携・協働し、あらゆる人々の健康課題に対応する実践能力を有する人材

あらゆる人々の健康課題をアセスメントし、健康レベルの変化の過程において、病院・施設、療養の場の移行期や在宅を含めた多様な場において生活する人への健康課題に対応する実践能力が求められる。そのためには、看護職のチームワークや多職種との連携・協働が不可欠である。本学においては、地域の人々の教育・健康・生活に関わってきた長い歴史の中で培った「地域とともにある」教育を継続し、ライフサイクルやあらゆる健康レベルにある人々に対して、多職種と連携・協働し、あらゆる人々の健康課題に対して看護実践ができる人材を養成する。

(4) 多様化する社会に対応し、継続的に看護を探究できる人材

学士課程においては、看護職としての専門的能力を生涯にわたって主体的かつ継続的に発展させていくための能力が求められる。本学においては、多様化する社会（社会的動向・国際化）に対応し、看護専門職として看護学の発展を探究する能力を養う。

2) 看護学部の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

以下の能力を身につけ、かつ学則で定める所定の単位（132 単位）を修めた者に対し学位「学士（看護学）」を授与する。

- (1) 人間の尊厳を大切にし、良好な人間関係を築くための幅広い教養と知識を身につける
- (2) 看護実践に必要な人間の健康と疾病についての基礎的知識を身につける
- (3) あらゆる人々と援助的人間関係を形成し、健康課題に対して科学的根拠に基づ

いた看護を実践する能力を有する

- (4) 多職種と連携・協働し、地域の人々の健康課題を解決する能力を有する
- (5) 多様化する社会に対応し、継続的に看護を探究しようとする態度を身につける

先に示した養成する人材像とディプロマ・ポリシーの関係性を説明する。

養成する人材像（１）「人間の尊厳を大切にし、良好な援助的人間関係を築ける人材」を養成するための到達目標として、人間や社会についての幅広い教養、他者への共感や論理的な考え方の修得が必要と考え、「人間の尊厳を大切にし、良好な人間関係を築くための幅広い教養と知識を身につける」をDP1とした。

養成する人材像の（２）「科学的根拠に基づいて看護を実践する能力を有する人材」を養成するための到達目標として、看護実践に必要な人間の心や身体の仕組みやあらゆる人々の健康生活の保持増進や健康障害の予防、健康の回復に関わる治療や関係制度に関する知識の修得が必要と考え、「看護実践に必要な人間の健康と疾病についての基礎的知識を身につける」ことをDP2とした。

養成する人材像の（２）「科学的根拠に基づいて看護を実践する能力を有する人材」と（３）「多職種と連携・協働し、あらゆる人々の健康課題に対応する実践能力を有する人材」を養成するための到達目標として、看護の基礎的な理論や技術の修得やライフサイクルやあらゆる健康レベルに対応する看護を理解する必要があると考え、「あらゆる人々と援助的人間関係を形成し、健康課題に対して科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を有する」ことをDP3とした。

養成する人材像の（３）「多職種と連携・協働し、あらゆる人々の健康課題に対応する実践能力を有する人材」を養成するための到達目標として、地域で生活する人々の健康課題を解決するために、継続的に、保健医療福祉チームの一員として多職種と連携・協働して行う看護を理解する必要があると考え、「多職種と連携・協働し、地域の人々の健康課題を解決する能力を有する」ことをDP4とした。

養成する人材像の（４）「多様化する社会に対応し、継続的に看護を探究できる人材」を養成するための到達目標として、多様化する社会に対応し、看護専門職として看護学の発展を探究する姿勢を修得する必要があると考え、「多様化する社会に対応し、継続的に看護を探究しようとする態度を身につける」ことをDP5とした。

3) 看護学部教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

先に示したディプロマ・ポリシーに掲げた到達目標を達成するために、カリキュラム・ポリシーを策定した。

ここに、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及び教育課程の編成について、その概念を体系的に表すために、「看護学部カリキュラム・ツリー」、「ディプロマ・ポリシーと各科目の関連」を示す。

【資料 30：看護学部カリキュラム・ツリー】

【資料 31：ディプロマ・ポリシーと各科目の関連】

- (1) 人間の尊厳を大切にし、良好な人間関係を築くことができる能力を養うために、人間や社会についての幅広い教養、他者への共感や論理的な考え方を学び視野を広げる基礎的科目を【共通教育科目】に配置する (DP1)。

教育方法

幅広い知識を修得するための講義科目と少人数制のゼミ形式で、教育学部の学生と共同で学び、相互学修効果を高める演習等アクティブ・ラーニングを取り入れ、大学での学びの基本的スキルが修得できる教育を実施する。

評価方法

学修成果のプレゼンテーション等を行い、学修の経過を含めた評価を実施する。

- (2) 人間の心や身体の仕組みを理解し、あらゆる人々の健康生活の保持増進や健康障害の予防、健康の回復に関わる治療や関係制度に関する知識を学び、看護を行うときの根拠や必要性を考えることができるために【専門教育科目】として『専門基礎科目』を配置する (DP2)。

教育方法

講義は事前・事後の課題等、ICT を活用したラーニングシステム等で主体的な学修を促す教育を実施する。

評価方法

小テストや定期試験、レポートにより学修の到達状況を評価する。

- (3) 科学的根拠に基づいた看護の知識・技術を修得するために基礎的な理論や技術、看護の展開方法を学ぶ科目を【専門教育科目】として『専門科目』『看護の基盤』に配置する (DP3)。

教育方法

演習科目では科学的根拠に基づいた臨床判断やフィジカルアセスメントの基礎技術が身につくようシミュレーター等を活用し反復練習を促す。

評価方法

講義科目は試験等により到達状況を客観的に評価する。演習科目等では技術の修得状況を客観的な評価指標を活用し評価する。実習科目では評価基準表（ルーブリック）を活用し、思考過程や実践場面でのパフォーマンスにより評価する。

【資料 32：ヒューマンケア実習 I 評価表（案）】

- (4) 多様な場において、看護の対象となる人々のライフサイクルやあらゆる健康レベルに対応する看護を理解する科目を【専門教育科目】として『専門科目』「ライフサイクルと看護」に配置する（DP3）。

教育方法

講義・演習科目では事前・事後学修やグループ発表等を計画し、主体的に相互学修ができるよう支援する。実習前の演習では、問題状況を含んだ臨場感のある事例を用いた課題解決型学修を取り入れる。実習後の演習では、講義と実習での学びの統合を図り、実践能力が修得できるよう到達状況に応じて学修を支援する。実習科目では看護の専門職と共に実践した体験を意味づけて整理し、カンファレンス等を活用し、実習グループで学びを共有できるよう支援する。

評価方法

シラバスに示した評価方法に基づき評価を行う。実習前の演習科目では技術修得状況について評価指標を活用し評価する。学生の学修プロセスを含めたパフォーマンスを客観的に評価する。実習科目では評価基準表（ルーブリック）を活用し、思考過程や実践場面のパフォーマンス評価を行う。実習後の演習科目では実習目標の到達状況に応じ、知識や技能の補完状況の評価する。

- (5) 地域で生活する人々の健康課題を解決するために、継続的に、保健医療福祉チームの一員として多職種と連携・協働して行う看護を理解する科目を【専門教育科目】として『専門科目』「コミュニティと看護」に配置する（DP4）。

教育方法

グループ発表等を計画し、主体的に相互学修ができるよう支援する。実習科目で

は、地域の健康課題に取り組む場での体験を意味づけて整理し、実習グループで学びを共有できるよう支援する。

評価方法

シラバスに示した評価方法に基づき評価を行う。学生の学修プロセスを含めたパフォーマンスを客観的に評価する。

- (6) 多様化する社会に対応する看護専門職の役割を理解し、看護学の発展を探求する姿勢を養うための科目を【専門教育科目】として『専門科目』「看護の発展」に配置する (DP5)。

教育方法

講義・演習科目では事前・事後学修やグループ発表等を計画し、主体的に相互学修ができるよう支援する。

看護研究では研究論文の作成や発表を通して探求的態度が身につくように支援する。

評価方法

シラバスに示した評価方法に基づき評価を行う。学生の学修プロセスを含めたパフォーマンスを客観的に評価する。

授業は教育効果を見据えて、講義形式では40～80名、演習形式は16～40名で実施する。また、看護研究は教員1名に対して5～6名のグループを編成し、継続的に研究指導を行う。実習は、原則5名グループで実施するが、訪問看護ステーション等の小規模施設では2～3名の小グループを編成し実施する。

具体的には、事前・事後の課題等を行い授業に臨む反転学習の活用や与えられたテーマについてグループワークで議論する課題解決学習などのアクティブ・ラーニング型授業を体系的に取り入れ、学生の気づきを促し課題解決能力を養う工夫を行う。その方法の一つとして、ICTシステム(Web Class)を用いて、事前課題の提示、小テスト、レポート提出等の工夫、また、eポートフォリオを活用して、学習活動のプロセスを通じた継続的な学習成果物を用いて学習者が主体的に学習に取り組むための工夫を行う。

4) 看護学部の入学者受入の方針 (アドミッション・ポリシー)

ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを踏まえて、アドミッション・

ポリシーを以下に設定する。

- (1) 看護に興味関心があり、将来看護職として社会で活動する意欲がある。
- (2) 看護学部での学びに必要な基礎的学力を備えている。
- (3) 他者の意見が尊重できるコミュニケーション能力を備えている。
- (4) 努力を惜しまず、主体的に行動できる。

5) 各科目区分の科目構成

前述のディプロマ・ポリシーに対応したカリキュラム・ポリシーに基づき、【共通教育科目】「専門基礎科目」「看護の基盤」「ライフサイクルと看護」「コミュニティと看護」「看護の発展」の6つの科目区分を体系的に編成する。

また、4年間を通して、学生の学修レベルに応じて段階的に知識、技術、態度の学修を積み上げていけるように、講義、演習、実習、実習の振り返り演習を体系的に配当する。

(1) 【共通教育科目】(42科目、必修16単位、選択28単位)

人間の尊厳を大切に、関係を築くことができる能力を養うための幅広い教養や倫理観を学ぶ基礎的科目としては、本学の特色であるキリスト教の精神を学ぶ科目である「キリスト教と人間」「現代とキリスト教」などを配置し、社会と人間の相互関係を学ぶ科目である「心理学」「社会学」「サービスマーケティング」「生命倫理」などを配置した。

看護を行う上で必要な科学的根拠と論理的思考力の基礎を養うための基礎的科目として「クリティカル・シンキング」「教養ゼミ」「情報リテラシーⅠ」などを配置した。文化的背景の異なる多様な人々を理解するための基礎的科目として「Speaking & Listening」「Writing」「文化人類学」などを配置した。

(2) 【専門教育科目】

① 『専門基礎科目』(26科目、必修28単位、選択3単位)

『専門基礎科目』は、人体の構造と機能、健康障害を引き起こす要因となる病原微生物等を学修するための「人体の構造と機能(解剖学)」「人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ」「生化学」「微生物学・免疫学」を配置し、看護学の観点から人体を体系的に理解する。また、健康障害を起こす要因となる疾病や健康障害等の回復過程や治療等を修得し、看護実践するための科学的根拠に基づく理解を深めるため

に「疾病治療論Ⅰ～Ⅳ」を置き、これらの科目と関連させつつ「栄養学」「病理学」「臨床薬理学」「心のしくみと働き」「発達心理学」「生活機能論」「健康教育論」の科目を配置した。さらに、人間の健康に影響する人的・社会的環境についての理解を深めるために「環境と健康」「社会健康学」「社会心理学」「家族社会学」を置き、健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるように必要な知識として保健・医療・福祉に関する基本概念や関係制度の理解となる「医療倫理」「社会福祉論」を配置した。公衆衛生の制度と仕組み、疫学や保健統計学の知識を修得するために「公衆衛生学（疫学）」「保健統計学」を配置した。

② 『専門科目』

「看護の基盤」「ライフサイクルと看護」「コミュニティと看護」「看護の発展」を専門科目とした。

i) 看護の基盤（13科目、必修18単位）

「看護の基盤」では、科学的根拠に基づいた看護の知識・技術を修得するために基礎的な理論や技術、看護の展開方法を学ぶ内容として13科目配置した。

看護の基本となる概念や倫理、看護の役割・機能、今後の看護学の発展等を理解するための「看護概論」「看護倫理」「看護理論」「キャリアデザインⅠ」「家族看護論」「看護教育学Ⅰ」、看護の基礎となる知識や援助技術を学ぶ「基礎技術Ⅰ・Ⅱ」「フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱ」、看護過程に必要な思考過程を学ぶ「臨床判断論」を配置した。また、実習科目として、対象とコミュニケーションをとり、看護実践の場を体験的に知ることがを目的とする「ヒューマンケア実習Ⅰ」、「基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ」「フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱ」「看護理論」「臨床判断論」で学んだ知識や技術をもとに、療養生活を営んでいる対象者への看護を実践的に学ぶ「ヒューマンケア実習Ⅱ」を配置した。

ii) ライフサイクルと看護（22科目、必修32単位）

「ライフサイクルと看護」は、誕生前から死に至るライフサイクルを深く理解し、様々な健康レベルにある人々の理解と健康水準の維持・向上の支援方法を学び、科学的根拠に基づいた看護実践ができるための科目として22科目配置した。「ライフサイクルと看護」の科目においては、講義、演習、実習、実習の振り返り演習を通して体系的に学びの統合を図り、看護実践能力を向上させるための科目を年次配当している。

女性の生涯にわたる健康と発達、マタニティサイクルにおける母子の健康の観点から女性とその家族を支援するための基礎知識について理解を深めるために「生涯発達看護論Ⅰ（母性）」を配置し、マタニティサイクルにある母と子の疾病

予防、健康増進等について学修するとともに学んだ知識・技術を看護実践の場で展開するために「生活機能支援論Ⅰ－①（母性）」「生活機能支援論実習Ⅰ（母性）」を配置した。さらに、実習における経験の振り返りや、講義と実習における学びの統合を図るために「生活機能支援論Ⅰ－②（母性）」を配置し、実践能力が修得できるようにした。

子どもと家族を取り巻く環境、社会を踏まえ、発達理論を概観し、子どもの成長・発達、制度や子どもの権利に関する基礎的知識について理解を深めるために「生涯発達看護論Ⅱ（小児）」を配置し、子どもの特性に応じた看護技術、看護実践方法について学修するとともに学んだ知識・技術を看護実践の場で展開するために「生活機能支援論Ⅱ－①（小児）」「生活機能支援論実習Ⅱ（小児）」を配置した。さらに、実習における経験の振り返りや、講義と実習での学びの統合を図るために「生活機能支援論Ⅱ－②（小児）」を配置し、実践能力が修得できるようにした。

成人期における保健医療福祉政策の仕組みや健康増進、疾病予防に向けた支援方法を学び、成人期における多様な健康課題に対する看護の基礎知識について理解を深めるために「生涯発達看護論Ⅲ（成人）」を配置し、疾病の予防、急性期・慢性期・回復期の課題解決、看護援助、生活支援について学修するとともに急性期・慢性期・回復期の特性に応じた看護技術、看護実践方法について学修するために「生活機能支援論Ⅲ－①（急性）」「生活機能支援論Ⅲ－②（慢性）」「生活機能支援論Ⅲ－③（リハビリテーション）」を配置した。また、実際の場で実践力の基礎力・応用力を育成できるように「生活機能支援論実習Ⅲ－①（急性）」「生活機能支援論実習Ⅲ－②（慢性）」を配置し、さらに、実習における経験の振り返りや講義と実習における学びの統合を図るために「生活機能支援論Ⅲ－④（急性）」「生活機能支援論Ⅲ－⑤（慢性）」を配置し、実践能力が修得できるようにした。

看護の対象である高齢者を生活者として理解し、対象との関係性を築くため、相手を尊重したコミュニケーションをとることを目的として早期体験学習に位置づけ「生活機能支援論実習Ⅳ－①（老年）」を配置した。早期体験学習の学びを活かし、高齢者の加齢に伴う身体的、心理的、社会的変化が健康におよぼす影響や高齢者の発達課題、多様な能力（強み）を学び、老年期の疾病予防、健康の保持増進について理解するために「生涯発達看護論Ⅳ（老年）」を配置した。高齢者の特性に応じた看護技術、看護実践方法について学修するとともに学んだ知識・技術を看護実践の場で展開するために「生活機能支援論Ⅳ－①（老年）」「生活機能支援論実習Ⅳ－②（老年）」を配置し、さらに、実習における経験の振り返りや、講義と実習における学びの統合を図るために「生活機能支援論Ⅳ－②（老年）」を配置し、実践能力が修得できるようにした。

あらゆるライフサイクルの人々が最期までその人らしく生を全うできるよう支

援するために「エンドオブライフケア論」を配置した。

iii) コミュニティと看護 (16 科目、必修 17 単位、自由 4 単位)

「コミュニティと看護」は、地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における様々な場での看護の基礎を学び、地域で提供する看護の基礎的な技術を身につけ、多職種と協働する中での看護の役割を理解し、地域の健康課題に取り組む能力を養うための科目として 16 科目を配置した。「コミュニティと看護」の科目においては、講義、演習、実習、実習の振り返り演習を体系的に配当している。

人々と家族の心の健康・不健康のアセスメント、心の機能と発達、精神保健と人間関係や精神状態に影響する社会問題について学び、精神の健康保持増進と疾病の予防を目指し、地域における保健活動について理解するために「メンタルヘルス・アセスメント」「メンタルヘルス・プロモーション」を配置し、精神疾患をもつ対象の健康問題を把握し、コミュニティを基盤とした生活を支援するための看護技術、看護実践方法について学修するとともに学んだ知識・技術を看護実践の場で展開するために「生活機能支援論Ⅴ-①(精神)」「生活機能支援論実習Ⅴ(精神)」を配置した。さらに、実習における経験の振り返りや講義と実習における学びの統合を図るために「生活機能支援論Ⅴ-②(精神)」を配置し、実践能力が修得できるようにした。

地域看護が必要とされる社会的、政策的背景を踏まえ、地域看護の理念と機能、療養者と家族の特性とニーズ、地域看護に関連する制度や地域包括ケアシステムの構築、その中での保健・医療・福祉の連携・協働の必要性について理解するために「地域包括ケア論Ⅰ(在宅)」を配置した。また、地域包括ケアにおいて、看護師としての役割やチームの一員として他職種の専門性や役割を理解するために「チーム医療論」「養護学概説」を配置した。多様な場で看護を必要とする地域で生活する人々の健康と QOL 向上を踏まえ、地域で療養する人と家族のセルフケア能力の維持・向上のための看護支援方法や地域のヘルスニーズに対応した地域看護活動の展開と実践方法、地域における児童生徒の健康の保持増進、保健管理、保健教育を理解するために「地域包括ケア論Ⅱ(在宅・地域)」「地域包括ケア論Ⅲ(地域・学校)」「学校保健」を配置し、学んだ知識・技術を看護実践の場で展開するために病院、グループホーム、小規模多機能施設、訪問看護ステーション、地域包括支援センターなどで行われている個人、集団、コミュニティへの支援方法を体験的に学ぶ「地域包括ケア論実習Ⅰ(老年)」「地域包括ケア論実習Ⅱ(在宅)」「地域包括ケア論実習Ⅲ-②(統合:地域)」を配置し、看護師や看護管理者の看護実践を通して、看護師としての役割やチームの一員として他職種の専門性や役割を理解するために「地域包括ケア論実習Ⅲ-①(統合:管理)」を配置した。さらに、実習における経験の振り返りや講義と実習における学びの統合を図るた

めに「地域包括ケア論Ⅳ（在宅）」を配置し、実践能力が修得できるようにした。

iv) 看護の発展（14科目、必修9単位、選択6単位）

「看護の発展」では、多様化する社会に対応する看護専門職の役割を理解し、看護学の発展を探究する姿勢を養うための科目として14科目を配置した。

看護提供システムとその管理、患者安全とその制度・仕組み、リーダーシップ・メンバーシップの基礎知識等、看護マネジメントに必要な知識を学修し、看護専門職としての自己の役割や看護職としてのキャリア形成構築の必要性を理解するために「専門職論」「看護マネジメント論Ⅰ・Ⅱ」を配置した。また、災害が人々の健康や生活に及ぼす影響とその支援について学ぶ「災害看護Ⅰ・Ⅱ」を置き、諸外国における保健・医療・福祉の課題を理解するために「国際看護Ⅰ・Ⅱ」を配置した。また、看護学の発展を探究する能力を培うために「看護研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を配置した。さらに、学生自身がキャリアデザイン形成につなぐことができる「キャリアデザインⅡ」科目を配置した。

③ 教職科目（15科目、自由21単位）

養護教諭一種免許取得に必要な教育内容であるが、看護学士課程卒業に必要な所定の単位には含まないため、教職科目と区分し、「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳・総合的な学習の時間などの指導及び生徒指導・教育相談などに関する科目」「教育実践に関する科目」を配置した。

6) 必修科目・選択科目・自由科目とその理由

看護学の基本の知識と技術にかかわる科目および看護師を養成するために必要な科目を必修科目として配当した。各自が興味をもち、より理解を深めたい科目や看護をより発展的に学ぶための科目については、選択科目として選択できるようにした。また、養護教諭一種免許取得に必要な科目のうち、看護学部卒業要件に該当する科目に含まない科目は自由科目として配当した。

7) 学年進行による科目配置

共通教育科目は、専門科目の開始前に低年次で履修できるよう、主に1年次から2年次に配置した。専門基礎科目は、1年次から2年次に配置し、先行して「人体の構造と機能」を学んだ後、「疾病治療論」を配置し、体系的に理解できるようにした。

専門基礎科目が修了または同時並行の形で1年次から看護の「専門科目」を配置

している。「専門科目」のうち「看護の基盤」は主として1年次から2年次に配当し、「ライフサイクルと看護」を2年次から3年次に、「コミュニティと看護」を3年次から4年次に、「看護の発展」は4年次に配置している。

2年次に看護の対象特性における看護を教授する生涯発達看護論Ⅰ～Ⅳを配置し、それらが修了する2年次の後半に、看護の対象への多様な支援方法を教授する生活機能支援論Ⅰ～Ⅴの講義、演習科目を配置している。それらの科目の実習は3年次に配置し、実習後の振り返りを行う演習科目を配置した。また、3年前期から地域包括ケア論の講義や演習科目を配置し、それらの実習は4年前期に配置し、実習後の振り返りを行う演習科目を4年次後期に配置した。

また、キャリア形成の科目として、2年次には看護の専門職を理解する「キャリアデザインⅠ」科目を配置し、さらに、3年次で「キャリアデザインⅡ」科目を配置し、実習を通してキャリアモデルとなる看護師と出会い、学生自身がキャリアデザイン形成につなぐことができるようにした。看護ケアを提供する仕組みを教授する科目として「看護マネジメント論Ⅰ・Ⅱ」、「国際看護Ⅰ・Ⅱ」、「看護教育学Ⅰ・Ⅱ」の科目を配置している。看護研究の科目としては、3年次に研究の概要と研究の基礎を学ぶ「看護研究Ⅰ・Ⅱ」を配置し、4年次では自己の関心に基づいた研究を実施する「看護研究Ⅲ・Ⅳ」を体系的に配置した。

8) 指定規則との整合性

看護学部の教育課程は、保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める教育内容及び単位数を満たしている。【資料33：教育課程と指定規則との対比表（学則別表2-5）】

9) 養護教諭一種免許取得

養護教諭一種免許状取得のための教育課程は、日本看護系大学協議会において、中央教育審議会の答申、それを受けて発表された文部科学省の養護教諭の職務、業務、期待される能力などを参考に作成された「看護学士課程で養成する養護教諭の能力についてコアコンピテンシーと卒業時到達目標」（平成29年11月）において、看護系大学で養成する養護教諭は、「看護学を基盤として実践するための「教員共通に求められる能力」と「養護教諭の専門性に関わる実践力」を修得する必要がある。」と示されている。そのため、本学では、養護教諭一種免許状履修規程（学則別表2-4）に示す通り「養護及び教職に関する科目」と「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」で構成した。「養護及び教職に関する科目」のうち、「養護に関する科目」は専門教育科目（専門基礎科目と専門科目）の23科目29単位で構成した。学校保健を推進する

養護教諭の基本的能力を学修する科目としては、教職科目として「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳・総合的な学習の時間などの指導及び生徒指導・教育相談などに関する科目」「教育実践に関する科目」で構成し、15科目21単位を配置した。「大学が独自に設定する科目」は共通教育科目と専門教育科目（専門科目）の6科目7単位で構成した。

【資料 34：養護教諭一種免許状履修規程（学則別表 2-4）】

5. 教員組織の編成の考え方及び特色

本学では教育学部において1学年80名定員、収容定員320名の学生を育成するために19名の教員によって、また、看護学部において1学年定員80名、収容定員320名の学生を育成するために32名の教員によって教員組織を編成する。その編成に当たっては、両学部共に、短期大学の教員と新たに採用する教員で編成する。

1) 教員編成の考え方

(1) 教育学部の教員編成

教育学部の専任教員は、教授7名、准教授7名、講師4名、助教1名、合計19名で編成し、博士の学位所有者は7名（教授5名、准教授1名、講師1名）である。また、修士の学位所有者は9名である。教育学部の主要な科目は専任の教員で担当するように編成している。

教員編成の考え方は、以下に示すとおりである。

◆教員編成についての考え方

- ・教育学部の主要科目は、専任の教授、准教授を中心に専任教員が担当する。
- ・教育実践力が要求される科目は、実務経験の豊かな専任教員が担当する。
- ・一人当たりの年間持ちコマ数（半期2単位科目を一コマとする）を原則として12コマを上限とする。

◆教育上主要と認められる授業科目への教授・准教授の配置

- ・教育の理念や基礎的理解に関する科目等について、「教育原理」「教職論」「保育者論」「教育心理学」「特別支援教育学」「保育・教育課程論」「幼児の理解」「初等教育相談」に専任の教授を配置している。
- ・専門教育科目は、学科共通科目、学科コア科目、学科展開科目に分けられているが、それぞれの科目群において、教授、准教授を配置し、主要科目を担当する。
 - 学科共通科目…「教育原理」
 - 学科コア科目…「教職論」「保育者論」「教育心理学」「初等教育方法学」「特別支援教育学」
 - 学科展開科目…「初等教育相談」「児童心理学」「ICT活用演習」

◆実務経験の豊かな専任教員の配置について

専任教員における実務経験について、教育学部で養成する人材は、小学校教員及び幼稚園教員、保育士であるので、小学校教員経験者、幼稚園教員経験者、保

育園勤務経験のある保育士、特別支援教育に関わる養護学校教員経験者を実務経験者とした。また、教員養成課程で重要視している情報教育については、高等学校教諭経験者も実務教員とした。実務経験については非常勤としての勤務歴も含めた。それぞれの職種において、教員毎に実務経験年数を示し、勤務経験年数が10年以上の者を実務経験豊富な教員とした。

実務経験を有する教員は合計9名、内5名が実務経験豊富な教員で、以下のとおりである。

小学校教諭としての実務経験を有する教員が5名（勤務年数14年の教授[A]、11年の教授[J]、3年の講師[B]、3年の講師[C]、9年の助教[D]）、幼稚園教諭としての実務経験を有する教員が1名（勤務年数20年の教授[E]）、養護学校教諭として実務経験を有する教員（勤務年数36年の教授[G]）が1名で、実践的な教育の実現にあたる。また、高等学校において情報教育に実績のある教員（勤務年数19年の准教授[H]、教育情報化推進指導者養成研修修了）が1名で、情報教育の推進にあたる。

養護学校長[G]、中等教育学校長[I]が学校管理等を学ぶための実践的教育を行う。

科目担当としては、教育実践力が要求される科目である「教育実習（幼・小）」「教育実習事前事後指導」「教職実践演習（幼・小）」は講師[C]が担当し、「保育実習ⅠA」「保育実習Ⅱ」は教授[J]、「保育実習ⅠB」「保育実習Ⅲ」は教授[G]、講師[B]が担当する。

「教職論」担当の教授は中等教育学校長経験者[I]であり、「特別支援教育学」担当の教授[G]は養護学校教諭、養護学校長経験者、「初等教育方法学」は高等学校教員歴の豊富な准教授[H]であり、実践的教育の充実を図っている。

幼稚園教育に関する領域と保育内容の指導法に関しては「保育内容総論」に教授[E]、「幼児と人間関係論」と「保育内容指導法（人間関係）」をオムニバスで教授[E]、「幼児と人間関係論」「保育内容指導法（人間関係）」のオムニバスと「幼児と環境論」「保育内容指導法（環境）」「保育内容指導法（健康）」に教授[J]を充てている。これらの科目には実務経験豊かな教員が担当し、実践的な教育指導により教育効果を上げる。

小学校における教育内容と指導法に関する理解を深め、教育現場において主体的に授業を構想する力を育成するため、小学校教育に関する教科と指導法に関する授業科目については、「初等理科論」、「初等体育論Ⅰ・Ⅱ」「初等体育科教育論」に専任の教授を充て、「初等音楽論Ⅰ」に准教授、「初等英語論」「初等英語科教育論」に准教授を充てている。これらの科目において、体育関係の科目には、小学校教員経験豊かな教授[A]および講師[B]を充てている。また、「初等理科教育論」には小学校の教員経験者である講師[C]を充てている。これら実務経

験者により、より実践的な教育を行っていくことができると考える。

また、「教育心理学」「初等教育相談」には、いじめ調査委員会委員長、校内トラブル解決のサポートなど教育臨床関係担当経験者の教授を充てている。

情報教育の重要性はますます増していくと考えられるが、「初等教育方法学」「ICT活用演習」には高等学校教員歴が豊富で情報教育に精通している准教授[H]を充て、情報教育の充実を図っている。

◆専任教員の授業負担のバランス

専任教員の授業負担は、一人あたりの年間持ちコマ数の上限12コマに収まっている。12コマを超える教員については、同じ授業を複数回行う語学などの演習科目を含んでおり、過重な負担増にはなっていないと考える。実習や演習科目を担当する教員の大半は講師及び助教であり、研究指導科目（3年生の「教育学演習Ⅰ」「教育学演習Ⅱ」、4年生の「教育学研究Ⅰ」「教育学研究Ⅱ」「卒業研究」）は担当しないので、授業負担のバランスは保たれており、教育研究の質の支障はきたさない。

(2)看護学部の教員編成

看護学部の専任教員は、教授13名、准教授4名、講師9名、助教4名、合計30名で編成し、博士の学位所有者は12名（教授9名、准教授1名、講師2名）である。また、修士の学位所有者は18名（教授4名、准教授3名、講師7名、助教4名）である。

看護学は実践の科学であるという特性から、看護の専門科目の教員組織は、研究業績のみならず、担当科目の実務経験と教育経験などを考慮して編成した。

教員の配置は表の通りである。

(数字は人数)

科目区分	職 位	教授	准教授	講師	助教	
共通教育科目		1			1	
専門教育科目	専門基礎科目	2				
	専門科目	看護の基盤	1	2		1
		ライフサイクルと看護	6		4	1
		コミュニティと看護	2	2	3	1
		看護の発展	1		2	
小 計		13	4	9	4	
合 計		30				

2) 教員の年齢構成

本学の教員の定年は70歳であるが、【資料35：大学設置当初における職員の採用に関する指針】に示したように開学時にその年齢を超えている教員が教育学部で教授1名、看護学部で教授1名である。また、完成年度には70歳を超えて定年になる教員は教育学部で教授4名、看護学部で教授5名と准教授1名である。その理由は、開学時に大学教育経験が豊富で担当科目の専門性に於いても優秀で指導力のある教員確保を優先した結果である。しかし、両学部共に准教授、講師、助教の職にある教員は30歳代から60歳代まで、バランスよく配置している。

3) 教員組織編成の将来構想

本法人の就業規則上の定年年齢は65歳であるが、大学開設当初における教員の採用方針については、大学教育の質を確保することを最優先とするため、定年年齢を70歳とし、かつ、必要な人材は定年年齢を超えて雇用契約を継続することとした【資料35：大学設置当初における職員の採用に関する指針】。教育研究の効果的な継続は、本大学の質保証の観点から非常に重要であるものと認識しており、定年年齢後も必要な教員の雇用継続を可能とする指針を設けた。

(1) 教育学部の将来構想

教育学部の完成年度には、70歳を超えて定年になる教員が教授7名の内4名あり、専任教員19名中教授6名が65歳以上の年齢構成となっており、高齢に偏った教員編成となる。大学完成年度に定年年齢を超える教員の内訳は、保育学担当教授1名、特別支援教育学担当教授1名、体育学担当教授が1名、理科教育担当教授が1名である。

定年による退職者の退職年次はあらかじめ分かっているため、それを見越した上、具体的に大学開設2年目から公募によって大学完成年度以降の教員補充計画を進めていくこととする。また、同時に教員の研究業績なども勘案しながら、適切な昇格人事も推進し、各専門領域の教育研究の効果的な継続を図っていく。後任の採用に当たっては、教育研究の効果的な継続に最大限配慮しながら、可能な限り若手教員の採用を行う予定である。その採用計画を進めることにより、教授7名の教育研究水準は維持しつつ若手教員の拡充を図り、50歳未満の教員、50歳から60歳未満の教員、そして70歳未満の教員が均等にバランスよく配置できる年齢構成を目指すとともに、より充実した学生指導体制の構築に取り組んでいく。

大学完成年度以降の具体的な採用計画として、教授4名の後任の選考にあたっては、教育学部の配置基準を考慮しつつも、教育研究の質の担保、教育研究の継続性

の維持、若手教員の採用などを重視する。教員の専門領域に関する教育研究の継続性については、体育学を担当する専任講師1名、理科教育を担当する専任講師1名、特別支援教育学を担当する専任准教授1名が在職しているため、これら学内の若手専任教員の昇格を可能にするための研究支援体制の拡充と、退職教員の後任として新たな専任教員採用の検討を合わせて行う。「保育学」の専門領域については、大学開設2年目から講師以上の若手教員公募を行う。大学完成年度には、教員構成のバランスを鑑み少なくとも2名の教授の選考が不可欠であり、専門性および実務経験などを考慮して、学内教員の昇格と公募の両面から選考を検討する。教授の公募の場合にはどうしても年齢が高めになる可能性があるが、教育研究の継続性の点から、採用後定年年齢の70歳に至るまでは少なくとも5年以上継続して勤務できることを一つの基準として教員の選考に努める。他の2名の教授の後任の選考に当たっては、学生への指導の効果など教育課程の効率的な運用を考慮しつつ、講師以上の若手教員を公募し大学完成年度直後に採用する予定である。また、完成年度以降2～3年のうちに定年を迎える教授が在籍しているため、その際の後任人事においても早期に取り組み、学内昇格や公募などにおいて、若手教員を選考することによって教員組織の若返りを図る。

併せて、学内の若手教員の昇格を可能にするために、上位学位の取得、研究日の効果的活用、研究費等の外部資金取得、研究環境の整備など、研究支援体制の拡充を大学開学直後から進めたい。

具体的には、下記の要件を視野に後任の選考を行う。

① 学科コア科目担当の後任の選考

「保育者論」及び「保育内容総論」の担当教授と「特別支援教育学」担当の教授は、完成年度末に退職予定である。また、「教育原理」及び「教育心理学」担当教授もそれぞれ完成年度の2～3年後には定年年齢に到達する。これらの教授は学科コア科目の担当であることから、後任には、それぞれの専門領域の教授を学内昇格或いは公募によって確保する。その際にはできるだけ若手教員の起用または採用を優先させる。

② 実務経験豊かな専任教員の配置

完成年度には、幼稚園教諭経験者1名、養護学校長経験者である特別支援教育学担当教授1名が定年退職予定であるが、後任の選考に当たっては、実務経験の要件もしっかり考慮しつつ、学内教員のバランスを検討しながら採用を進める。

③ 専任教員の授業負担のバランスの考慮

完成年度には体育学の担当教授1名が退職予定であるが、その後任選考に当たっては、その時点における教員の授業分担の偏重や専門分野の偏りなどを考慮して、できるだけ若手教員を選考する。

定年退職する教員については予め退職年次が明らかであるので、後任を確実

に確保するために、早めに、目標として大学開設2年目から大学完成年度以降の教員補充計画を進めていく。その際には、まず、学内昇格の可能性を検討し、それが不可能な場合には公募により、若手教員の選考を最優先しながら取り組み、教員組織の若返りを図る。

④ 兼任教員・兼任教員の後任の選考

兼任教員及び兼任教員について、教育学部の完成年度末に70歳を超えて定年になる教員が兼任教員1名、兼任教員12名であるが、兼任教員の後任については、実習に関わる科目を担当可能な実務経験を有する教員の選考を行う。

兼任教員のうち、同専門領域を担当する専任教員が「図画工作科担当」「国語科担当」「音楽科担当」の3名おり、科目を引き継ぐことが可能であるため、後任の兼任教員採用と合わせて検討する。

(2) 看護学部の将来構想

看護学部の完成年度には、70歳を超えて定年になる教員が教授14名のうち5名、准教授4名のうち1名であり、高齢に偏った教員編成となっている。その内訳は、共通教育科目の担当教授が1名、専門教育科目：専門基礎科目の担当教授が1名、専門科目「ライフサイクルと看護」の担当教授が2名、「コミュニティと看護」の担当教授が1名、「看護の基盤」の担当准教授が1名である。

定年による退職者の退職年次はあらかじめ分かっているため、それを見越した上、大学開設2年目から公募によって大学完成年度以降の教員補充計画を進めて共通教育科目や専門教育の教育・研究の効果的な継続を図る。後任の採用に当たっては、教育・研究の効果的な継続だけでなく、実習の巡回指導への配慮から可能な限り若手教員の採用を行う予定である。その採用計画を進めることにより、教育研究水準は維持しつつ若手教員の拡充を図り、30歳から70歳未満の教員がバランスよく配置できる年齢構成を目指し、実習巡回指導に関する不足が生じないようにする。

大学開学時から若手教員の教育、研究能力の育成を積極的に行い、完成年度以降に学内の教員の昇任、昇格を可能にするために、上位学位の取得、研究日の効果的活用、研究費等の外部資金取得、研究環境の整備など、研究支援体制の拡充を大学開学直後から進めたい。

兼任教員及び兼任教員については、完成年度末に70歳を超えて定年になる教員は、兼任教員3名、兼任教員8名である。

兼任教員の担当については生化学、微生物学・免疫学、特別支援教育等であり、教育学部における後任の選考方針によって若手教員が選考されることによって、兼任教員も若返りが図られる。兼任教員では、同じ専門領域を担当する専任教員がいなかったことから、担当可能な兼任教員の後任の選考を早期に行う。

6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

6-1 教育方法

1) 教育学部の教育方法

(1) 教育課程と配当年次の設定

教育学部の教育課程は【共通教育科目】【専門教育科目】の2つの科目群で編成し、【専門教育科目】は『学科共通科目』と『学科コア科目』『学科展開科目』で構成している。【共通教育科目】は主に1年次、『学科共通科目』は教育学部の根幹科目である「教育原理」を1年次前期に、その他の科目を3年次から配置している。『学科コア科目』は主に1年次、2年次にかけて配置し、『学科展開科目』は主に2年次、3年次に多く配置し、4年次には集大成となる「卒業論文」「教職実践演習(幼・小)」を配置している。

(2) 授業内容に応じた教育方法

教育学部の教育目的に「自他共に成長できることを目標に」「児童の教育、乳幼児の保育を主体的に実践できる心豊かな教育者、保育者を養成する」と掲げていることから、他者と協同し、主体的に学ぶ教育の実践は不可欠である。また、平成27年12月21日の中央教育審議会による「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」(答申)においても、「教職課程における授業そのものをアクティブ・ラーニングの視点から改善」することが求められているように、教員養成課程のいずれの科目においてもアクティブ・ラーニングの視点を取り入れることを前提としている。

そこで、教育学部では講義、演習、実習等いずれの授業形態においてもアクティブ・ラーニングの考え方を取り入れ、主体的な学びの力を育成する。

アクティブ・ラーニングにおいて重要な要素である高次思考力においては、問題解決へ向けて、情報の収集、内容の把握、整理、分析、選別、集約、統合等の情報を処理・活用するプロセスを適切に進めることが重要となる。これらの過程においてはICTの活用が必要となる。問題解決へ向け、個々に行う内容や協働して行う内容を効果的に設定し、問題解決のプロセスと結論だけでなく、今後の課題や更なる問題点を明確にすることも重要である。高次思考力を段階的に培うために、講義、演習、少人数ゼミ等の特性を活かした授業を順次設定している。1年次から段階的に適切な情報の取集、分析、発表や相互評価を可能にする授業を経て、集大成とし

て「卒業研究」に取り組む。

アクティブ・ラーニングを効果的に行うために、まず、情報の扱いに係る基礎的な知識や技術の習得と解読した情報に関する客観的思考を学習することが必要になる。情報の扱いに関する基礎的な知識と技術については、共通教育科目の「情報リテラシーI」「情報リテラシーII」「データサイエンス」「クリティカル・シンキング」「社会調査法」「文章表現」「基礎ゼミ」「教養ゼミ」等で学ぶ。「データサイエンス」「クリティカル・シンキング」「社会調査法」「文章表現」では、学生が主体的に情報を収集し、客観的な分析や考察を行う内容を設定する。「基礎ゼミ」「教養ゼミ」では、設定したテーマに対して必要な情報を探索し、グループワークにおいて建設的な議論の仕方と発表等アウトプットする力を磨く機会を設ける。

また、少人数ゼミで課題解決に取り組む科目を設定して、情報解読と客観的思考を深めるための学習を行う。前述した1年次の「基礎ゼミ」「教養ゼミ」、3年次の「教育学演習Ⅰ・Ⅱ」、4年次の「教育学研究Ⅰ・Ⅱ」では、論理的に課題解決へ向けて議論しながら、課題解決の適切なプロセスを進める。課題解決のために収集する情報とその分析の方法については、公表された論文や専門書など、根拠に基づいた情報が記載されている資料を扱う。収集した情報についてはゼミ形式で資料の客観的考察と論拠の確定を行いながら、課題解決にあたっての内容の適切性や評価等を議論する。同時に未解決の問題点や新たな課題についても議論する。導かれた結論をアウトプットする機会として、パワーポイント等を使用して発表を行い、レビュー形式で報告書をまとめる。発表は複数のグループで行い、活発な質疑ができるように事前に発表内容を把握するための発表要旨を作成する。「教育学演習Ⅰ・Ⅱ」「教育学研究Ⅰ・Ⅱ」ではグループワークに加えオンラインセッション等の方法で互いを評価し、共同作業や互いの能力を培う機会を設ける。これらの過程において高次思考力を養うための機会を十分与えることができる考える。

このように、高次思考力を養うために、1年次から授業や少人数ゼミで段階的にアクティブ・ラーニングの経験を積み重ね、その集大成として「卒業研究」に取り組む。

各授業でアクティブ・ラーニングを実施するにあたっては、講義、演習、実習等の特性を生かした教育方法において、上記の内容を効果的に取り入れる。また、多様なグループワークができる設備を整備し、教職員に対してFDとしてアクティブ・ラーニングの具体的な取り入れ方について十分な周知を行う。学生に対しても、入学時ガイダンスにおいて「アクティブ・ラーニング」を周知し、受講の際の留意事項として能動的な学修を指導する。また、学期毎に学生が自身の学習状況や理解度を把握するための「履修カルテ」について、説明を行う。主な科目とアクティブ・ラーニングの具体的な取り入れ方法については、【資料36：教育学部におけるアクティブ・ラーニングの考えに基づく教育方法】に示す。

(3) 授業の内容に応じた学生数

アクティブ・ラーニングを取り入れた教育効果を見据えて、講義形式では 40～80 名以下で実施し、演習形式では 50 名以下で実施する。3 年次から卒業研究科目担当の 11 名の教員に対して 1 学年約 7 名の少人数ゼミに配属される。

2) 看護学部の教育方法

(1) 教育課程と配当年次の設定

看護学部の教育課程は、【共通教育科目】【専門教育科目】の 2 つの科目群で編成し、【専門教育科目】は、『専門基礎科目』『専門科目』で構成しており、【共通教育科目】は主に 1 年次、『専門基礎科目』は 1 年次と 2 年次、『専門科目』は 1 年次から 4 年次にかけて配置しており、【共通教育科目】から【専門教育科目】へと 4 年間で体系的な学修が可能となるようにしている。講義科目から演習科目、実習科目、実習の振り返り演習科目を効果的に組み合わせて、学びの内容が着実に身につくよう体系的に科目配置をしている。すべての授業科目のシラバスを作成し、授業のテーマ、授業概要、到達目標、授業の内容と方法、評価方法、事前事後学習、オフィスアワーを丁寧に記載し、学生の科目履修を支援する。

(2) 授業内容に応じた授業方法

看護学部における授業方法は、知識・理解の獲得を目的とする科目については、主に講義形式の授業形態をとる。技術技能及び態度志向性の獲得を目的とする科目については、主に演習形式及び実習形式の授業形態とし、学生の気づきを促し、主体的かつ能動的な学びを引き出す。必要に応じて少人数グループ学習、双方向授業、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れた学習を展開する。特に看護技術に関する演習科目においては、専門領域の教員が複数体制で対応する。さらに、実習科目においては、実習先に必ず専任の教員を配置し、学生が主体的に実習に取り組めるよう支援する。

(3) 授業の内容に応じた学生数

授業は教育効果を見据えて、講義形式では 40～80 名、演習形式は 16～40 名で実施する。また、看護研究は 1 名の教員に対して 5～6 名のグループを編成し、継続

的に研究指導を行う。実習は、原則5名グループで実施するが、訪問看護ステーション等の小規模施設では2～3名の小グループを編成し実施する。

6-2 履修指導の方法等

1) 入学前の学修支援

多様な入学者選抜方法で受験した学生が大学入学後円滑に学修に取り組めるよう入学前の教育支援体制を整備し、学生の学習環境の適応に向けた支援を行う。

総合型選抜や学校推薦型選抜など早期に合格が決定した後に学習意欲を継続させる観点から、入学予定者には12月に課題を提示して入学までの学習計画を立て、翌年1月以降 e-learning や書籍教材を活用して学習を進める。入学後の学修に支障がないよう入学前教育担当者が定期的に進捗状況を確認して指導する。

一般選抜前期において入学が決定した場合は、2月に課題を提示し、3月に前述の教材を活用して学習を進める。一般選抜後期において入学が決定した場合は、学習期間が限られるため、入学までの期間に必要な最小限の学習を促す。

教育学部の学修内容は、大学のディプロマ・ポリシー①の「国際的視野」を持つことの達成に向け、入学者選抜において英語を選択しなかった学生については、入学後の学修に支障がないよう入学前学修支援において e-learning を用いた英語学習を行う。具体的には、入学後の英語必修科目である「Speaking & Listening」や「Writing」「Reading」においてスムーズな学修ができるように、英語の基礎学力として「コミュニケーション英語」「英語表現」の内容から外国語科目担当者が作成した教材を e-learning で提供し、入学前までの学習を必須とする。外国語科目担当者が学習者の進捗を確認し、適宜必要な指導を行う。また受験科目として英語を選択した入学者にも学習を推奨する。

以上の内容で入学前学修を進め、入学後、英語授業担当者の指導へとつなぐことにより、学生の持続的な学修を促す。同じくディプロマ・ポリシー①の「高度情報化に対応」することの達成に向け、教育課程では「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」等を配置しているが、それらの科目と入学前に必要な学修について、以下に示す。

1年次前期開講の「情報リテラシーⅠ」は、情報機器の基礎知識と基本的操作の習得、各アプリケーションの利用等による情報活用能力を養う必修科目である。学生は高等学校段階で全員が情報科を履修しており、学修に当たって必要な知識としての基本的なソフトウェアの使用方法は一定程度習得されていると考えられる。しかし、習得状況には個人差があると考えられるため、入学決定後に情報処理機器の操作内容の理解に関するアンケートを行い、授業内容の理解に支障がある学生に対して、ソフトウェア操作マニュアルや操作練習等の情報を e-learning で提供し、個別

に取り組みをサポートすることで対応する。

1 年次後期開講の「情報リテラシーII」は、統計解析ソフト R を用いて問題解決思考力を養う科目であり、「情報リテラシー I」よりさらに発展的な情報活用について学修する選択科目である。本科目で扱う統計解析ソフト R を活用したデータ分析を行う上で、高等学校で学習する数学・情報の基礎知識が必要となる場合がある。本科目の履修希望者には、表計算ソフトを活用した統計処理と分析で扱われる統計値、データの分散や相関に関する知識について夏季休業中などを利用して事前に確認習得できるように、e-learning 教材を提供し、取り組みをサポートする。e-learning 教材の具体的な内容として、数学 I「データの分析」、数学 B「確率分布と統計的な推測」に関する内容、情報の科学「問題解決」に関する内容を中心に取り扱うことによって円滑な学修に取り組めるようにする。

看護学部の学修内容は、アドミッション・ポリシー「看護学部での学びに必要な基礎的学力を備えている」に対応して、看護を学ぶ上で必要となる基礎学力として「計算・数学」「理科（人体のしくみ・化学）」「言葉・文章」等を主な内容とし、看護の学びへの関心を高めることができるような教材を段階的に学修が進むよう配置するなど工夫する。特に、看護学部で学ぶ講義には、「人体の構造と機能」「生化学」「微生物学・免疫学」など理科系科目の知識がベースとなるものが多数ある。しかし、学生は多様な入学者選抜方法で入学していることから、理科系科目に関する理解の程度はさまざまであり、「理科（人体のしくみ・化学）」などの理科系科目の知識を補てんすることは、専門基礎科目の理解を助けることにつながる。

2) 入学後の学修支援

(1) 教育学部における学修支援

① 履修指導方法

教育学部は2年次から「初等教育コース」と「幼児教育コース」に分かれる。「初等教育コース」では「小学校教諭一種免許状」「幼稚園教諭一種免許状」の免許取得を基本とし（履修モデル①）、「幼児教育コース」では「幼稚園教諭一種免許状」「保育士資格」の免許・資格取得を基本としており（履修モデル②）、各コースとも条件により3つ目の免許・資格の取得が可能となる。「初等教育コース」の3つ目の免許・資格取得の条件は、2年次末の GPA2.5 以上（B (2.0)～A(3.0)の中央値以上）の成績上位の学生に限り「保育士資格」取得へ向けた履修が認められ、3年次後期から保育士資格関連科目が履修可能となる（履修モデル③）。「幼児教育コース」の3つ目の免許・資格取得の条件は、2年次末の GPA が 3.0 以上の成績優秀な学生に限り「小学校教諭一種免許状」取得へ向けた履修が認められ、3

年次後期から小学校の各教科教育論の科目が履修可能となる（履修モデル④）。

教育学部 履修モデル【資料37：教育学部 履修モデル①～④】

	コース	取得免許・資格
履修モデル①	初等教育コース 《基本モデル》	小学校教諭一種免許状 (副免許) 幼稚園教諭一種免許状
履修モデル②	幼児教育コース 《基本モデル》	幼稚園教諭一種免許状 保育士資格
履修モデル③	初等教育コース	小学校教諭一種免許状 (副免許) 幼稚園教諭一種免許状 + 保育士資格関連科目修得
履修モデル④	幼児教育コース	幼稚園教諭一種免許状 保育士資格 小学校教諭一種免許状

履修モデル①

初等教育コースにおける《基本モデル》である。児童理解に優れた力量を有し実践力のある小学校教諭育成を目指す。小学校教諭一種免許状取得のための学修を主とするが、子どもの理解と総合的な指導力育成のためには隣接校種である幼稚園教育への深い理解も重要であるのでそのための科目も修得可能とし、副免許として幼稚園教諭一種免許状も取得可能とする。

履修モデル②

幼児教育コースにおける《基本モデル》である。子ども一人ひとりに寄り添い質の高い保育実践の出来る保育者育成を目指す。幼・保一元化の流れから乳幼児保育・教育は認定こども園化が進んでいるが、そこでの指導者は幼稚園教諭免許状と保育士資格を有する保育教諭でなければならない。そのために必要な課程の科目を履修する。

履修モデル③

初等教育コースにおいて《基本モデル》の履修に加えて、保育士養成関連科目を学修する。乳幼児保育・教育は幼・保一元化の方向に進んでおり、隣接校種理解、子ども理解をより深めるためには保育に関する学びが必要となってくる。その関連科目である「子ども家庭支援論」「乳児保育Ⅰ」「乳児保育Ⅱ」「社会的養護Ⅰ」「社会的養護Ⅱ」「子どもの保健」「子どもの健康と安全」「子どもの食と栄養」「子育て支援」を学修する。これらの科目を修得することにより、幼稚園教諭免許状を取得した後に保育士試験事務センターに証明書（指定保育士養成施設が発行する「幼稚園教諭免許所有者保育士試験免除科目専修証明書」）を

提出することで、保育士資格取得可能となる（厚生労働省平成22年11月雇児発1112第1号）。

ただし、修得単位数が多くなることによる学びの質の低下を避けるため、2年次末のGPA2.5以上（B（2.0）～A（3.0）の中央値以上）の成績上位の学生に限り、3年次後期から保育士資格関連科目の履修を認めることとする。

履修モデル④

幼児教育コースにおいて《基本モデル》の履修に加えて、隣接校種の小学校教育について学修する。新幼稚園教育要領においても幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続が重要視されている。保育教諭を目指す学生も副免許として小学校教諭免許状取得を可能とする。但し、修得単位数が多くなることによる学びの質の低下を避けるため、2年次末のGPAが3.0以上である成績優秀な学生に限り3年次後期から小学校の各教科の教育論の履修を認めることとする

入学時および進級時にガイダンスを実施し、丁寧な履修指導を行う。それぞれのガイダンス時における具体的な内容は以下の通りである。

- ・入学時オリエンテーション：4年間の大学生生活全般にわたり、卒業・就職までの展望を自覚的に形成できるような観点から指導を行う。その際、2年次以降で分かれる両コースの特色及び履修内容の違い、幼児教育コース3年次前期の幼稚園教育実習による授業期間（17週）設定、それぞれのコースにおいて3つの資格を取得する際の条件とその場合の履修状況について、履修モデルに基づいて説明を行う。
- ・1年次後期開始時：1年次の12月に、2年次からのコース希望調査を行うが、意思決定までに一定期間必要であるため、1年次後期開始時にコース分けに向けた説明会を行う。その際、両コースの特色及び履修内容の違い、幼児教育コース3年次前期の授業期間、それぞれのコースにおいて3つの資格を取得する際の条件について再度説明を行う。なお、コース分け希望調査は実習先確保や時間割作成のためであり、学生は希望したコースに必ず進めることも説明する。
- ・2年次進級時：選択したコースに関わる履修内容と、2年次末のGPAによって3つの資格取得が可能となることを履修モデルに基づいて再認識させ、主体的な学修を促す。
- ・3年次進級時：2年次に学んだ幅広い専門領域の中からより深く学んでみたい専門領域を選択し、大学生活における学びの醍醐味であるゼミナール活動に入ることや、専任教員が開講する「教育学演習」を複数履修し、自主的・主体的で対話的な学びを体験することについて説明する。また、2年次末に3つの資格取得が

認められた学生に対し、3年次後期以降の履修について改めて説明を行う。

なお、幼児教育コースにおいては、授業期間中に幼稚園教育実習があるため、その期間に授業は行わず、それに伴い3年次前期の授業期間が17週設定されていることや、各科目の授業時間が不足する場合は土曜日及び空き時間等に補講を行うことを周知する。

- ・ 4年次進級時：「教育学研究」を履修し卒業研究に取り組むことになるが、卒業研究を行う際には、4年次以降の定められた期日までに「卒業研究届」の提出が必要になることを説明する。

② チューター制による個別指導

学生個々人の能力に応じた履修指導を丁寧に行うために、チューター制を設ける。チューターは、学生数名につき1名の割合で、履修指導及び生活指導を行う。チューターの支援体制としてチューター長を学年毎に置く。

③ 学修支援サポート

学力や精神的な課題を抱えているために履修が困難な学生に対してはキャリア支援センターで個別に学修支援を行う。

(2) 看護学部における学修支援

① 履修指導方法

入学時には、入学ガイダンスを実施し、カリキュラム編成の考え方、履修方法、学修方法などについて指導し、学生が自身の学修目標に沿った授業科目の履修計画を立てられるように、履修モデルを提示し【資料38-①：看護師国家試験受験資格履修モデル】、卒業・看護師国家試験受験資格等に必要科目について理解を促す。

また、学年ごとにガイダンスを行い、学生が自身の学修目標に沿った授業科目の履修計画を立てられるように支援する。各学年のガイダンス内容は以下の通りである。

(ガイダンスの内容)

- ・ 1年次から4年次までの履修計画の全体像について説明する。
- ・ 各年次において必要な履修科目について説明し、履修の指導を行う。
- ・ 選択科目の履修の助言を行う。
- ・ 実習科目の履修に必要な講義科目、演習科目について説明する。
- ・ 看護研究科目の履修方法や取り組みなどを説明する。
- ・ 実習科目については、実習前に実習ガイダンスを行う。

- ・卒業後の看護師国家試験と試験準備に必要な学修内容について説明する

② 養護教諭一種免許状取得を希望する学生への履修指導

履修モデル【資料 38-② 看護師国家試験受験資格・養護教諭一種免許状取得履修モデル】を示して、各年度の開講科目や履修登録に係る指導助言をする。

入学時および進級時にガイダンスを実施し、丁寧な履修指導を行う。それぞれのガイダンス時における具体的な内容は以下の通りである。

(ガイダンス時期と内容)

◆ 入学時ガイダンス (入学生全員に周知)

1 年次履修登録が必要な科目、看護師国家試験受験資格に必要な単位数に追加して取得しなければならない単位数及び 4 年間のカリキュラムを説明する。

- ・養教担当教員が希望者を把握し、履修計画を説明する。
- ・養教担当教員は教務・チューターと連携して履修登録状況を把握し、必要な支援を行う。

◆ 3 年次前期・3 年次後期・4 年次ガイダンス (希望学生)

履修した養護教諭一種免許状取得に係る科目及び卒業に必要な科目は原則全て単位を修得していることを確認する。

③ チューター制による個別指導

看護学部では、学生 5～6 名に対して専任教員 1 名をチューターとして配置し、学生生活や履修方法に関する相談に応じ、学生個々の状況に合わせた個別指導の体制を整え、入学時から卒業まできめ細やかな履修指導を行う。また、大学附属のキャリア支援センター担当と情報共有し、教職員が協力して学修のサポートを行う。

④ 学修支援サポート

入学前の学修支援を通して取り組んだ学習の達成状況と学習習慣を把握するために、入学後の早い時期にプレースメントテストやアンケートを実施する。「プレースメントテスト」を実施することで、学修支援が必要な学生の抽出ができ、必要時、単位修得や学業の継続に支障がないよう、チューターと大学附属のキャリア支援センター担当と協力しながら支援する。なお、基礎学力が不足している場合には、e-learning や書籍教材を活用して学習を進めることとし、入学前教育担当者から引き継いだチューターが定期的に進捗状況を確認して

指導する。

6-3 成績評価

授業科目の成績評価は、S・A・B・C・Dの評価をもって表し、S・A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。成績評価による学業結果を総合的に判断する指標として、総合平均点（Grade Point Averageに相当するもの。以下「GPA」という。）を用いる。GPAは、成績評価のうち、Sにつき4.0、Aにつき3.0、Bにつき2.0、Cにつき1.0、Dにつき0をそれぞれ評価点として与え、各授業科目の評価点にその単位数を乗じて得た積の合計を登録科目の総単位数で除して算出する。

6-4 卒業要件

卒業するためには、本学に4年（再入学又は転入により入学した場合は別に定める年数）以上在学し、卒業認定に必要な単位を修得しなければならない。卒業認定に必要な単位は、教育学部は、共通教育科目28単位以上、専門教育科目80単位以上、自由選択科目16単位以上、合計124単位以上、看護学部は、共通教育科目28単位以上、専門基礎科目28単位以上、専門科目76単位以上、合計132単位以上とする。

6-5 履修科目の年間登録上限（CAP）制の導入

教育学部、看護学部ともに年間49単位とする。

7. 施設、設備等の整備計画

7-1 キャンパスの構成

大阪信愛学院大学のキャンパスは、大阪市城東区古市2丁目7番30号に立地しており、大阪市営地下鉄新森古市駅、同今福鶴見駅、京阪電鉄関目駅から徒歩10～15分。大阪シティバス緑一丁目中、同古市三丁目、同鶴見六丁目から徒歩2～5分。また、新大阪駅から最寄り駅まで30分程度の位置にあり、大阪市内のみならず、近畿圏内ほぼ全域が通学圏となる非常に交通アクセスの良い立地条件を満たしている。

キャンパスには、教育学部中心の大学1号館と看護学部中心の大学2号館、共通教育科目の授業と管理部門中心の大学本館があり、図書館、体育館3棟、屋内プール、講堂、食堂、チャペルなどの施設を有している。大学2号館は、その他学舎から徒歩7分の場所に位置しているが、距離的な負担はなく、学生・教職員・関係者の行き来において、また業務上の運用において不都合は生じない。同キャンパス内には、併設の保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校も設置されており、実習をはじめとして様々なシーンでの教育連携や研究活動が展開しやすいと考える。

本キャンパスには、保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、そして短期大学が設置されており、令和元年度の学院生(学生・生徒・児童・園児)総数は1,523名であるが、最も在籍者数が多かった年度(平成7年度)には3,394名の学院生が同一キャンパス内で学んでいた。つまり、各校が互いに協力し調整を行うことにより、本法人にはそれだけの学生・生徒・児童・園児が問題や不利益無く、学習や学校活動をおこなうことができる施設を有しているものと考えている。しかし、短期大学の教育と大学教育においては、カリキュラムも含めて大きく異なると認識しており、その運用においても柔軟かつ機敏な対応が求められることから、法人内部の取り決めとして、今回新たに開設する大学教育に対し、不測の事態にも迅速に対応するとともに、大学教育に対し優先的な配慮をおこなっていくことについて併設校のコンセンサスが得られている。

共用施設の本学の利用については、まず「学院運営協議会」で調整をおこなうこととする。入学式、卒業式などを含む年間における行事計画やカリキュラム設定など、幼稚園から大学までの基本的な共用施設利用の設定や変更、調整をおこなう場として「学院運営協議会」を設置する。「学院運営協議会」は、学院長、各学校の責任者及び専門委員会の責任者、担当理事、監事で組織し、理事会とも緊密な連携をとりながら原則月1回開催し、各校の行事予定・計画や施設設備整備計画、学院セキュリティー対策他、各校の教学面に関する審議や調整を行う場とする。大学における年間の施設利用に係る基本計画や重要な行事予定などについても、この学院運営協議会にて各校調整の上決定し、実際に運用をおこなっていくこととする。

さらに、キャンパス内にある各校共用施設の日常的な利用設定や調整を具体的にを行う場として、学院運営協議会の下に各校の担当委員から組織する学院施設専門委員会

を設置する。学院施設専門委員会は、「体育施設管理委員会」「講堂ホール管理委員会」「聖堂管理委員会」からなり、各校の共用施設利用に係る日常的な調整を担うだけでなく、共用施設の維持管理も行う。利用計画が学校間で重なった場合は、あくまで「早い者勝ち」ではなく、重要度、緊急性、利用者数などを総合的に判断し、代替の施設の紹介も含めて調整を実施する。さらには、前述のとおり、大学教育に対し優先的な配慮を行っていくことについて併設校のコンセンサスが得られているため、今回新たに開設する大学教育に対し、不測の事態にも迅速に対応するとともに、できるだけ大学を優先した対応を行っていく。

加えて、事務局の職務分掌にて施設担当を明確にし、日々日常の各校施設利用に関する希望や相談、問題点の収集など、共用施設利用の調整事務の対応を行うものとする。この事務局施設担当は、前述の学院運営協議会や施設管理委員会の事務的な対応もおこない、共用施設利用の窓口として本学からの希望・要請などを迅速に処理できるよう特定の職員を配置する。

以上により、共用施設の管理運営体制を緊密な連携をとりつつ年間計画から日常対応まで速やかに機能させることにより、大学はもとより、高等学校、中学校、小学校、そして幼稚園の全てにおける教育（研究）上、支障なく、かつ効率的に運用が出来るものと考えている。

7-2 校地、運動場の整備計画

キャンパス全体の校地面積は34459.60㎡、大学専用の校舎敷地は7941.00㎡あり、大学設置基準に定める校地面積基準6400㎡を大きく上回る校地を所有している。運動場に関しては同一キャンパス内に設けており、西グラウンド7235.00㎡、東グラウンド2359.00㎡(テニスコート2面含む)を有している。運動場は併設校と共用ではあるが、教育や課外活動に足る十分な大きさを備えている。また、設置基準外であるが、車で30分程度の場所にある大東市北条に63478.00㎡の山林を有しており、フィールドワークや野外活動実習、研究活動など、有効的な利用方法を今後検討していきたい。

7-3 校舎等施設の整備計画

専用校舎に関しては、大学1号館3727.47㎡、大学2号館4159.26㎡、大学本館6993.10㎡を有しており、大学設置基準に定める校舎基準面積6709㎡を大きく上回る校舎を所有している。また、大学設置基準に定める施設として附属図書館2292.98㎡を、設置基準外の共用施設として第1体育館1293.43㎡、第2体育館694.56㎡、屋内プール1470.98㎡を含む第3体育館2568.14㎡、食堂947.89㎡を含む講堂棟3711.85㎡、チャペル403.57㎡などを有している。プールには水深120cmの25mプールと水深80cmの子ども用プールがあり、通常の授業だけではなく、指導法などの教育研究に活用することが可能であ

る。

教育学部の主要施設として大学1号館を整備する。大学1号館は平成15年に全面改修し、同法人設置の短期大学子ども教育学科の教育に主に使用されてきた。40名収容の講義室が7室（内3室は80～120名の大講義室として使用することが可能）設置されており、全教室のいずれも、スクリーン、実物映写装置、液晶プロジェクターを設置し、マルチメディア対応の教育が行えるようにしている。また、実践的な初等教育を実現するための実習・演習室として絵画室、工作室には陶芸用大型電気窯や、ろくろがあり、作品を窯で焼く工程までを学ぶことが出来る。ML（ミュージック・ラボラトリー）教室には20台の電子ピアノを設置。マイク付きヘッドフォンとモニターで課題曲の送信や録音、個々のレッスンやグループアンサンブルが可能となっている。6階には個人レッスンのためのピアノセル（アップライト）が13室ある。グランドピアノは防音設備のある音楽室、リズム室他1教室に設置。リズム室にはマリмба、木琴25台をはじめ、フルセットティンパニーなど、学生の感性を引き出すにふさわしい品質にこだわった打楽器を中心に各種楽器を備え、器楽合奏指導、音楽療法の実習、演習などに対応している。4階の乳児保育・小児保健実習室には新生児モデル人形7体と大型のシンク、給湯器等が備わっており、沐浴、調乳、授乳など学生40名が演習実習技術を習得できる設備が整っている。学生生活の充実を図るための施設として、6階には学生会活動運営のための学生会室を設置。3階のメディアコーナーではパソコン8台とプリンター、コピー機を設置し、いつでも自由に使用することが出来る。なお、情報機器演習等の授業は大学2号館にある情報教室を利用する。

大学1号館1階には、学生の自学自習を促し学修支援の拠点となるラーニングコモンズを設置する。また、大学学生だけではなく、本法人設置の併設校の生徒・児童・園児、加えて在籍する教職員の保健管理に関する専門的業務や、健康教育及び健康の保持・増進を図ることを目的として、保健センターを設置する。保健センターには、専任の看護師や養護教諭を配置するとともに臨床心理士やスクールカウンセラーと連携したLルームも設置する。

看護学部の教育を行うため主要施設として大学2号館を整備する。大学2号館は平成13年に竣工し、平成21年より同法人設置の短期大学看護学科の教育に主に使用されてきた。講義室は、大講義室（144名収容）、中講義室2室（60名収容×2）、小講義室2室（50名収容、30名収容）を備え、全教室のいずれも、スクリーン、実物映写装置、液晶プロジェクター（大講義室・中講義室・小講義室）を設置し、マルチメディア対応の教育が行えるようにしている。また、情報教室は、41台のパーソナルコンピュータを設置し、マルチメディア対応の機器を有している。5階には、実践的な看護技術を修得するに足る専用の看護学実習室を設ける。看護学実習室は、基礎技術（基礎看護）、生活機能支援論Ⅲ（成人看護）、生活機能支援論Ⅳ（老年看護）、生活機能支援論Ⅴ（精神看護）の演習に使用する。この看護実習室には20台のベッドを配置し、80人単位で実習を行うことができる。授業以外の時間に学生が適宜自主的に学習を進める上で、ベッドが不足することのない台数とした。生活機能支援論Ⅰ、Ⅱ（母性・

小児) 演習については、4階に看護学実習室を設置し、沐浴槽、小児ベッドを5台設置する。地域包括ケア論(在宅看護)の実習室は、大学本館1階のケアセンターを活用する。以上のように、様々な領域別の実技実習を行えるようにし、学内実習環境の充実に努めている。実習室に備える器具機器等については種類及び数について教育に支障のないように購入する。

情報教育のために、大学2号館1階に情報メディア教室を設置し、41台の学習用PC(パーソナルコンピュータ)を設置している。プロジェクターによるプレゼンテーションができる設備も備え、グラフィックデザインソフトウェア、統計処理用ソフトウェアを備えている。これらは授業で使用している時間以外は、自由に使用できる。校舎内は、情報メディア教室をはじめ、各講義室、研究室、図書メディアスペース等、WiFi環境を整備しており、学内LANを通じてインターネット等による情報収集および情報通信が行えるようにしている。情報機器の整備については、7-4で詳細を示す。

教育学部、看護学部のいずれも、学生各自のロッカーが専用のスペースに設置され、鍵付になっており安心して利用ができる。また、大学1号館及び2号館、大学本館ともに休憩スペースとして学生ラウンジがあり、自動販売機、電子レンジ、コピー機などを設置し、学生がいつでも自由にくつろげる空間として活用している。

共通教育科目の授業と管理部門中心の大学本館を整備する。大学本館は昭和7年に建築し、昭和48年に増築された古く歴史のある建築物であるが、耐震判定指標 I_s 値=0.80(最低値)で、最低判定基準の0.60を上回っており、想定する地震動に対して所定の耐震性を確保している。

大学本館には、240名収容のホール兼大講義室、100~120名収容の大講義室、80名収容の中講義室2室、40名収容の小講義室12室、ゼミ室13室、音楽演習室、理科実験室、調理実習室、ラーニングコモンズ2室などを設置する。また、大阪信愛学院大学の教育研究の推進及び地域貢献の拠点とする附属研究機関として「しんあい教育研究ケアセンター」を設置する。学生や来客の玄関とは別の出入り口を設け、地域住民を含めた外部からのアクセスを容易にするよう整備する。看護学部における在宅看護論の実習室としても、このしんあい教育研究ケアセンターの施設を活用する。大学の管理部門である、教務部や学生部、キャリア支援センター、資料展示コーナーなども大学本館1階に設置する。

大学本館には、大学と併設する大阪信愛学院小学校の学童保育施設と、同じく大阪信愛学院幼稚園の預かり保育・未就園児保育施設兼キッズルームを大学附属施設として設置して、子育て支援や地域貢献のみならず学生の実習施設や研究施設としても活用することができる。

教員研究室については、大学開設年度から大学完成年度のいずれにおいても、専任教員数を十分に上回る研究室を整備する。

具体的には、本大学完成年度における専任教員の配置は、教育学部19名、看護学部30名、合計49名の予定である。それに対して、大学学舎には、大学本館に個人研究室

3室（全3名利用）、大学1号館に個人研究室24室及び2名使用の共同研究室1室（全26名利用）、大学2号館に個人研究室20室及び2名使用の共同研究室4室（全28名利用）の研究室を整備する。したがって、専任教員49名に対し、合計57名分の研究室を有しており、教育研究上支障のない研究室が確保できている。また、看護学部で予定している助手9名分については、別に共同研究室となる助手室を大学2号館4階に設ける。

大学完成年度の学部毎、学舎毎の研究室使用計画は、大学本館では、教育学部用個人研究室1室1名分、看護学部用個人研究室1室1名分、余剰研究室1室1名分、大学1号館では、教育学部用研究室18室19名分、看護学部用研究室3室3名分、余剰研究室4室4名分、大学2号館では、看護学部用研究室24室28名分である。大学学舎全体では余剰研究室としては5室5名分確保されている。

大学専任教員は年次計画により採用をおこなうため、既設短期大学専任教員を含めた教員数は、大学開設年度50名、令和5年度51名、令和6年度53名、そして大学完成年度49名が在籍することとなる。したがって、合計57名分の研究室を準備するため、大学開設年度から完成年度まで、短期大学と学舎を併用する令和4年度、及び令和5年度においても、必要な研究室が確保できている。他にも大学1号館には非常勤講師室2室（25㎡、29㎡）、大学2号館には実習非常勤講師室（38㎡）及び助手室（70㎡）も準備する。

大学1号館は平成15年に全面改修、大学2号館は平成13年に建築しており、校地と校舎は障がい者に十分対応できている。具体的にはスロープ、エレベーター、自動ドア、点字ブロック、障がい者用トイレ、音響設備など、全学的なバリアフリー化をおこなっている。大学本館に関しては、建築時期が古く現時点ではバリアフリー化が進んでいない部分が存在しているが、今回の大学設置に係る施設整備計画の中で、エレベーター、障がい者用トイレ、スロープ（段差解消）などの設置を予定しており、障がい者だけではなく健常者にも使いやすい施設に整備する。

また、今回の計画により男女共学化を予定しており、現状では男子トイレが少ないものと想定できるが、同じく大学設置に係る施設整備計画の中で整備をおこない、大学本館、大学1号館、大学2号館とも収容定員に対する必要な男女トイレを確保する計画である（給排水衛生設備基準より、男子100名あたり小便器4・大便器2、女子100名あたり大便器5以上）。既存の施設である、図書館、講堂、体育館などには、既に男子トイレは設置されている。

ロッカー・更衣室に関して、看護学部の実習室を有する大学2号館に整備する。女子更衣室については、収容定員240名の短期大学を320名定員の大学に移行するに際し、大学2号館2階の63㎡の講義室及び61㎡の講義室を女子更衣ロッカー室として新たに整備し、定員を超える340名分のロッカーを設置する。大学本館に新たに講義室を14室整備するため、大学2号館の講義室を更衣室に流用しても問題はない。

また、男子更衣室について、短期大学で女子更衣室として利用していた43㎡の部屋を、140名分の男子更衣ロッカー室に転用する。この140名分の男子用ロッカーは、収容定員320名に対して44%に相当するため、男子学生の入学状況を確認しながら、女子更衣室のロッカーと合わせて計画的に整備をおこなうこととする。

なお、大学設置計画における施設改修工事は大学本館のみで、大学1号館及び大学2号館に関しては、既存施設をそのまま活用する形で一部用途変更し（事務室をラーニングcommons教室に変更するなど）、校具教具備品の設置・導入や軽微な修繕工事に対応できるものと考えている。

大学開設初年度から完成年度までの時間割を【資料39：時間割】に示す。時間割をもとに、既設短期大学を兼務する教員を一覧にし、担当年度毎に本学開講分と既設短期大学開講分それぞれの全担当科目を担当教員毎に明確にした【資料40：専任担当科目経年度移行表】。教育学部では、大学開設年度において全18名の在籍教員中11名が既設短期大学を兼務担当する。また、看護学部では、大学開設年度において全22名の在籍教員中11名が、また大学開設2年目において全28名在籍教員中9名の教員が既設短期大学を兼務担当する。看護学部では、既設短期大学と本学の両方の授業を担当する教員の内、令和5年度から大学に異動する教員が2名、令和6年度から大学に異動する教員が2名あるが、その教員の大学異動前の状況も合わせて明確にした。

専任担当科目経年度移行表【資料40】において担当教員の科目設定状況を確認すると、基本的に教員週担当時数は両学部とも6コマ以内で加重負担になることはなく、1教員につき授業担当が重複することなく時間割編成することが可能である。本学看護学部において、既設短期大学の「看護学実習」を担当する教員1名の時数が7コマとなっているが、「看護学実習」は、直接指導を行う実習助手に対してカンファレンスや調整、助言、指導などを実施することが主な対応である。また「異文化交流（海外語学研修）」「国際理解（カンボジア研修）」を担当する教員1名が7コマ担当となっているが、この科目は、希望者のみの選択科目であり、集中講義（研修）及び事前事後指導となっているため、加重負担にはつながらない。したがって、既設の短期大学と本学の両方で授業を実施した場合において、教育研究上支障なく教員の配置ができるものと考えている。

また、校舎等施設の使用について、大学設置年度は既設短期大学子ども教育学科及び看護学科と、大学設置2年目は既設短期大学看護学科と本学が共用することになるが、大学本館、大学1号館、大学2号館それぞれの講義室、実験実習室等の使用計画を教室毎に一覧【資料41：教室の利用状況】に示すとおり、大学開設年度から完成年度のすべての年度において比較的余裕を持って校舎施設を利用することができる。したがって、既設短期大学と本学が共用で施設を使用した場合でも、教室等の施設上、教育研究に支障を来すことなく運用することができる。

以上より、既存の施設に加えて新たに校舎を大学教育研究活動に転用したこと、ま

た必要な教員を確保したことにより、既設の短期大学と本学の両方で使用する場合についても、大学設置年度から完成年度のいずれにおいても、学生に不利益を生じさせることはなく、十分に対応が可能である。

7-4 情報学修環境の整備

1) 学内の情報環境整備における具体的な計画 I (大学学舎におけるパソコンの配置)

- (1) 本学では、一人一台のノートパソコンを原則必携（自費購入）とし、パソコンの機能の目安例と併せて「入学のしおり」にて周知する。新たに購入する場合は、学生が使いやすい好みに合った情報機器の所有を推奨し、本学提携業者によるスケールメリットを生かした安価で安定稼働する情報機器の販売提供を行う。
- (2) 経済的な理由等により学生がノートパソコンを個人的に所有していない場合は、申請をした上で半年間、貸出用パソコンを利用することができる。
- (3) 大学1号館、大学2号館、大学本館、図書館など、大学の学舎すべての学習スペースにおいてWi-Fi環境を整備しているため、全学生が自ら所有する情報機器を使用し、ネットワーク環境を利用することが可能である。
- (4) 所有の情報機器が故障等により一時的に使用できない場合などに備え、据置型パソコンと貸出用パソコンを整備する。まず、大学1号館のメディアコーナーにデスクトップ型パソコンを8台整備する。これは、ゼミナール形式授業での利用や学生の自学自習に利用する。さらに、大学1号館の情報教室（302教室）に貸出用パソコンを20台整備する。ここで情報機器を利用する科目の授業を実施するとともに、授業で使っていないときは学生の自学自習スペースとして活用する。またパソコンを貸し出して他教室やラーニングコモンズで利用することも可能である。ただし、貸出台数は限られているため、貸出時間は当日中とし、貸出の際に学生証の提示を求め管理を行う。
- (5) 図書館にも学生への貸出用パソコンを20台整備する。図書による文献研究等と並行してパソコンで調べたり、レポート課題やプレゼンテーションの準備を行うことができ、学生の自学自習でも、館内ゼミ室を利用したグループワークでも活用可能である。
- (6) 大学2号館に情報教室を整備し、パソコン41台を配置する。ここで情報教育に関する科目の授業を実施するとともに、授業で使っていないときは学生の自学自習スペースとして活用する。また、大学2号館には1階メディアスペースに10台のデスクトップ型パソコンを整備する。これらは主に看護学部の学生が利用するが、教育学部の学生も「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」「ICT活用演習」の授業で大学2号館の情報教室を使用することとなっており、それ以外の時間にもパソコンを借

りて館内で利用することが可能である。

- (7) 学生への貸出用パソコンとして、大学開設年度には80台を整備する。大学開設年度以降は、パソコンの貸出使用状況等を勘案しながら、大学完成年度には100台から160台の貸出用パソコンを準備する計画をしている。

2) 学内の情報環境整備における具体的な計画Ⅱ（学生一人ひとりが学内の情報環境を利用するための具体的方策）

学生一人ひとりが、学内においてパソコン等情報機器の環境を利用できるよう整え、これを学生の学修に活用できるようにするための具体的方策は、以下の通り。

- (1) 大学開設年度までに、大学1号館、大学2号館、大学本館、図書館など、大学の学舎すべての学習スペースにおいてWi-Fi環境を整備する。全学生が自ら所有する情報機器を使用し、ネットワーク環境の利用をできるようにする。

万一、新たにパソコンを購入する際は、目安となる基準を提示して、学生が使いやすい好みに合った情報機器の所有を推奨する。

【パソコンの機能の目安例】

CPU Intel Coreシリーズ（第4世代以降）相当、メモリ8GB以上
ディスプレイ 10インチ以上、解像度 1280×720以上（1366×768以上を推奨）
OS Windows10（MacOSやiOSの場合は最新のOS）
ネットワーク 無線LAN（802.11acを推奨）または、有線LAN（1000Base-T推奨）

また、必要に際し、本学の提携業者によりスケールメリットを生かした安価で安定機能を持つ情報機器の販売提供も行う。

- (2) 本学が整備する情報機器だけではなく、学生が所有する機器に対しても技術的サポート体制を構築する。専任の技術職員（SE・System Engineer）を配置し、外部委託による技術指導体制「ヘルプデスク」を導入するなど、セキュリティ対策を含め、情報機器に不具合や故障などが発生した場合や、学生が取扱に困った際にも、速やかに対応できるよう継続的かつ適切な運用を実施する。
- (3) Word、Excel、Power Point等の技術習得は大学教育のみならず社会に出ても必須であるが、情報機器を購入する際に比較的高額負担（約21,000円）となるMicrosoft Officeに関して、本学が必要数量の年間ライセンス契約をおこない、学生に負担をかけることなく使用ができるようにする。

3) 学内の情報環境の整備における具体的な計画Ⅲ（教育課程との関連）

大学のディプロマ・ポリシー⑤「高度情報化に対応」を達成するために、まずは共通教育科目として1年前期の「情報リテラシーⅠ」において情報機器の基礎知識と基本的操作を習得し、1年後期の「情報リテラシーⅡ」において統計解析ソフトRを用いた演習を行う。教育学部ではさらに専門教育科目として、2年前期からの「保育内容指導法」や、各教科の教育論において、情報機器を活用した指導について学ぶ。3年前期の「初等教育方法学」においては、授業の質を向上させるICTの活用について学ぶほか、子どもの情報活用能力の育成について、学修する。

両学部ともに、卒業研究に関する科目においても、情報機器を活用した調査や実験、分析、執筆、発表等行う。高校時代に学修した情報科の授業における知識を基に、大学卒業後には「高度情報化に対応」できる力を身に付けるため、情報機器を適切に活用できる力を身に付けることを目指す。これらの学修には、学内の情報環境の整備が必要不可欠である。

7-5 図書等の資料及び図書館の整備計画

大学本館及び大学1号館に隣接して立地する大学附属図書館本館（地下1階、地上5階、延べ床面積2,293㎡）には、ゼミ室7室（図A）を備え、大学2号館1階には、図書館分室にあたるメディアスペース（延べ床面積190㎡、図D）がある（図書館総床面積2,483㎡、総座席数343席）。大学完成年度の総学生数640名に対して閲覧席数は確保できているが、大学教育に対応できる学修スペースが必要である。大学設置後2年までに図書館本館に隣接する大学本館に新しく設置するゼミ室（32㎡×9室、7㎡×4室、図B）、大学1号館・2号館に設置するラーニングコモンズ（57㎡・40㎡、図C・図D）を予約配本サービスにより必要な図書を利用できる学修スペースとして運用する。これにより総学生数640人に対し460席の学修スペースを確保できる。これにより演習、ゼミ、グループワークで図書や資料を用いた学修の活性化を図る。加えて、これらの図書館本館・メディアスペース・ゼミ室・ラーニングコモンズの学修スペースでは、設置された検索端末以外に、教員・学生の各自の端末から図書館システムを介して図書検索・文献検索・電子ジャーナル閲覧の利用を可能とさせるようにWiFi環境を設置2年目までに整備する。

授業以外でも利用可能な学修スペースとして、本大学施設に下記のとおり整備する。大学附属図書館本館にゼミ室（研究室）を7室（12㎡×2室、17㎡×1室、18㎡×2室、22㎡×1室、33㎡×1室）整備する（図A）。また、大学附属図書館本館に隣接する学舎である大学本館にゼミ室13室（32㎡×9室、7㎡×4室）及びラーニングコモンズ2室（66㎡×2室）を整備する（図B）。

同じく、大学1号館にラーニングコモンズ1室（57㎡）整備する（図C）。

さらに、大学2号館にラーニングコモンズ1室（40㎡）及び図書館分室メディアスペース（190㎡）を整備する（図D）【資料42：図書館、本館、1、2号館の学習スパー

ス】。

上記ゼミ室、ラーニングコモンズ、メディアスペースは、学生一人ひとりの「主体的」な学びを「多角的」に支援する場として、図書館閲覧室とは別に整備する。図書館閲覧室は静かに書籍を閲覧する場所であるのに対し、ゼミ室等では、より広く、活発に学びを深められる空間として活用する。

ゼミ室は机、椅子、ホワイトボード等の備品に加え、WiFiによる情報通信環境を整備し、学生個々の学修スタイルに対応できる場として提供する。加えてラーニングコモンズには、簡易書架や、印刷機、ミーティングテーブル・チェアなど、より充実した什器・備品を配置し、知を蓄積する「知る場」、学生同士の交流を通じて知を発見する「気づく場」、グループ学習やディスカッションによって知を深める「練り上げる場」、自分が得た知を多くの人と共有する「発信する場」としての活用を期待している。大学2号館は大学附属図書館本館から若干距離があるため（徒歩7分の距離）、専門書や学生が興味を持ちやすいと考える書籍8,000冊とDVDなどが閲覧できるメディアコーナーなどとともに図書館分室メディアスペースを配置し、図書館が持つ潜在的な“学び”の可能性を学生が身近に活用できる場としたい。

具体的な利用方法として、図書館本館のゼミ室は、図書館開館時間である8:30～20:00（予定）の間であれば、随時申し込みにより利用できる。また、大学本館ゼミ室は、学舎開館時間である7:00～20:00（予定）の間で授業のない時間において、随時申し込みにより個人やグループの学習や自学自習に利用できる。図書館の資料（予約制）・オンラインデータベースを活用した学生個々の学修活動を支援できるように、サポート教員や司書を時間帯により配置する。また、大学2号館図書館分室のメディアスペース、並びに、大学本館、大学1号館、及び大学2号館のラーニングコモンズは学舎可能時間7:00～20:00（予定）は自由に学修スペースとして使用することができる。

これらの施設では、予約配本サービスにより必要な図書を利用できるほか、教員・学生の各自の端末から図書館システムを介して図書検索・文献検索・電子ジャーナル閲覧の利用が可能となる。

教育教養系図書64,426冊（うち外国書4,427冊）、医学看護系図書44,850冊（うち外国書2,435冊）の合計109,276冊（うち外国書6,862冊）の蔵書を保有する。また、教育教養系視聴覚資料4,897点、医学看護系視聴覚資料1,041点、合計5,938点を保有する。加えて付属校の蔵書90,265冊も利用することができる。両学部コアカリキュラムに関連する専門書を設置前年250冊と設置年度123冊（専門外国書217冊を含む）を購入する。設置後は、図書・資料・学術雑誌の選定、図書館の研究教育支援について諮問を行う図書委員会を組織する【資料43：大阪信愛学院大学図書館委員会規程（案）】。

学術雑誌・専門誌については、現況、看護系20誌、教育系17誌を含む80誌の閲覧が可能である【資料44：学術雑誌目録】。設置年度には教育・看護学術雑誌13誌の追加

を行うとともに電子ジャーナル・データベースの閲覧を整備する。図書館サイトでは図書検索（OPAC）とともに、J-STAGE、CiNii、PubMed、医中誌、看護協会図書館Webの利用が可能であるが、加えて、看護系では洋雑誌1,400誌の全文閲覧可能なNursing & Allied Health Databaseを開設年度に導入する。また、同時に海外文献検索を充実させるためにリンクリゾルバ360 Link（フルテキストデータベース、二次資料データベース、MARC Record、A-to-Zリストなど閲覧）を導入する。検索した必要文献は、現行行っている他大学図書館、国立国会図書館、公共図書館及び研究機関との文献複写や相互貸借等のサービスで迅速に入手できるよう図書運営体制を整え、研究・教育活動を支援する。

8. 入学者選抜の概要

8-1 基本方針

本学の教育理念、目的に基づき、次のような資質・能力、適性を有した者を受け入れる方針を、入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）とし、大学及び学部のアドミッション・ポリシーに基づき学生募集及び入学者選抜を実施する。

1) 大学のアドミッション・ポリシー

- ① 各学部における教育内容に興味関心があり、将来専門職として社会に貢献する意欲がある。
- ② 大学で学ぶための基礎的な学力を備えている。
- ③ 人間の尊厳を大切にし、人とよりよい関わりができる。
- ④ 常に努力を惜しまず、積極的に行動できる。

2) 教育学部のアドミッション・ポリシー

- ① 乳幼児の保育、児童の教育に興味関心があり、将来教職、保育職として社会に貢献する意欲がある。
- ② 高校での教育課程を幅広く学び、保育者・教育者になるために必要となる基礎的な学力を備えている。
- ③ 保育者や教育者をめざし、明朗で快活に仲間と協働ができるコミュニケーション能力を備えている。
- ④ 幅広い関心から、主体的に課題発見に努め、その課題解決に実践的に取り組もうとする学習意欲をもっている。

3) 看護学部のアドミッション・ポリシー

- ① 看護に興味関心があり、将来看護職として社会で活動する意欲がある。
- ② 看護学部での学びに必要な基礎的な学力を備えている。
- ③ 他者の意見が尊重できるコミュニケーション能力を備えている。
- ④ 努力を惜しまず、主体的に行動できる。

8-2 選抜方法

1) 募集定員等

各入試方式及び選抜方法における募集人員は次の通りとする。

開設初年度

学部	入学定員	総合型(A0)選抜	学校推薦型選抜	一般選抜
教育学部	80名	5名	40名	35名
看護学部	80名	5名	40名	35名

※学校推薦型選抜は、指定校制推薦、公募制推薦、併設校特別推薦を含む

※一般選抜は、社会人特別選抜、海外帰国生徒特別選抜、外国人留学生特別選抜を含む

開設2年目以降

学部	入学定員	総合型(A0)選抜	学校推薦型選抜	一般選抜
教育学部	80名	5名	40名	35名
看護学部	80名	5名	40名	35名

※学校推薦型選抜は、指定校制推薦、公募制推薦、併設校特別推薦を含む

※一般選抜は、大学入学共通テスト利用選抜、社会人特別選抜、海外帰国生徒特別選抜、外国人留学生特別選抜を含む

2) 出願資格

●開設初年度

A) 総合型(A0)選抜

次の(1)～(2)までの条件を満たす者

- (1) 本学のアドミッション・ポリシーを理解し、入学意欲の高い者
- (2) 次の①から③までのいずれかに該当する者
 - ① 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者、または2022年3月卒業見込みの者
 - ② 通常の課程による12年の学校教育を修了した者、または2022年3月修了見込みの者
 - ③ 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者、または2022年3月31日までにこれに該当する見込みの者

B) 学校推薦型選抜

i. 指定校制推薦及び併設校特別推薦

次の各項のいずれかに該当し、本学が指定する基準を満たし、出身高等学校長の推薦を受けた者

- (1) 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者、または2022年3月卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者、または2022年3月修了見込みの者
- (3) 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者、または2022年3月31日までにこれに該当する見込みの者

ii. 公募制推薦

次の各項のいずれかに該当し、出身高等学校長の推薦を受けた者

- (1) 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者、または2022年3月卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者、または2022年3月修了見込みの者
- (3) 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者、または2022年3月31日までにこれに該当する見込みの者

C) 一般選抜

- (1) 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者、または2022年3月卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者、または2022年3月修了見込みの者
- (3) 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者、または2022年3月31日までにこれに該当する見込みの者

D) 社会人特別選抜

次のⅠ～Ⅱのすべての条件を満たす者

Ⅰ 2022年3月31日までに2年以上の社会生活を送った者

Ⅱ 下記のいずれかの大学入学資格を有する者

- (1) 高等学校・中等教育学校を卒業した者または2022年3月卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者または2022年3月修了見

込みの者

- (3) 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者、または2022年3月31日までにこれに該当する見込みの者

E) 海外帰国生徒特別選抜

日本国籍を有し（日本に永住権を有する外国籍の者を含む）、外国において高等学校段階の教育を1年（1学年）以上受け、下記（1）～（4）のいずれかに該当する者

- (1) 高等学校（中等教育学校の後期課程を含む）を2020年4月以降に卒業した者及び2022年3月に卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を2020年4月以降に修了した者及び2022年3月に修了見込みの者
- (3) 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると2020年4月以降に認められた者及び2022年3月31日までにこれに該当する見込みの者
- (4) 国際バカロレア資格、アビトゥア資格、バカロレア資格のいずれかを有する者

F) 外国人留学生特別選抜

下記の（1）～（4）のすべての条件を満たす外国人または（5）の外国人

- (1) 次の①②のいずれかに該当する者
- ①外国において通常の課程による12年の学校教育を修了した者（2022年3月31日までに修了見込みを含む）、または本国で大学に入学できる資格を持っている者
- ②上記①と同等以上の学力があると本学が認めた者
- (2) 在留資格が出入国管理法及び難民認定法において「留学」の者。
- (3) 次の①②のいずれかに該当する者
- ①日本語能力試験N1に合格した者
- ②日本学生支援機構主催「日本留学試験」において、本学が指定する科目を2020年または2021年に受験し、「日本語」及び各学部が指定する科目に関して本学が指定する基準点以上の者
- (4) 学費の支弁に支障のない者
- (5) 特に本学が上記の条件と同等と認めた者

●開設2年目以降

開設2年目以降の出願資格については、開設初年度の出願資格を該当年に照らして

年月日を改めたものとする。

3) 選抜方法

各入学者選抜種別及び選抜方法は次の通りとする。

●開設初年度

○教育学部

※1()内の数字は評価割合(配点)を示す。

※2 選抜方法と AP (アドミッション・ポリシー) との関連について

[◎:特に強く関連、○:強く関連、△:関連]を示す

入学者選抜区分		選抜方法		AP①	AP②	AP③	AP④
総合型 (A0) 選抜	右記による 総合評価 合計150点	書類審査(30)		○	○	△	○
		基礎学力テスト(60)			◎		
		プレゼンテーション(30)		△	◎		
		面接(30)		○		◎	△
学校推薦型選抜	指定校制推薦選抜	右記による	書類審査(50)	○	○	△	○
		総合評価	小論文(20)	△	◎		
		合計100点	面接(30)	○		◎	△
	公募制推薦選抜	右記による	学科試験[国語、英語、数学から 2科目を選択] (100×2)		◎		
		総合評価 合計250点	書類審査(50)	○	○	△	○
	併設校特別推薦選抜	右記による	書類審査(50)	○	○	△	○
		総合評価	小論文(20)	△	◎		
		合計100点	面接(30)	○		◎	△
	一般選抜	本学個別学力試験 3科目選択型	右記による 評価 合計300点	学科試験[国語、英語、数学から 2科目を選択し、選択しなかった 科目、地歴(世界史または日本 史)、理科(生物基礎と生物)から 1科目を選択] (100×3)		◎	
本学個別学力試験 2科目選択型		右記による 評価 合計200点	学科試験[国語、英語、数学から 2科目を選択] (100×2)		◎		
社会人特別選抜		右記による	小論文(100)	△	◎		
	総合評価 合計150点	面接(50)	○		◎	△	

海外帰国生徒 特別選抜	右記による 総合評価合 計200点	書類審査(25)	○	○	△	○
		外国語(100)		◎		
		小論文(50)	△	◎		
		面接(25)	○		◎	△
外国人留学生 特別選抜	右記による 総合評価合 計200点	書類審査(50)	○	○	△	○
		小論文(100)	△	◎		
		面接(50)	○		◎	△

※公募制推薦選抜および本学個別学力試験において、英語民間検定試験の成績証明が提出された場合、成績に応じて受験科目として英語の成績を認定する。

○看護学部

※1()内の数字は評価割合(配点)を示す。

※2 選抜方法とAP(アドミッション・ポリシー)との関連について

[◎:特に強く関連、○:強く関連、△:関連]を示す

入学者選抜区分		選抜方法	AP①	AP②	AP③	AP④
総合型(AO)選抜	右記による 総合評価 合計150点	書類審査(30)	○	○	△	○
		基礎学力テスト(60)		◎		
		小レポート(30)	△	◎		
		面接(30)	○		◎	△
学校推薦型選抜	指定校制推薦選抜 右記による 総合評価 合計100点	書類審査(50)	○	○	△	○
		小論文(20)	△	◎		
		面接(30)	○		◎	△
	公募制推薦選抜 右記による 総合評価 合計280点	書類審査(50)	○	○	△	○
		学科試験[国語、英語、 数学から2科目を選択] (100×2)		◎		
		面接(30)	○		◎	△
	併設校特別推薦選抜 右記による 総合評価 合計100点	書類審査(50)	○	○	△	○
		小論文(20)	△	◎		
		面接(30)	○		◎	△
	一般選抜	本学個別学力試験 3科目選択型 右記による 総合評価 合計350点	学科試験[国語、英語、 数学、理科(生物基礎 と生物)から3科目を選 択](100×3)		◎	
書類審査(20)			○	○	△	○
面接(30)			○		◎	△
本学個別学力試験 2科目選択型 右記による 総合評価 合計250点		学科試験[国語、英語、 数学から2科目を選択] (100×2)		◎		
		書類審査(20)	○	○	△	○
		面接(30)	○		◎	△
社会人特別選抜 右記による 総合評価 合計150点		小論文(100)	△	◎		
		面接(50)	○		◎	△
海外帰国生徒 特別選抜 右記による 総合評価合 計200点		書類審査(25)	○	○	△	○
		外国語(100)		◎		
		小論文(50)	△	◎		

	外国人留学生 特別選抜	右記による 総合評価合 計200点	面接(25)	○		◎	△
			書類審査(50)	○	○	△	○
			小論文(100)	△	◎		
			面接(50)	○		◎	△

※公募制推薦選抜および本学個別学力試験において、英語民間検定試験の成績証明が提出された場合、成績に応じて受験科目として英語の成績を認定する。

●開設 2 年目以降

○教育学部

※1()内の数字は評価割合(配点)を示す。

※2 選抜方法と AP (アドミッション・ポリシー) との関連について

[◎:特に強く関連、○:強く関連、△:関連]を示す

入学者選抜区分		選抜方法		AP①	AP②	AP③	AP④
総合型 (A0) 選抜		右記による 総合評価 合計150点	書類審査(30)	○	○	△	○
			基礎学力テスト(60)		◎		
			プレゼンテーション(30)	△	◎		
			面接(30)	○		◎	△
学校推薦型選抜	指定校制推薦選抜	右記による 総合評価 合計100点	書類審査(50)	○	○	△	○
			小論文(20)	△	◎		
			面接(30)	○		◎	△
	公募制推薦選抜	右記による 総合評価 合計250点	学科試験 [国語、英語、数学から2科目を選択] (100×2)		◎		
			書類審査(50)	○	○	△	○
	併設校特別推薦選抜	右記による 総合評価 合計100点	書類審査(50)	○	○	△	○
			小論文(20)	△	◎		
			面接(30)	○		◎	△
	一般選抜	本学個別学力試験 3科目選択型	右記による 評価 合計300点	学科試験 [国語、英語、数学から2科目を選択し、選択しなかった科目、地歴(世界史または日本史)、理科(生物基礎と生物)から1科目を選択] (100×3)		◎	
本学個別学力試験 2科目選択型		右記による 評価 合計200点	学科試験 [国語、英語、数学から2科目を選択] (100×2)		◎		
大学入学共通テスト 利用型		右記による 評価 合計300点	3科目型 [外国語(英語)【必修】、その他の教科から2科目を選択] (100×3)		◎		
社会人特別選抜		右記による 総合評価 合計150点	小論文(100)	△	◎		
			面接(50)	○		◎	△
海外帰国生徒 特別選抜		右記による 総合評価合	書類審査(25)	○	○	△	○
	外国語(100)			◎			

		計200点	小論文(50)	△	◎		
			面接(25)	○		◎	△
	外国人留学生 特別選抜	右記による 総合評価合 計200点	書類審査(50)	○	○	△	○
			小論文(100)	△	◎		
			面接(50)	○		◎	△

※公募制推薦選抜および本学個別学力試験において、英語民間検定試験の成績証明が提出された場合、成績に応じて受験科目として英語の成績を認定する。

○看護学部

※1()内の数字は評価割合(配点)を示す。

※2 選抜方法とAP(アドミッション・ポリシー)との関連について

[◎:特に強く関連、○:強く関連、△:関連]を示す

入学者選抜区分		選抜方法	AP①	AP②	AP③	AP④
総合型(AO)選抜	右記による 総合評価 合計150点	書類審査(30)	○	○	△	○
		基礎学力テスト(60)		◎		
		小レポート(30)	△	◎		
		面接(30)	○		◎	△
学校推薦型選抜	指定校制推薦選抜 総合評価合 計100点	書類審査(50)	○	○	△	○
		小論文(20)	△	◎		
		面接(30)	○		◎	△
	公募制推薦選抜 総合評価 合計280点	書類審査(50)	○	○	△	○
		学科試験[国語、英語、 数学から2科目を選択] (100×2)		◎		
		面接(30)	○		◎	△
	併設校特別推薦選 抜 総合評価 合計100点	書類審査(50)	○	○	△	○
		小論文(20)	△	◎		
		面接(30)	○		◎	△
	一般選 抜	本学個別学力試験 3科目選択型 総合評価 合計350点	学科試験[国語、英語、 数学、理科(生物基礎 と生物)から3科目を選 択](100×3)		◎	
書類審査(20)			○	○	△	○
面接(30)			○		◎	△
本学個別学力試験 2科目選択型 総合評価 合計250点		学科試験[国語、英語、 数学から2科目を選択] (100×2)		◎		
		書類審査(20)	○	○	△	○
		面接(30)	○		◎	△
大学入学共通テス ト利用型 総合評価 合計350点		3科目型[外国語(英語) 【必修】、国語、数学、 理科から2科目を選択] (100×3)		◎		
		書類審査(20)	○	○	△	○
		面接(30)	○		◎	△

	社会人特別選抜	右記による 総合評価 合計150点	小論文(100)	△	◎		
			面接(50)	○		◎	△
	海外帰国生徒 特別選抜	右記による 総合評価 合計200点	書類審査(25)	○	○	△	○
			外国語(100)		◎		
			小論文(50)	△	◎		
			面接(25)	○		◎	△
	外国人留学生 特別選抜	右記による 総合評価 合計200点	書類審査(50)	○	○	△	○
			小論文(100)	△	◎		
			面接(50)	○		◎	△

※公募制推薦選抜および本学個別学力試験において、英語民間検定試験の成績証明が提出された場合、成績に応じて受験科目として英語の成績を認定する。

8-3 選抜及び選考体制

入学者選抜は、学長を中心とした責任体制のもと、大学評議員会の審議を経て、中立・公正に実施する

入学者選抜の信頼性を損なう事態が生じることのないように、責任体制を明確化し、入試問題作成を含む入試担当教職員の選任における適格性の確保、研修の実施など実施体制の充実を図り、教員・事務職員が連携協力して全学的に実施する。入学者選抜に関する事務は入試課が行う。

9. 取得可能な資格

本学において、所定の授業の単位を修得し、卒業要件を満たした者は、次の資格・免許を取得することができる。

9-1 教育学部

1) 卒業要件

科目区分	必修	選択	卒業要件
共通教育科目	22 単位	23 単位	28 単位
専門教育科目	47 単位	116 単位	80 単位
自由選択			16 単位
計	69 単位	139 単位	124 単位

2) 免許・資格取得のための必修科目

(1) 小学校教諭一種免許状

専門教育科目の選択科目のうち小学校教諭教職科目である「教職論」「初等算数論」「初等英語論」「初等国語科教育論」「初等社会科教育論」「初等算数科教育論」「初等理科教育論」「初等生活科教育論」「初等音楽科教育論」「初等図工科教育論」「初等家庭科教育論」「初等体育科教育論」「初等英語科教育論」「初等教育課程論」「初等生徒・進路指導論」「初等道徳教育論」「初等特別活動指導論」「総合的な学習の指導論」「教育実習（幼・小）」「教育実習事前事後指導」「教職実践演習（幼・小）」の21科目41単位を修得する必要がある。

(2) 幼稚園教諭一種免許状

専門教育科目の選択科目のうち幼稚園教諭教職科目である「教職論」と「保育者論」のいずれか、「初等教育課程論」と「保育・教育課程論」のいずれか、「幼児と健康論」「幼児と表現論」「保育内容指導法（健康）」「保育内容指導法（表現）」「幼児の理解」「幼児音楽指導法Ⅰ」「幼児音楽指導法Ⅱ」「幼児造形指導法Ⅰ」「幼児造形指導法Ⅱ」「教育実習（幼・小）」「教育実習事前事後指導」「教職実践演習（幼・小）」の14科目24単位、及び、「教職論」と「保育者論」、「初等教育課程

論」と「保育・教育課程論」のうち未修得の科目もしくは、「児童心理学」「教職インターンシップ」「初等音楽論Ⅲ」「初等体育論Ⅱ」「セーフティプロモーション」の中から1単位以上を習得する必要がある。

(3) 保育士資格

専門教育科目の選択科目のうち保育士資格必修科目である「保育者論」「保育・教育課程論」「保育内容指導法（健康）」「保育内容指導法（表現）」「幼児の理解」「子ども家庭支援の心理学」「子ども家庭支援論」「乳児保育Ⅰ」「乳児保育Ⅱ」「社会的養護Ⅰ」「社会的養護Ⅱ」「子どもの保健」「子どもの健康と安全」「子どもの食と栄養」「子育て支援」「保育実習ⅠA」「保育実習ⅠB」「保育実習指導ⅠA」「保育実習指導ⅠB」「教職実践演習（幼・小）」の20科目31単位と、保育士資格選択必修科目「教職論」「児童心理学」「障害児（者）心理学」「幼児音楽指導法Ⅰ」「幼児音楽指導法Ⅱ」「幼児造形指導法Ⅰ」「幼児造形指導法Ⅱ」「障害児保育論」「野外活動」の中から2単位、「保育実習Ⅱ」「保育実習指導Ⅱ」あるいは「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」のいずれか3単位を修得する必要がある。

3) 卒業要件と取得可能な免許・資格の関係

本学教育学部の卒業要件単位は124単位である。幼稚園教諭一種免許状と保育士資格を取得する場合は卒業要件単位の124単位で取得可能である。小学校教諭一種免許状と幼稚園教諭一種免許状を取得する場合は卒業要件単位の124単位に2単位を加えた126単位で取得可能である。小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状、保育士資格の3つの免許・資格を取得するためには155単位の修得が必要であり、取得は可能であるが、優秀な成績を収めている学生に限る。詳細は履修指導において述べる。

9-2 看護学部

1) 看護師国家試験受験資格

下表に示した卒業に必要な132単位以上を修得することにより、保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める教育内容及び単位数を満たしており、看護師国家試験受験資格が得られる。

【資料33：教育課程と指定規則との対比表（学則別表2-5）】

科目区分	必修	選択	卒業要件
共通教育科目	15 単位	28 単位	28 単位
専門教育科目	104 単位	9 単位	104 単位
専門基礎科目	28 単位	3 単位	28 単位
専門科目	76 単位	6 単位	76 単位
計	119 単位	37 単位	132 単位

2) 養護教諭一種免許状

(1) 卒業要件 132 単位に含める科目と単位

共通教育科目

選択科目「教育学概論Ⅰ」「セーフティプロモーション」

「社会と人権（日本国憲法）」「体育講義」「スポーツと健康」

「情報リテラシーⅡ」「ReadingⅡ」「Process Writing」「時事英語」

の 10 単位

(2) 卒業要件以外に取得する科目と単位

① 専門基礎科目

選択科目「環境と健康」1 単位

② 専門科目

自由科目「学校保健」「養護学概説」4 単位

③ 教職科目

自由選択科目「教育原理」「教職論」「教育制度論」「教育心理学」

「特別支援教育」「教育課程論」「道徳教育の理論と方法」

「特別活動及び総合的な学習の指導法」「教育の方法と技術」

「生徒指導」「教育相談」「教育実習事前事後指導」

「教育実習（養護）」「教職インターンシップ」

「教職実践演習（養護教諭）」21 単位

以上、26 単位と卒業要件 132 単位の合計 158 単位以上取得すること。

10. 実習の具体的計画

10-1 教育学部の実習計画の概要

1) 実習の目的

実習では、大学での学びを踏まえた上で、目の前にいる園児や児童の実態を把握しながら様々な実践を積み重ねていく中で、観察実習であれ教壇実習であれ、それぞれの段階の実習において現場でしか学べないことを学ぶことが肝要である。そして、実習を通して保育者及び教育者に必要な能力を養っていくことになる。

さらに、実習を通して自己を見つめ直し、保育者及び教育者になることの意味を再確認することも必要である。本学部のディプロマ・ポリシーの一つである「専門職者としての実践力を高め、社会に貢献できる」人材を養成するために実習は行われる。

(1) 教育実習（幼・小）

- ・実際の小学校・幼稚園での観察・参加・指導実習を通して、小学校・幼稚園の機能・役割、一日の流れや教諭の様々な役割を把握する。
- ・担任の補助を行い、児童が主体的・対話的・深い学びに向かうことのできる学習環境の在り様を学び、自らも教育・保育を実践する。
- ・観察・参加実習において実習生自ら児童・幼児と関わり、児童・幼児の実態を把握し、個々に応じた適切な支援・援助を実践し、省察する。
- ・教壇授業や研究授業・責任実習の経験を通して児童・幼児の主体的・対話的で深い学びを目指した指導案を作成・実践し、環境構成や指導・保育実践について学びを深める。
- ・指導教諭の学級経営において観察・参加・指導を行う中で、生徒指導や学級経営の重要性を学び、実践のための基礎を修得する。

(2) 保育実習 I A

- ・実際の保育所での観察・参加実習を通して、保育所の一日の流れを把握し、保育所の役割と機能について理解する。
- ・保育士の補助や保育活動（食事・午睡等）での参加・実践を通して、保育士の様々な役割と業務内容、保育実践について体験的に学ぶ。

- ・子どもと関わりながら通所児の実態を把握し、得たことを基にして個々の発達に応じた声掛けや適切な援助について学ぶ。
- ・責任実習の経験を通して保育計画と保育の展開について学び、総合的な学びを深める。

(3) 保育実習ⅠB

- ・「保育実習指導ⅠB」や他の関連教科での学びを基盤とし、施設での観察・参加実習を通して施設の一日の流れを把握し、施設の役割や機能を具体的に理解する。
- ・施設の指導員の補助を行い、施設における保育士の役割や他職員との連携を含めた業務内容、職業倫理について体験的に学ぶ。
- ・施設の利用者や入所者と実際に関わることを通してその理解を深め、状況に応じた適切な声掛けや支援・援助を行い、実践力を高める。

(4) 保育実習Ⅱ

- ・保育実習ⅠAで学習したことを基に、参加・指導実習を通して子ども理解をし、一人一人に対するきめ細かい援助方法を身に付ける。
- ・保育士の役割や配慮について実践的に学び、職業倫理について理解を深める。
- ・責任実習（部分実習または一日実習）の経験を通して、長期的視野を持った指導案作成の意義と方法、保育実践力を養う。
- ・保育全般に参加しながら、子どもの家庭支援・保護者支援、地域社会との関わりについても理解を深める。

(5) 保育実習Ⅲ

- ・「保育実習ⅠB」での学びを基盤とし、観察・参加・指導実習を通してさらなる経験を積むことによって、施設の役割や機能について理解を深める。
- ・保育士の業務の補助や、利用者に対して主体的に援助を行うことによって、施設における保育士としての必要な資質や能力を習得する。
- ・様々な困難さを持つ利用者との関わりによって、利用者の人権に配慮した最善の利益を追求する支援・援助についての理解を深める。
- ・部分実習・責任実習を通して、支援計画作成と実践、評価について学ぶ。
- ・家庭と地域の生活実態に触れ、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力や判断力を養い、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。

(6) 教職インターンシップ

- ・幼稚園教育、小学校教育における授業、特別活動、部活動などの教員の日常業務を観察、体験し、学校における教育活動についての、実際の、具体的理解を深める。
- ・学校教育の様々な場면을観察し、教員の業務について知る。
- ・学校における教育活動における具体的理解を深める。
- ・学校における、教員と幼児・児童との関係について具体的理解を深める。

2) 実習先の確保の状況

(1) 実習先の確保状況

幼稚園教育実習、保育実習、施設実習、小学校教育実習の実習先の確保状況については、【資料45：教育学部 実習先確保状況・実習先承諾書】に示すとおりである。それぞれの実習において定員80名の学生の実習先を確保している。

(但し保育実習Ⅲは施設への就職希望のある若干名にのみ開講するので、5名の実習先確保している。)

(2) 3年次5月における幼稚園教育実習先確保について

3年次5月に実施する幼稚園教育実習については、授業期間中の実施のため、あらかじめ設定した期間に当該年次の学生全員が実習を完了する必要があるため、実習先の割り振りに配慮が必要である。

「実習協力園」は、短期大学時から長年実習生を送り出している園である。その際も、幼稚園教育実習は5月の授業期間中の実施であったため、確実に期間内に実習を完了していただける園である。よって、4年制大学においても、本学の実習時期設定についてご理解いただいた上で、(1)の通り、「実習承諾書」を計29園(92名分)いただいている。それらの実習先に対して、実習開始1年前(実習生が1年次)に、「実習を2回に分けて行うことに関する本学の意図」と「実習期間の設定」について説明を行ったうえで次年度以降の確定実習時期を通知し、「実習受け入れ可能人数」をあらかじめ伺っておく。その上で、1年次12月に実施する実習先希望調査の結果を踏まえて、実習先に依頼を行い、実習先の割り振りを行う。

万一開学後に、実習先の都合により実習期間中での実習が困難であると申し出があった場合も、前述の通り92名分の実習先を確保しているので調整の範疇と推測している。その中に3名の受け入れを予定している併設幼稚園は、短期大学時には例年10～20名の受け入れ実績があり、当初の受け入れ人数を超えても調整可能と見込

めるため、実習先の割り振りに支障はないことから、確実に設定した実習期間に完了できると考えている。

「実習協力園」が学生の居住区からの移動に適した距離にない場合等においては学生が新規園を希望することもできるが、依頼をする際に「指定の2週間で完了していただけるかどうか」ということを条件とする。

以上の対応により、3年次5月の2週間の期間における実習については、設定した2週間で確実に実習完了できるよう、実習先を割り振ることが可能である。

3) 実習時期【資料46：教育学部 コース別実習時期一覧表】

(1) 幼稚園教育実習

① 初等教育コース

- ・幼稚園に4年次の9月に2週間。
- ・初等教育コースでは、教育実習（幼・小）の科目において、4週間の小学校実習を実施するが、幼稚園も実地体験したい学生対象に選択科目として開講する。

② 幼児教育コース

- ・幼稚園に（前半）2年次の9月に2週間と（後半）3年次の5月に2週間の合計4週間。

※実習期間中、他の授業は行わない。それに伴い、3年次前期の授業期間を17週とする。

※祝日等で各科目の授業時間が不足する場合は土曜日及び空き時間等に補講を行う。

(2) 保育実習

① 幼児教育コース

保育所に（前半）2年次の2月に10日間、（後半）3年次の9月に10日間の合計20日間。ただし保育実習Ⅲを選択するものは、保育実習Ⅱを行わない。

(3) 施設実習

① 幼児教育コース

- ・「保育実習ⅠB」として、大学指定の児童福祉施設に2年次の8月・12月・2月の3期のうちのいずれかで10日間実施する。ただし、保育実習Ⅲを選択するものは8月に実施する。

- ・保育実習Ⅲは大学指定の児童養護施設か乳児院にて、3年次の9月に10日間実施する。ただし、保育実習Ⅱを選択するものは、保育実習Ⅲを行わない。なお、保育実習Ⅲは就職希望のある学生で、5名までとする。5名を超えて希望があった場合は、成績順とし、実習委員会にて決定する。

(4) 小学校教育実習

① 初等教育コース

- ・小学校に3年次の9月～10月に4週間。

② 幼児教育コース

- ・小学校に4年次の9月に2週間。
- ・幼児教育コースでは、「教育実習」(幼・小)の科目において、4週間の幼稚園実習を実施するが、小学校も実地体験したい学生対象に選択科目として開講する。

(5) 教職インターンシップ

- ・両コースとも2年次の後期から実施。
- ・各自、実習先の指導の下スケジュールを立て、ガイダンスや報告会などを省き、全90分×27回行う。

4) 実習先との契約内容

実習先との契約にあたっては、各実習先と次の項目・内容について相互確認を行う。

(1) 実習施設への受け入れ内諾依頼は前年度中に行い、その際、以下の項目について実習施設と相互に確認を行う。

- ・実習中に事故や物損などが生じた場合の対応
- ・実習生が実習先に通勤する際の事故への対応
- ・実習生による誓約書(後出)違反が生じた場合の対応
- ・警報発令や災害時の対応
- ・その他実習に係る事柄
- ・本学及び実習施設側の対応窓口と責任者に関すること

(2) 内諾依頼時に実習施設に送付する書類等

- ・実習内諾依頼書
- ・実習実施要綱
- ・事前事後指導のシラバス

(3) 実習生が実習開始時に実習施設に提出する書類等

- ・個人票…証明写真、氏名、住所、これまでの実習歴、自己課題、課外活動、趣味等
- ・誓約書…守秘義務について
- ・健康診断証明書…身長・体重・既往症、視力、聴力等。基本的には大学での健康診断による証明書を発行するが、実習先より実施直前のものが必要と指示があった場合は、個人で医療機関を受診し証明書を取得する。
- ・腸内細菌検査証明書（主に保育実習及び施設実習）…基本5項目について

(4) 学生の申し出によって伝達する情報

特別に配慮が必要な内容（食物アレルギーや持病等）について、「実習先希望調査」で学生から申し出があれば、実習担当委員より実習先へ提供する。

「実習先希望調査」：1年次後期に、教育学部全員に対して、2年次9月・3年次5月に行われる幼稚園教育実習の実習先希望調査を実施する。その際、「実習先にお伝えしておきたい情報（食物アレルギーや持病等）」についても記載欄を設け、記載した学生には実習担当委員が個別に面談し、学生の了承のもとに実習依頼の際に実習先へ伝達する。その後の実習についても、幼稚園実習と同様に希望調査や説明会での提出資料にて記載欄を設け、情報収集を行う。

さらに、訪問担当教員がオリエンテーション前・実習前に実習先ごとに個別に学生指導を行う際に、学生から「実習先に伝えておきたい情報」についての申し出があれば学生の了承を得た上で実習担当委員へ伝達し、個別面談の上、実習先へ伝達することにより、よりよい実習を目指す。

5) 実習水準の確保と方策

実習水準の確保のため、学生及び実習先に対して以下のような方策を講ずる。

(1) 学生

- ・事前事後指導には原則全出席であること、実習までに課された課題はすべて提出しておくこと、実習先の定めたオリエンテーションに参加することの3点がすべて満たされない場合には実習への参加を認めない。
- ・適宜事前指導を開催し、注意喚起を促す。
- ・実習期間中に問題が発生した場合には、実習先及び大学の実習担当委員に相談し適切に対応する。
- ・各実習を行うに当たり指定されている科目の修得がなされていない場合は、さらなる学習を行い、必要科目を修得してからの実施とする。

(2) 実習先

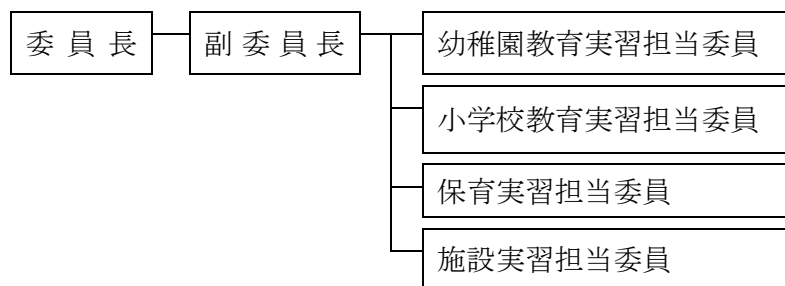
- ・本学の実習方針や実習指導内容について周知する。
- ・実習期間中は大学の実習担当委員が実習先と緊密な連絡を取り、実習生の状況についての的確に把握する。

6) 実習先との連携体制

(1) 実習委員会の設置

教育・保育実習に関して以下のような教育・保育実習委員会を置き、実習に関して実習先と連携する。

【教育・保育実習委員会の組織図】

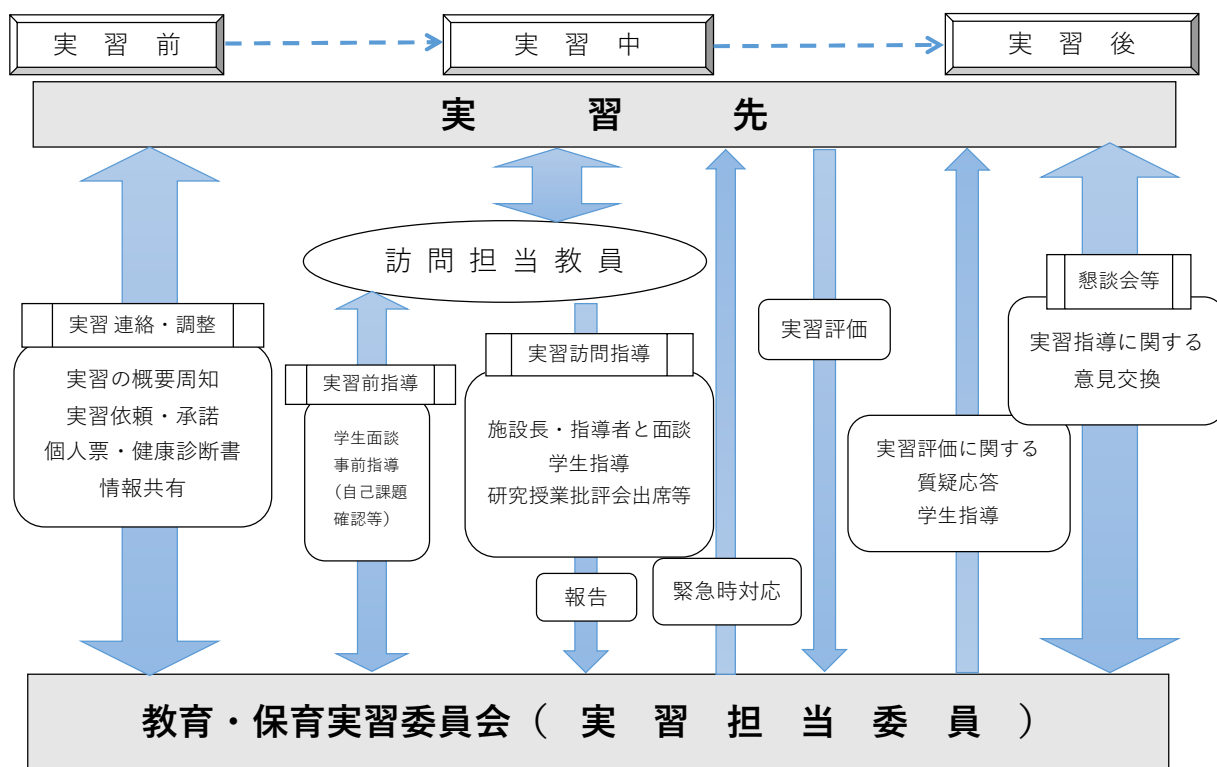


実習科目を担当する専任教員（以下、「実習担当委員」）は、実習先との連携・調整、実習の運営、実習生への指導内容及び方法等について協議し、各科目において学生指導等行っていく。実習期間中の巡回指導については、教育学部の専任教員全員で

かかわる（以下、「訪問担当教員」）。

大学と実習先との連携については、次に示し、それぞれ具体的に説明する。

【図 大学と実習先との連携】



(2) 「実習担当委員」の役割と実習先との連携体制

「実習担当委員」は幼稚園教育実習、小学校教育実習、保育実習、施設実習についてそれぞれ中心的な存在として、実習先との連絡・調整の窓口となり、学生指導の総括的役割を担う。

実習前には、実習生の希望も踏まえた配属先の調整・決定を行い、実習の概要（到達目標や内容・成績評価基準等）の実習先への周知・依頼を行う。学生に対しては、実習生としての心構えや実習の意義、内容等、実習に行くまでに必要な知識・技能等について、事前指導を行い、大学で把握している学生の状況のうち、実習先においても共有しておいた方がよいと考えられる情報については実習先に提供する。

実習中は「訪問担当教員」と情報交換を行い、実習先と連携して学生指導を行う。学生が学修しやすい環境と、実習先が指導しやすい環境を整えられるよう努める。

実習後、学生の自己評価・振り返り等、事後指導を行い、実習先から提出された評価をもとに総括をする。

学生指導においては、実習に行く前に、実習生自身が実習の意義・目的を理解できるよう、実習生としての心構えについて十分に説明を行うことが必要である。また、授業記録や保育記録の意義、適切な取り方、観察の視点についても事前指導を行う。

それは、教育学部が養成する人材像として掲げている「教育・保育に関わる使命感と責任感を持ち、地域社会を中心に幅広く現代社会に目を向け、子どもの状況や特性を包括的に理解し、一人ひとりに応じた教育・保育を実践できる人材」を養成するために必要であり、実習先に対しても、教育学部における本学の実習方針について説明を行い、関係機関への周知を図る。さらに、実習生育成にあたり、実習先と相補的役割認識・共通理解を図るため、毎年懇談会等の話し合いの場を設ける。

その他、毎年開催される大阪市市立保育連盟、大阪府私立幼稚園連盟等の懇談会に本学教員が出席し、情報交換を行うとともに学部の専任教員との研修会の場でフィードバックを行う。その中で、実習指導内容の共通認識を図った上で、実習の手引きや指導内容の見直し・改善に努める。

(3) 「訪問担当教員」の役割と実習先との連携体制

「訪問担当教員」は、実習期間中に実習先を巡回訪問し、学生の実習状況の把握や実習先の指導教員との情報共有、委員会への報告を主に行う。

学生の実習先の配属が決定後、実習前に担当の実習学生と面談を行い、オリエンテーション時の内容や自己課題について確認・指導を行う。

実習中には実習先を訪問し、学生、実習先の指導教員等との面談の機会を持ち、小学校教育実習では特に研究授業に参加し、批評会において専門的見地から指導を行う。

「訪問担当教員」は、「実習担当委員」と緊密に連絡を取り、連携して指導にあたる。

7) 実習前の準備状況

実習や教職インターンシップ時の事故や災害については、入学時に全学生が加入する「学生教育研究災害傷害保険（学研災）通学特約付」と任意加入の「学研災付帯賠償責任保険」で対応する。

また、感染予防対策としては、感染予防に必要とされる免疫を獲得している状態であることを確認した上で実習への参加を認める。具体的には、麻しん（はしか）、風しん（三日ばしか）の抗体を調べ、抗体が確認できなかった学生には、予防接種を義務付け、接種を証明できるもののコピーの提出により、実習や教職インターンシップを認める。

また大学において実習のみならず、特に2年次に実施する教職インターンシップの前には、心構え等について講義を行い、社会人としての基本的マナーを備えるよう指導する。

8) 事前・事後における指導計画

授業科目として「教育実習事前事後指導」「保育実習指導ⅠA」「保育実習指導ⅠB」「保育実習指導Ⅱ」「保育実習指導Ⅲ」を設定し、以下に示した内容で授業を行う。

「教育実習事前事後指導」

小学校教育実習、幼稚園教育実習の事前事後指導を担う。小学校教育実習、もしくは、幼稚園教育実習の意義目的をおさえ、必要性を理解する。既習の内容を踏まえて、小学校・幼稚園教育において実践力を養い、教育を深める。学習指導だけではなく、児童の生活指導や、掃除、給食など含めた学校生活全体での教師の役割を認識し、実践力を高めるよう学習する。事後においては、経験した観察実践を振り返り、学びを考察する。

「保育実習指導ⅠA」

「保育実習ⅠA」の事前事後指導学習を担う。実習の意義と目的を理解し保育所実習の基本的内容を学ぶ。また保育所についての理解を深め、実習に向けての心構えを形成する。実習に行くための課題を設定し、事後には実習を振り返り、課題を明確化し、自己評価を深める。

「保育実習指導ⅠB」

「保育実習ⅠB」の事前事後指導学習を担う。多種類に亘る施設それぞれの概要について理解し、その利用者や入所者についての理解を深める。そして、施設における保育士の役割について理解し、施設実習に臨むにあたっての心構えを身につける。授業に際しては、学生同士の積極的な意見交換、グループ活動などを取り入れ自己課題を明瞭化できるよう取り組む。

「保育実習指導Ⅱ」

「保育実習Ⅱ」の事前事後指導学習を担う。これまで学習した他の科目の総まとめとして、また「保育実習ⅠA」を基礎として、保育実習での観察、実践に生かす。事後指導では、経験した観察と実践での学びを考察し、自己課題を明確にしたうえで、保育士の役割について理解をさらに深める。

「保育実習指導Ⅲ」

「保育実習Ⅲ」の事前事後指導学習を担う。「保育実習ⅠB」及び「保育実習指導ⅠB」での学びを基にして、施設での実習をさらに深めるための知識や心構えを修得する。授業に際しては、学生同士の積極的な意見交換、グループ活動などを取り入れる。

科目名	内容
教育実習 事前事後 指導	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習事前事後指導の概要を知る。 ・教育実習の意義と目的を学ぶ。 ・学校・幼稚園の流れを理解し、教師に求められる資質を学ぶ。 ・小学校教諭・幼稚園教諭の職務内容について理解する。 ・学習指導計画の書き方について学ぶ。 ・本時の計画について書き方を学ぶ。 ・遊びを構成する指導案を考案する。 ・学級経営と特別活動等の教員の仕事について理解する。 ・自己課題を明確にする。 ・自己課題を研究するために必要な学びや、教科書等の内容を整理し、教育実習に向けての自身の課題を明確にする。幼稚園教育要領を十分理解し課題を明確にする。 ・実習における実践・教材作成と模擬授業・模擬保育を行う。 ・オリエンテーションの意義目的を学ぶ。 ・事後報告をし、実習の振り返り、省察を行う。
保育実習 指導ⅠA	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習の意義・目的について学ぶ。 ・保育所の概要について理解し、保育士ができる援助について学ぶ。 ・実習における自己課題を明確にする。 ・記録の取り方を学び、記録を取る必要性、意義を知る。 ・指導計画について学び、指導案の書き方を知る。 ・こどもの人権、プライバシーの保護について考察する。 ・児童福祉施設としての意義をおさえ、人権に配慮した実習を送れるよう学ぶ。 ・オリエンテーションの意義・目的を学び、実習生としての心構えを知る。 ・実習を振り返り、自己課題を考察し、新たな自己課題を見出す。
保育実習	<ul style="list-style-type: none"> ・施設実習の概要について学ぶ。

指導ⅠB	<ul style="list-style-type: none"> ・種別ごとの施設の把握と、施設における保育士の役割について理解する。 ・支援が必要な子どもや利用者についての理解と、その配慮・支援・援助について知る。 ・施設実習の意義・目的を考え、各自の自己課題を設定する。 ・事例から学ぶ健康・安全対策について知る。 ・施設実習に必要な書類とオリエンテーション訪問について知る。 ・実際に施設に関わっておられる方を講師としてお招きし、経験に基づく生の声を聞きながら、今の施設の現状を知り、学ぶ。 ・実習後の振り返りと自己評価をする。
保育実習指導Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習指導Ⅱの概要について知る。 ・保育実習の意義・目的を学ぶ。 ・自己課題の設定をする。 ・指導計画、総合的保育について理解する。 ・子どもの最善の利益について学び、考慮した保育を考察する。 ・人権意識を高め、プライバシー保護の必要性を知る。 ・責任実習に備え、立てた指導案を考察する。 ・実習の学びから、自己課題を振り返り、新たな自己課題を立てる。
保育実習指導Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅲにおける施設実習の意義・目的について知る。 ・乳児院、及び児童養護施設について学び、実習施設を理解した上で、入所する子どもについての理解を深める。 ・保育実習Ⅲにおける施設実習での自己課題について考察する。 ・施設入所者の人権について学ぶ。 ・児童養護施設における自立支援について学ぶ。 ・これまでの学びを振り返ることによって実習に向けての心構えを整え、実習に必要な書類について確認を行う。 ・実際に施設に関わっておられる方を講師としてお招きし、経験に基づく生の声を聞きながら、今の施設の現状を知り、学ぶ。 ・経験した施設実習を振り返り、自己課題についての学びを深めることができたかを自身で確認し、実習について自己評価する。

9) 実習指導委員の配置と巡回指導計画

6)に記載した「実習担当委員」が中心となって、実習計画全体の立案と実施にあたる。巡回指導については、「実習担当委員」が巡回指導計画を立案し、その指示のもとに「訪問担当教員」が担当する【資料47：教育学部 実習巡回指導計画（完成年度）】。

10) 実習施設における指導者の配置計画

実習施設ごとに幼稚園教諭、保育士資格、小学校教諭のそれぞれの免許・資格を有した実習指導者を配置する。また、実習先では、学校長、園長、施設長に統括的監督を依頼する。保育所以外の児童福祉施設については、保育士資格所有者に指導の依頼を行う。

11) 成績評価体制及び単位認定方法

「教育実習（幼・小）」においては、必ず「教育実習事前事後指導」を履修し、修得することを必須とする。また実習後に実習先から届く評価表と大学での自己課題の振り返り等の評価を総合し、実習委員会が提案する見解をもとに学部教授会において成績評価及び単位認定を行う。

保育実習、施設実習においては、「保育実習指導ⅠA」「保育実習指導ⅠB」「保育実習指導Ⅱ」もしくは「保育実習指導Ⅲ」を履修し、修得することを必須とする。また実習後に実習先から届く評価表と大学での自己課題の振り返り等の評価を総合し、実習委員会が提案する見解をもとに学部教授会において成績評価及び単位認定を行う【資料48：教育学部 教育・保育実習手引き】。

幼稚園教育実習、保育実習での評価表は、13項目ごとの5段階評価、5段階の総合評価及び総合所見によって構成される。小学校教育実習、施設実習での評価表は9項目ごとの5段階評価、5段階の総合評価及び総合所見によって構成される。

「教職インターンシップ」の履修においては、必ず「教育実習事前事後指導」を受講しているものとする。90分×27回の保育、小学校教育における教員業務を経験し、大学での中間報告会・事後報告会に出席した学生に対し、報告会での報告内容や、その際に提出する小論文を総合し、評価する。実習委員会が提案する見解をもとに学部教授会において成績評価及び単位認定を決定する。

10-2 看護学部の実習計画の概要

1) 実習計画の概要

(1) 実習の目的

実習は、学んだ知識や技術を踏まえ、実際の看護・養護の現場を経験して学ぶ重要な科目であり、「良好な援助的人間関係を築き、多職種と連携・協働し、あらゆる人々の健康課題に対応する実践能力を有する人材」を養成し、ディプロマ・ポリシーを達成するためにも肝要な科目である。

実習施設は病院だけでなく、保健福祉施設や学校等の様々な看護・養護実践の場で実施し、看護の社会的役割についても体験的な学修ができる実習を行うことを目的とする。

(2) 実習の構成と概要

	目 標	実 習	単位数
1年次	看護の対象の理解と看護実践の基礎となる理論や基本技術を学ぶ。	生活機能支援論実習Ⅳ－①(老年)	1単位
		ヒューマンケア実習Ⅰ	1単位
2年次	健康障害に対する人の反応を理解し生活の支援に必要な臨床判断と看護実践を学ぶ。	ヒューマンケア実習Ⅱ	2単位
3年次	多様な看護の対象の健康問題に応じた支援の実践を学ぶ。	生活機能支援論実習Ⅰ(母性)	2単位
		生活機能支援論実習Ⅱ(小児)	2単位
		生活機能支援論実習Ⅲ－①(急性)	3単位
		生活機能支援論実習Ⅲ－②(慢性)	3単位
		生活機能支援論実習Ⅳ－②(老年)	2単位
		生活機能支援論実習Ⅴ(精神)	2単位
4年次	多職種と連携・協働し、地域の健康課題に取り組むための看護活動を学ぶ。	地域包括ケア論実習Ⅰ(老年)	1単位
		地域包括ケア論実習Ⅱ(在宅)	2単位
		地域包括ケア論実習Ⅲ(統合：管理)	1単位
		地域包括ケア論実習Ⅳ(統合：地域)	1単位
養護 実習 ※	学校における保健教育、保健管理、安全教育、学校保健や学校安全の組織管理について理解する。	事前及び事後指導	1単位
		養護実習	2単位
		教職インターンシップ	2単位

※希望者のみ

【資料49：看護学臨地実習要項(案)抜粋】

【資料50-1：1～4年次実習計画】

① 1年次

看護の対象者を理解するため、前期に早期体験実習として、生活機能支援論実習Ⅳ－①(老年)を配置している。学生の中には、高齢者とのかかわりが少ない者も多い。相手を尊重し、コミュニケーションをとる体験ができるようデイ・ケアやデイ・サービスを利用している様々な健康状態にある高齢者施設での実習を計画している。

高齢者の生活活動の実際を知り、健康ニーズの幅広さを学べるように設定している。

後期には、ヒューマンケア実習Ⅰを配置し、病院での患者の入院生活の実際と看護職の活動、入院生活を支えるために医療機関で働く多職種が存在などを学べるよう病院での実習を計画している。

【資料50-2：1年次実習計画 2022年度】

② 2年次

看護の基盤となる専門科目の履修が進んだ後期にヒューマンケア実習Ⅱを配置している。ここでは、看護基本技術やフィジカルアセスメント、臨床判断論など学内で学んだ知識・技術をもとに受け持ち患者への看護を計画的に展開する能力の基本を学ぶ。臨床看護師と行動を共にし、看護師のように判断し、実践することを経験を通して学ぶ。

【資料50-3：2年次実習計画 2023年度】

③ 3年次 生活機能支援論実習

前期には、生活機能支援論実習Ⅰ(母性)、生活機能支援論実習Ⅱ(小児)、生活機能支援論実習Ⅴ(精神)の3科目の実習を配置している。生活機能支援論実習Ⅰでは、産科の病院・病棟実習を行い、周産期における看護を学ぶ。生活機能支援論実習Ⅱでは、幼稚園・保育園・障がい児施設と病院に入院している小児に必要な看護を学ぶ。生活機能支援論実習Ⅴでは、精神疾患専門病院で精神障害をもつ人への看護を学ぶ。

後期には、生活機能支援論実習Ⅲ－①(急性)として周手術期や急性期看護として高度医療を提供している総合病院で実習する。生活機能支援論実習Ⅲ－②(慢性)では、生活習慣病やがんの治療を受ける患者への看護を学ぶ。また、生活機能支援論実習Ⅳ－②(老年)では、特別養護老人ホーム等でケアを受けながら生活する高齢者の看護について学ぶ。

【資料50-4：3年次実習計画 2024年度】

④ 4年次

配置科目は全て地域包括ケア論の実習科目である。地域包括ケア論実習Ⅰは老年看護の中でもグループホームや小規模多機能施設を利用して生活している高齢者への看護と、地域包括ケアシステムの中での看護職の役割について学ぶ。地域包括ケア論実習Ⅱは、地域で療養する人と家族のセルフケア能力の維持・向上のための看護支援方法や在宅ケアシステムにおける多職種との協働・協働の実際や

ケアマネジメントの機能を学ぶ。地域包括ケア論実習Ⅲ-①は、看護師や看護管理者の看護実践や看護マネジメントを観察し、チームの一員としての看護の役割について学ぶ。地域包括ケア論実習Ⅲ-②では、地域包括支援センターにおける地域のニーズと保健医療福祉の連携の実際、看護職の役割について学び、地域で生活しながら療養する人のみでなく、その家族への支援についても学ぶ機会とする。

【資料50-5：4年次実習計画 2025年度】

⑤ 養護実習（養護教諭一種免許状取得）

養護教諭一種免許状取得を希望する学生は、3年次後期より4年次前期にかけて、教職インターンシップとして学校行事などを通して教員の活動の実際を学ぶ。また、事前及び事後指導において、実習前後の指導を行うようにする。事前指導には、養護実習の目的を理解し、既習学習の内容を踏まえて養護実習の意義と目的、目標を明確化し、児童生徒・保健室運営・保健指導・保健教育・学校・教育への理解を深める。事後指導では、養護実習で体験した養護・教育・目指す養護教師像を振り返り、考察する。

4年次前期に、小学校、中学校、高等学校の何れかで養護実習を行う。実習先は、大阪信愛学院の小学校・中学校・高等学校を始め大阪府下の学校で実習する。児童・生徒および養護教諭を中心とした教職員との交流を通して、学校における保健教育、保健管理、安全教育、学校保健や学校安全の組織管理について理解できるようにする。学校保健や学校安全がどのような理念および体制で管理運営されているのか、保健室の活動に参加し、理解を深められるようにする。実習先の指導者とは、事前と事後の巡回による連携を行い、実習中には、必要に応じた対応により連携する。

2) 実習単位

必修は23単位、選択（養護教諭一種免許状取得）は5単位である。必修単位の実習は「ヒューマンケア実習Ⅰ」（1単位）、「ヒューマンケア実習Ⅱ」（2単位）、「生活機能支援論支援実習Ⅰ（母性）」（2単位）、「生活機能支援論実習Ⅱ（小児）」（2単位）、「生活機能支援論実習Ⅲ-①（急性）」（3単位）、「生活機能支援論実習Ⅲ-②（慢性）」（3単位）、「生活機能支援論実習Ⅳ-①（老年）」（1単位）、「生活機能支援論実習Ⅳ-②（老年）」（2単位）、「生活機能支援論実習Ⅴ（精神）」（2単位）、「地域包括ケア論実習Ⅰ（老年）」（1単位）、「地域包括ケア論実習Ⅱ（在宅）」（2単位）、「地域包括ケア論実習Ⅲ-①（統合・管理）」（1単位）、「地域包括ケア論実習Ⅲ-②（統合・地域）」（1単位）の合計23単位とした。養護教諭一種免許状取得の教育実践に関する養護実習は5単位とし、事前及び事後学習1単位、教職インターンシップ2単位、養護実習2単位である。

3) 実習指導における専任教員とその他の教員等との連携体制

(1) 専任教員の実習指導体制

病院等の実習では、学生1グループ（5人編成）につき担当教員等1名以上を配置する。助手は、実習科目担当の教授・准教授・講師と同じ病棟に配置しスーパーバイズを受けつつ、学生指導を行う。病院以外の実習では助手は科目責任教員（教授等）から事前に指導を受け学生に関わる。助手が実習指導に関わる前に、教育能力の向上、実習指導能力向上のためのFDや病院における事前研修（1週間）などの機会を設ける。助手は、看護師の免許を有し、学位を取得している者であり、実務経験が5年以上（その内3年は専門領域の経験を有する）の者を採用する。

(2) 効果的な指導を行うための実習委員会の設置

本学はディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを基に、実習目的を達成するための実習計画を構築している。実習計画の具体的な運用を推進するため、学部内に実習委員会を設置する。委員会は、実習委員会規程(案)に示す任務にあたり、効果的かつ円滑に実習が行えるよう実習全体の学修環境を整備する。定例会を毎月開催し、実習に関する事項を協議する。委員会で検討する内容は、実習に関わる全教員の意見を反映し、決定事項は周知徹底に努め、臨地実習での学びを支援する体制を整える。

【資料51：大阪信愛学院大学 看護学部看護学科 実習委員会規程(案)】

4) 臨地実習指導者と専任教員との連携体制

(1) 専任教員と実習指導者の役割

① 専任教員

専任教員は学生が主体的に実習し、効果的に学修ができるよう指導・支援する。学生が実習目標に到達できるように、実習という教授学修方法の教授案を明確にし、複雑で多様な実習場面において、看護の対象者に看護過程が展開できるように学生を導き、学生自身の体験が効果的なものとなるように創意工夫をする。また、教員は学生が現象を理解し判断できるよう支援するとともに、実習指導者との連携・調整を図り、学生が実習しやすい環境を整える。そのためにも、実習前研修によって実習教育マネジメント能力などの自己研鑽を行う。

② 実習指導者（実習施設の看護者）

実習指導者は専任教員との緊密な連携を取り、学生の実習目的・内容などを十分に理解したうえで、実習目標の到達に適した患者を選択する。また、学生の実習への意欲を引き出すよう、学生の主体性を尊重し、実践的な助言を行う。カンファレンスでは学生が主体的に実習を振り返る場を設定する等、学修の機会を創る。また、対象者へのケアを通じて看護の実践者としての役割モデルとなる。

【資料52：実習における専任教員と実習指導者の役割と責任の分担】

(2) 実習連絡協議会

本学では実習施設との連携を推進するために、実習施設には実習指導者の配置を依頼し、実習指導者と定期的に実習連絡協議会を開催する。

① 実習連絡協議会の目的

本学と実習施設との連携を推進し、臨地実習において学生がより効果的に学修できるよう、実習連絡協議会を組織し、定期的に会議を開催する。本協議会の目的は、実習指導者が大学の教育方針を理解する一方で、大学の教員が実習施設の実情、変革の実態等について理解するなど両者の緊密な相互交流を図り、連携を促進する。【資料53：大阪信愛学院大学 看護学部看護学科 実習連絡協議会規程(案)】

② 開催時期と参加者

年間3回開催

1回目（年度初め）

参加者：全ての実習施設指導（責任）者と本学の看護学実習に関与する全教員
内 容：大学の教育理念・教育目的・教育目標と実習の位置づけを説明し、実習計画・実習指導体制・臨地実習指導者と教員の役割・連絡調整の方法など、全体像の説明を行う。また、実習指導者研修会の開催の企画などについて協議する。

2回目（科目別実習開始前）

参加者：当該実習科目に関係する実習施設指導（責任）者と本学の実習科目責任教員及び実習専任教員等全員

内 容：具体的な実習目的・目標、実習方法などを説明する。各実習グループの実習指導者と専任教員との連携が密にとれるよう意見交換の場を設ける。

3回目（実習終了後）

参加者：当該実習科目に関係する実習施設指導（責任）者と本学の看護学実習
に
関与する全教員

内 容：科目責任教員が主体的に当該年度の臨地実習内容を目標到達状況の分析
や実習指導における課題などをまとめ、報告会を開催する。次年度へ向
けての改善策など実習指導者の意見を求めながら話し合う。

*実習連絡協議会では、3回の定例会のほかに実習施設の看護職員と共同研修会を
毎年夏期に1回開催する。より効果の高い実習になるよう、臨地実習における実
践場面の教育方法について理解を深め、実習における演示のあり方等を工夫でき
るようにする。

*実習中の連携体制について

学生を指導する専任教員は、日々学生の状況を把握し、臨地の実習指導者と情報
共有を行う。専任教員と実習指導者は、毎日のカンファレンスにおいて、学生の
学びを確認し、必要に応じて指導計画を検討する。これ以外にも、専任教員と実
習指導者は日々の実習を通して学生指導に関する意見交換を行い、連携体制を整
えることにより、学生の実習目標の達成を支援する。

5) 単位認定と成績評価

(1) 実習中の評価体制について

専任教員は、実習科目ごとの指標を基に学生の到達状況を確認しながら評価する。
日々、専任教員は学生と評価の指標を参考に目標の達成状況を確認する。その際、
臨地の実習指導者の意見も参考にする。

(2) 実習科目の成績評価について

成績評価は、実習評価表に基づいて行う。評価表には、評価規準や評価の対象と
なる成果物等や到達状況の基準を示す。専任教員は学生の到達状況を臨地の実習指
導者と協議し、評価の参考にする。

【資料32：ヒューマンケア実習 I 評価表(案)】

(3) 単位認定について

実習における成績評価は、実習科目毎の評価表に基づき行う。科目責任教員は実
習専任教員の評価内容を確認し、専任教員による評価の偏りが無いよう評価結果を
確認し評定をつける。評定は学則に準じ、S・A・B・C（60点以上）の者に単位を認

定する。

【資料54：大阪信愛学院大学学則（案）抜粋】

6) 看護学実習における倫理及び安全管理体制等

(1) 実習における倫理的責任

① 倫理的配慮の必要性

実習開始前の実習オリエンテーションの際、看護学生として必要な対象者への倫理的配慮について「看護者の倫理綱領」等をもとに倫理的に責任ある行動や態度について理解を深めると同時に学生自身の安全と人権についても保障されるものであることを説明する。

② 実習に関する説明と同意

学生が受け持つ看護の対象者へは、「看護学実習に関する説明および同意書」の文書を用いて説明を行い、文書による同意を得る。

【資料55：看護学実習に関する説明および同意書】

③ 個人情報及びプライバシーの保護の徹底

専任教員は各実習のオリエンテーションでは患者の個人情報の保護を厳守し、診療録・看護記録は全て個人情報に当たるため、実習目的を達成するためのみ使用し、それ以外では決して記録も陳述もしないこと、実習記録には個人を識別できる情報は記録せず、慎重に管理すること等を指導する。学生は「臨地実習の誠実な履行並びに個人情報等及び病院等の法人機密情報の保護に関する誓約書」を実習施設及び大学へ提出する。

【資料56：臨地実習の誠実な履行並びに個人情報等の保護に関する誓約書（施設提出用）】

(2) 実習を安全に実施するための体制づくり

① 感染対策

ア. 感染予防対策

入学時に、全学生に麻疹と風疹、流行性耳下腺炎、水痘、B型肝炎の抗体検査を実施する。抗体価が低い学生については、必要に応じて実習前に予防接種するよう勧奨する。インフルエンザ対策として毎年、予防接種を義務付けるとともに、実習時の手洗いとマスク着用を徹底する。

イ. 感染症発症時の対応

学生が感染症を発症した場合は、患者や他学生などへの感染を防御するこ

とを最優先に対処し、専任教員は実習先に速やかに報告し指示内容に従い
対処する。

② 事故対策

ア. 損害賠償保険への加入

実習中の事故と、対象者や実習施設の備品の損傷、実習施設への移動中の
事故等に備え、学生に本学指定の損害賠償保険に加入させる。

イ. 事故発生時の対応

実習先における「ヒヤリ・ハット」の事例や事故が発生した際の対応は、
全体実習オリエンテーションにおいて説明するとともに、実習要項に記載
し、徹底を図る。事故が発生した場合、学生は直ちに専任教員へ報告し、
専任教員とともに臨地の実習指導者に報告し、専任教員は発生状況を把握
するとともに単位認定者である科目専任教員に報告し【資料57-1：実習に
おける事故報告書 教員用】、実習施設と連携して対応する。科目専任教員
は事故の概要と対応について学部長に報告する。学生が作成した事故報告
書【資料57-2：実習における事故報告書 学生用】を基に、専任教員が以後
の事故防止対策について必要な教育的指導を行う。

【資料58：実習における事故等発生時の連携体制】

③ 災害時の対応

ア. 地震災害が発生した場合

地震などの緊急事態が発生した場合、学生は自身の身の安全を確保し、実
習指導に当たる専任教員及び実習指導者の指示のもとに行動するよう指導
する。専任教員は学生の安否確認及び実習施設の状況を把握し、学部長に
報告し指示を受ける。

イ. 台風及び風水害が発生した場合

台風及び局地的な風水害が発生し、警報（大雨、洪水、防風など）が発令
された場合、学生は自身の身の安全を確保し、専任教員及び実習指導者の
指示のもとに行動するよう指導する。

気象予報により警報の発令が生じた場合や公共交通機関の運行停止を伴う
場合は、大学が示す対処に従うように指導する。

7) 実習施設の確保状況

医療の高度化・専門化、介護保険制度、対象者・サービス等の利用者のニーズの
多様化、入院期間の短縮化、施設利用者の医療ニーズの多様化等により、看護を必

要とする対象者・サービス等の利用者及びその家族は、医療機関だけではなく、介護保険施設や在宅・地域にも拡大している。大阪赤十字病院、大阪市立総合医療センター、済生会野江病院、市立八尾病院、国立循環病研究センターをはじめとして、在宅医療・ケアを担う訪問看護ステーション、介護老人保健施設・特別養護老人ホーム、小規模多機能施設・グループホーム、幼稚園・保育園など、様々な健康レベルに応じた看護を多様な環境で学ぶことができるように実習施設を確保した。

(1) 実習施設 49施設 全ての実習施設は大阪府内に位置している。

【資料59：実習施設一覧】

(2) 大学からの距離：1時間以内の実習施設が46施設である。

3施設のみが1時間半程度であり、実習配置決定時には学生の居住地も考慮して決める。

【資料60：実習施設の地理的状況】

(3) 実習科目ごとの承諾人数 全ての実習科目において、1学年80名分の学生が実習を行える状況である。学生1グループ5名編成で依頼をしているが、施設の状況に応じて2名・3名と分散できるよう施設数を確保している。

【資料61：看護学部臨地実習承諾書】

8) 実習施設との契約内容

本学所定の契約書または本学と合意した内容の施設専用の契約書を取り交わし、継続的に実習を実施するとともに、実習先との間で責任を明確にする。契約内容は、実習を行うにあたり必要な事項について定める。具体的な内容は、教育機関からの実習協力依頼、実習施設の協力依頼に対する受託、実習生の教育に関する責任の所在、実習生の遵守義務、実習教育費の日額及び支払方法、契約書に定めていない内容への協議について及び契約期間等である。

【資料62：実習委託契約書（案）】

11. 教職インターンシップの学外実習の具体的計画

11-1 教育学部における教職インターンシップ

学外実習として、「教職インターンシップ」がある。開講時期は、2年後期～3年前期までとし、幼稚園教育、小学校教育における授業、特別活動、部活動などの教員の日常業務を観察、体験し、学校における教育活動についての実際の、具体的理解を深めることを目的とする。

1) 実習先の確保の状況

教職インターンシップに関しては、小学校か幼稚園かを選択して実習することが出来る。

インターンシップの目的としては以下の通りであり、これに則って、受け入れ先の確保を行っている。

教職インターンシップ実施目的

- ① 幼稚園教育、小学校教育における授業、特別活動、部活動などの教員の日常業務を観察、体験し、学校における教育活動についての、実際の、具体的理解を深める。
- ② 学校教育の様々な場面を観察し、教員の職務について知る。
- ③ 学校における教育活動における具体的理解を深める。
- ④ 学校における、教員と幼児・児童との関係について具体的理解を深める。

教職インターンシップ実施に関して、幼稚園教育、小学校教育共に、2年生後期から3年生前期の1年間で全90分×27回行うよう、各自、実習先の指導の下、実習計画を作成し進める。実習先は、同法人の幼稚園・同法人小学校を基本として、大学所在地でもある城東区内の小学校にて行う。地域に根ざした学生養成を図る。インターンシップ先確保状況については、【資料45：教育学部 実習先確保状況・実習先承諾書】でも示した通りである。

2) 実習先との連携

- ① 大学で把握している学生の状況のうち、実習先においても共有しておいた方がよいと考えられる情報については実習先に提供する。
- ② 実習中の連携としては、大学の実習担当教員が実習先と緊密な連絡を取り、実習生の状況についての的確に把握を行うようにする。

- ③ 教職インターンシップの実施計画については、曜日・時間及び実習生数等の調整を行う。また実習内容について説明を行い、関係機関への周知を図る。また実習先と実習生育成にあたり、相補的役割認識・共通理解を図るため、話し合いの場を設ける。
- ④ 教育実習と同様に、事前に、実習や教職インターンシップ時の事故や災害について、入学時に全学生が加入する「学生教育研究災害傷害保険（学研災）通学特約付」と任意加入の「学研災付帯賠償責任保険」で対応することを伝える。
- ⑤ 実習と同様に、感染予防対策として、感染予防に必要とされる免疫を獲得している状態であることを確認した上で教職インターンシップ実習への参加を認める。具体的には、麻しん（はしか）、風しん（三日ばしか）の抗体を調べ、抗体が確認できなかった学生には、予防接種を義務付け、接種を証明できるもののコピーの提出により、教職インターンシップを認める。
- ⑥ 2年生で行く教職インターンシップの前には、心構え等について講義を行い、社会人としての基本的マナーを備え、社会人として学校現場に出入り出来るよう指導し、教職インターンシップ中に問題が発生した場合には、実習先及び大学の担当教員に相談し適切に対応するようにすること。

実習施設への受け入れは同年度前期に行い、その際、以下の項目について実習施設と相互に確認を行う。

- ① 実習中に事故や物損などが生じた場合の対応。
- ② 実習生が実習先に通勤する際の事故への対応。
- ③ 実習生による誓約書違反が生じた場合の対応。
- ④ 警報発令や災害時の対応。
- ⑤ その他実習に係る事柄。
- ⑥ 本学及び教職インターンシップ側の対応窓口と責任者に関する事柄。

3) 成績評価体制及び単位認定方法

教職インターンシップに参加するものは、2年生前期からの教育実習事前事後指導を受講しなくてはならない。教職インターンシップでは、初回に、実施に向けて学内授業を行う。また教職インターンシップの中間と最後には、報告会を開催し、出席することが必須であり、報告会での内容、小論文により評価し、単位認定を行う。

4) その他特記事項

なし

11-2 看護学部（養護教諭一種免許状取得）における教職インターンシップ

学校における授業、特別活動、部活動などの教員の日常業務を観察、体験し、教育活動についての、実際の、具体的理解を深めることを目的に行う。インターンシップの内容は、大阪信愛学院の幼・小・中・高等学校の保健行事（健康診断）等、及び学校行事（入学式、卒業式、運動会、マラソン大会、文化祭等[準備や片づけを含む]）と、中・高等学校の部活動指導、小学校アフタースクールへの参加等である【資料63：教職インターンシップ 信愛学院 行事資料】。

1) 実習先の確保の状況

同法人大阪信愛学院幼稚園・小学校・中学校・高等学校にてインターンシップを行う。

幼稚園・小学校・中学校・高等学校において各20名の受け入れが可能である。

2) 実習先との連携方法

3年生次より、学生が自ら計画して事前にインターンシップ登録を行い参加する。インターンシップに参加できる日時及び時間数は、年度初めに学生に提示し、4年生後期までに所定の時間が履修できるように、学生管理のもとに進める。インターンシップ参加時には毎回、該当する部署の担当者より出席確認を受ける。また、インターンシップ終了後に記録を記載し教員に提出する。実習先と大学担当教員は情報交換を行いながら教育的かかわりをする。

3) 成績評価及び単位認定方法

インターンシップ参加後は、各回で記載する記録（小レポート）が課題である。レポート提出の内容を評価対象とする。評価は大学の評価基準により評定を行う。

12. 管理運営

管理運営組織は大学評議会、教授会、各種委員会であり、主な組織である大学評議会及び教授会の目的、審議事項は下記の通りである【資料 64: 大学の管理運営組織(案)】。

12-1 大学評議会

1) 目的

大学評議会は、大学の運営に関する重要な事項を審議することを目的とする。その構成員は学長、副学長（副学長を置く場合）、学部長、図書館・情報・教学 I R センター長、しんあい教育研究ケアセンター長、キャリア支援センター長、教授会の選出に基づき学長が委嘱する教授 2 名、外部の学識経験者 2 名、事務部長である。学長が議長となつて、次のことを審議する。

- ① 大阪信愛学院大学学則（以下「学則」という。）その他重要な規則の制定並びに改廃に関する事項
- ② 教育・研究の基本方針に関する事項
- ③ 学部、学科設置及び廃止に関する事項
- ④ 教員その他の重要な人事の方針に関する事項
- ⑤ 大学の教育研究に関する長期展望に関する事項
- ⑥ 学生定員に関する事項
- ⑦ 入学試験その他学務に関する事項
- ⑧ 学生支援に係る基本方針に関する事項
- ⑨ 学生の厚生補導等に関する事項
- ⑩ 学部その他の機関との連絡調整に関する事項
- ⑪ 予算に関する事項
- ⑫ 学生募集及び広報に関する事項
- ⑬ 大学運営のための情報収集及び分析に関する事項
- ⑭ その他、大学の運営に関する事項

12-2 教授会

1) 目的

教授会は、学部毎に組織し、各学部の教授で構成する。必要に応じて准教授、講師及び助教が出席し、教育及び研究、学生に関する重要事項を審議するとともに、その円滑な遂行を図ることを目的としており、原則として毎月 1 回定例で開催する

ほか、必要に応じて適宜開催する。なお、教授会は、次に掲げる事項について学部長が議長となって審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- ① 学生の卒業に関する事項
- ② 学位の授与に関する事項
- ③ 教育課程の編成に関する事項
- ④ 学生の履修に関する事項
- ⑤ 学生の在籍(退学、転学、留学及び休学、除籍)に関する事項
- ⑥ 学生の懲罰及び賞罰に関する事項
- ⑦ 学則その他学内諸規定において教授会の議をはかるものとする事項
- ⑧ その他学内の運営に関する重要な事項

12-3 各種委員会

教授会で審議すべき事項の予備審議、または場合により委託審議のために次の委員会等を置く。

各委員の構成員は、専任教員及び事務職員により構成することとし、各委員会規定に基づき定期的または必要に応じて開催する。

- ① 入試委員会
- ② 教務委員会
- ③ 学生委員会
- ④ FD・SD委員会
- ⑤ 図書・情報委員会
- ⑥ 学術・研究推進委員会
- ⑦ 広報委員会
- ⑧ 研究倫理委員会
- ⑨ ハラスメント・人権委員会
- ⑩ 自己点検・自己評価委員会

13. 自己点検・評価

本学では、教育研究水準の向上と教育研究活動の活性化を図り、もって本学の社会的使命を達成することを目的として自己点検・評価を実施する。

13-1 自己点検・評価の実施体制

自己点検・評価については学則で定め、その詳細については「自己点検・評価実施規則」において規定する。

自己点検・評価を実施するために自己点検・評価委員会を設置する。委員会は、学長（委員長）、FD委員長（副委員長）、各学部長、図書館長、事務局長、その他、委員会が必要と認めた者で構成される。

自己点検・評価は毎年行い、その結果は自己点検・評価報告書として公表する。本学が実施した自己点検・評価の結果について、妥当性と客観性を高めるため、外部評価制度を設け、学外者による検証及び評価を受ける他、教員評価や教育研究及び社会貢献活動全般への助言を受ける。

自己点検・評価について7年に一度、公益財団法人大学基準協会による大学評価を受け、その結果を公表する。

13-2 点検・評価項目

自己点検・評価の項目は、以下のとおりである。評価項目は、公益財団法人大学基準協会が行う『大学評価』の大学基準に準拠している。

- ① 大学の理念・目的
- ② 内部質保証
- ③ 教育研究組織
- ④ 教育課程・学習成果
- ⑤ 学生の受け入れ
- ⑥ 教員・教員組織
- ⑦ 学生支援
- ⑧ 教育研究等環境
- ⑨ 社会連携・社会貢献
- ⑩ 大学運営・財務（大学運営組織・財務）
- ⑪ 情報公開

13-3 PDCAサイクルに基づく自己点検・評価

毎年度の自己点検・評価活動は、PDCA サイクルに基づくもので、年度初めの「自己点検・評価実施案」と年度末の「自己点検・評価実施結果検証報告」によって行う。

自己点検・評価案は、各学部、その他各部署がそれぞれ作成する。その内容は、中期目標・計画に基づく各部署の年度目標、具体的計画、過去の点検評価に基づく改善点などをまとめたものである。

年度末には各部署の責任者が、年度初めの「目標や計画」がどの程度達成されたかを検証して「自己点検・評価実施結果検証報告書」としてまとめ、学長に提出する。この検証結果を翌年度の自己点検・評価実施案に反映(活用)することで本学のPDCA サイクルを機能させる。

13-4 自己点検・評価結果の公表

自己点検・評価報告書は、印刷製本し必要に応じ配布するとともに、本学ホームページ上で公表する。

14. 情報の公表

14-1 基本方針

大阪信愛学院大学では、社会全体への説明責任の重要性に鑑み、教育研究活動等の情報について、ホームページ等を中心に積極的に公表する。教育研究の成果の普及及び活用の促進に資するため、教員の教育研究、社会貢献活動の状況を報告会、ホームページ、年報などを通して積極的に公表に努める。

14-2 実施方法

教育研究活動の成果は、大学が発行予定の大阪信愛学院大学紀要やケアセンター研究紀要、さらに授業評価の結果などのFD活動や毎年度の自己点検・評価報告書など教育情報に関してホームページ等を通じて積極的に学内外に公表する。

大学開設においては速やかに大学ホームページを公開し、学校教育法施行規則第172条の2に係る以下の教育研究情報等の公表については、ホームページに「情報の公表」ページを制作し公表する。

14-3 公表項目

大学が公表する情報は以下の通りである。

- ① 大学の教育研究上の目的に関すること
- ② 教育研究上の基本組織に関すること
- ③ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
- ④ 入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
- ⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
- ⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
- ⑦ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
- ⑧ 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
- ⑨ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
- ⑩ その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等）

15. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

15-1 基本的な考え方、方針

大学の質の担保及び発展のためには教職員の円滑なコミュニケーションと教員及び事務職員の資質の向上が欠かせない。特に、教員の教育、研究能力、大学の管理運営能力及び事務職員の大学教育への理解と管理運営能力は不可欠であり、それらの能力を絶えず向上させる仕組みが大学には必要である。そのための仕組みとして、FD・SD委員会を設置する。この委員会は、大学の管理運営を円滑にするための教員及び事務職員の研修を企画運営する。また、研修はFDとSDのそれぞれの単独研修と合同研修を企画運営する。

15-2 実施体制

学部長及び事務長の推薦によって選出された教員及び事務職員の数人によって構成されたFD・SD委員会によって企画運営される。

15-3 取組内容

1) FD研修

教員の教育、研究、大学の管理運営、地域貢献などを実施するために必要と思われる能力の向上を目的とした研修を実施する。教育能力についてはカリキュラムの運営や授業展開、評価、学生指導に関する内容が含まれる。研究能力については、研究費（外部資金）獲得方法、最新の研究成果の活用方法、研究成果の臨床への応用方法などが含まれる。大学の管理運営・地域貢献に関する能力については、マネージメント、コーディネーション、チームワーク、コミュニケーションなどの能力の向上に関する内容が含まれる。

2) SD研修

大学の効果的な管理運営のために事務職員に期待される能力である教育支援、学生支援、事務局の管理運営のためのマネージメント力などの向上を目的とした研修会を事務職員全員、あるいは職位別研修などを系統的に計画して実施する。

3) FD・SD合同研修

学生の課題への取り組みや大学改革など教職員が協力して取り組むべき課題につ

いて協議、検討するための共通理解を図ることを目的にして、全員あるいは担当者などテーマ別に対象者を決めて実施する。

16. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

16-1 基本的な考え方、方針

学生が、社会生活に向けて、明確な意識と具体的な目標を持ち、望ましい進路を実現するために、教育課程内並びに教育課程外において、キャリア支援体制を整える。

教育学部については小学校教諭、幼稚園教諭、保育士を目指し、看護学部においては看護師を目指すことが基本で、進路は比較的明確である。しかし、働き方やキャリア形成は時代と共に変化、多様化し、今後も変化していくと考えられる。そこで、キャリアについて必要な情報を得て、十分な学習を行うと共に、実際に社会との関わりを持つ体験を併せて行った上で、各自がキャリアについて考え、また必要に応じ就職専門スタッフより助言を受けながら、主体的に進路を選択する態度の養成を行う。

16-2 教育課程内の取組みについて

本学では教育課程内における取組みを、共通教育科目並びに専門教育科目において進める。まず、共通教育科目群においては、1年次において、「キャリア入門」を開講する。この科目では、カトリック精神に基づく、信じ、愛し合う心をもって進んで国際社会の建設に貢献する基盤となる知識と態度を養う。保育・教育、看護と対人援助（ヒューマンケア）の専門職を目指す学生が、保育園、幼稚園、小学校・中・高等学校、福祉施設等にある様々な発達段階にある対象に接することで体験を通して対象理解に関心を持ち、ディスカッション等で理解を深める。そこで他者及び異文化を尊重し、共感力、想像力を基に多様な場における多様な人々と良好な人間関係を形成する基礎とする。

「文章表現」「基礎ゼミ」「教養ゼミ」では、学生生活を送る上だけでなく、社会人の基盤となる文章の読み書き・読解力、コミュニケーションの方法やあり方、態度、課題を探究すること、協働して課題解決に向かう姿勢などを育む。これらの学修を通して学生は、人を理解する力、事象を捉えて表現する力、人と関わる力を育む。

「サービスマーケティング」では、ボランティア精神を養うとともに、ボランティアを通じて社会の仕組みを理解し、社会の中における専門性の活用や応用についても考え、キャリアについて考える一助とする。

他の多くの共通教育科目においても多かれ少なかれ、キャリアについて考える要素を含んでいる。専門教育科目についても、同様にキャリアについて考える要素を含んでいる。専門教育科目における学習内容の中に、「他者を理解し寄り添うこと」、「幅広い専門性と論理性」、「根拠に基づいて考え行動すること」、「倫理的な配慮を行うこと」といった学びを含んでいる。そして、これらの学びは、各学年に配置している講義科目・演習科目・実習科目を通して、「教育や看護の対象となる人の理解、教育や保健医療福祉の理解」、さらに実習における「実習計画⇒実施⇒評価」といった

過程の中で、振り返りや考察を行うことにより、専門性の高い実践能力と職業人としての態度を獲得していく。これらの一連の学びの過程を通して、自立した社会人へと成長していくことができるようになる。さらに、看護学部では「キャリアデザインⅠ」、「キャリアデザインⅡ」という科目を設けて学生自身がキャリアデザイン形成につながるようなようにしている。教育学部や看護学部は専門職養成を目的とするので、卒業後の職業との関わりを重視して教育内容を編成している。

16-3 教育課程外の実践について

教育課程外の指導は、「キャリア支援センター」を設置し、必要な指導を行う。キャリア支援センターでは、キャリア形成に必要な情報提供、指導、相談、各種就職支援プログラムの実施等を行う。

本学独自の教育課程外の実践の特徴として、本学が設置する「しんあい教育研究ケアセンター」の活動において学生が自主的・積極的に関わり、社会におけるキャリアについて体験するプログラムを設ける。

1) キャリア支援センター

キャリア支援センターの内容は、以下のとおりである。

- ① 学修支援・生活支援プログラム
 - a. 学習困難な学生への個別指導
 - b. 生活に課題を抱える学生への個別指導
- ② 外国人留学生支援プログラム
 - a. 就学支援（複数回授業の欠席が見られた場合は、支援センター教職員がチューターと連携して面接を行う。）
 - b. 生活支援（日本社会への適応を促進できるよう支援する。）
- ③ 就職支援プログラム
 - a. キャリアガイダンスの実施（入学から卒業までの4年間を通して対応）
 - b. ビジネスマナー講座、プレゼンテーション能力育成講座等の実施
- ④ 就職相談
 - a. 個人面談の実施
 - b. アドバイザー等による学年に応じた個人カウンセリングの実施
 - c. 就職相談会の実施
- ⑤ 情報提供

ホームページ、学生相談室、パンフレットなどを通じた学生への情報提供（求人情報、相談会開催など）を行う。
- ⑥ 関係部署との連携によるキャリア支援

学生相談コーナーの設置（学部、教務係、学生係と連携）

⑦ インターンシッププログラム

1年次から4年次までを通して、課外活動として実習病院等におけるインターンシッププログラムを紹介する。学生は、自分の関心のあるプログラムに参加し、就職へのイメージを深め、自己のキャリア形成への参考にする。

⑧ 学生と卒業生による就職活動や職場紹介などのイベントの開催

a. 学生と卒業生による交流会（ホームカミングデーなど）、パネルディスカッションなどの開催を通して、学生が実社会で必要となる「主体的に行動する力」、「コミュニケーション能力」、「キャリアを考える能力」を培う。

b. 卒業生によるキャリア相談会や職場訪問などの就職支援を実施する。

⑨ 卒業後のキャリア支援

卒業後においても、転職や再就職などを含め、生涯を通じた持続的な就業を可能にできるようキャリア支援を行う。

2) 「しんあい教育研究ケアセンター」における教育課程外の取組み

本学では、地域との連携・地域貢献をすすめるために「しんあい教育研究ケアセンター」を設置する。特に地域ケア部門では、学生がボランティアとしてセンターの業務に関わる機会を設け、参加者である地域住民との関わりの中で、卒業後のキャリアについて考える貴重な機会とする。また、看護学部においては、まちの保健室や子育て相談、高齢者等の憩いの場において、学生がボランティアとして参画することで地域貢献の意義を体験し、看護師としての地域貢献への関心を高め、各自のキャリアデザインの形成につなげることができる。

設置の趣旨等を記載した書類

資料目次

【資料1】	就職実績資料	4
資料1-1	子ども教育学科	5
資料1-2	看護学科	6
【資料2】	学校法人大阪信愛女学院 大阪信愛女学院短期大学機関別評価結果	7
【資料3】	高等学校卒業者の進学率推移、各高等教育機関の学校数推移	21
【資料4】	幼稚園本務教員数、保育所等種別常勤換算従事者数、幼稚園・保育所の児童数 及び対象人口の推移	23
【資料5】	共働き等世帯数の推移	25
【資料6】	保育分野における人材確保の必要性	27
【資料7】	保育士の有効求人倍率の推移	29
【資料8】	全国の公立小学校教員の採用選考試験状況	30
【資料9】	公立小学校本務教員の離職理由別離職者数・占有率推移、公立小学校の年齢別 本務教員数（全国・近畿）	32
【資料10】	幼稚園教諭養成大学、小学校教諭養成大学、保育士養成大学、看護師養成大学	36
【資料11】	大学設置賛同書、自治体等協定書	38
【資料12】	しんあい教育研究ケアセンター規程（案）	44
【資料13】	日本カトリック大学一覧、日本カトリック大学連盟会長メッセージ	47
【資料14】	大阪信愛学院高等学校進学実績	50
【資料15】	大阪信愛学院高等学校からの大学設置要望（大阪信愛学院高等学校のコース、 大阪信愛学院高等学校長の大学設置要望書）、大阪信愛学院短期大学同窓会から の要望	54
【資料16】	大学設置に伴う採用ニーズ調査結果概要	60
【資料17】	看護基礎教育を取り巻く現状等について 第1回 看護基礎教育検討会 資料2 平成30年4月12日	61
【資料18】	看護職員需給推計関係資料 医療従事者の需給に関する検討会 第3回 看護職員需給分科会 参考資料 平成30年9月27日	63
【資料19】	医療従事者の需給に関する検討会 看護職員需給分科会 中間とりまとめ	66
【資料20】	我が国の高齢者を取り巻く状況 平成28年版 厚生労働白書	68

【資料 21】 医師の働き方改革の一環として看護師へのタスク・シフティング 医師の働き方改革に関する検討会 報告書 平成 31 年 3 月 28 日 医師の働き方改革に関する検討会 -----	70
【資料 22】 保健医療のパラダイムシフト 保健医療 2035 提言書 -----	73
【資料 23】 今後の小中学校教員需要の動向について -----	75
【資料 24】 医療ケアが必要な子どもへの支援の充実に向けて 厚生労働省社会・援護局 平成 30 年 10 月 3 日 -----	76
【資料 25】 看護師学校・養成所入学定員の推移 -----	78
【資料 26】 教育学部における教育の基礎概念の学修機会 -----	79
【資料 27】 共通教育科目 学年進行 -----	81
【資料 28】 教育学部 カリキュラムマップ -----	82
【資料 29】 29-1 教育課程編成の方針に基づいた学年進行毎の科目配置 -----	83
29-2 実習に関して修得すべき科目の体系性を示す表-----	86
【資料 30】 看護学部のカリキュラム・ツリー -----	89
【資料 31】 ディプロマ・ポリシーと各科目の関連 -----	90
【資料 32】 ヒューマンケア実習 I 評価表 (案) -----	93
【資料 33】 教育課程と指定規則との対比表 (学則別表 2-5) -----	94
【資料 34】 養護教諭一種免許状履修規定 (学則別表 2-4) -----	95
【資料 35】 大学設置当初における職員の採用に関する指針 -----	96
【資料 36】 教育学部におけるアクティブ・ラーニングの考えに基づく教育方法 -----	97
【資料 37】 教育学部 履修モデル①-④ -----	99
【資料 38】 38-① 看護師国家試験受験資格 履修モデル -----	103
38-② 看護師国家試験受験資格・養護教諭一種免許状取得 履修モデル -----	104
【資料 39】 時間割 -----	105
【資料 40】 専任担当科目経年度移行表 -----	121
【資料 41】 教室の利用状況 -----	122
【資料 42】 図書館、本館、1, 2 号館の学習スペース -----	146
【資料 43】 大阪信愛学院大学図書館委員会規程 (案) -----	150
【資料 44】 学術雑誌目録 -----	152
【資料 45】 教育学部 実習先確保状況・実習先承諾書 -----	153
【資料 46】 教育学部 コース別実習時期一覧表 -----	326
【資料 47】 教育学部 実習巡回指導計画 (完成年度) -----	327

【資料 48】	教育学部	教育・保育実習手引き	-----	333
【資料 49】	看護学臨地実習要項（案）	抜粋	-----	372
【資料 50】	資料 50-1	看護学部	1～4 年次実習計画	-----404
	資料 50-2	看護学部	1 年次実習計画	2022 年度 -----405
	資料 50-3	看護学部	2 年次実習計画	2023 年度 -----406
	資料 50-4	看護学部	3 年次実習計画	2024 年度 -----407
	資料 50-5	看護学部	4 年次実習計画	2025 年度 -----408
【資料 51】	大阪信愛学院大学	看護学部看護学科	実習委員会規程(案)	-----409
【資料 52】	実習における専任教員と実習指導者の役割と責任の分担		-----	411
【資料 53】	大阪信愛学院大学	看護学部看護学科	実習連絡協議会規程（案）	-----412
【資料 54】	大阪信愛学院大学	学則（案）	（抜粋）	-----414
【資料 55】	看護学実習に関する説明および同意書		-----	415
【資料 56】	臨地実習の誠実な履行並びに個人情報等の保護に関する誓約書（施設提示用）		--	416
【資料 57】	資料 57- 1	実習における事故報告書	教員用	-----417
	資料 57- 2	実習における事故報告書	学生用	-----418
【資料 58】	実習における事故等発生時の連携体制		-----	419
【資料 59】	実習施設一覧		-----	420
【資料 60】	実習施設の地理的状況		-----	425
【資料 61】	看護学部臨地実習承諾書		-----	427
【資料 62】	実習委託契約書（案）		-----	560
【資料 63】	教職インターンシップ	信愛学院	行事資料	-----561
【資料 64】	大学の管理運営組織（案）		-----	562

【資料1】

◆就職実績資料

子ども教育学科 資料 1 - 1

看護学科 資料 1 - 2



信頼を実証する確かな就職実績

教職志望者の就職率

13年連続 100%

例年、近隣の幼稚園、保育所、認定こども園等から1500件を超える求人生活活、教職志望者は全員就職することができています。その理由は先輩たちがそれぞれの職場で懸命に働き、その仕事に高い姿勢が就職先から高く評価されているからです。先輩たちは教育・保育に対する高い志と使命感を持って子どもたちに関わっています。これは、人間的使命(ミッション)を大切に育むカトリック教育の核眼であると考えています。



◆ 登録状況

	2017年	2018年	2019年
登録者数	50名	62名	84名
就職者数(希望)	50名(100%)	74名(119%)	87名(104%)
幼稚園	19名	34名	38名
保育園	11名	20名	29名
認定こども園	17名	18名	20名
小学校(正教員)	1名	2名	3名
小学校(講師)	8名	4名	7名
専任他職	2名	3名	4名
認定こども園希望	7名(14%)	9名(14%)	4名(5%)
希望外	4名	7名	7名
希望外の内訳	4名	7名	7名



◆ 進学サポート

指定校推薦も併せて、一般入学もサポートします。

2019年度 指定校推薦入学者

- 幼稚園科
- 保育科
- 幼稚園科
- 保育科
- 幼稚園科
- 保育科
- 幼稚園科
- 保育科
- 幼稚園科
- 保育科
- 幼稚園科
- 保育科

◆ 主な就職先(2017～2019年)子ども保育学科卒業生

幼稚園	保育園	認定こども園	小学校	専任他職
<ul style="list-style-type: none"> ■大宮南 ■大宮北 ■大宮東 ■大宮西 ■大宮南 ■大宮北 ■大宮東 ■大宮西 ■大宮南 ■大宮北 ■大宮東 ■大宮西 	<ul style="list-style-type: none"> ■大宮南 ■大宮北 ■大宮東 ■大宮西 ■大宮南 ■大宮北 ■大宮東 ■大宮西 ■大宮南 ■大宮北 ■大宮東 ■大宮西 	<ul style="list-style-type: none"> ■大宮南 ■大宮北 ■大宮東 ■大宮西 ■大宮南 ■大宮北 ■大宮東 ■大宮西 ■大宮南 ■大宮北 ■大宮東 ■大宮西 	<ul style="list-style-type: none"> ■大宮南 ■大宮北 ■大宮東 ■大宮西 ■大宮南 ■大宮北 ■大宮東 ■大宮西 ■大宮南 ■大宮北 ■大宮東 ■大宮西 	<ul style="list-style-type: none"> ■大宮南 ■大宮北 ■大宮東 ■大宮西 ■大宮南 ■大宮北 ■大宮東 ■大宮西 ■大宮南 ■大宮北 ■大宮東 ■大宮西

看護学科で取得できる資格・免許

看護師国家試験受験資格をはじめ、複数の資格を卒業と同時に取得できます。

看護師国家試験受験資格

病院や各施設などで看護を実践する者のケアを担う国家資格。深刻看護の分野でのニーズも高まっています。

さらに希望により次の資格も取得できます。

- ◆ 麻酔療法士資格
- ◆ ヒアヘルパー受験資格
- ◆ 社会福祉士受験資格



信頼を実証する確かな就職実績

看護は学校を卒業しても知識、技術を高め続ける必要があります。従ってほとんどの学生が教育体制の整った大学病院、公的病院、地域の中核病院に就職しています。また、病院奨学金を受けて、その病院に就職する学生も少なくありません。

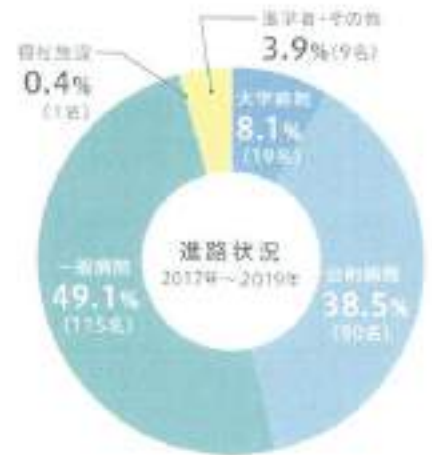
◆ 進路状況

卒業生数	2017年	2018年	2019年
就職先	72名	78名	81名
就職先別			
大学病院	27名(27%)	27名(27%)	27名(27%)
公的病院	8名	8名	8名
地域の中核病院	32名	32名	32名
一般企業	15名	15名	15名
奨学金受給	2名	2名	2名
その他	2名	2名	2名
就職率	2名	2名	2名

◆ さらにキャリアアップをめざす
大学や実務の場で学んだことを基盤にして、さらに高度な学識と実践能力を磨きます。

- ◆ 看護大学院
- ◆ 認定看護師
- ◆ 専門看護師

▶ 日本看護協会認定認定資格



◆ 主な就職先 (2017～2019年 看護学科卒業生)

病院	大学	企業	その他
<ul style="list-style-type: none"> ■ 大学病院 新大塚病院 新大塚総合病院 新大塚西病院 新大塚東病院 新大塚南病院 新大塚北病院 新大塚東病院 新大塚西病院 新大塚南病院 新大塚北病院 新大塚東病院 新大塚西病院 新大塚南病院 新大塚北病院 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大学 新大塚大学 新大塚大学 新大塚大学 新大塚大学 新大塚大学 新大塚大学 新大塚大学 新大塚大学 新大塚大学 新大塚大学 新大塚大学 新大塚大学 新大塚大学 新大塚大学 新大塚大学 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 企業 新大塚株式会社 新大塚株式会社 新大塚株式会社 新大塚株式会社 新大塚株式会社 新大塚株式会社 新大塚株式会社 新大塚株式会社 新大塚株式会社 新大塚株式会社 新大塚株式会社 新大塚株式会社 新大塚株式会社 新大塚株式会社 新大塚株式会社 	<ul style="list-style-type: none"> ■ その他 新大塚大学 新大塚大学 新大塚大学 新大塚大学 新大塚大学 新大塚大学 新大塚大学 新大塚大学 新大塚大学 新大塚大学 新大塚大学 新大塚大学 新大塚大学 新大塚大学 新大塚大学

看護学科の3年間の学び

1年次

1年次で学んだ知識や技術をいかしながら、病棟別に看護の方法論を深めています。

2年次 前期

人体の構造と機能、病理学、看護コミュニケーションの基本技術など、看護の基礎を学習。

2年次 後期

臨床実習では実際に患者さんを受け持ちます。

3年次

グループで課題を解決する授業が増え、チームでの連携の大切さを学びます。

卒業生の私
医療の現場で働くために

学校法人大阪信愛女学院
大阪信愛女学院短期大学
機関別評価結果

平成27年3月12日
一般財団法人短期大学基準協会

大阪信愛女学院短期大学の概要

設置者	学校法人 大阪信愛女学院
理事長	禰田 紳子
学 長	高坂 祐夫
A L O	田中 順子
開設年月日	昭和 34 年 4 月 1 日
所在地	大阪府大阪市城東区古市 2-7-30

設置学科及び入学定員（募集停止を除く）

学科	専攻	入学定員
子ども教育学科		120
看護学科		80
	合計	200

専攻科及び入学定員（募集停止を除く）

なし

通信教育及び入学定員（募集停止を除く）

なし

機関別評価結果

大阪信愛女学院短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 27 年 3 月 12 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 25 年 7 月 26 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は、学校法人大阪信愛女学院の設立する短期大学であり、子ども教育学科、看護学科の 2 学科で構成されている。

建学の精神「カトリック精神に基づき、キリストに信頼し、愛の実践を生きること」に基づき、学院標語を「一つの心、一つの魂」とし、「信愛教育 5 つの柱 1) キリストの教えに根ざした教育、2) 一人ひとりを大切にする教育、3) 能力の開発を旨とする教育、4) 自己形成を促す教育、5) 社会貢献への態度を形成する教育」を教育理念として掲げている。したがって、これらの精神及び教育理念が、当該短期大学の「教育の原点」であり、全ての教育計画、教育実践を導いている。

建学の精神に基づいて、短期大学の教育目的と学科の教育目的を定め、さらに学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針を定めている。学習成果は、様々な観点から測定し、それに基づく改善を定期的に行っている。その中で教員への意識調査をし、授業評価の中では建学の精神への理解を確認している。また厳格な成績評価やシラバスの作成方針、種々の免許・資格の取得率、実習先、就職先からの調査結果、入学時期待度・卒業時満足度調査、国家試験の合格率等々、多面的な評価観点を有し、今後に向けて一層の可視化、数値化などの具体的な検討を予定している。

自己点検評価規程に基づいて自己点検・評価委員会を組織し、各委員会組織と連携しながら、向上・充実に努めている。その結果はほぼ毎年報告書として公開している。

教育課程及び学生支援は、大学教育の質保証の具体的活動であり、様々な取り組みを行っている。教育課程の編成は分かりやすい。成績評価において、再試験の実施は教授会で審議している。基礎学力が十分でない学生の支援、進度の速い学生の支援、それぞれの専門学科の学習を充実させる学習支援、学外実習を充実させる支援が機能している。「幼児基礎教育力・基礎看護力」、「基礎的人間力」の育成を掲げての取り組みも行っている。また教職員と学生が連携して行うボランティア活動も顕著な成果をあげている。学生支援を多面的に行っている。少人数グループ担任制を核とし、事務職員を含めた個別指導や連携・補完的指導を展開しており、「信愛教育の 5 つの柱」の実践である。

短期大学の人的資源、物的資源を整備している。教員組織は両学科とも短期大学設置基準を満たしている。校地、校舎、施設設備、その他の物的資源は短期大学設置基準を充足し、教育課程編成・実施の方針に従って整備している。特に障がい者に対するバリアフリー化に積極的に取り組んでいる。また二つのキャンパスに分かれていることを踏まえたネットワーク網、学習の多様化に対応するeラーニングシステムなどを整備している。しかし財的資源における財務体質の安定化は、継続的課題である。平成 23 年に策定し、実施中の経営改善計画には、改善の方向性、現状の分析（強み、弱み）、最終的な改善策等を詳しく述べている。

理事長は、建学の精神、教育理念の実現を目指し、学校法人の教育研究環境を整え、法人経営の安定化に努め、リーダーとしての責任を果たしている。学長は、教学の責任者として三つの方針に従って、教授会、種々の委員会を適切に指揮し、教育・研究を推進している。監事は適宜、理事や法人事務長から説明を受け、理事会に出席するなどして職務を適正に遂行している。評議員会は理事長の諮問機関として適切に運営している。

前回の第三者評価の際に指摘された事項は、自己点検・評価や PDCA サイクルの下、教学組織、事務組織、法人との協力によって、改善を行った。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質保証を図り、短期大学の主体的な改革・改善を支援することにある。そのため、本協会では、短期大学評価基準に従って判定される前述の「機関別評価結果」や後述の「基準別評価結果」に加えて、当該短期大学の個性を尊重し、その向上・充実を図る観点から以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

本協会は当該短期大学の以下の事項について、高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らし、優れた成果をあげている試みや特長的な試みと考える。

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

[テーマ A 建学の精神]

- 建学の精神を、学生だけでなく教職員に研修の機会を設け、理解と浸透に努めている。特に、教員には建学の精神を意識した授業を行っているか調査し、その成果を確認している。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマ A 教育課程]

- 子ども教育学科では、「音図体実践力アップ講座」を開講して、保育者・教育者としての技量向上を図り、また成果発表会を設定して学生の向上意欲を育んでいる。さらに種々の資格取得（「園芸療法士」、「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格 2 級」、「ピアヘルパー資格」、「こども音楽療育士」）を通じて、指導者としての多様な資質・能力の向上を図っている。看護学科でも同様の取り組みを行っているほか、「キャリア

ガイダンス」で内容、方法等において充実の工夫をしている。

〔テーマ B 学生支援〕

- 学習成果の獲得に向けて、様々な支援を展開している。具体的にはグループ担任制や毎週 1 回担任と顔を合わせるシステム、さらにオフィスアワーを設定している。また学生を指導する仕組みを教員間及び事務職員と連携しながら実践している。
- 進度の速い学生に対する学習支援として、携帯端末や自宅で確認することができる eラーニングシステムを設けて、学内外での学習を支援している。同時に基礎学力が十分でない学生に対する「基礎教育講座」を実施するなどの学習支援を行っている。
- 地域の手話サークルと協力し、手話通訳付きの公開講座を実施するほか、路上生活者支援、募金活動、「愛の一粒会」等々、社会貢献、ボランティア活動を長年にわたり、学生と教職員及び学校法人全体で取り組んでいる。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は以下に示す事項について、当該短期大学が改善を図り、その教育研究活動などの更なる向上・充実に努めることを期待する。なお、本欄の記載事項は、各基準の評価結果（合・否）と連動するものではない。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

〔テーマ A 教育課程〕

- 各学科の「ディプロマポリシー」と卒業要件が混同されている。学位授与、学位授与の方針、卒業要件の考え方を整理していく必要がある。
- 一部の授業科目において、15 回目に試験が組まれているので、1 単位あたり 15 時間の授業時間を確保する必要がある。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

〔テーマ A 人的資源〕

- 事務組織については連携体制が整備され、SD 活動は実施されているが、SD に関する規程等を整備することが望まれる。

〔テーマ D 財的資源〕

- 学校法人の帰属収支は過去 3 年について支出超過であり、短期大学は改善傾向にあるものの、同様に支出超過であるので、経営改善計画に基づく取り組みを着実に実行することが望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 基準別評価結果

以下に、各基準の評価結果（合・否）及び当該基準を合又は否と判定するに至った事由を示す。

基準	評価結果
基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果	合
基準Ⅱ 教育課程と学生支援	合
基準Ⅲ 教育資源と財的資源	合
基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス	合

各基準の評価

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

当該短期大学では、建学の精神及び建学の精神に基づく教育理念を確立しており、それを学生便覧や大学案内、ウェブサイト、看護学科実習要綱などにより学内外に明確に表明している。「学生による授業評価」においても、建学の精神に関する質問項目を設け、建学の精神に基づく教育効果を定期的に点検している。また「キリスト教と人間」、「現代とキリスト教」、「現代と女性」を開講し、建学の精神の理解・浸透に努めている。

教職員に対しては、年度初めの学院総合連絡会及び教職員信愛教育研修会の開催、さらに「授業及びその改善に関する教員意識調査」を実施し、建学の精神への理解を深め、その共有を図っている。また「大阪信愛だより」、「短大新聞」、「信愛教育」等の配布を通じて建学の精神の理解・浸透に努めている。

校内の至る所に建学の精神を意識するような環境整備がなされている。このように当該短期大学では、建学の精神に関する取り組みを積極的に行っている。

建学の精神に基づいて、短期大学の教育目的、両学科の教育目的を学則に定め、それらは学生便覧、大学案内、ウェブサイトを通じ、またオープンキャンパス、高等学校訪問、出前授業、入学後のオリエンテーション等々の機会にも説明している。学習成果は、成績評価、就職率、免許・資格の取得状況、実習園や就職先からの評価等を基に測定している。現在数値化、可視化の観点から更なる検討を進めている。

教育の質を保証する観点から、関係法令による定期的な点検に加えて、「幼児基礎教育力・基礎看護力」、「基礎的人間力」の養成を掲げて、社会人入学生の受け入れの仕組み、「キャリアガイダンス」科目設置、「音図体実践力アップ講座」や「発表会」等々を実施している。

そのためのPDCAサイクルが機能し、また規程に基づいて「自己点検・評価委員会」が組織され、各種委員会と連携しながら、向上・充実に努めている。Semester制の導入、学生生活のアメニティ関係設備・施設の改善、事務体制の見直し、学科名の変更（「初等教育学科」から「子ども教育学科」）などを行っている。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

各学科の「ディプロマポリシー」と卒業要件が混同されている。学位授与、学位授与の

方針、卒業要件の考え方を整理していく必要がある。また、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針と個々の授業の進め方の関連を明確にすることが望まれる。

教育課程の編成は分かりやすい。成績評価において、再試験の実施は教授会で審議している。シラバスは必要な項目を明示するような作成方針となっているが、15週目に試験を行っている科目が一部にみられるため、その改善が必要である。

教育課程は、教育の質保証の観点から見直している。入学者受け入れの方針は募集要項、大学案内、ウェブサイトにも明示し、また入学者選抜の方法に対応している。

学習成果の査定は、資格・免許の取得率、就職率、実習先及び就職先の評価などから評価し、また入学時期待度調査、卒業時満足度調査も採用している。平成25年の資格取得・免許の取得率、就職率等から学習成果は一定期間内に獲得可能であり、実的な価値がある。両学科とも就職先アンケート調査を行い、卒業後の学生の実態を把握している。

学習支援は、オリエンテーション及びガイダンスを適切に実施し、基礎学力が不足する学生のための講座を開講し、またピアノの個別指導システムを確立している。学生の指導を行う「グループ担任」を導入し、個別対応が可能な仕組みを作っている。進度の速い学生、優秀な学生への支援も行っている。図書館は学生アンケートにより利用しやすい図書館づくりを目指し、図書館検索サイト「カーリル」、「医中誌 Web」を使用できるようにしている。情報教育関係では、学生が教室を自由に利用できるようにし、また eラーニングシステムが利用できるようにしている。

学生支援は、小規模校の特性を生かし、教職員の連携、情報共有を図りながら、また授業評価、教員間の授業参観等による改善を行っている。事務職員はカリキュラム内容を熟知し、学生に適切な支援を行い、教員と連携している。学生の生活支援は、学生課、厚生課が担っている。障がい者のためのバリアフリー化を積極的に取り組んでいる。平成25年には学院食堂の改修を行っている。就職については、就職委員会と就職部が支援している。就職支援室には、過去10年以上にわたる卒業生が残した試験内容、報告書をファイル保管し、学生が活用している。社会人入学生の受け入れは、授業料が一部免除になっている。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

短期大学の教員組織は両学科とも短期大学設置基準を充足している。教員の職位・就業に関する要件を満たし、採用、昇任の規程を整備している。非常勤教員、補助教員の配置は適正である。教員の教育研究条件は規程にのっとり、またFDに関する規程もあり、その活動を行っている。事務局も、その責任体制、職能、規程等の整備、防災対策、セキュリティの確保などについて適切に行われている。SDの規程はまだ定めていないが、SDに関する活動は行われている。

校地、校舎、施設設備、その他の物的資源は、短期大学設置基準を充足し、教育課程編成・実施の方針に従って整備している。図書館、学習資源センター、体育館を確保している。

施設設備に関する諸規程を整備し、適切な維持管理を行っている。耐震診断の結果では、耐震改修の必要ある建物はない。また火災、震災、防犯対策は学校法人全体で取り組み、

環境保全や省エネの実践を行っている。

学習成果を獲得させるための技術的資源の整備は、二つのキャンパスに分かれていることを踏まえたネットワーク網、学習の多様化に対応する e ラーニングシステムなどを整え、またそのための情報教育を行っている。

財務については、支出超過の状況にある。学生・生徒・児童・園児の減少が原因であり、当該短期大学では子ども教育学科が定員を充足できない状況が継続している。そのため学校法人全体で経費削減を実施してきたが、現在も改善していない状況にある。施設設備、学習資源等の資金配分が十分とはいえない現状を踏まえ、更なる対応策(教職員数の削減、学生定員数の減)があることも認識している。平成 23 年度に策定した経営改善計画は、現在もその取り組みが継続し、改善を目指している。

基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

理事長は、建学の精神、教育理念の実現を目指し、学校法人の教育環境を整え、法人経営の安定化に努め、リーダーとしての責任を果たしている。また学校法人の代表者として、その業務を総理し、理事会を適切に指揮している。理事会や評議員会に関する資料等を適正に作成し、決算と事業の実績に関する監査報告書を受けて決定した計算書類と事業報告を評議員会に報告している。

学長は教学の責任者として、任用規程にのっとり任用され、短期大学の三つの方針に従って、短期大学の教授会、教学の種々の委員会組織を適切に指揮し、教育、研究を推進するリーダーとしての責任を果たしている。

寄附行為に基づく監事 2 人の業務は、寄附行為及び私立学校法に従って、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後 2 か月以内に理事会及び評議員会に提出している。

評議員会は、理事長の諮問機関として、寄附行為及び私立学校法に基づいて適正に開催し、法人の予算・借入金、事業計画、寄附行為の変更、収益事業に関する事項などについて適切に運営している。

学校法人及び短期大学は中・長期計画に基づいた事業計画、予算を毎年適正に決定し、執行している。日常的な出納業務の実施は、経理責任者を経て理事長に報告している。その他のガバナンスにかかる業務や書類等を適正に作成し、その情報を公開している。また、教育情報及び財務情報の公表は、学校教育法施行規則及び私立学校法に基づいて適切に行っている。

選択的評価結果

本協会は、短期大学の個性を伸長させることを目的として、「教養教育の取り組み」、「職業教育の取り組み」、「地域貢献の取り組み」という三つの選択的評価基準を設けている。これらの三つの取り組みは4基準にも含まれているが、各短期大学の取り組みの特色がより鮮明になるよう、4基準とは別に設定した。

選択的評価は個々の短期大学の希望に応じて実施し、課外活動も含め、それぞれの独自性が一層発揮されるよう当該短期大学の取り組みの達成状況等について評価を行った。

教養教育の取り組みについて

総評

教養とは知的側面のみならず、規範意識と倫理性、感性と美意識、主体的に行動する力、バランス感覚、体力、精神力の総体にとらえ、教養教育は専門教育により培われた知識、技術が、社会でどのように生かされるかのあり方をきめる個人資質の育成にとらえている。したがって、教養教育は幾つかの特徴やねらいをもって科目を配置している。

まず、「カトリック精神に基づき、キリストに信頼し、愛の実践を生きること」、即ち建学の精神に基づく教育を教養教育の基礎と位置付けている。「キリスト教と人間」、「現代とキリスト教」は、キリスト教の教えと社会の関係、様々な社会事象をキリスト教の立場から考えながら、学生一人ひとりの学びを形成しようとする授業科目である。「現代と女性」は、学院長が担当し、現代と女性委員会によって年間プログラムが設定される独自性をもった授業科目として実施している。現代的な社会課題に向き合いながら、一人の人間、一人の女性、一人の社会人としての生き方、礼儀、マナー、健康、倫理・道徳等々を考察する科目としている。

子ども教育学科では、上記の「現代と女性」において、先輩保育者による講話やワークショップを取り入れて特色も持たせている。加えて専門教育の基礎・導入科目としての教養科目、また豊かな人間性、幅広い教養を身に付けるための教養科目、さらにコミュニケーション能力を身に付ける科目、というように多面的教養科目の内容と実施体制を整えている。

看護学科では、上記の「現代と女性」において、認定・専門看護師講演、医師講演、地域ボランティアなどを取り入れて特色を持たせている。加えて、人間理解とこころのケアを行う教養科目、看護専門科目の基礎を担う教養科目として教養科目の内容と実施体制を整えている。

教養科目はこのように多面的な実施体制・内容によって構成するだけでなく、多くの教科目を設定し、教養教育の効果を測定するために、全学的に授業評価を実施し、各委員会で検討・改善の取り組みを行っている。

当該短期大学の特色が表れている取り組み

○ 子ども教育学科では、キリスト教精神に基づく豊かな人間性と幅広い教養を身に付け

る教育及びコミュニケーション能力を身に付ける教育で構成している。内容としては、「キリスト教と人間」、「現代とキリスト教」、「現代と女性」、「情報倫理」、「基礎教育講座」、「社会と人権（日本国憲法）」、「体育（講義・実技）」、「芸術」、「人と自然」、「数学の世界」、「園芸論」、「園芸療法論」、「ガーデニング」、「園芸療法実習」、「English Communication A」、「English Communication B」、「English Communication C」、「English Communication D」、「海外語学研修（英語）」などであり、資格取得につながる科目も含めている。

- 看護学科では、「キリスト教と人間」、「現代とキリスト教」、「現代と女性」、「教育学」、「心理学」、「社会学」、「園芸論」、「園芸療法論」、「音楽療法」、「園芸療法実習」、「ガーデニング」、「スポーツと健康」、「文章表現」、「基礎演習」、「生物学」、「化学」、「情報科学」、「統計学」、「応用情報科学」などを開講しており、学生の学びの範囲を広げている。

職業教育の取り組みについて

総評

子ども教育学科は小学校教諭、幼稚園教諭、保育士を養成し、看護学科は看護師を養成するところであり、大半の学生は免許・資格を取得して専門職に就職している。したがって、開講されている専門科目を、広く職業教育の一環であると考えている。

職業教育の役割・機能については、職業観の確立、将来への展望を明らかにすること、意欲を引き出すこと、コミュニケーション能力を育てることととらえている。

具体的な職業教育の取り組みは、子ども教育学科の1回生後期、看護学科の2回生後期に実施される「キャリアガイダンス」の授業科目である。「キャリアガイダンス」は、保育者・教育者を目指す学生に対する保育・教育への志、看護師を目指す学生には看護への志を意識化させる自己分析、卒業生が職場に無理なく定着することを目指すマナー講座、先輩保育・教育者、看護師の談話や園長講話・看護部長講話などによる職業研究、一人ひとりの学生の具体的な就職にかかる活動を支援する就職指導で内容を構成している。

体験授業や大学の授業見学の際にガイダンスを行い、併設高等学校では、発達教育コースに在籍する生徒に対してワークショップを実施、また高等学校教員との懇談会を行い、後期中等教育との円滑な接続を図っている。

子ども教育学科では、保育職に就いている卒業生を対象に「信愛幼児造形研修会」を平成17年から実施している。他大学卒業生にも開放し、現在は児童教育研究所主催の「保育研修会」の一部として開催している。児童教育研究所は、加えて現職教諭、保育士対象の「保育を考える会」や公開講座（年3回）を実施している。過年度卒業生（平成23年度まで）においてはコース制によって取得できなかった資格・免許のための科目等履修生制度を活用した学び直し、さらには卒業生が新たに再入学をする場合には、社会人入学制度を実施し、授業料の一部免除によってその学習を支援している。

「キャリアガイダンス」の担当者は、豊富な実務経験、管理職経験を有し、CDA（キャリア・デベロップメント・アドバイザー）資格を有している。加えて学生の進路支援を担う事務職員は、日本私立短期大学協会の実施する研修会をはじめ、各種の研修会・勉強会

に積極的に参加し、その実務能力の向上に努めている。

職業教育の効果を測定し、改善に取り組んでいる。平成 25 年度に取り組んだ課題は、看護学科の国家試験対策講座の充実、ハローワークとの協働である。

当該短期大学の特色が表れている取り組み

- 「キャリアガイダンス」では、学科共通の内容として自己分析、マナー講座、職業研究、就職指導を行っている。これに加えて子ども教育学科では「教職基礎対策講座」を実施し、看護学科では「国家試験必修問題対策」として 12 回の小テストを実施して、基礎的な専門知識の習得に努めている。

地域貢献の取り組みについて

総評

学則に基づいて公開講座を実施している。児童教育研究所主催の 3 講座、生命環境総合研究所主催の 2 講座を、土曜日の午前中に実施している。地域住民が 30～40 人参加している。また公開教室も実施している。公開教室には、学生の保護者のほか、地域からの参加者もいる。児童教育研究所では加えて、「保育を考える会」を近隣の幼稚園・保育所関係者を対象に開催している（年 2 回）。

児童教育研究所は、そのほか教育相談を実施している。電話相談 4 回、来所相談 4 回で、いずれも子育てについての相談を行った。

また教養科目「現代と女性」のプログラム中、外部講師による講演を一般に公開する「正規授業の開放」も実施している。平成 25 年には公開講演「小西欣一作品集」及び公開芸術公演「伝統から未来へ」を実施、一般開放した。

公開講座は大阪市城東区・鶴見区・旭区との共催実施である。地域連携講座として鶴見区保健福祉課と協力して親子参加型の講習会を別途 2 回実施している。また学校法人と大阪市城東区役所は、区民の健康で安心して心豊かに暮らせるまちづくりに寄与することを目的とした連携協力に関する協定を締結している。

学生課は、鶴見警察署主催の「交通安全啓発活動」、鶴見区の「子育て支援講座」についてボランティアの紹介を行っている。年末には、釜ヶ崎路上生活者越冬支援のために、学生・教職員のボランティアが手作りケーキ、日用品、冬物衣料などを持ち寄り届けている。また「お米の一握り運動」を学生に呼び掛け、集まったお米を炊き出し用を利用してもらっている。

「大阪信愛委員会」（学生の団体）は、カンボジア募金、東日本大震災被災者救援、赤い羽根共同募金など募金活動を行い、クリスマス献金や檀祭（短大祭）の収益金を修道会に寄付し、アフリカ・チャドやカンボジアでの奉仕活動に貢献している。昭和 37 年創部の「愛の一粒会」（クラブ活動）は、半世紀を超えてボランティア活動を行い、平成 15 年には厚生労働大臣賞を受賞している。具体的には、毎週土曜日に児童養護施設「聖家族の家」を訪問し、恵まれない子どもの遊び相手、相談相手などの活動を続けている。看護学科では、ボランティアや地域貢献の意識を高めるための「清掃活動」を年 1 回行っている。

当該短期大学の特色が表れている取り組み

- 公開講座「9 児の母のハッピー子育て」、「スター・ペアレンティング（親教育プログラム）～親子関係を磨くスキル～」、「健康な人格の形成について～統合心理学から育ちをとらえる～」、「怖い不整脈と AED」、「植物を育てる人のつながり—葵プロジェクトの取り組みから」、公開教室「オカリナ教室」（アンサンブルオカリナを作ろう）、「ママと幼児の英語教室（幼児向け、初級、中級コース）」、「刺繍教室」、「組みひもと着付け教室」、「茶道教室（煎茶、抹茶）」、「手打ちそば教室」、「太極拳」、「クレーシルバーアクセサリ教室」、「聖書教室」など、学科の特徴を生かした地域貢献活動を行っている。

【資料3】

◆高等学校卒業者の進学率推移

◆各高等教育機関の学校数推移

出典：文部科学省「学校基本調査」

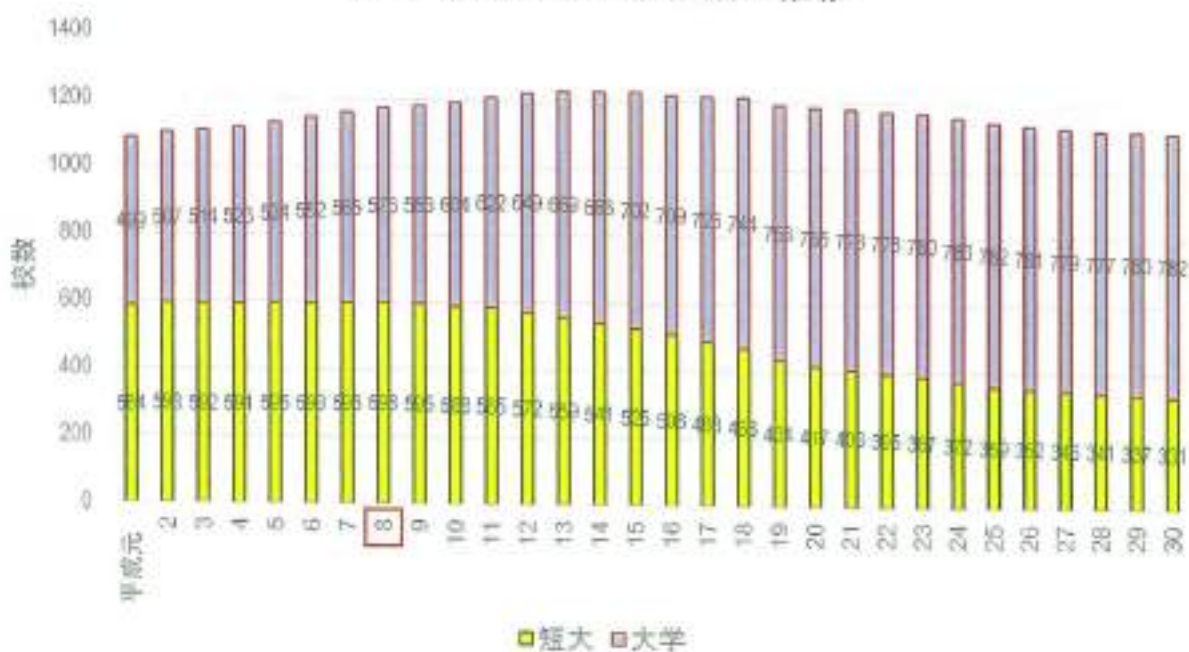
③通年度卒業者を含めた進学率(就学率)の推移(図5)



(注) 1 高等教育機関進学率(進学率) = 大学・短期大学入学者、高等専門学校4年在学者及び専門学校入学者
18歳人口(3年前の中学校卒業者及び中等教育学校前期課程修了者)

2 大学(学部)進学率(進学率) = 大学(学部)の入学者
18歳人口(3年前の中学校卒業者及び中等教育学校前期課程修了者)

大学・短期大学の学校数の推移



出典:文部科学省 平成30年 学校基本調査・平成30年 統計でみる日本

【資料4】

- ◆ 幼稚園本務教員数
- ◆ 保育所等種別常勤換算従事者数
- ◆ 幼稚園・保育所の児童数及び対象人口の推移

出典：文部科学省「学校基本調査」、厚生労働省「平成29年社会福祉施設等調査」

A. 文部科学省 平成 30 年度 学校基本調査、B. 厚生労働省「社会福祉施設等調査」

◆幼稚園本務教員数

文部科学省 平成 30 年度 学校基本調査・調査結果の概要・1 幼稚園

(4)教員数(表4)

教員数(本務者)は95,592人(男性6,251人、女性89,341人)で、前年度より2,248人減少し、教員数(本務者)のうち、女性教員の占める比率は93.5%である。

表4 幼稚園の教員数(本務者)

区 分	教 員 数 (本務者)	うち、 女性教員	(単位:人)
			本務教員に 占める女性 教員の比率(%)
平成20年度	111,223	104,040	93.5
25	111,111	103,738	93.4
26	111,059	103,648	93.3
27	101,497	94,769	93.4
28	99,957	93,450	93.5
29	97,840	91,444	93.5
30	95,592	89,341	93.5

◆保育所等種別常勤換算従事者数

厚生労働省「社会福祉施設等調査」・職位種別常勤換算従事者数

平成23年 保育所 保育士 334,812人

平成29年 保育所 保育士 363,003人

保育教員 59,217人(保育士資格保有者)

合計 422,220人

◆幼稚園・保育所の児童数及び対象人口の推移

年度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
幼稚園在園者数	1,596,170	1,604,225	1,583,610	1,557,461	1,402,448	1,339,761	1,271,918	1,207,884
保育所利用児童数	2,157,692	2,252,366	2,255,424	2,304,401	2,388,023	2,441,544	2,520,165	—
計	3,753,862	3,856,591	3,839,034	3,861,862	3,790,471	3,781,305	3,792,083	—
計の増減率(%) (2011年に対して)	—	2.7%	2.3%	2.9%	1.0%	0.7%	1.0%	—
0歳から6歳の 推計人口計(人)	7,423,000	7,403,000	7,381,000	7,331,000	7,113,000	7,057,000	6,971,000	6,868,000
推計人口計の増減率 (2011年に対して)	—	-0.3%	-0.6%	-1.2%	-4.2%	-4.9%	-6.1%	-7.5%

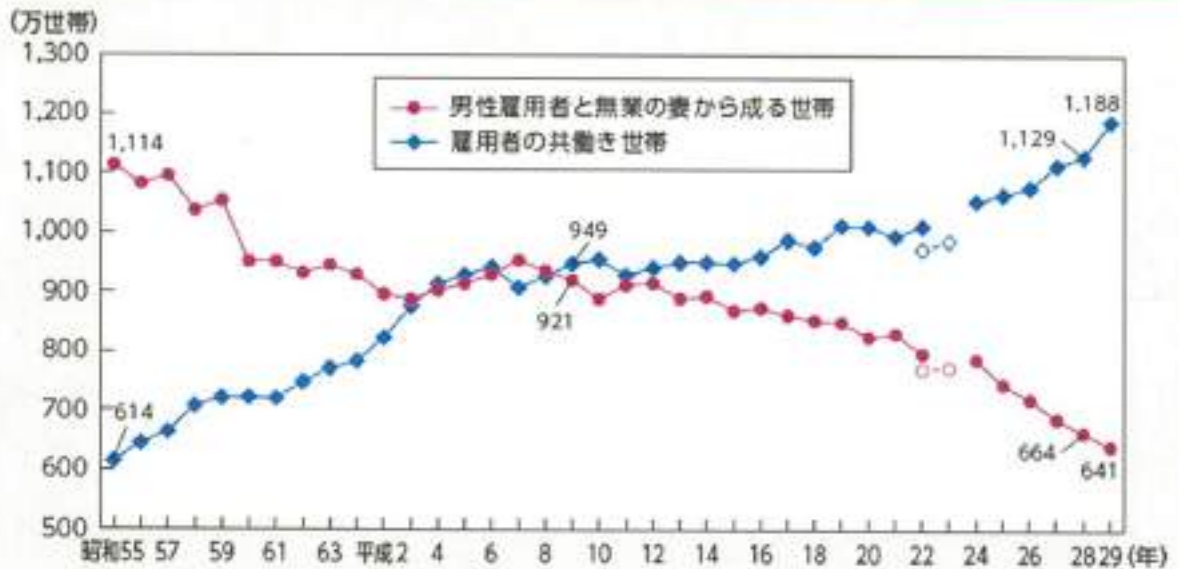
文部科学省 平成 30 年度 学校基本調査、厚生労働省「社会福祉施設等調査」より抜粋

【資料5】

◆共働き等世帯数の推移

出典：総務庁「労働力調査特別調査」（昭和55年から平成13年）
総務庁「労働力調査特別調査」（平成14年以降）

I-3-4 図 共働き等世帯数の推移



- (備考) 1. 昭和55年から平成13年までは総務庁「労働力調査特別調査」(各年2月。ただし、昭和55年から57年は各年3月)、平成14年以降は総務省「労働力調査(詳細集計)」より作成。「労働力調査特別調査」と「労働力調査(詳細集計)」とは、調査方法、調査月等が相違することから、時系列比較には注意を要する。
2. 「男性雇用者と無業の妻から成る世帯」とは、夫が非農林業雇用者で、妻が非就業者(非労働力人口及び完全失業者)の世帯。
3. 「雇用者の共働き世帯」とは、夫婦共に非農林業雇用者(非正規の職員・従業員を含む)の世帯。
4. 平成22年及び23年の値(白抜き表示)は、岩手県、宮城県及び福島県を除く全国の結果。

出典：総務庁「労働力調査特別調査」(昭和55年から平成13年)
 総務庁「労働力調査特別調査」(平成14年以降)

保育人材確保のための 『魅力ある職場づくり』に向けて

平成26年8月

厚生労働省

人材不足の状況

【需要面】

保育の量拡大に伴って必要とされる保育士数は、平成29年度末で約46.0万人

【供給面】

現在の保育所における保育士の離職率等を考慮して推計した保育士数は、平成29年度末で約38.6万人と推計

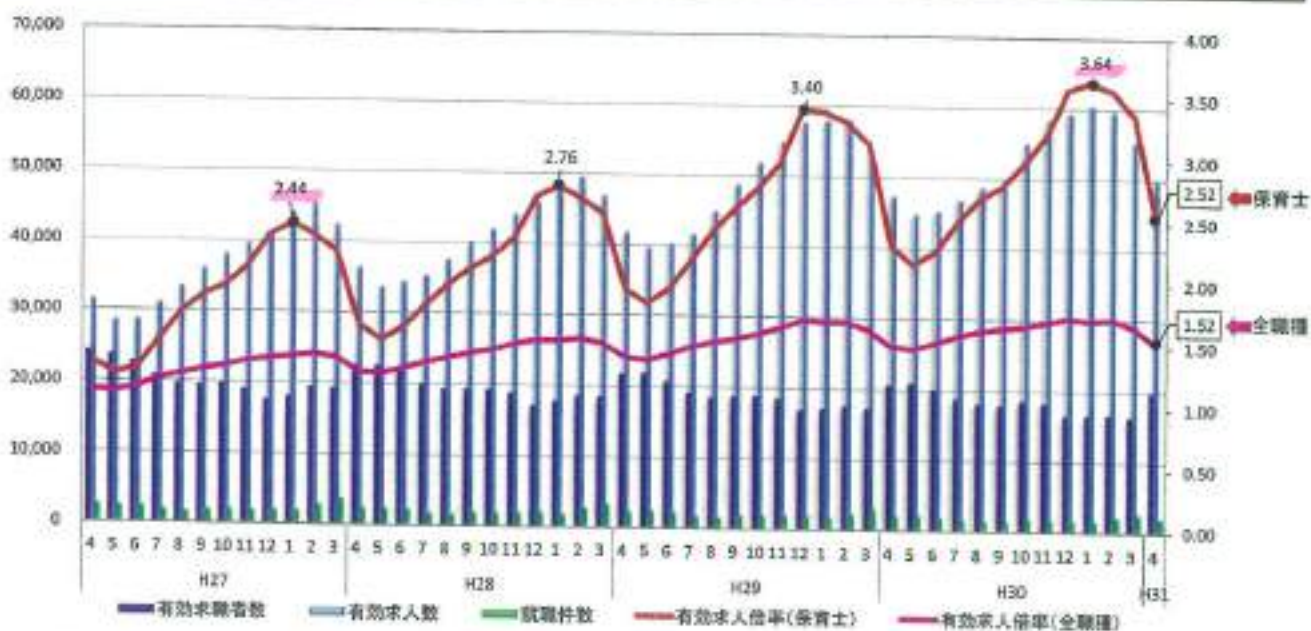
【結果】

平成29年度末における保育士数は、**約7.4万人不足**
(需要面－供給面)

保育士の有効求人倍率の推移（全国）

【資料7】

○ 直近の平成31年4月の保育士の有効求人倍率は2.52倍(対前年同月比で0.22ポイント上昇)となっており、高い水準で推移している。



(出典)一般職業紹介状況(職業安定業務統計)(厚生労働省)

※保育士の有効求人倍率について、各年度の最も高い月の数値を記載している。
 ※全職種の有効求人倍率は、実数である。

38

平成30年及び平成31年における保育士の各都道府県別有効求人倍率の比較（各年4月時点）

○ 有効求人倍率は、おおむね全国的に前年同月よりも上昇。東京都は依然として高い水準。

	47,412人/20,603人		50,052人/19,865人	
	平成30年4月時点	平成31年4月時点	平成30年4月時点	平成31年4月時点
全国	2.30	2.52		
北海道	1.84	1.97		
青森	1.57	1.24		
岩手	1.28	1.46		
宮城	3.17	3.50		
秋田	1.46	1.21		
山形	2.29	2.22		
福島	2.06	2.70		
茨城	2.65	3.10		
栃木	1.69	2.20		
群馬	1.19	1.04		
埼玉	2.56	3.19		
千葉	2.20	2.28		
東京	4.78	4.42		
神奈川	2.78	3.25		
新潟	1.48	1.26		
富山	2.36	2.36		
石川	1.66	1.69		
福井	2.57	2.66		
山梨	1.69	2.37		
長野	1.04	1.12		
岐阜	1.66	1.68		
静岡	3.18	2.33		
愛知	2.18	2.45		
三重			2.18	3.18
滋賀			2.13	2.17
京都			2.15	2.97
大阪			3.27	4.05
兵庫			1.95	2.34
奈良			2.26	2.53
和歌山			1.42	1.00
鳥取			2.27	3.43
島根			1.31	1.28
岡山			1.62	2.05
広島			3.08	3.36
山口			1.05	1.52
徳島			2.62	2.81
香川			1.80	2.21
愛媛			1.47	2.06
高知			0.98	1.16
福岡			1.87	1.97
佐賀			1.21	1.21
長崎			1.43	1.38
熊本			1.89	2.13
大分			1.67	1.52
宮崎			1.56	1.67
鹿児島			1.58	1.78
沖縄			2.77	2.62

出典:厚生労働省「職業安定業務統計」

39

【資料8】

◆全国の公立小学校教員の採用選考試験状況

出典：文部科学省 平成30年度公立学校の採用選考試験の実施状況について

全国の公立小学校の採用選考試験状況

年度	2009	2010	2011	2012	2013
受験者数	51,804	54,418	57,817	59,230	58,703
採用者数	12,437	12,284	12,883	13,598	13,626
倍率	4.2	4.4	4.5	4.4	4.3

年度	2014	2015	2016	2017	2018
受験者数	57,178	55,834	53,606	52,161	51,197
採用者数	18,783	14,355	14,699	15,019	15,934
倍率	4.1	3.9	3.6	3.5	3.2

出典：文部科学省「平成30年度公立学校の採用選考試験の実施状況について」

【資料9】

◆公立小学校本務教員の離職理由別離職者数・占有率推移

◆公立小学校の年齢別本務教員数（全国・近畿）

出典：文部科学省「学校教員統計調査」（平成28年度版）

公立小学校本務教員の離職理由別離職者数・占有率推移^{※1}

離職理由		2004年	2007年	2010年	2013年	2016年
離職者数 (人)	定年(勲奨含む)	8,891	9,873	10,357	12,005	11,642
	病気	316	370	609	589	540
	死亡	202	217	219	190	173
	転職 ^{※2}	1,053	1,136	1,289	1,318	1,501
	大学入学等	15	32	26	19	31
	家庭の事情	-	-	1,682	1,831	1,739
	職務上の問題	-	-	112	88	85
	その他	2,608	2,870	2,157	1,980	1,938
	計	13,085	14,498	16,451	18,020	17,649

(出所：文部科学省「学校教員統計調査」をもとに作成)

※1：2010年度調査から、離職理由に「家庭の事情」「職務上の問題」を加えて集計がなされている。

※2：「転職」とは高等学校以下の学校の本務教員以外の職業に就いた者（大学・短大等の教員、教育委員会を含む官公庁への異動、民間企業への就職等）をいう。

公立小学校の年齢別本務教員数

2016年			2024年			
年齢	本務教員数(人)		年齢	本務教員数(人)		
	全国	近畿圏		全国	近畿圏	
61歳以上	4,638	945	61歳以上	-	-	
60歳	7,871	1,245	60歳	11,360	1,072	←教育学部完成年度に 定年退職対象
59歳	13,325	2,003	59歳	11,504	1,038	
58歳	14,314	2,112	58歳	9,155	815	
57歳	14,404	1,979	57歳	11,293	1,060	
56歳	13,666	1,594	56歳	9,954	942	
55歳	12,919	1,355	55歳	9,031	967	←教育学部完成5年後 に定年退職対象
54歳	12,183	1,081	54歳	8,446	973	
53歳	11,866	1,174	53歳	8,451	981	
52歳	11,360	1,072	52歳	8,157	1,012	
51歳	11,504	1,038	51歳	8,222	1,053	
50歳	9,155	815	50歳	7,921	1,123	←教育学部完成10年 後に定年退職対象
49歳	11,293	1,060	49歳	7,607	1,085	
48歳	9,954	942	48歳	7,517	1,180	
47歳	9,031	967	47歳	7,765	1,271	
46歳	8,446	973	46歳	8,296	1,525	
45歳	8,451	981	45歳	8,683	1,695	←教育学部完成15年 後に定年退職対象
44歳	8,157	1,012	44歳	9,006	1,877	
43歳	8,222	1,053	43歳	9,121	1,962	
42歳	7,921	1,123	42歳	9,210	1,985	
41歳	7,607	1,085	41歳	9,624	2,116	
40歳	7,517	1,180	40歳	9,662	2,129	←教育学部完成20年 後に定年退職対象
39歳	7,765	1,271	39歳	9,675	2,188	
38歳	8,296	1,525	38歳	9,655	2,156	
37歳	8,683	1,695	37歳	10,120	2,169	
36歳	9,006	1,877	36歳	10,023	2,099	
35歳	9,121	1,962	35歳	9,625	1,964	
34歳	9,210	1,985	34歳	9,150	1,790	
33歳	9,624	2,116	33歳	8,835	1,722	

教育学部一類生の卒業予定年度(完成年度)時点の年齢に教員数をスライド

年齢	本務教員数（人）	
	全国	近畿圏
32歳	9,662	2,129
31歳	9,675	2,188
30歳	9,655	2,156
29歳	10,120	2,169
28歳	10,023	2,099
27歳	9,625	1,964
26歳	9,150	1,790
25歳	8,835	1,722
24歳	8,188	1,507
23歳	6,800	1,219
22歳以下	2,769	495

年齢	本務教員数（人）	
	全国	近畿圏
32歳	8,188	1,507
31歳	6,800	1,219
30歳	2,769	495
29歳	-	-
28歳	-	-
27歳	-	-
26歳	-	-
25歳	-	-
24歳	-	-
23歳	-	-
22歳以下	-	-

（出所：文部科学省「学校教員統計調査(平成28年度版)」をもとに作成）

※右表の61歳以上は定年後の雇用状況が不明のため、また、30歳以下は採用者数が不明のため、ハイフン表示とした

【資料10】

- ◆幼稚園教諭養成大学
- ◆小学校教諭養成大学
- ◆保育士養成大学
- ◆看護師養成大学

◆幼稚園教諭一種免許を取得できる大学(文部科学省 平成 31 年 4 月 1 日)

近畿圏(滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県) 50 大学

国立 7 大学

私立 43 大学

滋賀県 1 大学、京都府 8 大学、大阪府 17 大学、兵庫県 13 大学、奈良県 3 大学、
和歌山県 1 大学

◆小学校教諭一種免許を取得できる大学(文部科学省 平成 31 年 4 月 1 日)

近畿圏(滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県) 54 大学

国立 7 大学

私立 47 大学

滋賀県 1 大学、京都府 9 大学、大阪府 20 大学、兵庫県 13 大学、奈良県 3 大学、
和歌山県 1 大学

◆保育士養成施設一覧(厚生労働省 平成 30 年 4 月 1 日)

近畿圏(滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県) 46 大学

国立 2 大学

公立 1 大学

私立 43 大学

滋賀県 1 大学、京都府 9 大学、大阪府 19 大学、兵庫県 10 大学、奈良県 3 大学、
和歌山県 1 大学

◆文部学大臣指定(認定)医療関係技術者養成学校一覧(平成 30 年 5 月 1 日現在)

看護師学校

近畿圏(滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県) 49 大学

国立 4 大学

公立 8 大学

私立 37 大学

滋賀県 1 大学、京都府 7 大学、大阪府 13 大学、兵庫県 12 大学、奈良県 3 大学、
和歌山県 1 大学

【資料11】

◆大学設置賛同書

大阪市城東区長
大阪市鶴見区長
守口市長

◆自治体等協定書

大阪市城東区
守口市教育委員会

令和2年10月23日

学校法人大阪信愛女学院
理事長 岩熊 美奈子 様

大阪市城東区長 大東 辰起



4年制大学「大阪信愛学院大学」新設について（回答）

この度、貴学院が令和4年4月に「教育学部教育学科」と「看護学部看護学科」からなる4年制大学「大阪信愛学院大学」を新設する計画を伺いました。

この計画において、教育学部では、子育て支援の課題である待機児童対策及び障がい児支援に対して今後必要とされる実践力のある人材の育成を図ることとされており、さらに地域の子育てや社会・文化活動への貢献を目指し、交流事業などの活動推進をあげられていることは、地域の課題やニーズへの対応の観点から、たいへん歓迎するところです。

また、看護学科につきましては、急激な高齢化、医療の高度・専門化、健康・福祉ニーズの多様化などが進む中、地域医療の充実などが課題となっていますが、計画では地域社会と密接にかかわり地域と社会のニーズに対応できる実践力のある人材の育成を図ることとされており、こうした課題の解消に貢献されることを期待しているところです。

特に地域との連携をはかるための「しんあい教育・研究ケアセンター」の設立は、地域のニーズに対応する教育や医療・看護の充実への貢献と、それに応えることのできる実践力のある人材育成を目指されており、非常に有意義な取組と考えております。

また、大阪信愛学院短期大学では、豊かな人間性と教養を備えた人材育成を柱に専門教育を行われており、4年制大学においてはさらに充実した人材育成がなされることが期待されます。

この点、小学校教員の人材確保がむずかしい状況にあり、また保育士や看護師が不足する中、大阪信愛学院大学にて学力だけではなく人間力を身につけた学生が一人でも多く本地域で就職・定着されることを期待しています。

現在、貴学院とは協定を結び、包括的な連携を行っているところですが、上記のとおり、当区としてはこの度の4年制大学の新設の趣旨に賛同するものであり、あわせて、新大学が設立された暁には、その特性を活かして、より一層、当区との連携を強化されるよう要請いたします。

令和2年10月26日

学校法人大阪信愛女学院
理事長 岩熊美奈子様

大阪市鶴見区長 長沢 伸幸



この度、貴学院が令和4年4月に「教育学部教育学科」と「看護学部看護学科」からなる4年制大学「大阪信愛学院大学」を新設される計画を伺いました。

この計画において、教育学部では、子育て支援の課題である待機児童対策及び障がい児支援に対して今後必要となる実践力のある人材育成を図られ、さらに地域の子育てや社会・文化活動への貢献をめざし、交流事業などの活動推進をあげられていることに対しいへん期待しております。

また、看護学科につきましては、急激な高齢化、医療の高度・専門化、健康・福祉ニーズの多様化などがすすむ中、地域医療の充実など質の高いサービスを市民に提供することが求められていますが、地域社会と密接にかかわり地域と社会のニーズに対応できる実践力のある人材の育成を図られており、たいへん歓迎するものです。

特に地域との連携を図るために「しんあい教育・研究ケアセンター」を設立され、地域の課題やニーズに対応する教育や医療・看護の充実、それに対応できる実践力のある人材育成をめざされていることに対し、たいへん期待しております。

大阪信愛学院短期大学では豊かな人間性と教養を備えた人材育成を柱に専門教育を行ってこられました。4年制大学においてはさらに充実した人材育成がなされることを期待しております。

小学校教員の人材確保が年々難しくなり、また保育士や看護師が不足する中、大阪信愛学院大学にて学力だけではなく人間力を身につけた学生が一人でも多く本地域に就職、定着していただくことを期待しています。

これまでも貴学院とは子育て支援などで連携を図ってまいりましたが、大阪信愛学院大学とは地域も含めてさらなる連携を行ってまいりたいと考えております。

つきましては、これらの趣旨に鑑み、この度の4年制大学「大阪信愛学院大学」の新設に賛同いたします。



守 企 第 316 号

令和 2 年 10 月 27 日

学校法人大阪信愛女学院

理事長 岩熊 美奈子 様

守口市長

西 端 勝 義



賛 同 書

この度、貴学院が令和 4 年 4 月の開学を目指し、「教育学部教育学科」及び「看護学部看護学科」からなる 4 年制大学「大阪信愛学院大学」新設を国に申請されるとのご計画を伺いました。

本計画では、教育学部において、子育て支援の課題である保育の量的質的充実及び障がい児支援に対して今後必要となる実践力のある人材の育成を図るとされています。さらに、地域の子育てや社会・文化活動への貢献を目指し、交流事業等の活動推進も目指されていることを大変歓迎します。本市は国に先駆け、平成 29 年度から 0 歳からの就学前教育・保育の無償化を実施するとともに、平成 28 年度には大阪府内で最初の「義務教育学校さつき学園」を開設する等、就学前及び初等教育を市の最重要政策としており、この観点から強い期待を抱くものです。

また、看護学部につきましては、医学の発達に伴う高度医療を担うチーム医療や、かかりつけ医を始めとする地域でのプライマリーケアを担う質の高い人材の不足が深刻化している中で、質の高い保健医療福祉サービスを市民に提供するために、地域社会と密接に関わり、そのニーズに的確に対応できる実践力のある人材の育成を図ることとされています。

特に、専門研究を通じてのエビデンスに基づき育成するためのサポート機関として、「しんあい教育研究ケアセンター」の設立も予定され、地域のニーズに対応する教育や医療・看護の充実への貢献と、それに応えることのできる実践力のある人材育成を確実なものとなっていることは、誠に心強く大変歓迎するものです。

貴学院におかれては、開学以来約 130 年の歴史を持ち、保育園・幼稚園から短期大学に至る総合教育学園として、カトリック精神に基づく豊かな人間性と教養を備えた人材育成を柱に教育を行い、幾多の有為な人材を輩出してこられました。4 年制大学設立のあかつきには、さらに高い倫理観と創造力を備え、社会の変化に対応し、真に必要とされる実践力のある人材の育成が見込まれております。

子ども達を取り巻く教育課題が複雑化するとともに、少子高齢化に伴い市民の保健医療福祉ニーズが増大かつ多様化する一方、新型コロナウイルスを始めとする国際感染症と向き合いつつ、国民の豊かさや経済発展を志向していかなければならない我が国において、専門知識を有するのみならず建学の精神に裏打ちされた確かな人間力を身につけた有為な医療人材が、1 人でも多く本市を始めとする大阪府域で活躍してくれることを期待します。

最後に、現在は短期大学及び本市教育委員会において協定書を取り交わし、連携の実績も重ねておりますが、大学設立認可・開学のあかつきには、大阪信愛学院大学におかれまして、本市との包括的な連携も希望します。

以上、本市といたしましては、この度の設置趣旨に賛同し、隣接市の地方自治体として「大阪信愛学院大学」の新設を強くお願いするものです。

大阪市城東区役所と学校法人大阪信愛女学院との連携協力に関する協定書

大阪市城東区は、地域で暮らし、活動する区民や団体等と力を合わせて、健康で安心して心豊かに生活することができ、本当に住んでよかったと実感できる「ふるさと城東区」の実現に取り組んでいる。学校法人大阪信愛女学院は、創立127年の輝かしい伝統を持ち、昭和7年以来80年の長きにわたり現在の地で教育事業を展開し、幼稚園から小中学校、高等学校、短期大学までの一貫教育を行い、地域社会に貢献している。

これまで、両者の間には、生涯学習・文化事業等の実施に関わって、様々な協力関係が築かれてきているが、今後、この関係をより拡大・深化させ、地域社会のさらなる発展に向けて、ともに連携・協働して取り組むことに合意し、この協定を締結する。

(目的)

第1条 この協定は、大阪市城東区役所と学校法人大阪信愛女学院が、連携協力して、取組を進めることにより、城東区民が健康で安心して心豊かに暮らせるまちづくりに寄与することを目的とする。

(協定事項)

第2条 大阪市城東区役所と学校法人大阪信愛女学院は、次の項目について連携協力する。

- (1) 生涯学習、地域の文化の振興に関すること
- (2) 区民の健康福祉の向上に関すること
- (3) 地域コミュニティ・まちづくりの推進に関すること
- (4) その他、双方が必要と認める事項

(協議事項)

第3条 連携協力の具体的な内容及びその成果の利用条件等については、個人情報保護の趣旨を踏まえ、関係法令を遵守し、双方協議する。

(経費負担)

第4条 連携協定に関する経費の負担については、各々の事業ごとに双方が協議して決める。

(期間)

第5条 この協定書の有効期間は、平成25年3月31日までとする。ただし、この協定書の有効期間満了の日の1月前までに、双方から改廃の申し出がなければ、引き続き1年更新したものとし、その後も同様とする。

(その他)

第6条 この協定書に定めるもののほか、連携協定に関する必要な事項は、双方が協議して定める。

この協定の締結を証するために、本協定書を2通作成し、署名捺印の上各1通を保有する。

平成24年2月12日

大阪市城東区役所
区 長

吉 村 浩



学校法人大阪信愛女学院
理 事 長

縄 田 紳



守口市教育委員会と大阪信愛女学院短期大学との連携協力に関する協定書

(目的)

第1条 守口市教育委員会と大阪信愛女学院短期大学は、相互に連携協力し、教職員の資質向上及び教員養成の充実を図るとともに、教育上の諸課題等に適切に対応することにより、守口市の教育及び大学における調査・研究等の充実及び発展に資するため、この協定を締結する。

(内容)

第2条 守口市教育委員会及び大阪信愛女学院短期大学が連携協力して行う事業は、次のとおりとする。

- (1) 双方の教職員の資質向上及び能力の開発のための研修を充実・推進すること
- (2) 教育現場のニーズに応える教員の養成を推進すること
- (3) 学生の教育実習に関すること
- (4) 学生等による学校教育活動への支援を推進すること
- (5) 教育上の諸課題に対応した調査及び研究を実施すること
- (6) その他、双方が必要と認める事項

(方法)

第3条 守口市教育委員会及び大阪信愛女学院短期大学が連携協力して事業を実施するときは、各々の事業ごとに双方の担当部署が協議するものとする。

2 守口市教育委員会及び大阪信愛女学院短期大学は、教職員・学生の派遣及び受入れ、施設設備等の利用について、業務に支障のない限りにおいて、互いに便宜を供するものとする。

(経費負担)

第4条 守口市教育委員会及び大阪信愛女学院短期大学が連携協力して行う事業の実施に要する経費の負担については、各々の事業ごとに双方が協議し定める。

(有効期間)

第5条 この協定書の有効期間は、協定書締結の日から平成21年3月31日までとする。ただし、この協定書の有効期間満了の日から30日前までに、守口市教育委員会と大阪信愛女学院短期大学のいずれかからも申し入れがないときは、さらに、1年間更新するものとし、その後も同様とする。

(補則)

第6条 この協定書に定めるもののほか、連携協力の細目その他については、守口市教育委員会と大阪信愛女学院短期大学が協議して別途定めるものとする。

2 この協定書に定める事項に疑義が生じた場合は、守口市教育委員会と大阪信愛女学院短期大学が協議して解決を図るものとする。

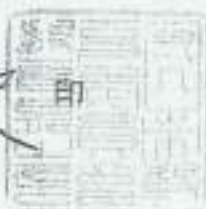
この協定書は2通作成し、守口市教育委員会と大阪信愛女学院短期大学が各1通を所持する。

平成20年 11月 5日

守口市教育委員会

教育長

藤川博史 印



大阪信愛女学院短期大学

学長

銀田沖子 印

印

大阪信愛学院大学
しんあい教育研究ケアセンター規程（案）

（目的）

第1条 この規程は、大阪信愛学院大学（以下「本学」という。）「しんあい教育研究ケアセンター」（以下「センター」という。）の構成と運営について、必要な事項を定める。

（センターの目的）

第2条 センターは、高等教育機関としての社会的責任を果たすため、本学の基本的姿勢に基づき、地域社会に対する貢献と有機的連携の実現に努めるとともに、学術研究及び教育水準の向上を図ることを目的とする。

（事業）

第3条 センターは、前条の目的を達成するために次の事業をおこなう。

- (1) 地域の教育や健康に関する課題解決に向けた調査・研究の実施
- (2) 地域の保育士・学校教諭・看護師の資質向上を目的とした研修会の開催や研究支援
- (3) 地域の全世代を対象にした教育や健康管理・増進への貢献
- (4) 公共機関、民間団体その他学外からの依頼による事業
- (5) 公開講座等での啓発活動、紀要・報告書等で成果の公表
- (6) 学外の事業・研究助成制度への参加推進とその運営
- (7) その他前条の目的を達成するために必要な事業

（設置）

第4条 センターは、前条の事業を実施するための次の部門を置き、連携を図り事業を実施する。

- (1) 学術研究部門
- (2) 教育研修部門
- (3) 地域ケア部門

（センター運営会議）

第5条 センターの運営を行うため、センター運営会議（以下「本会議」という。）を置く。

- 2 本会議は、第7条・第8条により任命されたセンター長と各部門長、および大学評議会から推薦された教授、センター事務職員を持って構成する。
- 3 本会議は、事業計画、予算の配分、センターの管理運営、客員研究員の選考に関する事項を審議する。
- 4 本会議は年3回、その他必要に応じてセンター長がこれを招集し議長となる。

(構成員)

第6条 センターは、以下のメンバーによって構成する。

- (1) センター長
- (2) 部門長
- (3) 学内研究員
- (4) 客員研究員
- (5) 事務職員
- (6) その他必要に応じてセンター長が選任したメンバー

(センター長)

第7条 センター長は、センターを代表し、その活動に関する事項を統括する。

- 2 センター長は、学長が准教授以上の本学専任教育職員のうちから任命する。
- 3 センター長の任期は1年とし、再任を妨げない。
- 4 センター長に欠員を生じた場合の後任のセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

(部門長)

第8条 部門長は、部門を代表し、その活動に関する事項を統括する。

- 2 部門長は、学長が准教授以上の本学専任教育職員のうちから任命する。
- 3 部門長の任期は1年とし、再任を妨げない。
- 4 センター長に欠員を生じた場合の後任のセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

(学内研究員)

第9条 学内研究員は、各自研究テーマを持ち、センターの事業を分担し、その遂行に責任をもって当たる。

- 2 学内研究員は、本学専任教育職員の申請、およびセンター長の推薦により、学長がこれを任命する。
- 3 学内研究員の任期は1年とし、再任を妨げない。

(客員研究員)

第10条 客員研究員は、学外の研究者として、第3条に掲げる事業を推進する。

- 2 客員研究員は、センター関係者が推薦した者、あるいは本学院教職員以外で研究員を希望する者を運営会議の議を経てセンター長が推薦し、学長がこれを委嘱する。
- 3 客員研究員の任期は1年とし、再任を妨げない。
- 4 本条に定めるもののほか、客員研究員に関して必要な事項は別に定める。

(運営経費)

第 11 条 センターの運営経費は、次による。

- (1) 大学予算
- (2) 学外機関からの受託研究費
- (3) その他セミナー等、センターが実施する事業から得られる収入

(経費の支出)

第 12 条 大学予算の経費による支出は、本学の定める諸規程及び諸手続きに基づいて行うものとする。

(事務)

第 13 条 センター事務職員がそれにあたる。

(補則)

第 14 条 この規程に定めるもののほか、センターに関する必要なことは、本会議および大学評議会の議を経てセンター長が別に定める。

(改廃)

第 15 条 この規程の改廃は、大学評議会の議を経て学長が決定し、これを行うものとする。

附 則 この規程は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

【資料13】

◆日本カトリック大学一覧

◆日本カトリック大学連盟会長メッセージ

出典：日本カトリック大学連盟ホームページ（2019年）

カトリック大学一覧（日本カトリック学校連合会）

日本カトリック大学連盟加盟大学 18 大学

大学名	課程*	所在地
藤女子大学	教育	北海道 札幌市
天使大学	看護	北海道 札幌市
仙台白百合女子大学	教育	宮城県 仙台市
上智大学	看護	東京都 千代田区
聖心女子大学	教育	東京都 渋谷区
清泉女子大学		東京都 品川区
白百合女子大学	教育	東京都 調布市
東京純心大学	教育・看護	東京都 八王子市
清泉女学院大学	看護	長野県 長野市
南山大学		愛知県 名古屋市
京都ノートルダム女子大学	教育	京都府 京都市
神戸海星女子学院大学	教育	兵庫県 神戸市
ノートルダム清心女子大学	教育	岡山県 岡山市
エリザベト音楽大学		広島県 広島市
聖カタリナ大学	看護	愛媛県 松山市
聖マリア学院大学	看護	福岡県 久留米市へ
長崎純心大学	教育	長崎県 長崎市
鹿児島純心女子大学	教育・看護	鹿児島県 薩摩川内市

*課程

教育：保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の養成課程

看護：看護師の養成課程

日本カトリック大学連盟

・ TOP ・ 日本カトリック大学連盟とは ・ 加盟校一覧 ・ 加盟団体 ・ 学術奨励金・奨学金 各種賞状表彰 ・ 掲載集

HOME > 日本カトリック大学連盟とは？

日本カトリック大学連盟とは？

日本におけるカトリック大学の協同と向上を図り、学術文化の発展に貢献し、もってカトリック教育の使命達成に寄与することを目的としています。

日本カトリック大学連盟は、1975年日本国内のカトリック大学11校によって創設されました。

大学の基本的な使命は、研究を通して絶えず真理を探究し、かつ社会のために知識を保存・伝達することにあります。カトリック大学はこのような使命を持ちつつ、独自の特徴と目的をもって教育・研究活動を行っています。そしてその礎には、2000年の歴史に培われた、現在も世界中の人々に共有されているカトリック教会の堅固たる信仰観、倫理観を持っています。

日本カトリック大学連盟はこのようなカトリック教会の使命を受けた大学の集まりであり、共通の建学の理念を有するが故に必然的に集まった組織です。連盟では、日本におけるカトリック大学間の協力関係を推進し、カトリック教育の使命達成のために活動を行います。

日本カトリック大学連盟会長メッセージ

前上野大学長の早下隆士先生からバトンを引き継ぎました。南山大学の真摯な文です。今後、委員事務局も南山大学へ移ることになります。どうぞよろしくお願いいたします。

現在、本連盟には18校のカトリック大学が加盟しています。同じキリスト教ジュマニスムに基づく教育精神でつながる日本各地のカトリック大学が互いに連携することは、この地域におけるカトリック教育の使命達成のためにも重要なことです。また、今日、社会のさまざまな次元で経験することのできる国際化の動向を視野に入れるならば、私たちの大学でも、これまで以上に世界のカトリック大学とつながっていくことも大切でしょう。

日毎の様々な課題に敢り向きつつも、将来へ向けた希望のヴィジョンを共有し、私たちは、各加盟大学の個性を再確認し、実践することによって特長をさらに伸ばし、日本におけるカトリック教育・研究の充実を貢献して参ります。



日本カトリック大学連盟 会長
(南山大学長)

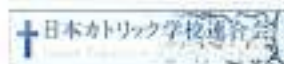
眞淵 義文

日本カトリック大学連盟事務局

〒466-8573
名古屋市長和区山笠町18
南山大学 学振室

Phone : 052-832-3113
Fax : 052-832-0556
E-mail : jacu@catholic-u.jp

カトリック中央協議会



[このページのTOPに戻る](#)

Copyright THE JAPAN ASSOCIATION OF CATHOLIC UNIVERSITIES All rights reserved.

【資料14】

◆大阪信愛学院高等学校進学実績

出典：大阪信愛学院高等学校ホームページ

平成30年度 進路状況

卒業生総数 157名 (信愛中 63名)

平成31年3月31日現在

		現役	既卒	合計	内部				
		現役	既卒	合計	内部	現役	既卒	合計	内部
《国公立大学》					京都産業大学	5	1	6	5
信州大学	1		1	1	甲南大学	6	3	9	7
山口大学	1		1	1	龍谷大学	3	1	4	1
大阪府立大学	1		1	1	京都女子大学	3		3	3
高崎経済大学		1	1	1	武庫川女子大学	9		9	7
国公立大学計	3	1	4	4	神戸女子大学	1		1	
《私立大学》					甲南女子大学	8		8	1
関西学院大学	10		10	8	摂南大学	14		14	13
関西大学	14		14	11	追手門学院大学	5	1	6	4
同志社大学	5		5	5	桃山学院大学	1	1	2	2
立命館大学	8	1	9	9	青山学院大学	1		1	1
関関同立計	37	1	38	33	大阪歯科大学	1		1	1
近畿大学	14	2	16	9	その他の大学	68	10	78	44
同志社女子大学	21		21	13	私立4年制大学計	221	20	241	145
神戸女学院大学	4		4	2	《私立短期大学》				
大阪樟蔭女子大学	3		3	2	大阪信愛女学院短期大学	13		13	
京都ノートルダム女子大学	2		2	2	子ども教育	5		5	
関西外国語大学	3		3	3	看護	8		8	
帝塚山学院大学	1		1	1	その他の私立短期大学	4		4	2
大阪国際大学	2		2		私立短期大学計	17		17	2
京都薬科大学	2		2	2	《医療系》				
大阪薬科大学	3		3	3	薬学部	27	1	28	28
神戸薬科大学	2		2	2	看護学部	15		15	10
					上記以外の医療系学部	8		8	6
					看護・医療系専門学校	2		2	1



進路指導

オープン
キャンパス

アクセス

過去3年間の大学合格実績(2016年度～2018年度) 延べ人数

国公立大学

合格者25名

大阪大学	1名	神戸大学	1名	東京藝術大学	2名	横浜国立大学	1名
滋賀大学	1名	和歌山大学	2名	備前大学	1名	山口大学	2名
大阪市立大学	1名	大阪府立大学	1名	奈良女子大学	2名	大阪教育大学	2名
京都教育大学	1名	兵庫教育大学	1名	奈良県立大学	1名	青森県立保健大学	1名
諏訪東京理科大学	2名	公立鳥取環境大学	1名	高崎経済大	1名		

私立大学

合格者553名

関西大学	25名	関西学院大学	27名	同志社大学	16名	立命館大学	16名
関西医科大学(医学部医学科)			1名	東京理科大学		2名	
明治大学	1名	青山学院大学	1名	中央大学	1名	法政大学	1名
京都産業大学	9名	近畿大学	35名	甲南大学	16名	龍谷大学	10名
京都女子大学	11名	神戸女学院大学	9名	同志社女子大学	33名		
大阪薬科大学	8名	京都薬科大学	5名	神戸薬科大学	5名		

短期大学(信愛短大以外)

合格者24名

専門学校

合格者48名(看護・医療系専門学校34名)

大阪信愛学院短期大学

合格者46名

看護学科	27名	子ども教育学科	19名
------	-----	---------	-----



新しい未来はここから始まる

大阪信愛学院高等学校

教育理念

大阪信愛学院高等学校の魅力

校長メッセージ

自己点検評価

文理コース

進学ソレイユコース

進学エトワールコース

看護医療コース

子ども教育コース

教育の特長

学校行事

1日のスケジュール

クラブ活動

国際交流

キャンパスガイド

制服紹介

建学の精神

学院について

聖堂

施設紹介

イベント・公開講座

学院の取り組み



資料請求

オープン
キャンパス

アクセス

進路指導

指定校・連携校

進路状況

キャリアプログラム

入試情報

募集要項

教育経費・奨学金

オープンキャンパス・説明会

入試Q&A

過去問題

お知らせ

図書館

在校生の方へ

自立学習応援プログラムすらら

保護者アンケート結果

いじめ防止基本方針

気象警報発令時の対応

登校許可書・欠席届



大阪信愛学院高等学校

〒 536-8585 大阪市城東区古市2-7-30

TEL.06-6939-4391

お問い合わせ

資料請求

Copyright (C) Osaka Shinai Gakuin. All rights reserved.

◆大阪信愛学院高等学校からの大学設置要望

大阪信愛学院高等学校のコース

出典：大阪信愛学院高等学校ホームページ（2020年）

大阪信愛学院高等学校長の大学設置要望書

◆大阪信愛学院短期大学同窓会からの要望

学院情報

学校法人 大阪信愛女学院



明るい未来はここから始まる

大阪信愛学院高等学校



個性を生かせる5つのコースで、
学力とキャリアを育み
未来につなげます。



資料請求

オープン
キャンパス

アクセス

教育案内

無限の可能性を開花させる5つのコース。「文理コース」は国公立大学や難関私立大学に特化した特別進学を目指し、「進学ソレイユコース」と「進学エトワールコース」は総合進学を目指します。また「看護医療コース」と「子ども教育コース」はキャリア進学として希望する職種へつなげます。

学院情報
高校3年間、
ハイレベルな学習に
よって実力を磨き、
希望の進路を実現したい。

学校法人 大阪信愛学院

明るい未来はここから始まる

大阪信愛学院高等学校
大阪信愛学院高等学校の力を注ぎつつ、
勉強との両立を頑張って希望の進路を実現したい。

難関大学への 進学を目指したい。	中学校の授業の 内容は大丈夫！	勉強に自信がない。 中学校のつまづきを 解消しつつ高校の勉強も すすみたい…	看護師や 理学療法士・作業療法士など 医療関係の職業に憧れている。	幼稚園・保育園、小学校で 遊具や児童たちに囲まれて 働くことに憧れている。
文理 コース	進学ソレイユ コース	進学エトワール コース	看護医療 コース	子ども教育 コース
ハイレベルな学習によって実力を磨き、国公立大学や難関私立大学の理系・文系学部への進学を目指すコースです。	学習とクラブ活動・習い事の両方で太陽のように輝く3年間を過ごし、希望の進路を目指します。難関私立大学（文系）・私立大学（文系）・芸術系・体育系などを含めた総合高等学校に対応するコースです。	今まで意識していなかった自分の無限の可能性に光を見て、学ぶことの楽しさや感動、学び直しを含めて学習します。勉強とクラブ活動・習い事の両立に努め、希望の進路を実現します。私立大学（文系）・芸術系・体育系などを含めた総合進学に対応するコースです。	「看護」「医療」について、大学体験・看護体験などを通じて深く学び、看護師や理学療法士・作業療法士など医療関係の職業に携わる夢を実現します。看護・医療系大学や専門学校、併設の信愛短大看護学科などを目指すコースです。	信愛短大子ども教育学科や他大学との連携を通して、幅広い知識の習得と体験・実習により教職への意欲を確かなものにしていきます。保育・初等教育系大学や併設の信愛短大子ども教育学科などを目指すコースです。
目指す進路				
国公立大学(理系・文系) 難関私立大学(理系・文系)	難関私立大学(文系) 私立大学(文系)	私立大学(文系)	看護医療系大学 医療系専門学校 信愛短大(看護学科) ※4年制設置構想中	保育・初等教育系大学 信愛短大(子ども教育学科) ※4年制設置構想中
特別進学		総合進学		キャリア進学

※到達度試験（転コース認定試験）により、2年時より転コースが可能です。



文理コース



進学ソレイユコース



看護医療コース

進学エトワールコース



子ども教育コース



教育の特長

資料請求

オープン
キャンパス

アクセス

学校紹介

- 教育理念
- 大阪信愛学院高等学校の魅力
- 校長メッセージ
- 自己点検評価

教育案内

- 文理コース
- 進学ソレイユコース
- 進学エトワールコース
- 看護医療コース
- 子ども教育コース
- 教育の特長

スクールライフ

- 学校行事
- 1日のスケジュール
- クラブ活動
- 国際交流
- キャンパスガイド
- 制服紹介

学校法人 大阪信愛女学院

- 建学の精神
- 学院について
- 聖堂
- 施設紹介
- イベント・公開講座
- 学院の取り組み

進路指導

- 指定校・連携校
- 進路状況
- キャリアプログラム

入試情報

- 募集要項
- 教育経費・奨学金
- オープンキャンパス・説明会
- 受験生向けMovie
- 入試Q&A
- 過去問題

お知らせ

図書館

在校生の方へ

- 自立学習応援プログラムすらら
- 保護者アンケート結果
- いじめ防止基本方針
- 気象警報発令時の対応
- 登校許可書・欠席届

教育関係者の方へ

- 教育関係者向け資料請求
- 教育関係者向け学校説明会

2019年5月27日

学校法人大阪信愛女学院理事長
岩熊美奈子様

大阪信愛学院中学校・高等学校
校長 柿山 節子



要 望 書

本学院中学校・高等学校は、長年女子の教育に携わってまいりました。その間、時代は進み、日本の社会情勢、世界の状況も驚異的な変化を遂げています。それに伴い、女性の社会進出、世界での活躍の場も大きく広がり、女性の高度な知識技能が求められる時代になってまいりました。

本校で学ぶ生徒たちが豊かな人間性を養い、高い知性を磨き、技能を身に付け、その能力の開発を通して、社会に貢献できるように目指してまいりました。しかし、本校の卒業生が社会に貢献できるためには、さらなる知識の獲得と技能の習得、世界的な視野を備えることが必定と考えます。本校で学ぶ生徒たちの約85パーセントは4年制の大学を目指しており、生徒たちのニーズに応えるためにも、是非とも4年制の大学の設置、さらには大学院の設置を希望してやみません。

本校で、カトリック教育を受けた女性が広く社会と世界で活躍し、自立の道を歩むとともに、その精神を実践していくために、4年制の大学の設置を強く要望いたすものであります。

令和元年5月24日

学校法人大阪信愛女学院
理事長 岩熊 美奈子 様

大阪信愛学院短期大学同窓会

めぐみ会 会長	楠本 光子	
副会長	多湖 敬子	
副会長	増田 千春	
会計	森田 正子	
書記	川島 裕子	

大阪信愛学院短期大学の4年制大学への改組要望について

大阪信愛学院短期大学は1956年に幼稚園教員養成所としてスタートし、1959年に保育科を置く大阪信愛女子短期大学として開学、1961年に家政科が増設され大阪信愛女学院短期大学と校名変更された後、幾多の変遷を経て、看護学科、子ども教育学科を擁する短期大学として現在に至っています。

この63年間で約9000名の卒業生が巣立っており、1962年に、建学の精神を昂揚し会員同士の親睦と、母校の発展に寄与することを目的として大阪信愛学院短期大学の同窓会「めぐみ会」を結成いたしております。

多くの卒業生がキリスト教精神の教えの元、誇りを持って社会人として全国で活躍しております。

しかしながら、看護学科についていえば、日本看護協会においても少子化を踏まえて「大学卒業を看護師の基本とする」考えが示されています。現に4年制の看護系大学は、2002年の96校から2019年には272校に増えています。また、子ども教育学科において、保育士や幼稚園教諭、小学校教諭の養成課程も4年制大学での教育が主流となり、より専門性をもった教育者の社会的な要請が高まってきているものと認識しております。現に、多くの短期大学は4年制大学に移行しています。

少子化による大学全入時代において、女性の4年制大学志向が高まり、女子短期大学のままでは受験者数は減る一方にあるといえます。

私たち同窓会としても、愛すべき母校の将来に思いをいたし、18歳人口の減少、大学全入時代による高学歴化を踏まえて、短期大学から4年制大学への早期の改組を要望致したく、お願い申し上げます。

【資料 16】

大学設置に伴う採用ニーズ調査（教育保育機関・病院対象調査）の結果概要

（1）教育学部

既設の短期大学卒業生の内定先、既設の短期大学へ過去求人があった教育保育機関、カトリック系教育保育機関を含む近畿圏を中心とした 500 事業所（幼稚園・保育園・認定子ども園、児童福祉施設）を対象に調査票を郵送し、275 事業所から有効回答を得た。期間は 2021 年 1 月 12 日から同年 2 月 26 日。

質問

1. 大阪信愛学院大学教育学部教育学科の卒業生を採用したいと思われませんか
 - 1 採用したい
 - 2 採用を検討したい
 - 3 採用したいとは思わない
 - 4 わからない
2. 大阪信愛学院大学教育学部教育学科の卒業生の採用の人数を教えてください。

結果

1. 採用したい 142件（51.6%）
採用を検討したい 101件（36.7%）
2. 採用したい事業所での採用予定人数の合計 345人

（2）看護学部

既設の短期大学卒業生の内定先、既設の短期大学へ過去求人があった病院、カトリック系病院を含む近畿圏を中心とした 500 事業所(病院)を対象に調査票を郵送し、126 事業所から有効回答を得た。期間は 2021 年 1 月 12 日から同年 2 月 26 日。

質問

1. 大阪信愛学院大学看護学部看護学科の卒業生を採用したいと思われませんか
 - 1 採用したい
 - 2 採用を検討したい
 - 3 採用したいとは思わない
 - 4 わからない
2. 大阪信愛学院大学看護学部看護学科の卒業生の採用の人数を教えてください。

結果

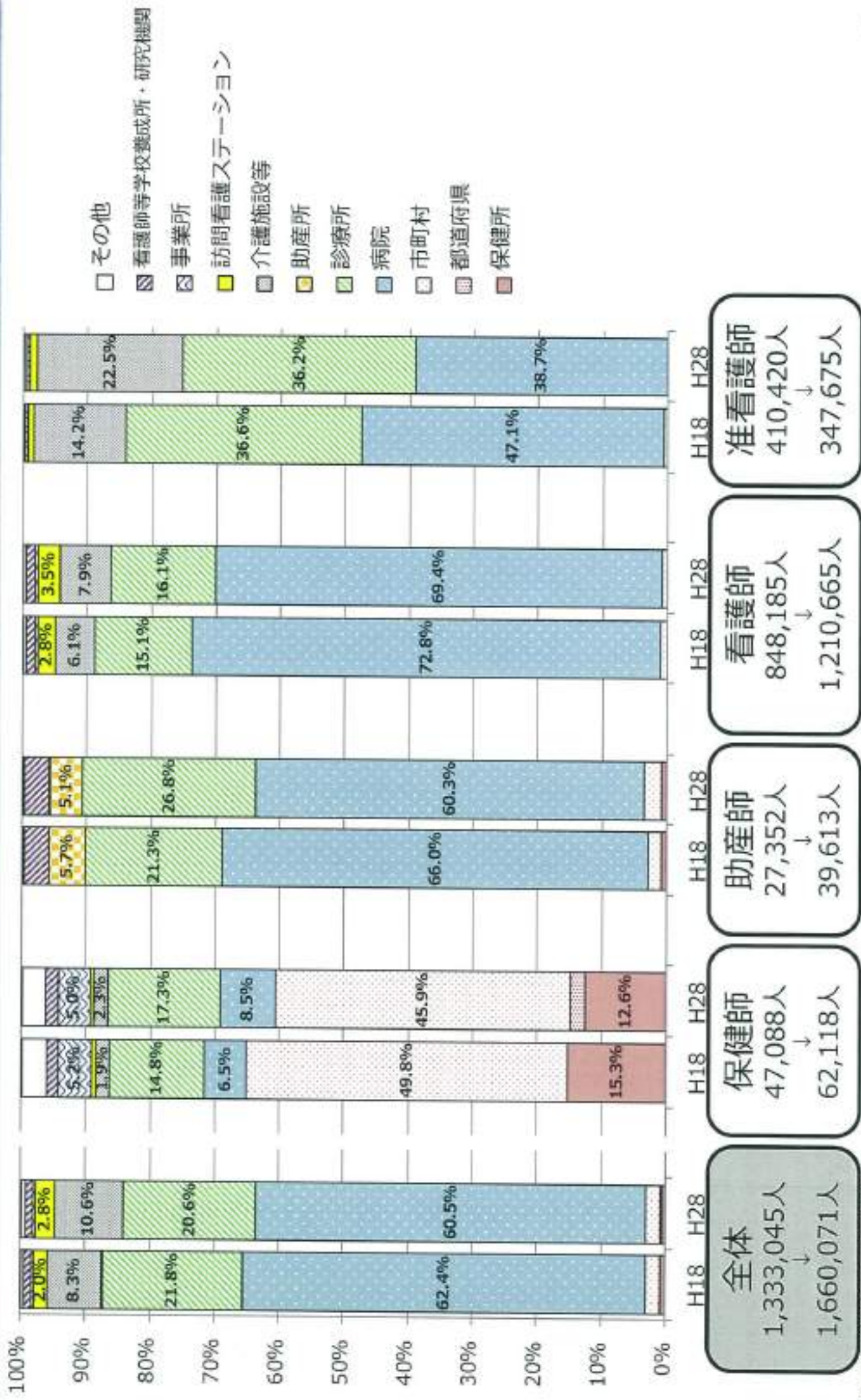
1. 採用したい 38件（30.2%）
採用を検討したい 55件（43.7%）
2. 採用したい事業所での採用予定人数の合計 156人

両学部とも、入学定員80名に照らして、卒業生分の採用予定数を確保していることとなる。

◆看護基礎教育を取り巻く現状等について

第1回 看護基礎教育検討会 資料2 平成30年4月12日

看護職員の就業場所の推移（平成18年→平成28年）



【資料18】

◆看護職員需給推計関係資料

医療従事者の需給に関する検討会 第3回看護職員需給分科会 参考資料
平成30年9月27日

都道府県別にみた人口10万対看護師・准看護師数

平成28年



出典：人口については平成28年10月1日現在。出典：「人口推計」総務省統計局
 ;看護師・准看護師数は厚生労働省医政局看護課調べ

1. 設置者数

【】 看護所別看護職員、人口対比 Total Number of Nursing Staff by Prefecture and the Ratio per Popula-

都道府県 Prefecture	人口 Population 平成20年10月 1日現在 (Oct., 2008)	医療保健師 Public health nurses		助産師 Midwives		人口10万対比 Ratio per 100,000
		実数 Actual number	人口10万対比 Ratio per 100,000	実数 Actual number	人口10万対比 Ratio per 100,000	
01 北海道	5,535	3,268	59.4	1,209	21.3	
02 青森県	1,292	675	48.5	283	21.9	
03 岩手県	1,393	650	48.1	345	25.5	
04 秋田県	2,345	951	40.5	707	30.1	
05 山形県	1,108	514	48.2	334	30.1	
06 福島県	1,189	572	48.1	385	34.0	
07 茨城県	2,072	1,093	52.3	466	22.7	
08 栃木県	2,964	1,051	35.5	533	18.0	
09 群馬県	2,011	808	40.2	392	19.5	
10 埼玉県	2,012	924	45.9	396	19.7	
11 千葉県	2,113	1,296	61.4	1,225	58.0	
12 東京都	6,122	1,948	31.8	1,161	19.0	
13 神奈川県	12,838	4,436	34.6	3,462	27.0	
14 新潟県	8,917	2,133	23.9	2,015	22.6	
15 富山県	2,393	1,481	61.9	775	32.4	
16 石川県	1,101	591	53.7	352	30.2	
17 福井県	1,168	543	46.5	314	26.9	
18 山梨県	812	522	64.3	306	37.6	
19 長野県	691	561	81.2	174	20.0	
20 岐阜県	2,171	1,385	63.8	686	29.3	
21 静岡県	2,100	1,322	63.0	542	25.8	
22 愛知県	5,890	3,594	61.0	2,877	22.6	
23 岐阜県	2,970	1,970	66.3	1,091	22.7	
24 三重県	1,575	980	62.3	515	25.9	
25 滋賀県	1,402	677	48.3	363	25.9	
26 奈良県	2,629	1,014	38.6	727	27.7	
27 和歌山県	896	2,556	28.5	2,309	26.0	
28 徳島県	5,586	1,938	34.7	1,245	22.3	
29 香川県	1,004	493	49.1	315	22.4	
30 愛媛県	1,012	699	68.9	231	22.8	
31 高知県	295	318	53.4	167	28.1	
32 福岡県	725	660	63.4	314	30.4	
33 佐賀県	1,948	972	49.9	438	22.5	
34 熊本県	2,860	1,216	42.5	813	27.6	
35 大分県	1,463	822	56.2	353	26.9	
36 鹿児島県	794	389	49.3	215	27.1	
37 沖縄県	1,093	531	48.5	292	24.1	
38 東京都	1,484	680	45.8	281	19.5	
39 東京都	773	656	84.9	105	21.5	
40 東京都	5,094	1,757	34.5	1,122	22.2	
41 北海道	856	488	57.0	168	19.6	
42 青森県	1,440	673	46.7	330	23.5	
43 岩手県	1,621	906	55.9	373	23.5	
44 秋田県	1,200	630	52.5	250	20.8	
45 山形県	1,136	600	52.8	229	20.2	
46 福島県	1,717	889	51.8	509	29.6	
47 茨城県	1,376	558	40.6	290	21.1	
全 計 Total	127,692	51,703	40.5	30,130	23.6	

注 山) 「病院報告」, 「医療施設調査」及び「衛生行政報告例」により計上した(平成20年12月末)。

注 出) 人口は総務省「国勢調査」統計局発表「平成20年10月1日現在推計人口」による。

注 注 出) 「人口10万対比」は総務省「国勢調査」統計局発表による人口を用いた。

size

都道府県 Prefecture	看護職員・看護士数 Nurses and assistant nurses			人口10万対比 Ratio per 100,000	都道府県 Prefecture
	看護士 Nurses	看護職員 Assistant nurses	計 Total		
01 北海道	47,637	23,672	71,309	1,284.7	北海道
02 青森県	10,819	6,688	17,507	1,243.3	青森県
03 岩手県	11,910	5,696	17,606	1,153.6	岩手県
04 秋田県	14,988	7,827	22,815	998.5	秋田県
05 山形県	9,200	5,904	15,104	1,190.8	山形県
06 福島県	9,659	3,654	13,313	1,120.6	福島県
07 茨城県	13,071	11,076	24,147	1,109.6	茨城県
08 栃木県	16,433	9,307	25,740	855.0	栃木県
09 群馬県	12,334	7,150	19,484	968.9	群馬県
10 埼玉県	13,702	8,361	22,063	1,096.6	埼玉県
11 千葉県	33,033	16,151	49,184	693.9	千葉県
12 東京都	30,984	12,531	43,515	713.8	東京都
13 神奈川県	86,743	20,168	106,911	832.8	神奈川県
14 新潟県	49,519	11,577	61,096	693.7	新潟県
15 富山県	17,798	7,680	25,478	1,064.7	富山県
16 石川県	9,648	3,945	13,593	1,234.2	石川県
17 福井県	10,994	3,922	14,916	1,277.1	福井県
18 山梨県	6,719	3,530	10,249	1,252.2	山梨県
19 長野県	5,178	2,486	7,664	984.7	長野県
20 岐阜県	17,613	5,819	23,432	1,079.3	岐阜県
21 静岡県	12,957	6,676	19,633	934.0	静岡県
22 愛知県	24,674	8,128	32,802	861.2	愛知県
23 岐阜県	95,234	17,771	113,005	851.1	岐阜県
24 三重県	12,351	6,135	18,486	986.6	三重県
25 滋賀県	11,010	2,362	13,372	953.8	滋賀県
26 奈良県	21,744	7,087	28,831	1,096.7	奈良県
27 和歌山県	62,373	23,433	85,806	1,074.3	和歌山県
28 徳島県	40,077	15,068	55,145	1,001.2	徳島県
29 香川県	9,573	3,566	13,139	920.2	香川県
30 愛媛県	7,800	4,525	12,325	1,218.4	愛媛県
31 高知県	5,388	1,608	7,006	1,343.9	高知県
32 福岡県	8,843	3,578	12,421	1,417.4	福岡県
33 佐賀県	18,219	6,403	24,622	1,264.0	佐賀県
34 熊本県	22,860	11,384	34,244	1,263.3	熊本県
35 大分県	13,215	7,394	20,609	1,422.4	大分県
36 鹿児島県	7,322	4,468	11,790	1,484.6	鹿児島県
37 沖縄県	9,020	4,488	13,508	1,346.6	沖縄県
38 東京都	13,260	6,678	19,938	1,301.7	東京都
39 東京都	8,154	4,700	12,854	1,603.0	東京都
40 東京都	46,398	22,641	69,039	1,385.1	東京都
41 北海道	8,244	4,978	13,222	1,244.0	北海道
42 青森県	14,006	6,880	20,886	1,267.8	青森県
43 岩手県	17,794	10,807	28,601	1,273.4	岩手県
44 秋田県	11,023	5,413	16,436	1,453.2	秋田県
45 山形県	10,800	7,176	17,976	1,384.2	山形県
46 福島県	16,809	11,503	28,312	1,052.4	福島県
47 茨城県	10,787	5,322	16,109	1,109.3	茨城県
全 計 Total	918,263	397,237	1,315,500	1,030.2	

【資料19】

◆医療従事者の需給に関する検討会 看護職員需給分科会

中間とりまとめ

2) 都道府県版

都道府県	供給推計 (都道府県報告)	供給推計 (国勢調査)	需要推計			需要推計(①~③)と供給推計(都道府県報告)の差						(参考) 需要推計 都道府県 報告 (国勢調査)
			シナリオ ①	シナリオ ②	シナリオ ③	シナリオ①		シナリオ②		シナリオ③		
北海道	96,066	93,436	102,981	103,906	110,588	6,925	93.3%	7,850	92.4%	14,542	86.9%	98,548
青森	20,217	19,701	20,293	20,475	21,794	76	99.6%	258	98.7%	1,577	92.8%	10,537
岩手	18,022	18,136	18,462	18,628	19,827	440	97.6%	806	96.7%	1,805	90.9%	17,483
宮城	29,904	33,660	32,042	32,330	34,412	2,138	93.3%	2,426	92.5%	4,508	86.9%	30,335
秋田	18,966	18,624	15,723	15,864	16,886	△ 3,243	120.6%	△ 3,102	119.8%	△ 2,080	112.3%	14,934
山形	17,694	17,510	16,511	16,660	17,733	△ 1,183	107.2%	△ 1,034	106.2%	39	99.8%	15,686
福島	28,917	25,999	27,903	28,154	29,967	△ 1,014	103.6%	△ 763	102.7%	1,050	96.5%	26,684
茨城	37,912	33,355	38,741	39,089	41,606	829	97.9%	1,177	97.0%	3,694	91.1%	37,311
栃木	27,063	26,702	25,801	26,032	27,709	△ 1,262	104.9%	△ 1,031	104.0%	646	97.7%	24,907
群馬	28,720	33,253	27,910	28,160	29,974	△ 810	102.8%	△ 560	102.0%	1,254	95.8%	27,073
埼玉	78,416	88,897	90,907	91,723	97,630	12,491	86.3%	13,307	85.5%	19,214	80.3%	87,082
千葉	70,538	70,533	78,888	79,394	84,508	8,150	89.6%	8,856	88.8%	13,970	83.5%	76,081
東京	140,708	160,312	181,147	182,772	194,544	40,439	77.7%	42,064	77.0%	53,836	72.2%	173,941
神奈川	85,084	83,018	116,095	117,137	124,681	31,011	73.3%	32,053	72.6%	39,597	68.2%	109,970
新潟	36,280	34,042	32,671	32,964	35,087	△ 3,609	111.0%	△ 3,316	110.1%	△ 1,193	103.4%	30,984
富山	18,881	19,413	16,825	16,976	18,068	△ 2,066	112.2%	△ 1,905	111.2%	△ 811	104.5%	16,031
石川	20,892	21,305	19,522	19,699	20,966	△ 1,370	107.0%	△ 1,194	106.1%	74	99.6%	18,517
福井	13,013	12,809	13,084	13,202	14,052	71	99.5%	189	98.6%	1,039	92.6%	12,517
山梨	12,008	11,499	11,600	11,705	12,458	△ 408	103.5%	△ 303	102.6%	450	96.4%	11,024
長野	30,109	32,928	30,545	30,819	32,804	437	98.6%	711	97.7%	2,696	91.8%	28,001
岐阜	26,172	26,849	26,764	27,094	28,749	592	97.8%	832	96.9%	2,571	91.1%	25,518
静岡	43,596	43,160	46,628	47,046	50,076	3,032	93.5%	3,450	92.7%	6,480	87.1%	44,360
愛知	88,005	96,249	94,424	95,272	101,408	6,419	93.2%	7,267	92.4%	13,403	86.8%	89,973
三重	24,592	26,239	23,787	24,001	25,547	△ 805	103.4%	△ 591	102.5%	955	96.3%	22,593
滋賀	18,057	20,298	18,766	18,934	20,154	709	96.2%	877	95.4%	2,097	89.6%	17,672
京都	41,937	43,011	42,540	42,922	45,687	603	98.6%	985	97.7%	3,750	91.8%	41,609
大阪	198,938	116,435	144,367	145,683	155,044	35,429	75.5%	36,725	74.8%	46,106	70.3%	138,610
兵庫	76,679	73,694	80,238	80,959	86,173	3,659	95.4%	4,380	94.6%	9,594	88.9%	77,723

【資料20】

◆我が国の高齢者を取り巻く状況

平成28年版 厚生労働白書

3 地域別に見た高齢化の状況

(大都市圏に属する都府県や沖縄県で高齢化率は低く、それ以外の地方圏で高い傾向)

次に地域別の高齢化の状況について見ていくこととする。

都道府県別の高齢化率（65歳以上人口比率）について、2014（平成26）年の状況を見てみると、大都市圏に属する都府県や沖縄県で低く、それ以外の地方圏で高い傾向であることが見てとれる。将来の2040（平成52）においても、大都市圏に属する都府県や沖縄県で低く、それ以外の地方圏で高いという傾向に変わりはないが、2014年時点と比較して全ての都道府県で高齢化率は上昇し、最も低い沖縄県でも高齢化率が30%を超える見込みとなっている（図表1-1-7）。

図表1-1-7 都道府県別高齢化率（65歳以上人口割合）



(今後、大都市圏に属する都府県で65歳以上人口は急増。一方で、秋田県などの7県では減少の見通し)

一方で、都道府県別の65歳以上人口について、2014年と2040年で比較してみると、大都市圏に属する都府県で65歳以上人口が急増している。また、2040年の65歳以上人口を、2014年の値を100としたときの指数で見ても、大都市圏に属する都府県で大きな値となっている。逆にその他の地方圏では、65歳以上人口は大きく増加はせず、秋田県などの7県では減少することが見込まれている（図表1-1-8）。

【資料 21】

◆医師の働き方改革の一環として看護師へのタスク・

シフティング

医師の働き方改革に関する検討会 報告書

平成 31 年 3 月 28 日 医師の働き方改革に関する検討会

医師の働き方改革に関する検討会 報告書

平成31年3月28日
医師の働き方改革に関する検討会

1. 医師の働き方改革に当たっての基本的な考え方	2
(1) 医師の働き方改革を進める基本認識	2
(2) 医師の診療業務の特殊性（働き方改革において考慮を要する医療の特性・医師の特殊性）	4
2. 働き方改革の議論を契機とした、今後目指していく医療提供の姿	6
3. 医師の働き方に関する制度上の論点	10
(1) 2024年4月から適用する時間外労働の上限	10
(2) (1)の時間外労働規制との組み合わせにより医師の健康確保を図る追加的健康確保措置	19
(3) 2024年4月までの労働時間短縮	26
(4) 地域医療確保暫定特例水準・集中的技能向上水準の将来の在り方	29
4. おわりに	30

(別添1) 検討会構成員名簿

(別添2) 検討会開催経過

(参考資料)

における機能分化・連携、集約化・重点化の推進に関しては、個々の医療機関レベルでの努力には限界があり、地域医療構想と連動した取組などが重要である。

- また、医師の働き方改革を着実に進めていくためには、医療機関全体としての効率化や他職種も含めた勤務環境改善に取り組むことが不可欠である。個々の医療現場においてチーム医療の推進やICT等による業務改革が実際に進んでいくための、実効的な支援策が必要である。
 - ・ チーム医療の推進に関しては、看護師の特定行為研修制度は特定行為区分を組み合わせ受講する仕組みとなっており、手術前後の病棟管理業務や術前・術中・術後管理など一連の業務を担うための研修を広く行うには不十分となっている。そのため、医道審議会看護師特定行為・研修部会における検討では、頻度の高い特定行為及び特定行為研修をパッケージ化することとした。術後管理や術前から術後にかけての麻酔管理において、頻繁に行われる一連の医行為を、いわゆる包括的指示により担うことが可能な看護師を特定行為研修のパッケージを活用して養成することで、看護の質向上及びチーム医療を推進することができる。
 - ・ これにより、医療従事者の合意形成のもとで、患者に対するきめ細かなケアによる医療の質の向上、医療従事者の長時間労働の削減等の効果が見込まれる。具体的な役割分担・連携の在り方、導入方法、医療機関側・看護師側双方に対する支援策等の個別論点を整理した上で、その円滑な実施が強く期待される。
 - ・ また、更なるタスク・シフティングの推進に向けて、現行の資格制度を前提としたものに加え、将来的にはいわゆるナース・プラクティショナー（NP）など、従来の役割分担を変えていく制度的対応を検討していくべきとの指摘があった。一方で、更なるタスク・シフティングの推進は重要であり、そのためには、まずは現行の資格の下での各職種の役割分担をどのようにしていくかについて、さらに検討を進めるべきとの指摘もあった。いずれにせよ現行制度の下でのタスク・シフティングを最大限推進しつつ、看護師が医師の直接的な指示なく対応できるなど、多くの医療専門職種それぞれが自らの能力を活かし、より能動的に対応できる仕組みを整えることは重要であり、そのための議論を引き続き確実に深めていくことが必要である。
 - ・ また、行政や民間保険会社等が医療機関に作成を求める文書については、その様式の簡素化等が医師の負担軽減につながる。これに資する取組として、生命保険協会、日本損害保険協会においては、今般、診断書様式に係る自主的ガイドラインを改定したところであり、こうした対応が行政や各保険業界において進むことは、医師の働き方改革の着実な推進にとって有効である。
- 医療機関内のマネジメント改革や地域医療提供体制の機能分化・連携の推進による医師の労働時間短縮は、医療機関の機能や診療科の特性、地域における医療提



2035年、
日本は
健康先進国へ。

それらを支える人々の価値観などの様々な要素も考慮し、社会全体の文脈のなかで決定付けられるものである。こうしたことから、新たな「社会システム」としての保健医療の再構築が必要となる。

2035年に向けて、介護などの関連サービスはもとより、住まい、地域づくり、働き方と調和しながら機能する「社会システム」とするため、これまでの保健医療制度を規定してきた根底の価値規範、原理、思想、すなわち「パラダイム」を以下のように根本的に転換すべきである。

□ 量の拡大から質の改善へ

あまねく、均質のサービスが量的に全国各地のあらゆる人々に行き渡ることを目指す時代から、必要な保健医療は確保しつつ質と効率の向上を絶え間なく目指す時代への転換

□ インプット中心から患者にとっての価値中心へ

構造設備・人員配置や保健医療の投入量による管理や評価を行う時代から、医療資源の効率的活用やそれによってもたらされたアウトカムなどによる管理や評価を行う時代への転換

□ 行政による規制から当事者による規律へ

中央集権的な様々な規制や業界の慣習の枠内で行動し、その秩序維持を図る時代から、患者、医療従事者、保険者、住民など保健医療の当事者による自律的で主体的なルールづくりを優先する時代への転換

□ キュア中心からケア中心へ

疾病の治癒と生命維持を主目的とする「キュア中心」の時代から、慢性疾患や一定の支障を抱えても生活の質を維持・向上させ、身体的のみならず精神的・社会的な意味も含めた健康を保つことを目指す「ケア中心」の時代への転換

□ 発散から統合へ

サービスや知見、制度の細分化・専門化を進め、利用者の個別課題へ対応する時代から、関係するサービスや専門職・制度間での価値やビジョンを共有した相互連携を重視し、多様化・複雑化する課題への切れ目のない対応をする時代への転換

今後の小中学校教員需要の動向について

山崎 博敏

(広島大学大学院教育学研究科教授)

1 戦後の教員需要の周期的変動

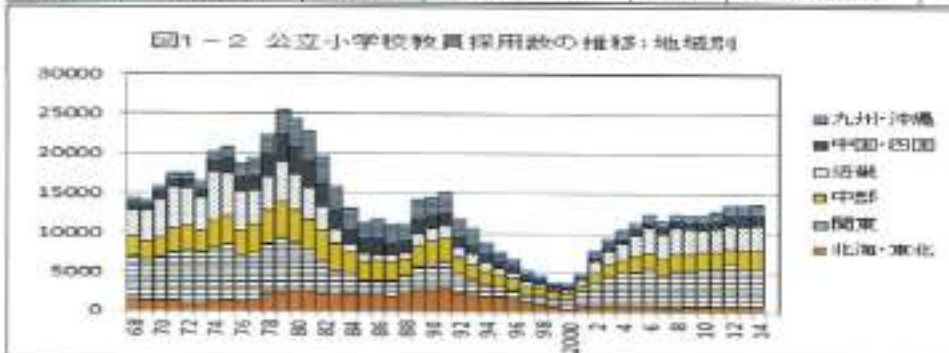


戦後の教員需要のサイクル：採用数小中計2万人で区分

- 戦後直後から 1955 年春まで：需要旺盛期Ⅰ 中学校新設、帰還者・引揚者、第一次 BB
- 1956 年春から 1967 年春まで：需要減退期Ⅰ 出生数の減少
- 1968 年春から 1987 年春まで：需要旺盛期Ⅱ 戦後直後の大量採用者の退職、第二次 BB
- 1988 年春から 2003 年春まで：需要減退期Ⅱ 少子化、退職者減少
- 2004 年春から 2022 年ころ？：需要旺盛期Ⅲ 定年退職者の増加

表 1 戦後の教員需要の周期

	底(人)	間隔	ピーク(人)	間隔	底(人)	周期
小学校	1963(6000)	16年	1979(22957)	21年	2000(3683)	37年
中学校	1959(4966)	23年	1982(16134)	18年	2000(2673)	41年
高校	1961(3641)	24年	1985(10363)	21年	2007(2563)	45年



- 性質
- 1 教員需要の周期は、40年前後である
 - 2 大都市部から採用数が増大し、地方遠隔地に波及(約20年かかる)
 - 3 小学校、中学校、高校の順に増大・減少がおきる

【資料24】

◆医療ケアが必要な子どもへの支援の充実に向けて

厚生労働省社会・援護局

平成30年10月3日

医療的ケア児について

- 医療的ケア児とは、医学の進歩を背景として、NICU等に長期入院した後、引き続き人工呼吸器や胃ろう等を使用し、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアが日常的に必要な障害児のこと。
- 全国の医療的ケア児は約1.8万人(推計) [平成29年度厚生労働科学研究田村班報告]



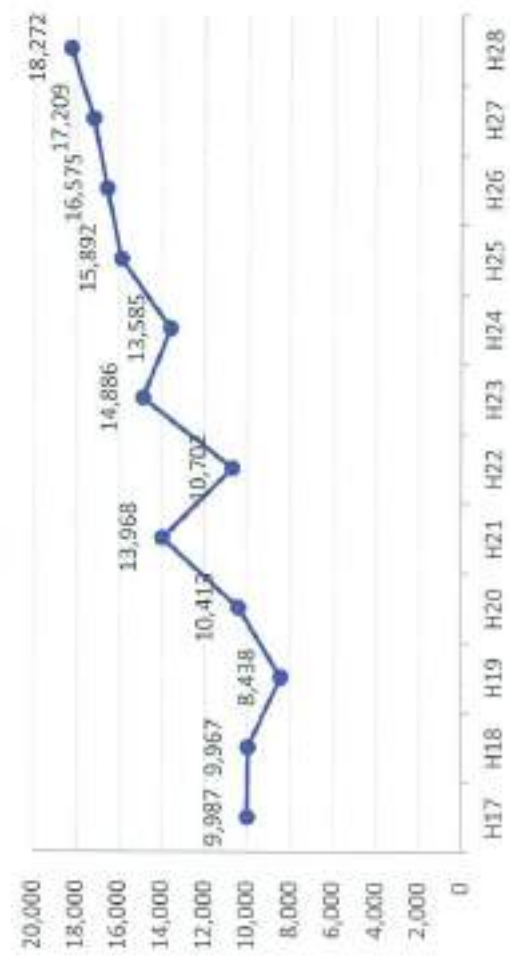
- 歩ける医療的ケア児から寝たきりの重症心身障害児※1までいる。
- 生きていくために日常的な医療的ケアと医療機器が必要(例) 気管切開部の管理、人工呼吸器の管理、吸引、在宅酸素療法、胃瘻・腸瘻・胃管からの経管栄養、中心静脈栄養等



* 画像転用禁止

※1:重症心身障害児とは重度の知的障害と重度の肢体不自由が重複している子どものこと。全国で約43,000人(者も含まれていない)。(岡田2012推計値)

医療的ケア児数



(平成29年度厚生労働科学研究補助金障害者政策総合研究事業「医療的ケア児に対する実態調査と医療・福祉・保健・教育等の連携に関する研究(田村班)」報告)

児童福祉法の改正 (平成28年5月25日成立・同年6月3日公布)

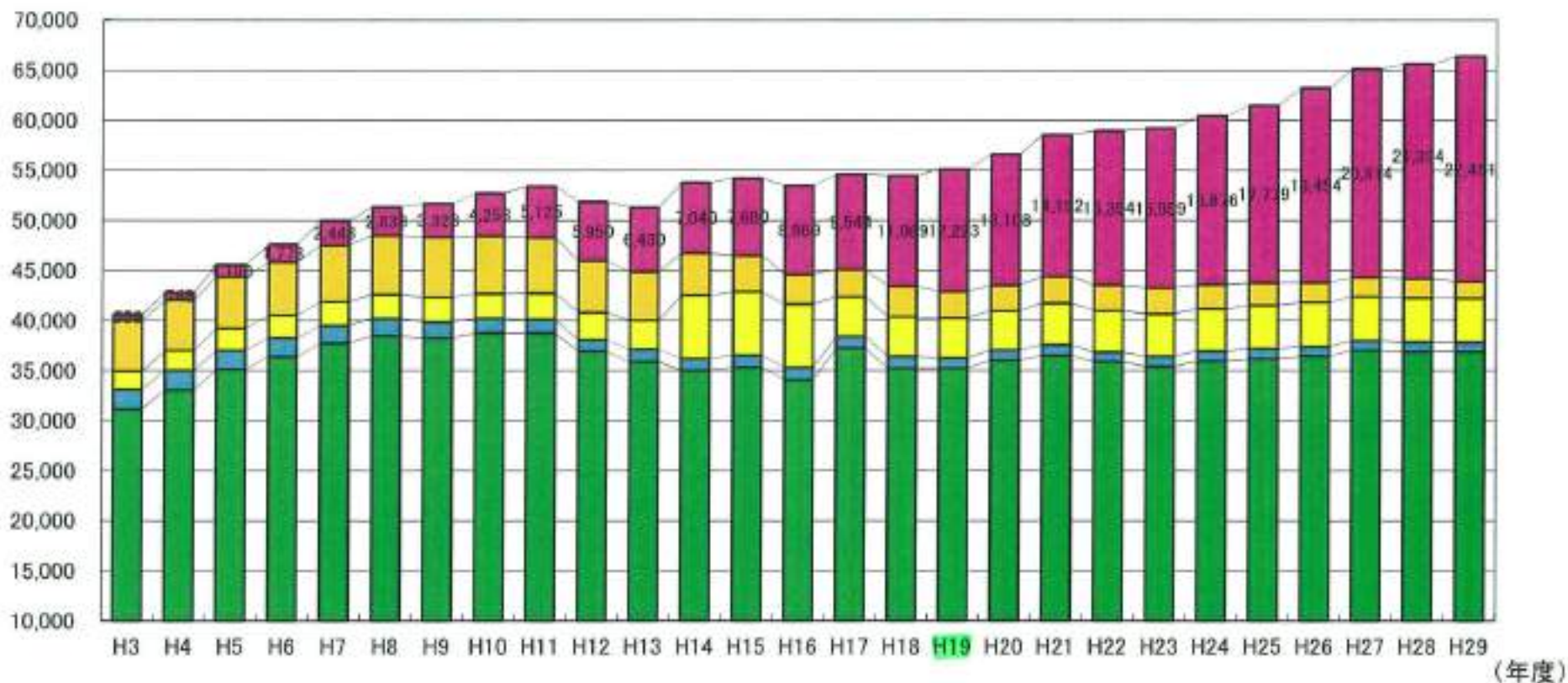
第五十六条の六第二項

「地方公共団体は、人工呼吸器を装着している障害児その他の日常生活を営むために医療を要する状態にある障害児が、その心身の状況に応じた適切な保健、医療、福祉その他の各関連分野の支援を受けられるよう、保健、医療、福祉その他の各関連分野の支援を行う機関との連絡調整を行うための体制の整備に関し、必要な措置を講ずるよう努めなければならない。」

看護師学校・養成所の入学定員の推移 (平成29年5月現在)

	H3 (40,605人)	H29 (66,412人)
■ 大学	558人	→ 22,481人
■ 短期大学	5,090人	→ 1,650人
■ 高等学校 (5年一貫制・専攻科)	1,825人	→ 4,420人 (H28年度定員)
■ 文部科学省指定専修学校	1,960人	→ 980人 (")
■ 厚生労働省指定専修・各種学校	31,172人	→ 36,881人 (")

(人)



【資料 26】

【教育学部における教育の基礎概念の学修機会】

項目名	科目名	開講年次	教育の基礎概念の学修に関する具体的説明と内容の充実 ※内容充実の部分については下線で示す
教育の理論、歴史、思想	「教育原理」	1年前期	<p>前回の内容が、一般教養としての「教育原理」に傾斜していた点を、教職教養としての観点から全面的に改定した。その要点は、授業科目の概要に記載し、教職課程コアカリキュラムとして設定されている、教育の理論、教育歴史、教育の思想の三つに特化して考えたことにある。全体を次のように三つのパートに分け、内容構成を図った。</p> <p><u>(1) 教育の理論を基本的概念に絞り考察する。</u></p> <p><u>(2) 教育の歴史と思想を前近代から現代へと日本を軸とし、主として欧米のそれとの比較で考察する。</u></p> <p><u>(3) 教育の基本的課題と現代的課題について、問題史的手法により歴史をたどりながら未来を展望する。</u></p>
教職の現代史、職能発達	「教職論」	2年前期	<p>戦後教育の成立に伴う公教育および教職の質的転換、高度経済成長下の地域社会の変貌、1980年代の教育問題の噴出、新学力観への転換等、教職の現代史（戦後史）について学修する中で、教職の意義及び教員の職務内容に関する基礎概念について身に付ける。今後の教職のあり方や<u>自らの理想的教師像</u>を展望する。</p>

教育制度	「教育制度論」	1年後期	<p>現代日本の教育制度について、戦前・戦後及び諸外国の制度との比較からその特徴を捉え、学校制度を規定している主たる教育法規について、その関係性に留意しながら考えるなど、多種多様な教育制度と法規について知識を獲得した上で、それらが日々の教育実践と関連付けて考える。</p>
発達の心理学	「教育心理学」	1年後期	<p>運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達の過程について、幼児・児童・生徒の発達的特質について学修し、オペラント条件づけ、洞察学習、社会的学習等、素朴理論等で学習のメカニズムに関する代表的理論を学ぶ。また、教師と幼児・児童・生徒の相互作用や学習活動に関わる問題行動、発達障害とその支援方法について、学校心理学の基礎として学修する。</p>

生徒指導論	「初等生徒・進路指導論」	3年後期	児童生徒の人格形成のため、生徒指導の意義や、キャリア発達の観点からの進路指導の意義や原理を学ぶ。具体的には、学級活動、ホームルーム活動といった計画的に行われる生徒指導に関する知識や、いじめ、不登校、体罰・児童虐待等に対する課題の定義やその対応の視点について学修する。
授業指導論	「初等教育課程論」	1年後期	学習指導要領、幼稚園教育要領の位置づけや学校教育における教育課程の意義や内容について基本的な考え方を理解し、カリキュラム評価の考え方や授業設計の基礎的事項を学修する。
	「初等教育方法学」	3年前期	実際に授業設計を行う前に、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力について理解した上で、教育方法を工夫する意義や、学習の目標・指導・評価を一体的に考える学習評価の考え方について学修する。
	「保育内容の指導法」に関する科目	2年前期から	教材研究や指導案作成を行う前に、幼稚園教育要領によって幼稚園教育の基本を抑え、各領域のねらい及び内容、評価、他領域や小学校の教科等とのつながりについて学修する。
	「教科指導論」に関する科目	2年後期から	小学校学習指導要領によって、各科目の目標及び内容、学習評価の考え方について学び、子どもの実態を視野に入れた基本的な学習指導理論について学修する。
子どもに対する理解	「幼児の理解」	2年前期	幼児期の心身の形成や発達過程の理解を基に、幼児理解の意義・原理について学修する。
	「特別支援教育学」	2年前期	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解をするため、障害に関する理念と思想について歴史的変遷から理解し、特別支援教育の理念・制度・仕組みの基礎基本を学ぶ。
教育相談の理論	「初等教育相談」	3年前期	学校における位置づけも含めた教育相談の意義や理論、それを支える教員やスクールカウンセラー等の役割、心理学基礎理論やカウンセリングの理論について学び、現代的課題への対応も含めた教育相談の在り方について学修する。

共通教育科目 学年進行

科目区分	授業科目名	単位		1年		2年		3年		4年	
		必修	選択	1前	1後	2前	2後	3前	3後	4前	4後
宗教と人間	キリスト教と人間	1		1前							
	現代とキリスト教	1			1後						
	人間論(哲学)	1						3前			
	宗教論	1									4後
社会と人間	心理学 ※		1	1前							
	教育学概論Ⅰ	①	①	1前							
	教育学概論Ⅱ	①		1前							
	ライフサイエンス	1			1後						
	社会学 ※		1		1後						
	サービ斯拉ーニング	1					2通年				
	キャリア入門	1		1前							
	セーフティプロモーション		1			2前					
	生活と化学		1		1後						
	社会と人権(日本国憲法)	②	②		1後						
	ジェンダー論		1			2前					
	生命倫理	1			1後						
表現・行動と人間	くらしと色彩 ※※		1		1後						
	人と音楽 ※※		1	1前							
	音楽療法入門		1								4後
	園芸療法入門		1								4後
	体育講義	①	①	1前							
	体育実技	①			1後						
	スポーツと健康		①	1前							
情報と人間	文章表現		1	1前							
	クリティカル・シンキング	1					2後				
	基礎ゼミ	1		1前							
	教養ゼミ	1			1後						
	社会調査法		1				2後				
	データサイエンス		1			2前					
	情報倫理	1		1前							
	情報リテラシーⅠ	1		1前							
情報リテラシーⅡ		1		1後							
言語・文化と人間	Speaking & Listening	1		1前	1後						
	Writing	1		1前	1後						
	ReadingⅠ	1		1前	1後						
	ReadingⅡ ※※※		1			2前	2後				
	Process Writing ※※※		1			2前	2後				
	時事英語 ※※※		1								
	医療英語 ※※※		1					3前	3後	4前	4後
	フランス語Ⅰ ※※※		1	1前							
	フランス語Ⅱ ※※※		1		1後						
	異文化交流(海外語学研修) ※※※		2	1前							
	国際理解(カンボジア研修)		1	1前							
	文化人類学(異文化理解) ※		1	1前							
共通教育科目合計単位数	22	28	20	15	6	4	2	1	1	4	

□:教育学部だけの科目単位数

○:看護学部だけの科目単位数

※より1単位選択必修

※※より1単位選択必修

※※※より3単位選択必修

<p>【教育目的】 キリストの人間愛、倫理観を基に、人権を尊重し、人間相互の信頼を形成し、自他共に成長できることを目標に科学的根拠に基づいて児童の教育、乳幼児の保育を主体的に実践できる心豊かな教育者、保育者を養成する。国際化、情報の高度化、人口構造の急激な変化などによってもたらされる現代社会の変革や多様性に対応できる柔軟性、創造性を有し、社会の要請に応えることができ、生涯学び続ける人材を養成する。</p>	<p>【養成する人材像】 1. キリスト教的人間観に基づき、豊かな人間性と幅広い教養を備え、生命倫理や人間の尊厳を大切にできる人材 2. 豊かな想像力を有し、人間相互の信頼を形成し、課題解決のために他者と協働することができる人材 3. 教育・保育に関わる使命感と責任感を持ち、地域社会を中心に幅広く現代社会に目を向け、子どもの状況や特性を包括的に理解し、一人ひとりに応じた教育・保育を実践できる人材 4. 国際化、情報の高度化などの現代社会に目を向け、論理的に思考し対応できる柔軟性、創造的な活動を行うことができる人材 5. 常に研鑽を重ね、主体的にキャリアを継続的に積み重ね、時代の変化に対応し続ける人材</p>
--	---

カリキュラム・ポリシー

① キリストの精神である人間への深い愛に基づいて、人間への理解を深め尊厳を持って教育・保育を行う人材を養成するために共通教育科目及び専門教育科目の科目群で構成し、それぞれの科目群で人間について学ぶ科目を設定する。

② 学修する上で必須能力であるコミュニケーションスキルや情報リテラシーの育成に関する科目を配置するとともに豊かな教養ならびに国際性を育む科目を設定する。

③ 教育・保育についての理念・理論について学び、心理的側面からも子どもの理解を深め、障害児を含む特別な支援を必要とする子どもについても理解し、教育・保育を探究する科目を設定する。

④ 科学的な根拠に基づいて教育・保育を展開でき、論理的に物事を考え、生涯にわたり探究する姿勢の育成に関わる科目を配置する。

⑤ 教育、保育の実践能力と主体的な学習態度を育成するために講義、演習、実習等の多様な学習形態を系統的に配置する。

	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
キリスト教と人間心理学 教育心理学 教育心理学概論 I 教育心理学概論 II 人と音楽 体育講義 キャリア入門 基礎ゼミ	キリスト教と人間心理学 教育心理学概論 I 教育心理学概論 II 人と音楽 体育講義 キャリア入門 基礎ゼミ	現代とキリスト教 ライフサイエンス くらしと色彩 体育実技 社会学 生活と化学 社会と人権 (日本国憲法) 生命倫理 教養ゼミ 情報リテラシー II	サービスラーニング セーフティプロモーション ジェンダー論		人間論 (哲学)			宗教論 音楽療法入門 園芸療法入門
情報倫理 情報リテラシー I Speaking & Listening フランス語 I 異文化交流 (海外語学研修) 国際理解 (カンボジア研修) 文化人類学 (異文化理解) 文章表現	情報倫理 情報リテラシー I Speaking & Listening フランス語 I 異文化交流 (海外語学研修) 国際理解 (カンボジア研修) 文化人類学 (異文化理解) 文章表現	Writing Reading I フランス語 II	Reading II Process Writing		医療英語		時事英語	
教育原理 保育原理 初等音楽論 I 初等図工論 I	教育原理 保育原理 初等音楽論 I 初等図工論 I	教育制度論 教育心理学 初等国語論 初等音楽論 II 初等図工論 II	幼児の理解 子どもの食と栄養 子どもの保健 モンテッソーリ保育論 初等社会科論 初等算数論 初等理科論 初等生活科論 初等家庭科論 初等体育論 I 初等英語論	児童心理学 初等体育論 II	子ども家庭支援の心理学 子どもの健康と安全 キリスト教的保育論	障害児 (者) 心理学 初等音楽論 III		
幼児と環境論 幼児と言葉論	幼児と環境論 幼児と言葉論	幼児と人間関係論 幼児と表現論	幼児と健康論 こども音楽療育概論	乳児保育 I 童謡創作論	乳児保育 II			
保育内容総論 障害児保育論	保育内容総論 障害児保育論	初等教育課程論 保育・教育課程論	保育内容指導演法 (健康) 保育内容指導演法 (人間関係) 保育内容指導演法 (環境) 保育内容指導演法 (言葉) 保育内容指導演法 (表現) 幼児音楽指導演法 I 特別支援教育学 幼児造形指導演法 I	初等国語科教育論 初等社会科教育論 初等理科教育論 初等家庭科教育論 初等音楽指導演法 II 幼児造形指導演法 II	初等算数科教育論 初等生活科教育論 初等音楽科教育論 初等図工科教育論 初等体育科教育論 初等英語科教育論 初等道徳教育論	障害児 (者) 心理学 初等音楽論 III		
社会福祉論	社会福祉論	子ども家庭福祉	データサイエンス 教職論 保育者論 社会的養護 I	クリティカル・シンキング 社会調査法 子ども家庭支援論 社会的養護 II	初等教育方法学 初等教育相談 教育学演習 I	子育て支援 教育学演習 II	教育学研究 I	教育学研究 II
野外活動	野外活動		教育実習 (幼・小) (幼稚園教育実習) 前半 2週間 教育実習事前事後指導	教育実習 (幼・小) (幼稚園教育実習) 後半 2週間 保育実習指導 I A 保育実習 I A (保育所実習) 集中 10日間 こども音楽療育実習 教職インターンシップ	教育実習 (幼・小) (幼稚園教育実習) 後半 2週間 保育実習指導 I B 保育実習 I B (施設実習) 集中 10日間 保育実習 II (保育所実習) または 保育実習 III (施設実習) 集中 10日間	教育実習 (幼・小) (小学校教育実習) 4週間	小学校教育実習 2週間 幼稚園教育実習 2週間	

ディプロマ・ポリシー

① キリスト教精神に基づいて他者及び異文化を尊重し、豊かな教養や共感性・想像力を基に、国際的な視野を持ち、多様な場における多様な人々との良好な人間関係を形成できる。

② 教育・保育に関わる使命感と責任感を持ち、教育・保育を実践するために必要な基礎的及び専門的な知識・技能を身につけ、適切な教育・保育を実践できる。

③ 教育の対象者の発達年齢、健康状況、心身両面における特性を包括的に理解し、一人ひとりの子どもの実態や状況に応じた教育を構想し、計画的・継続的に教育、保育を実践できる。

④ 教育・保育の質向上を目標に、他者と円滑なコミュニケーションを取り、協働して課題解決できる。

⑤ 科学的な根拠に基づいて論理的に考える姿勢を身につけ、生涯にわたり持続的に学び、社会に貢献できる。

⑥ 専門職者として、現代の教育課題に対して確かな認識を持ち、必要とされる教育・保育を主体的に思考して実践できる。

1 年前期

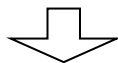
共通教育科目においては、人間力のある教育者・保育者をめざす上で、必要となる教養や本学での教育目標と大学の学びについて理解し、レポート作成や、プレゼンテーションの基礎技法を学ぶ。「キリスト教と人間」「教育学概論Ⅰ」「教育学概論Ⅱ」「基礎ゼミ」「情報リテラシー」「Speaking & Listening」等がそれである。

専門教育科目においては、学科共通科目の「教育原理」において教育の基本的概念を身に付ける。学科コア科目においては、領域や教科に関する基礎知識や「保育内容総論」等保育内容指導法の科目において教育・保育技能を修得する。学科展開科目においては保育・養護の基礎となる「保育原理」「社会福祉論」を修得する。

1 年後期

前期に引き続き大学での学び方、研究のための基礎・基本を身につけ、教養や人間理解の基本を修得する。共通教育科目における「現代とキリスト教」「社会と人権（日本国憲法）」「教養ゼミ」「Reading」等がそれである。

専門教育科目 学科コア科目の「教育心理学」や「教育制度論」において子どもの発達や学校教育の基本的な知識を体系的に修得し、「初等教育課程論」や「保育・教育課程論」において教育課程の編成や指導計画の作成の基礎的知識、基本的な評価方法などを理解する。前期に引き続き、領域や教科に関する基礎知識を修得し保育内容指導法の科目で教育・保育技能を修得する。学科展開科目においては保育・養護の基礎となる「子ども家庭福祉」を修得する。これらの学びを通して教育者・保育者への理解を深め、コースを確定する。



《初等教育コース》 小学校教諭となる学修をする。小学校教諭免許＋幼稚園教諭免許。

《幼児教育コース》 保育教諭となる学修をする。幼稚園教諭免許＋保育士資格取得。

(1年次の学びを通して決定した学生の意思を尊重するために、特に定員枠は設けない。)

《初等教育コース》

2 年前期

引き続き共通教育科目の「サービスマーケティング」「セーフティプロモーション」等で、人間力のある教育・保育者をめざす。

専門教育科目 学科コア科目の「教職論」において、教職の意義および教員の役割・職務内容を理解する。「初等社会科論」等教科の指導内容に関する基礎知識・技能を修得するとともに、「特別支援教育学」において特別な支援を必要とする児童・生徒の理解と支援について理解する。

《幼児教育コース》

2 年前期

引き続き共通教育科目の「サービスマーケティング」「セーフティプロモーション」等で、人間力のある教育・保育者をめざす。

専門教育科目 学科コア科目の「保育者論」において、保育者の役割・職務内容を理解する。また、「幼児と健康論」等の領域、および「保育内容指導法（健康）」等保育内容の専門的事項・指導法を学ぶ。「特別支援教育学」において障害児教育・保育を学び、学科展開科目の「幼児の理解」「社会的養護Ⅰ」等において幼児期のあるべき姿を知り、幼児にかかわる家庭や社会のありようを学ぶ。

9月中旬に「教育実習（幼・小）」の前半として、

<p>2年後期</p> <p>共通教育科目では「クリティカル・シンキング」において、物事の本質を理解するために批判的思考が身につくような基本的な知識・技能を学ぶ。</p> <p>専門教育科目においては、「初等国語科教育論」等の指導法に関する授業を中心に、学習指導要領を踏まえて各教科等の目標・内容等について理解し、指導方法等を工夫した授業づくりに向けて、授業の方法と技術を身に付ける。各教科等の特性に応じた基本的な指導方法・指導技術等を身に付け、模擬授業で実践する。</p>	<p>2週間の幼稚園教育実習を行う。原則、参加実習に重点をおく。この実習までに教育・保育の基礎的理念や領域と保育内容指導法の履修を終えていることになる。</p> <p>2年後期</p> <p>共通教育科目では「クリティカル・シンキング」において、物事の本質を理解するために批判的思考が身につくような基本的な知識・技能を学ぶ。</p> <p>幼稚園実習の体験をもとに、学科展開科目では演習科目を中心に、修得した知識・技能を応用し、論理的に思考し、幼児理解を深め、次の実習への課題を探求する。また、「子ども家庭支援論」等で養護・療育についても学ぶ。</p> <p>2月後半から「保育実習ⅠA」の10日間の保育所実習を行う。この実習までに保育士資格関連科目のほとんどを履修済となる。</p>
<p>3年前期</p> <p>共通教育科目では「人間論（哲学）」において、より人間理解を深める。</p> <p>専門教育科目 学科共通科目の「教育学演習Ⅰ」において研究の入門、基礎として調査・発表・討議の仕方について学ぶ。学科コア科目においては、これまで修得した知識・技能を教育実習に活かせるよう、各教科の指導力を身につける。授業実践や学級経営等の現場体験につながる実践力を養う。授業力向上へPDCAサイクルについて学び、教育における改善の視点と方法を理解する。</p> <p>9月に「教育実習（幼・小）」として、小学校における教育実習を行う。教育実習での経験を通して認識した課題をその後の学修に活かす。</p>	<p>3年前期</p> <p>共通教育科目では「人間論（哲学）」において、より人間理解を深める。</p> <p>専門教育科目 学科共通科目の「教育学演習Ⅰ」において、研究の入門、基礎として調査・発表・討議の仕方について学ぶ。学科コア科目「初等教育方法学」や学科展開科目「初等教育相談」「子ども家庭支援の心理学」等において、保育教諭として必要な知識を主体的かつ論理的に理解する。</p> <p>5月中旬に「教育実習（幼・小）」の後半として、2週間幼稚園教育実習を行う。原則、指導実習に重点をおく。</p> <p>9月に「保育実習Ⅱ」として10日間集中の保育所実習を行う。「保育実習ⅠA」の保育所実習の学びをより深め実践力を高める。施設就職を考えている学生は同時期に「保育実習Ⅲ」を選択し10日間の施設実習を行う。</p>
<p>3年後期</p> <p>学科共通科目の「教育学演習Ⅱ」は「教育学演習Ⅰ」の内容をより深め実力をつける。その主体的な学びを通して小学校教諭としての自分の強み</p>	<p>3年後期</p> <p>学科共通科目の「教育学演習Ⅱ」は「教育学演習Ⅰ」の内容をより深め実力をつける。その主体的な学びを通して幼稚園教諭としての自分の強み</p>

<p>を実践的指導力につなげ、さらに発展させる。</p> <p>各教科に関する指導法について教育現場の実態を意識しながら学修を深める。また「初等生徒・進路指導論」「初等特別活動指導論」等において、教育現場の諸活動における指導方法を修得する。</p> <p>4年前期</p> <p>「卒業研究」のテーマを設定するため、これまで修得した知識・技能・研究手法等を活用して、学科共通科目の「教育学研究Ⅰ」の中で探究的に研究を進め、課題解決能力を向上させる。また、副免許状取得に必要な、授業科目を履修する。</p>	<p>を実践的指導力につなげ、さらに発展させる。</p> <p>これまでの教育保育実習での経験を通して認識した課題を明確にし、「子育て支援」の科目で保護者に対する相談・支援についても学修する。</p> <p>「保育実習ⅠB」10日間の施設実習は、3年次8月、12月、2月のいずれかで行い、施設についての理解を深め、保育技術を高める。</p> <p>4年前期</p> <p>「卒業研究」のテーマを設定するため、これまで修得した知識・技能・研究手法等を活用して、学科共通科目の「教育学研究Ⅰ」の中で探究的に研究を進め、課題解決能力を向上させる。また、副免許状取得に必要な、授業科目を履修する。</p>
<p>4年後期</p> <p>本学での教養教育のまとめともいえる「宗教論」を修得する。また入学時から蓄積してきた履修カルテを基に、学科発展科目の「教職実践演習（幼・小）」の科目において、4年間の学士課程の集大成として、教育者・保育者として必要な知識・技能を総括し、到達度と課題を確認し、課題克服に努める。設定したテーマの課題解決に向け、学科共通科目の「教育学研究Ⅱ」においてこれまで培った学びや実践体験を統合して取り組み、「卒業研究」としてまとめ発表する。</p>	

＜教育学部教育学科＞

実習に関して修得すべき科目の体系性を示す表(幼稚園教諭免許状)

具体的な履修カリキュラム

履修年次		科目名称			
		教育の基礎的理解に関する科目等	領域及び保育内容の指導法に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目
年次	時期				
1年次	前期	教育原理	幼児と環境論	初等音楽論Ⅰ	体育講義
			幼児と言葉論	初等図工論Ⅰ	Speaking & Listening
			保育内容総論	教育学概論Ⅰ	情報リテラシーⅠ
				教育学概論Ⅱ	Writing
	後期	教育制度論	幼児と人間関係論	初等国語論	社会と人権(日本国憲法)
		教育心理学	幼児と表現論	初等音楽論Ⅱ	体育実技
保育・教育課程論			初等図工論Ⅱ	ReadingⅠ	
2年次	通年	教育実習事前事後指導		サービ斯拉ーニング	
	前期	保育者論	幼児と健康論	初等体育論Ⅰ	
		特別支援教育学	保育内容指導法(環境)		
		幼児の理解	保育内容指導法(言葉)		
			保育内容指導法(人間関係)		
			保育内容指導法(健康)		
			保育内容指導法(表現)		
			幼児音楽指導法Ⅰ		
			幼児造形指導法Ⅰ		
	集中	「教育実習(幼・小)」前半 幼稚園教育実習(9月2週間)			
後期	教職インターンシップ	幼児音楽指導法Ⅱ		ICT活用演習	
		幼児造形指導法Ⅱ			
3年次	通年	教育実習事前事後指導			
	前期	初等教育方法学			
		初等教育相談			
		教職インターンシップ			
	集中	「教育実習(幼・小)」後半 幼稚園教育実習(5月2週間)			
後期			初等音楽論Ⅲ		
4年次	前期				
	後期	教職実践演習(幼・小)			

＜教育学部教育学科＞

実習に関して修得すべき科目の体系性を示す表(小学校教諭免許状)

具体的な履修カリキュラム

履修年次		科目名称			
		教育の基礎的理解に関する科目等	教科及び教科の指導法に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目
年次	時期				
1年次	前期	教育原理	初等音楽論Ⅰ	教育学概論Ⅰ	体育講義
			初等図工論Ⅰ	教育学概論Ⅱ	Speaking & Listening
					情報リテラシーⅠ
	後期				Writing
		教育制度論	初等国語論		社会と人権(日本国憲法)
		教育心理学	初等音楽論Ⅱ		体育実技
	初等教育課程論	初等図工論Ⅱ		ReadingⅠ	
2年次	通年	教育実習事前事後指導		サービスラーニング	
	前期	教職論	初等算数論		
		特別支援教育学	初等体育論Ⅰ		
			初等英語論		
	後期		初等国語科教育論		ICT活用演習
			初等社会科教育論		
			初等理科教育論		
		初等家庭科教育論			
3年次	通年	教育実習事前事後指導			
	前期	初等教育方法学	初等算数科教育論		
		初等教育相談	初等生活科教育論		
		初等道徳教育論	初等音楽科教育論		
			初等図工科教育論		
			初等体育科教育論		
			初等英語科教育論		
	集中	「教育実習(幼・小)」 小学校教育実習(9月4週間)			
	後期	初等生徒・進路指導論			
		初等特別活動指導論			
総合的な学習の指導論					
4年次	前期				
	後期	教職実践演習(幼・小)			

＜教育学部教育学科＞

実習に関して修得すべき科目の体系性を示す表(保育士資格)

具体的な履修カリキュラム

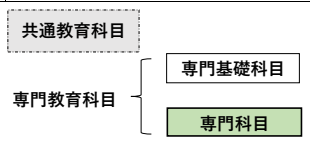
履修年次		科目名称		
		保育の本質・目的に関する科目	保育の対象の理解に関する科目	保育の内容・方法に関する科目
年次	時期			
1年次	前期	保育原理		保育内容総論
		教育原理		初等音楽論 I
		社会福祉論		初等図工論 I
	後期			幼児と言葉論
		子ども家庭福祉	教育心理学	保育・教育課程論
		教育制度論		初等国語論
2年次	前期	社会的養護 I	幼児の理解	保育内容指導法(健康)
		保育者論	子どもの保健	保育内容指導法(人間関係)
			子どもの食と栄養	保育内容指導法(環境)
				保育内容指導法(言葉)
				保育内容指導法(表現)
				初等体育論 I
				特別支援教育学
				幼児音楽指導法 I
	後期	子ども家庭支援論		乳児保育 I
				社会的養護 II
集中	「保育実習 I A」 保育所実習(2月下旬2週間)			
3年次	前期		子ども家庭支援の心理学	乳児保育 II
				子どもの健康と安全
	集中 (いずれか選択)	「保育実習 II」 保育所実習(9月2週間) 「保育実習 III」 施設実習(9月2週間)		
	後期			子育て支援
	集中	「保育実習 I B」 施設実習(8、12、2月いずれかの2週間)		
4年次	前期			
	後期	教職実践演習(幼・小)		

【教育目的】
 キリスト教の人間愛、倫理観を基に、人間の尊厳を守り、幅広い教養と豊かな人間性を備え、人間相互の信頼関係を形成し、自他共に成長できることを目標に科学的根拠に基づいて、主体的にヒューマンケアを実践できる看護職を養成する。人口の少子高齢化、医学医療、看護学の進歩発展、国際化によってもたらされる社会の変革や多様性に対応できる柔軟性、創造性を有し、社会的責務を果たし、生涯学び続ける看護職を養成する。

【養成する人材像】
 1. 人間の尊厳を大切に、良好な援助の人間関係を築ける人材
 2. 科学的根拠に基づいて看護を実践する能力を有する人材
 3. 多職種と連携・協働し、あらゆる人々の健康課題に対応する実践能力を有する人材
 4. 多様化する社会に対応し、継続的に看護を探究できる人材

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
DP1 人間の尊厳を大切に、良好な人間関係を築くための幅広い教養と知識を身につける	CP1 人間の尊厳を大切に、良好な人間関係を築くことができる能力を養うために、人間や社会についての幅広い教養、他者への共感や論理的な考え方を学び視野を広げる基礎的科目を【共通教育科目】に配置する。 教育方法 幅広い知識を修得するための講義科目と少人数制のゼミ形式で、教育学部の学生と共同で学び、相互学修効果を高める演習等アクティブ・ラーニングを取り入れ、大学での学びの基本的スキルが修得できる教育を実施する。 評価方法 学修成果のプレゼンテーション等を行い、学修の経過を含めた評価を実施する。	キリスト教と人間 人と音楽 体育講義 スポーツと健康 心理学 教育学概論Ⅰ 文化人類学（異文化理解） 文章表現 情報リテラシーⅠ 情報倫理 基礎ゼミ Speaking & Listening フランス語Ⅰ 異文化交流（海外語学研修） 国際理解（カンボジア研修） キャリア入門	現代とキリスト教 ライフサイエンス くらと色彩 社会と人権（日本国憲法） 社会学 生活と化学 教養ゼミ 情報リテラシーⅡ Writing ReadingⅠ フランス語Ⅱ 生命倫理	ジェンダー論 セーフティプロモーション データサイエンス クリティカル・シンキング 社会調査法 Process Writing ReadingⅡ サービスラーニング	人間論（哲学） 医療英語	宗教論 音楽療法入門 園芸療法入門 時事英語			
DP2 看護実践に必要な人間の健康と疾病についての基礎的知識を身につける	CP2 人間の心や身体の仕組みを理解し、あらゆる人々の健康生活の保持増進や健康障害の予防、健康の回復に関わる治療や関係制度に関する知識を学び、看護を行うときの根拠や必要性を考慮することができるために【専門教育科目】として『専門基礎科目』を配置する。 教育方法 講義は事前・事後の課題等、ICTを活用したラーニングシステム等で主体的な学修を促す教育を実施する。 評価方法 小テストや定期試験、レポートにより学修の到達状況の評価する。	人体の構造と機能（解剖学） 社会心理学 心のしくみと働き 社会福祉論	人体の構造と機能Ⅱ 人体の構造と機能Ⅲ 生化学 微生物学・免疫学 生命科学 家族社会学 疾病治療論Ⅰ 疾病治療論Ⅱ 健康教育論 病理学 栄養学 公衆衛生学（疫学） 保健統計学	医療倫理 環境と健康 社会健康学 発達心理学 生活機能論 疾病治療論Ⅲ 疾病治療論Ⅳ 臨床薬理学					
DP3 あらゆる人々と援助の人間関係を形成し、健康課題に対して科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を有する	CP3 科学的根拠に基づいた看護の知識・技術を修得するために基礎的な理論や技術、看護の展開方法を学ぶ科目を【専門教育科目】として『専門科目』『看護の基盤』に配置する。 教育方法 演習科目では科学的根拠に基づいた臨床判断やフィジカルアセスメントの基礎技術が身につくようシミュレーター等を活用し反復練習を促す。 評価方法 講義科目は試験等により到達状況を客観的に評価する。演習科目等では技術の修得状況を客観的な評価指標を活用し評価する。実習科目では評価基準表（ルーブリック）を活用し、思考過程や実践場面のパフォーマンスにより評価する。	看護概論 基礎技術Ⅰ 基礎技術Ⅱ ヒューマンケア実習Ⅰ	キャリアデザインⅠ 看護倫理 看護理論 フィジカルアセスメントⅠ 臨床判断論 フィジカルアセスメントⅡ 家族看護論 ヒューマンケア実習Ⅱ	看護教育学Ⅰ					
	CP4 多様な場において、看護の対象となる人々のライフサイクルやあらゆる健康レベルに対応する看護を理解する科目を【専門教育科目】として『専門科目』『ライフサイクルと看護』に配置する。 教育方法 講義・演習科目では事前・事後学修やグループ発表等を計画し、主体的に相互学修ができるよう支援する。実習前の演習では、問題状況を含んだ臨場感のある事例を用いた課題解決型学修を取り入れる。実習後の演習では、講義と実習での学びの統合を図り、実践能力が修得できるように到達状況に応じて学修を支援する。実習科目では看護の専門職と共に実践した体験を意味づけて整理し、カンファレンス等を活用し、実習グループで学びを共有できるよう支援する。 評価方法 シラバスに示した評価方法に基づき評価を行う。実習前の演習科目では技術修得状況について評価指標を活用し評価する。学生の学修プロセスを含めたパフォーマンスを客観的に評価する。実習科目では評価基準表（ルーブリック）を活用し、思考過程や実践場面のパフォーマンス評価を行う。実習後の演習科目では実習目標の到達状況に応じ、知識や技能の補完状況を確認する。	生活機能支援論実習Ⅳ-①（老年）	生涯発達看護論Ⅰ（母性） 生涯発達看護論Ⅱ（小児） 生涯発達看護論Ⅲ（成人） 生涯発達看護論Ⅳ（老年） 生活機能支援論Ⅰ-①（母性） 生活機能支援論Ⅱ-①（小児） 生活機能支援論Ⅲ-①（急性） 生活機能支援論Ⅳ-①（老年） 生活機能支援論Ⅱ-②（慢性）	生活機能支援論実習Ⅰ（母性） 生活機能支援論Ⅱ-②（母性） 生活機能支援論実習Ⅱ（小児） 生活機能支援論Ⅱ-②（小児） 生活機能支援論Ⅲ-①（急性） 生活機能支援論Ⅲ-④（急性） エンドオブライフケア論 生活機能支援論実習Ⅲ-②（慢性） 生活機能支援論Ⅲ-⑤（慢性） 生活機能支援論実習Ⅳ-②（老年） 生活機能支援論Ⅳ-②（老年）					
DP4 多職種と連携・協働し、地域の人々の健康課題を解決する能力を有する	CP5 地域で生活する人々の健康課題を解決するために、継続的に、保健医療福祉チームの一員として多職種と連携・協働して行う看護を理解する科目を【専門教育科目】として『専門科目』『コミュニティと看護』に配置する。 教育方法 グループ発表等を計画し、主体的に相互学修ができるよう支援する。実習科目では、地域の健康課題に取り組む場での体験を意味づけて整理し、実習グループで学びを共有できるよう支援する。 評価方法 シラバスに示した評価方法に基づき評価を行う。学生の学修プロセスを含めたパフォーマンスを客観的に評価する。	メンタルヘルズ・アセスメント 地域包括ケア論Ⅰ（在宅） メンタルヘルズ・プロモーション	生活機能支援論Ⅴ-①（精神） 地域包括ケア論Ⅰ（在宅） メンタルヘルズ・プロモーション	生活機能支援論実習Ⅴ（精神） 生活機能支援論Ⅵ-②（精神） 地域包括ケア論Ⅱ（在宅・地域） 地域包括ケア論Ⅲ（地域・学校） 学校保健 チーム医療論 養護学概説	地域包括ケア論実習Ⅰ（老年） 地域包括ケア論実習Ⅱ（在宅） 地域包括ケア論実習Ⅲ-①（統合・管理） 地域包括ケア論実習Ⅳ-②（統合・地域） 地域包括ケア論Ⅳ（在宅）				
DP5 多様化する社会に対応し、継続的に看護を探究しようとする態度を身につける	CP6 多様化する社会に対応する看護専門職の役割を理解し、看護学の発展を探究する姿勢を養うための科目を【専門教育科目】として『専門科目』『看護の発展』に配置する。 教育方法 講義・演習科目では事前・事後学修やグループ発表等を計画し、主体的に相互学修ができるよう支援する。看護研究では研究論文の作成や発表を通して探求の態度が身につくよう支援する。 評価方法 シラバスに示した評価方法に基づき評価を行う。学生の学修プロセスを含めたパフォーマンスを客観的に評価する。		国際看護Ⅰ 災害看護Ⅰ キャリアデザインⅡ 看護研究Ⅰ	看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ	看護マネジメントⅠ 国際看護Ⅱ 災害看護Ⅱ 看護教育学Ⅱ 専門職論 看護政策論 看護研究Ⅲ	看護マネジメントⅡ 災害看護Ⅱ 看護教育学Ⅱ 看護研究Ⅳ			

【アドミッション・ポリシー】
 1. 看護に興味関心があり、将来看護職として社会で活動する意欲がある
 2. 看護学部での学びに必要な基礎的学力を備えている
 3. 他者の意見が尊重できるコミュニケーション能力を備えている
 4. 努力を惜しまず、主体的に行動できる



ディプロマ・ポリシーと各科目の関連

DP1 人間の尊厳を大切にし、良好な人間関係を築くための幅広い教養と知識を身につける

DP2 看護実践に必要な人間の健康と疾病についての基礎的知識を身につける

DP3 あらゆる人々と援助的人間関係を形成し、健康課題に対して科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を有する

DP4 多職種と連携・協働し、地域の人々の健康課題を解決する能力を有する

DP5 多様化する社会に対応し、継続的に看護を探究しようとする態度を身につける

科目区分	科目	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
共通教育科目	宗教と人間	キリスト教と人間	◎			
		現代とキリスト教	◎			
		人間論(哲学)	◎			
		宗教論	◎			
	社会と人間	心理学	◎			
		教育学概論 I	◎			
		ライフサイエンス	◎			
		社会学	◎			
		サービスラーニング	◎			
		キャリア入門	◎			
		セーフティプロモーション	◎			
		生活と化学	◎			
		社会と人権(日本国憲法)	◎			
		ジェンダー論	◎			
		生命倫理	◎			
	表現・行動と人間	くらしと色彩	◎			
		人と音楽	◎			
		音楽療法入門	◎			
		園芸療法入門	◎			
		体育講義	◎			
		スポーツと健康	◎			
	情報と人間	文章表現	◎			
		クリティカル・シンキング	◎			
		基礎ゼミ	◎			
		教養ゼミ	◎			
		社会調査法	◎			
		データサイエンス	◎			
		情報倫理	◎			
		情報リテラシー I	◎			
		情報リテラシー II	◎			
	言語・文化と人間	Speaking & Listening	◎			
		Writing	◎			
		Reading I	◎			
		Reading II	◎			
		Process Writing	◎			
		時事英語	◎			
医療英語		◎				
フランス語 I		◎				
フランス語 II		◎				
異文化交流(海外語学研修)		◎				
国際理解(カンボジア研修)		◎				
文化人類学(異文化理解)		◎				

科目区分		科目	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
専門教育科目	専門基礎科目	人体の構造と機能(解剖学)		◎			
		人体の構造と機能Ⅰ		◎			
		人体の構造と機能Ⅱ		◎			
		人体の構造と機能Ⅲ		◎			
		生化学		◎			
		微生物学・免疫学		◎			
		生命科学		◎			
		疾病治療論Ⅰ		◎			
		疾病治療論Ⅱ		◎			
		疾病治療論Ⅲ		◎			
		疾病治療論Ⅳ		◎			
		栄養学		◎			
		病理学		◎			
		心のしくみと働き		◎			
		臨床薬理学		◎			
		発達心理学		◎			
		生活機能論		◎			
		健康教育論		◎			
		環境と健康		◎			
		社会健康学		◎			
		社会心理学		◎			
		家族社会学		◎			
		医療倫理		◎			
		社会福祉論		◎			
		保健統計学		◎			
		公衆衛生学(疫学)		◎			
専門科目	看護の基礎	看護概論			◎	○	
		看護倫理	○		◎		
		基礎技術Ⅰ		○	◎		
		基礎技術Ⅱ		○	◎		
		フィジカルアセスメントⅠ		○	◎		
		フィジカルアセスメントⅡ		○	◎		
		看護理論		○	◎		
		臨床判断論		○	◎		
		キャリアデザインⅠ			◎		○
		家族看護論		○	◎		
		看護教育学Ⅰ			◎		○
		ヒューマンケア実習Ⅰ	○		◎		
		ヒューマンケア実習Ⅱ		○	◎		

科目区分		科目	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
専 門 教 育 科 目	ライ フ サイ クル と 看 護	生涯発達看護論Ⅰ(母性)			◎	○			
		生活機能支援論Ⅰ-①(母性)			◎				
		生活機能支援論Ⅰ-②(母性)			◎				
		生活機能支援論実習Ⅰ(母性)			◎	○			
		生涯発達看護論Ⅱ(小児)			◎	○			
		生活機能支援論Ⅱ-①(小児)			◎				
		生活機能支援論Ⅱ-②(小児)			◎				
		生活機能支援論実習Ⅱ(小児)			◎	○			
		生涯発達看護論Ⅲ(成人)			◎	○			
		生活機能支援論Ⅲ-①(急性)			◎				
		生活機能支援論Ⅲ-②(慢性)			◎				
		生活機能支援論Ⅲ-③(リハビリテーション)			◎	○			
		生活機能支援論Ⅲ-④(急性)			◎	○			
		生活機能支援論Ⅲ-⑤(慢性)			◎	○			
		生活機能支援論実習Ⅲ-①(急性)			◎	○			
		生活機能支援論実習Ⅲ-②(慢性)			◎	○			
		生涯発達看護論Ⅳ(老年)			◎	○			
		生活機能支援論Ⅳ-①(老年)			◎	○			
		生活機能支援論Ⅳ-②(老年)			◎	○			
		生活機能支援論実習Ⅳ-①(老年)			◎	○			
		生活機能支援論実習Ⅳ-②(老年)			◎	○			
		エンドオブライフケア論			◎	○			
		コ ミュ ニ ティ と 看 護	メンタルヘルス・アセスメント				○	◎	
			メンタルヘルス・プロモーション				○	◎	
	生活機能支援論Ⅴ-①(精神)					○	◎		
	生活機能支援論Ⅴ-②(精神)					○	◎		
	生活機能支援論実習Ⅴ(精神)					○	◎		
	地域包括ケア論Ⅰ(在宅)					○	◎		
	地域包括ケア論Ⅱ(在宅・地域)					○	◎		
	地域包括ケア論Ⅲ(地域・学校)					○	◎		
	地域包括ケア論Ⅳ(在宅)					○	◎		
	地域包括ケア論実習Ⅰ(老年)					○	◎		
	地域包括ケア論実習Ⅱ(在宅)					○	◎		
	地域包括ケア論実習Ⅲ-①(統合:管理)					○	◎		
	地域包括ケア論実習Ⅲ-②(統合:地域)					○	◎		
	チーム医療論						◎		
	学校保健						◎		
	養護学概説					◎			
	看 護 の 発 展	看護マネジメント論Ⅰ				○	◎		
		看護マネジメント論Ⅱ				○	◎		
		国際看護Ⅰ				○	◎		
		国際看護Ⅱ					◎		
		災害看護Ⅰ				○	◎		
		災害看護Ⅱ					◎		
		キャリアデザインⅡ					◎		
		看護研究Ⅰ		○	○		◎		
		看護研究Ⅱ		○	○		◎		
看護研究Ⅲ			○	○		◎			
看護研究Ⅳ			○	○		◎			
専門職論						◎			
看護政策論						◎			
看護教育学Ⅱ					◎				

グループ番号（ ） 学籍番号（ ） 氏名（ ）

実習目標	評価資料となる場面 や成果物	評価規準	評価基準				学生 教員	評価理由等
			十分達成できた	達成できた	達成不十分	達成できなかった		
1. 実習病院の機能や役割、病院・病棟の構造を説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> 日々の実習記録 病院のオリエンテーション参加状況 質問時やカンファレンスでの発言 	実習病院の概要（病院・看護部の理念、目標、地域における位置づけなど）について説明することができる。	<input type="checkbox"/> 実習病院の概要について記述整理し、事前学習等を参考に考察できる。 <input type="checkbox"/> 上記の内容を自分の言葉で説明できる。	<input type="checkbox"/> 病院の概要について記述整理し、事前学習内容等と比較できている。 <input type="checkbox"/> 上記の内容を自分の言葉で説明できる。	<input type="checkbox"/> 病院の概要のみ記述して、事前学習を参考にできていない。 <input type="checkbox"/> 上記の内容を自分の言葉で説明できる。	<input type="checkbox"/> 実習病院の概要について記述整理が困難である。 <input type="checkbox"/> この内容に関して自分の言葉で説明が困難である。		
		実習病棟の概要（看護体制・病棟の特徴・業務内容・病棟の環境）について説明することができる。	<input type="checkbox"/> 病棟の構造について記述整理し、事前学習等を参考に考察できる。 <input type="checkbox"/> 上記の内容を自分の言葉で説明できる。	<input type="checkbox"/> 病院の構造について記述整理し、事前学習内容等と比較できている。 <input type="checkbox"/> 上記の内容を自分の言葉で説明できる。	<input type="checkbox"/> 病院の構造のみ記述整理し、事前学習を参考にできていない。 <input type="checkbox"/> 上記の内容を自分の言葉で説明できる。	<input type="checkbox"/> 病院の構造について記述が困難である。 <input type="checkbox"/> この内容に関して自分の言葉で説明が困難である。		
		患者が入院生活をおくる環境について説明することができる。	<input type="checkbox"/> 入院生活の環境について記述整理し、事前学習等を参考に考察できる。 <input type="checkbox"/> 上記の内容を自分の言葉で説明できる。	<input type="checkbox"/> 入院生活の環境について記述整理し、事前学習内容等と比較できている。 <input type="checkbox"/> 上記の内容を自分の言葉で説明できる。	<input type="checkbox"/> 入院生活の環境のみ記述整理し、事前学習を参考にできていない。 <input type="checkbox"/> 上記の内容を自分の言葉で説明できる。	<input type="checkbox"/> 入院生活の環境について記述が困難である。 <input type="checkbox"/> この内容に関して自分の言葉で説明が困難である。		
2. 病院における看護実践に参加し、看護活動における生活支援の意義を考え、述べるができる。	<ul style="list-style-type: none"> 日々の実習記録 看護職の活動への動向や参加状況 質問時・カンファレンスでの発言 	看護職の実践に同行し、看護活動としての生活支援の意義を考察することができる。	<input type="checkbox"/> 看護活動としての生活支援の意味について記述整理し、事前学習等を参考に考察できる。 <input type="checkbox"/> 上記の内容を自分の言葉で説明できる。	<input type="checkbox"/> 看護活動としての生活支援の意味について記述整理し、事前学習等と比較している。 <input type="checkbox"/> 上記の内容を自分の言葉で説明できる。	<input type="checkbox"/> 看護活動の事実の記述のみで、事前学習等を参考にできていない。 <input type="checkbox"/> 上記の内容を自分の言葉で説明できる。	<input type="checkbox"/> 看護活動の事実の記述が困難である。 <input type="checkbox"/> この内容に関して自分の言葉で説明が困難である。		
3. 入院患者の生活の実際を観察し、コミュニケーションを図り看護の対象者の理解と自己理解を深めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 日々の実習記録、患者の理解に関する記録 対象者とのコミュニケーション場面 質問時やカンファレンスでの発言 	対象者とのコミュニケーションをとることができる。	<input type="checkbox"/> 患者や家族等とコミュニケーションをとることができる。 <input type="checkbox"/> 上記の内容を自分の言葉で説明できる。	<input type="checkbox"/> 患者や家族等から話しかけてもらおうとコミュニケーションをとることができる。 <input type="checkbox"/> 上記の内容を自分の言葉で説明できる。	<input type="checkbox"/> 看護の対象者である患者や家族等から話しかけられてもコミュニケーションをとることができない。 <input type="checkbox"/> 上記の内容を自分の言葉で説明できる。	<input type="checkbox"/> 患者や家族と話すことが困難な状態である。 <input type="checkbox"/> この内容に関して自分の言葉で説明が困難である。		
		対象者の健康状態や生活状況、病に対する思いなどを説明することができる。	<input type="checkbox"/> 対象者が健康状態や生活状況、病についてどのような思いを抱いているか知ることができる。 <input type="checkbox"/> 上記の内容を自分の言葉で説明できる。	<input type="checkbox"/> 対象者がどのような思いがあるか話してくれたことにより知りえた。 <input type="checkbox"/> 上記の内容を自分の言葉で説明できる。	<input type="checkbox"/> 看護の対象者の話は聞くが、思いの理解にはつながらない。 <input type="checkbox"/> 上記の内容を自分の言葉で説明できる。	<input type="checkbox"/> 看護の対象者の思いに興味関心がもてない。 <input type="checkbox"/> この内容に関して自分の言葉で説明が困難である。		
		倫理的配慮のある対応を取るとはどのようなことか説明ができる。	<input type="checkbox"/> 倫理的配慮を意識してコミュニケーションをとることができる。 <input type="checkbox"/> 上記の内容を自分の言葉で表現できる。	<input type="checkbox"/> 倫理的配慮を意識してコミュニケーションをとろうとするが、十分ではない。 <input type="checkbox"/> 上記の内容を自分の言葉で説明できる。	<input type="checkbox"/> 本人は倫理的配慮を意識しているが、配慮に欠ける言動がある。 <input type="checkbox"/> 上記の内容を自分の言葉で説明できる。	<input type="checkbox"/> 倫理的配慮を意識するのが困難な状態である。 <input type="checkbox"/> この内容に関して自分の言葉で説明が困難である。		
		他者とのコミュニケーションの過程で、自分の感情がどのように反応しているか意識することができる。	<input type="checkbox"/> 他者とのコミュニケーションの過程で、自分の感情がどのように反応しているか意識することができる。 <input type="checkbox"/> 上記の内容を自分の言葉で表現できる。	<input type="checkbox"/> 他者とのコミュニケーションの過程で、自分の感情を意識することが十分ではない。 <input type="checkbox"/> 上記の内容を自分の言葉で説明できる。	<input type="checkbox"/> 他者とのコミュニケーションの過程で、自分の感情を意識することがあまりできない。 <input type="checkbox"/> 上記の内容を自分の言葉で説明できる。	<input type="checkbox"/> 他者とのコミュニケーションが困難な状態である。 <input type="checkbox"/> この内容に関して自分の言葉で説明が困難である。		
4. 病院の中で活躍している様々な看護職の存在を知り、自己の看護職へのイメージ述べるができる。	<ul style="list-style-type: none"> 日々の実習日誌、実習レポート 看護の対象者とのコミュニケーション場面 質問時・カンファレンスでの発言 	看護職の活動現場を体験し、学びとなったことを説明できる。	<input type="checkbox"/> 体験した内容を自己の学びとして整理し、事前学習等を参考に考察できる。 <input type="checkbox"/> 上記の内容を自分の言葉で説明できる。	<input type="checkbox"/> 体験した内容を自己の学びとして整理し、事前学習等と比較できている。 <input type="checkbox"/> 上記の内容を自分の言葉で説明できる。	<input type="checkbox"/> 体験した内容を自己の学びとして整理できず、事前学習を参考にできない。 <input type="checkbox"/> 上記の内容を自分の言葉で説明できる。	<input type="checkbox"/> 体験した内容を自己の学びとして整理するのが困難な状態である。 <input type="checkbox"/> この内容に関して自分の言葉で説明が困難である。		

【養護及び教職に関する科目】

免許法施行規則に定める科目及び単位数			本学で開講する科目及び単位数		
養護及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数	授業科目	単位数	備考
養護に関する科目	衛生学及び公衆衛生学(予防医学を含む)	4	環境と健康	1	必修
			社会健康学	1	必修
	学校保健	2	保健統計学	1	必修
			公衆衛生学(疫学)	1	必修
	養護概説	2	学校保健	2	必修
			養護学概説	2	必修
	健康相談活動の理論及び方法	2	健康教育論	1	必修
			地域包括ケア論Ⅲ(地域・学校)	1	必修
	栄養学(食品学を含む)	2	栄養学	1	必修
			生化学	1	必修
解剖学及び生理学	2	人体の構造と機能(解剖学)	1	必修	
		人体の構造と機能Ⅱ	1	必修	
「微生物学、免疫学、薬理概論」	2	微生物学・免疫学	1	必修	
		臨床薬理学	1	必修	
精神保健	2	心のしくみと働き	1	必修	
		メンタルヘルス・アセスメント	1	必修	
看護学(臨床実習及び救急処置を含む)	10	看護概論	1	必修	
		基礎技術Ⅱ	2	必修	
		ヒューマンケア実習Ⅱ	2	必修	
		生涯発達看護論Ⅰ(母性)	2	必修	
		生涯発達看護論Ⅱ(小児)	2	必修	
		生涯発達看護論Ⅲ(成人)	1	必修	
		生涯発達看護論Ⅳ(老年)	1	必修	
		計	29		
		計	28		
		教育の基礎的理解に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教職の意義及び教員の役割・職務内容 ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 ・教育課程の意義及び編成の方法 	8	教育原理
教職論	1				必修
教育制度論	1				必修
教育心理学	2				必修
特別支援教育	1				必修
教育課程論	1				必修
計	8				
計	28				
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳、特別活動及び総合的な学習の時間に関する内容 ・教育の方法及び技術 ・生徒指導の理論及び方法 ・教育相談の理論及び方法 	6	道徳教育の理論と方法	1	必修
			特別活動及び総合的な学習の指導法	1	必修
			教育の方法と技術	2	必修
			生徒指導	1	必修
			教育相談	1	必修
計	6				
教育実践に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> ・養護実習 ・教育実践演習 	5	事前及び事後指導(養護)	1	必修
			養護実習	2	必修
			教職インターンシップ	2	必修
		2	教職実践演習(養護教諭)	2	必修
			計	7	
			計	5	
大学が独自に設定する科目		7	教育学概論Ⅰ	1	必修
			基礎技術Ⅰ	2	必修
			家族看護論	1	必修
			臨床判断論	1	必修
			サービスラーニング	1	必修
			セーフティプロモーション	1	必修
			計	7	
計	56				
計		57			

【教育職員免許法施行規則第66の6に定める科目】

免許法施行規則に定める科目及び単位数			本学で開講する科目及び単位数		
科目	最低修得単位数		授業科目	単位数	備考
日本国憲法	2		社会と人権(日本国憲法)	2	必修
体育	2		体育講義	1	必修
			スポーツと健康	1	必修
外国語コミュニケーション	2		Speaking & Listening	1	必修
			Writing	1	必修
			Reading I	1	必修
			Reading II	1	
			Process Writing	1	
			時事英語	1	
			異文化交流(海外語学研修)	2	
			情報リテラシーⅠ	1	必修
情報機器の操作	2		情報リテラシーⅡ	1	必修
		計	14		
計	8		計	14	

【資料 35】

大学設置当初における職員の採用に関する指針

第1条 大阪信愛学院大学(仮称、以下『大学』とする。)の設置当初における教育職員の採用については採用規程 12 条(※1)の既定に基づき、本指針を適用の上、個別契約により行うものとする。

第2条 大学の設置当初の採用における契約期間は、就業規則第7条(※2)の規定にかかわらず、採用日から大学完成年度末日までの最長4年とすることができる。

第3条 定年規程第2条(※3)の規程にかかわらず、大学教育職員の定年年齢を70歳とする。

2 なお、前条に規定する契約期間が終了するまで、70歳を越えて契約することがある。

第4条 大学の設置当初において、及び、大学の設置年度以降においても、大学教育の質を確保する観点より必要があると認めた場合は、前条第1項に規定する定年年齢を超えて採用することがある。

2 ただし、大学完成年度以降において定年年齢を越えて採用する場合の契約期間は1年を上限とする。

3 定年年齢を超えて採用しようとする時は、所属長又は関係者の推薦に基づき、任命権者がこれをおこなう。

附 則

1. 令和2年10月20日理事会決定の本指針は、大学設置年度である令和4年度以降の大学採用者に適用し、大学設置年度より8年間有効とする。

2. 事務職員の採用に関しても、本指針を準用する。

※1 【採用規程】 第12条(その他) この規程の施行について、必要な内規または細則は別に定める。

※2 【就業規則】 第7条(契約期間) 職員の雇用契約の期間は、次のとおりとする。

1)専任職員の雇用契約は、期間の定めはないものとする。

2)期間を定めた常勤職員・非常勤職員の雇用契約は、1年の期間を上限に行なう。

3)前号の場合には、契約を更新することがある。

※3 【定年規程】 第2条(定年の年齢) 職員は、下記年齢に達したとき定年退職する。

【資料 36】

教育学部におけるアクティブ・ラーニングの考えに基づく教育方法

教育学部では、アクティブ・ラーニングの考えに基づいた教育を行う。以下に主な科目と具体的な取り入れ方法について示す。

○情報の扱いに関する科目（「情報リテラシーI」「情報リテラシーII」「データサイエンス」「クリティカル・シンキング」「社会調査法」「文章表現」「基礎ゼミ」「教養ゼミ」等）

……これらの科目では、アクティブ・ラーニングを効果的に行うために必要な、情報の扱いに関する基礎的な知識と技術を身に付け、情報の解読や客観的思考を学習する。具体的には、情報機器やアプリケーションの操作方法について学んだ上で、実際にそれらを用いて情報収集、集計、プレゼンテーション資料の作成を行い、最終的にはグループで発表する。文章や映像を基にレジュメやスライドショーを作成し、グループで客観的な検討を行う。

また、情報活用の発展としてプログラミングにおける問題の発見・分解・抽象化・一般化・組み合わせから分析・評価に至るプロセスを通して、問題解決型思考力を育むとともに統計解析の手法についても理解を深める。卒業研究へ向けて関心を高めるため、身近な社会現象の実例や教育事例をテーマに分析手法の基礎とその適用方法を学ぶ。目的に合った適切な方法で社会調査を実施・分析し、結果をまとめる能力を培う。

○領域に関する科目（「幼児と健康論」「幼児と人間関係論」「幼児と環境論」「幼児と言葉論」「幼児と表現論」）子どもの包括的理解に関する科目（「特別支援教育学」「障害児保育論」「幼児の理解」等）

……5領域科目においては、理論を学ぶ際には子どもの理解とともに学習することが必要である。また、子どもの包括的理解に関する科目においても、様々な角度から子どもを理解する力を養うことが必要である。そこで、事例学習を用いてグループディスカッションをしながら、他者の視点を取り入れ、根拠を基に考える学習を取り入れる。

○実践に関する科目（「初等教育課程論」「保育・教育課程論」「初等教育方法学」「ICT活用演習」「初等教育相談」「子ども家庭支援論」「教職実践演習（幼・小）」等）

……これらは実際に即した学習が必要な科目であり、他者と協同して作り上げていくものであるため、事例学習などによる分析や、ディスカッションが必要である。また、教育方法や支援方法についても、個人で進めていくものではなく、他者との議論により客観的な視点を基に、協同して支援策を考えていくものであるため、事例学習、ロールプレイ、ディスカッション、マイクロティーチング等を取り入れる。

○教科指導法（「初等国語科教育論」「初等理科教育論」等）・保育内容指導法科目（保育内容指導法（健康）、保育内容指導法（人間関係）、保育内容指導法（環境）等）

……これらの科目では、学習指導要領、幼稚園教育要領や保育所保育指針を基に、子どもの実態を踏まえて、実践へ向けた指導案作成や模擬授業を実践することになるが、教材研究や指導案検討の際にグループワークを取り入れ、模擬授業では相互評価を行うことによって、客観的に授業を見る視点や、他者と協同し教育・保育を探究する力を養う。

○実習に関する科目（「教育実習（幼・小）」「保育実習ⅠA」「保育実習ⅠB」「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」「教職インターンシップ」「教育実習事前事後指導」等）

……これらの科目では、実際の幼稚園、小学校、保育所での観察・参加・指導実習を通して、子どもと直接かかわり、子どもの実態を把握する。また、指導案作成、実践、省察、評価を行うことによって、指導教諭のアドバイスを受け試行錯誤することによって、主体的な実践能力を高める。実践後は、自己を振り返り、新たな自己課題を挙げる。

○少人数ゼミで課題解決に取り組む科目（「基礎ゼミ」「教養ゼミ」「教育学演習Ⅰ」「教育学演習Ⅱ」「教育学研究Ⅰ」「教育学研究Ⅱ」「卒業研究」）

……これらの科目では、各自が課題設定、研究計画、先行研究収集、調査、実験、分析、口頭発表、論文執筆を行う。

具体的にはまず、論理的に課題解決へ向けて進めるように議論しながら、課題解決の適切なプロセスを進める。課題解決のために収集する情報とその分析の方法については、公表された論文や専門書など、根拠に基づいた情報が記載されている資料を扱う。収集したものについてはゼミ形式で資料の客観的考察と論拠の確定を行いながら、課題解決にあたっての内容の適切性や評価等を議論する。同時に未解決の問題点や新たな課題についても議論する。導かれた結論をアウトプットする機会として、パワーポイント等を使用して発表を行い、レビュー形式で報告書をまとめる。発表は複数のグループで行い、活発な質疑ができるように事前に発表内容を把握できる発表要旨を作成する。

科目区分	1年				2年				3年				4年				必修	選択必修	選択	合計
	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位				
共通教育科目	人教と人間	キリスト教と人間 ◎	1	現代とキリスト教 ◎	1				人間論(哲学) ◎	1				宗教論 ◎	1	4		4		
	社会と人間	心理学 ○ 教育学概論Ⅰ ◎ 教育学概論Ⅱ ◎ キャリア入門 ◎	1 1 1 1	ライフサイエンス ◎ 社会と人権(日本国憲法) ◎ 生命倫理 ◎	1 2 1	サービスマーケティング ◎		1									8	1	9	
	行動表と現人・間	体育講義 ◎	1	体育実技 ◎ くらしと色彩 ○	1 1												2	1	3	
	情報と人間	文章表現 基礎ゼミ ◎ 情報倫理 ◎ 情報リテラシーⅠ ◎	1 1 1 1	教養ゼミ ◎	1			クリティカル・シンキング ◎	1								5	1	6	
	文化言と語人・間	Speaking & Listening ◎ Writing ◎	1 1	ReadingⅠ ◎	1	Process Writing ○	1	ReadingⅡ ○	1				時事英語 ○	1			3	3	6	
	合計		12		9		1		3		1			0		1		22	5	1

専門教育科目	学科共通	教育原理 ◎	2					教育学演習Ⅰ ◎	2	教育学演習Ⅱ ◎	2	教育学研究Ⅰ ◎	2	教育学研究Ⅱ ◎	2	10			10		
	学科コア科目	初等音楽論Ⅰ ◎ 初等図工論Ⅰ ◎ 幼児と環境論 ◎ 幼児と言葉論 ◎ 保育内容総論 ◎	1 1 1 1 2	教育心理学 ◎ 教育制度論 ◎ 初等国語論 ◎ 初等音楽論Ⅱ ◎ 初等図工論Ⅱ ◎ 初等教育課程論 ○ 幼児と人間関係論 ◎ 幼児と表現論 ○	2 2 2 1 1 2 1 1 1	教職論 ○ 初等体育論Ⅰ ◎ 特別支援教育学 ◎ 初等算数論 ○ 初等社会科教育論 ○ 初等理科教育論 ○ 初等家庭科教育論 ○ 幼児と健康論 ○ 保育内容指導法(健康) ○ 保育内容指導法(人間関係) ◎ 保育内容指導法(環境) ◎ 保育内容指導法(言葉) ◎ 保育内容指導法(表現) ○	2 1 2 2 2 2 2 1 1 1 1 1	初等算数科教育論 ○ 初等生活科教育論 ○ 初等音楽科教育論 ○ 初等図工科教育論 ○ 初等体育科教育論 ○ 初等英語科教育論 ○ 初等教育方法学 ◎	2 2 2 2 2 2 2			1 2					23	36	0	59	
	学科展開科目	保育原理 ◎ 社会福祉論 ◎	2 2	子ども家庭福祉 ◎	2	幼児の理解 ○ 幼児音楽指導法Ⅰ ○ 幼児造形指導法Ⅰ ○ 教育実習事前事後指導 ○	1 1 1	ICT活用演習 ◎ 幼児音楽指導法Ⅱ ○ 幼児造形指導法Ⅱ ○	1 1 1	初等教育相談 ◎ 初等道徳教育論 ○	2 2	初等特別活動指導論 ○ 総合的な学習の指導論 ○	1 1	卒業研究 ◎		2 5			14	15	0
合計		12		14		18		11		20		12		2		9		47	51	0	98

教育実習(幼・小) ○
(4単位)
小学校教育実習
9月集中 4週間

合計	24	23	19	14	21	12	3	10	69	56	1	126
----	----	----	----	----	----	----	---	----	----	----	---	-----

履修モデル②【幼児教育コース】基本モデル(幼稚園教諭一種免許・保育士資格 取得)

◎必修、○選択必修

卒業要件単位 124単位

科目区分	1年				2年				3年				4年				必修	選択必修	選択	合計	
	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位					
共通教育科目	人教と人間	キリスト教と人間 ◎	1	現代とキリスト教 ◎	1				人間論(哲学) ◎	1					宗教論 ◎	1	4			4	
	社会と人間	心理学 ○ 教育学概論Ⅰ ◎ 教育学概論Ⅱ ◎ キャリア入門 ◎	1 1 1 1	ライフサイエンス ◎ 社会と人権(日本国憲法) ◎ 生命倫理 ◎	1 2 1	サービスラーニング ◎	1										8	1		9	
	行動表と現人・間	体育講義 ◎	1	体育実技 ◎ くらしと色彩 ○	1 1													2	1		3
	情報と人間	文章表現 基礎ゼミ ◎ 情報倫理 ◎ 情報リテラシーⅠ ◎	1 1 1 1	教養ゼミ ◎	1			クリティカル・シンキング ◎	1										5	1	6
	文化言と語人・間	Speaking & Listening ◎ Writing ◎	1 1	ReadingⅠ ◎	1	Process Writing ○	1	ReadingⅡ ○	1					時事英語 ○	1			3	3		6
	合計		12		9		1		3		1			0		1		1	22	5	1

専門教育科目	学科目共通	教育原理 ◎	2					教育学演習Ⅰ ◎	2	教育学演習Ⅱ ◎	2	教育学研究Ⅰ ◎	2	教育学研究Ⅱ ◎	2	10				10		
	学科コア科目	初等音楽論Ⅰ ◎ 初等図工論Ⅰ ◎ 幼児と環境論 ◎ 初等音楽論Ⅱ ◎ 幼児と言葉論 ◎ 保育内容総論 ◎	1 1 1 1 1 2	教育心理学 ◎ 教育制度論 ◎ 初等国語論 ◎ 初等音楽論Ⅱ ◎ 初等図工論Ⅱ ◎ 保育・教育課程論 ○ 幼児と人間関係 ◎ 幼児と表現論 ○	2 2 2 1 1 2 1 1 1	保育者論 ○ 初等体育論Ⅰ ◎ 特別支援教育学 ◎ 幼児と健康論 ○ 保育内容指導法(健康) ○ 保育内容指導法(人間関係) ◎ 保育内容指導法(環境) ◎ 保育内容指導法(言葉) ◎ 保育内容指導法(表現) ○	2 1 2 1 1 1 1 1 1	初等教育方法学 ◎ 初等音楽論Ⅲ ○	2 1										23	9		32
	学科展開科目	教育原理 ◎ 社会福祉論 ◎	2 2	子ども家庭福祉 ◎	2	幼児の理解 ○ 幼児音楽指導法Ⅰ ○ 社会的養護Ⅰ 幼児造形指導法Ⅰ ○ 子どもの保健 子どもの食と栄養 リトミック演習 教育実習事前事後指導 ○	1 1 2 1 2 2 1 1	ICT活用演習 ◎ 幼児音楽指導法Ⅱ ○ 幼児造形指導法Ⅱ ○ 子ども家庭支援論 乳児保育Ⅰ 保育実習指導ⅠB 社会的養護Ⅱ 教職インターンシップ ○ 保育実習指導ⅠA	1 1 2 2 2 1 1 1	初等教育相談 ◎ 子ども家庭支援の心理学 乳児保育Ⅱ 子どもの健康と安全 保育実習指導ⅠB 保育実習指導Ⅱ	2 2 1 1 1 1	子育て支援 卒業研究 ◎	1 5		教職実践演習(幼・小) ○	2				14	14	26
合計		12		14		21		8		15		15		2		9	47	23	26	96		

合計	24	23	22	11	16	15	3	10	69	29	26	124
----	----	----	----	----	----	----	---	----	----	----	----	-----

※3年次5月中旬は幼稚園教育実習のため、他の授業は行わない。それに伴い、3年次前期の授業期間を17週とする。
※祝日等で各科目の授業時間が不足する場合は土曜日及び空き時間等に補講を行う。

科目区分	1年				2年				3年				4年				必修	選択必修	選択	合計
	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位				
共通教育科目	宗教と人間	キリスト教と人間 ◎	1	現代とキリスト教 ◎	1				人間論(哲学) ◎	1					宗教論 ◎	1	4		4	
	社会と人間	心理学 ○ 教育学概論Ⅰ ◎ 教育学概論Ⅱ ◎ キャリア入門 ◎	1 1 1 1	ライフサイエンス ◎ 社会と人権(日本国憲法) ◎ 生命倫理 ◎	1 2 1	サービスマーケティング ◎		→	1								8	1	9	
	行動表と現人・間	体育講義 ◎	1	体育実技 ◎ くらしと色彩 ○	1 1													2	1	3
	情報と人間	文章表現 基礎ゼミ ◎ 情報倫理 ◎ 情報リテラシーⅠ ◎	1 1 1 1	教養ゼミ ◎	1				クリティカル・シンキング ◎	1								5	1	6
	文化言と語人・間	Speaking & Listening ◎ Writing ◎	1 1	ReadingⅠ ◎	1	Process Writing ○	1	ReadingⅡ ○	1					時事英語 ○	1			3	3	6
	合計		12		9		1		3		1			0		1		22	5	1

専門教育科目	学科共通	教育原理 ◎	2					教育学演習Ⅰ ◎	2	教育学演習Ⅱ ◎	2	教育学研究Ⅰ ◎	2	教育学研究Ⅱ ◎	2	10			10	
	学科コア科目	初等音楽論Ⅰ ◎ 初等図工論Ⅰ ◎ 幼児と環境論 ◎ 幼児と言葉論 ◎ 保育内容総論 ◎	1 1 1 1 2	教育心理学 ◎ 教育制度論 ◎ 初等国語論 ◎ 初等音楽論Ⅱ ◎ 初等図工論Ⅱ ◎ 初等教育課程論 ○ 幼児と人間関係 ◎ 幼児と表現論 ○	2 2 2 1 1 2 1 1 1 1	教職論 ○ 初等体育論Ⅰ ◎ 特別支援教育学 ◎ 初等算数論 ○ 初等英語論 ○ 幼児と健康論 ○ 保育内容指導法(健康) ○ 保育内容指導法(人間関係) ◎ 保育内容指導法(環境) ◎ 保育内容指導法(言葉) ◎ 保育内容指導法(表現) ○	2 1 2 2 2 1 1 1 1 1 1		初等算数科教育論 ○ 初等生活科教育論 ○ 初等社会科教育論 ○ 初等理科教育論 ○ 初等体育科教育論 ○ 初等英語科教育論 ○ 初等教育方法学 ◎	2 2 2 2 2 2 2	初等音楽論Ⅲ ○ 初等生徒・進路指導論 ○	1 2					23	36	0	59
	学科展開科目	保育原理 ◎ 社会福祉論 ◎	2 2	子ども家庭福祉 ◎	2	幼児の理解 ○ 幼児音楽指導法Ⅰ ○ 幼児造形指導法Ⅰ ○ 教育実習事前事後指導 ○	1 1 1 1	ICT活用演習 ◎ 幼児音楽指導法Ⅱ ○ 幼児造形指導法Ⅱ ○	1 1 1	初等教育相談 ◎ 初等道徳教育論 ○	2 2	初等特別活動指導論 ○ 総合的な学習の指導論 ○	1 1	卒業研究 ◎	→	5				
										子育て支援 乳児保育Ⅰ 子ども家庭支援論	1 2 2	子どもの保健 乳児保育Ⅱ 子どもの健康と安全 社会的養護Ⅰ 子どもの食と栄養	2 1 1 2 2	教職実践演習(幼・小) ○ 社会的養護Ⅱ	2 1	14	15	14	43	
合計		12		14		18		11		20		17		10		10	47	51	14	112

合計		24		23		19		14		21		17		11		11	69	56	15	140
----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	----	----	----	-----

科目区分	1年				2年				3年				4年				必修	選択必修	選択	合計	
	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位					
共通教育科目	人教と人間	キリスト教と人間 ◎	1	現代とキリスト教 ◎	1				人間論(哲学) ◎	1					宗教論 ◎	1	4		4		
	社会と人間	心理学 ○ 教育学概論Ⅰ ◎ 教育学概論Ⅱ ◎ キャリア入門 ◎	1 1 1 1	ライフサイエンス ◎ 社会と人権(日本国憲法) ◎ 生命倫理 ◎	1 2 1	サービスラーニング ◎	1										8	1	9		
	行動表と現人・間	体育講義 ◎	1	体育実技 ◎ くらしと色彩 ○	1 1													2	1	3	
	情報と人間	文章表現 基礎ゼミ ◎ 情報倫理 ◎ 情報リテラシーⅠ ◎	1 1 1 1	教養ゼミ ◎	1			クリティカル・シンキング ◎	1										5	1	6
	文化言と語人・間	Speaking & Listening ◎ Writing ◎	1 1	ReadingⅠ ◎	1	Process Writing ○	1	ReadingⅡ ○	1					時事英語 ○	1			3	3	6	
	合計		12		9		1		3		1		0		1		1	22	5	1	28

専門教育科目	学科共通	教育原理 ◎	2					教育学演習Ⅰ ◎	2	教育学演習Ⅱ ◎	2	教育学研究Ⅰ ◎	2	教育学研究Ⅱ ◎	2	10			10		
	学科コア科目	初等音楽論Ⅰ ◎ 初等図工論Ⅰ ◎ 幼児と環境論 ◎ 幼児と言葉論 ◎ 保育内容総論 ◎	1 1 1 1 2	教育心理学 ◎ 教育制度論 ◎ 初等国語論 ◎ 初等音楽論Ⅱ ◎ 初等図工論Ⅱ ◎ 保育・教育課程論 ○ 幼児と人間関係 ◎ 幼児と表現論 ○	2 2 2 1 1 2 1 1 1	保育者論 ○ 初等体育論Ⅰ ◎ 特別支援教育学 ◎ 幼児と健康論 ○ 保育内容指導法(健康) ○ 保育内容指導法(人間関係) ◎ 保育内容指導法(環境) ◎ 保育内容指導法(言葉) ◎ 保育内容指導法(表現) ○	2 1 2 1 1 1 1 1 1	初等教育方法学 ◎	2	初等音楽論Ⅲ ○ 初等生徒・進路指導論 ○ 初等教育課程論 ○ 初等国語科教育論 ○ 初等社会科教育論 ○ 初等理科教育論 ○ 初等家庭科教育論 ○	1 2 2 2 2 2 2	教職論 ○ 初等算数科教育論 ○ 初等生活科教育論 ○ 初等音楽科教育論 ○ 初等図工科教育論 ○ 初等体育科教育論 ○ 初等英語科教育論 ○ 初等算数論 ○ 初等英語論 ○	2 2 2 2 2 2 2 2 2				23	39	62		
学科展開科目	教育原理 ◎ 社会福祉論 ◎	2 2	子ども家庭福祉 ◎	2	幼児の理解 ○ 幼児音楽指導法Ⅰ ○ 幼児造形指導法Ⅰ ○ 社会的養護Ⅰ 子どもの保健 子どもの食と栄養 教育実習事前事後指導 ○	1 1 1 2 2 2 2	ICT活用演習 ◎ 幼児音楽指導法Ⅱ ○ 幼児造形指導法Ⅱ ○ 子どもの家庭支援論 乳児保育Ⅰ 社会的養護Ⅱ	1 1 1 2 2 1	初等教育相談 ◎ 子ども家庭支援の心理学 乳児保育Ⅱ 子どもの健康と安全 保育実習指導ⅠB 保育実習指導ⅠA	2 2 1 2 1	子育て支援	1	初等道徳教育論 ○ 卒業研究 ◎	2 5	初等特別活動指導論 ○ 総合的な学習の指導論 ○ 教職実践演習(幼・小) ○	1 1 2		14	16	25	55
合計		12		14		20		8		13		27		22		11	47	55	25	127	

※3年次5月中旬は幼稚園教育実習のため、他の授業は行わない。それに伴い、3年次前期の授業期間を17週とする。
※祝日等で各科目の授業時間が不足する場合は土曜日及び空き時間等に補講を行う。

教育実習(幼・小)
○(4単位)前半
幼稚園教育実習
9月集中 2週間

保育実習ⅠA
(2単位)
保育所実習
2月集中 10日間

教育実習(幼・小)
○(4単位)後半
幼稚園教育実習
5月集中 2週間※

保育実習Ⅱ
(2単位)
保育所実習
9月集中 10日間

保育実習ⅠB
(2単位)
施設実習
12月集中 10日間

合計		24		23		21		11		14		27		23		12	69	60	26	155
----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	----	----	----	-----

●履修モデル

看護学部看護学科 (看護師国家試験受験資格)

無印:必修、○:選択(但し、選択必修科目には※をつけている)

卒業要件単位 132単位

科目区分	1年				2年				3年				4年				必修	選択必修	選択	合計
	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位				
共通教育科目	人間と人間	1	1	1					人間論(哲学)	1					1	4		4		
	社会と人間	1	1	1												4	1	3		
	発達と個人・関行	1	1	1												1	1	2		
	情報と個人	1	1	1													5	1		
	言語と個人・文化	1	1	1												1	3	4		
	合計	11		9		1		3		1					3	16	6	6		
専門基礎科目	人間の構造と機能(解剖学)	1	1	1	1	1	1	1												
	人間の構造と機能 I	2	2	2	2	2	2	2												
	社会心理学	1	1	1	1	1	1	1												
	心のしくみと働き	1	1	1	1	1	1	1												
	社会福祉論	1	1	1	1	1	1	1												
	生命科学	2	2	2	2	2	2	2												
	疾病治療論 I	2	2	2	2	2	2	2												
	疾病治療論 II	1	1	1	1	1	1	1												
	疾病治療論 III	1	1	1	1	1	1	1												
	疾病治療論 IV	1	1	1	1	1	1	1												
	健康教育学	1	1	1	1	1	1	1												
	社会健康学	1	1	1	1	1	1	1												
医療倫理	1	1	1	1	1	1	1													
保健統計学	1	1	1	1	1	1	1													
公衆衛生学(疫学)	1	1	1	1	1	1	1													
合計	6		8		11		3		0		0		0		0	28	0			
専門科目	看護概論	1	1	1	1	1	1	1												
	基礎技術 I	2	2	2	2	2	2	2												
	基礎技術 II	2	2	2	2	2	2	2												
	看護理論	1	1	1	1	1	1	1												
	臨床判断論	1	1	1	1	1	1	1												
	ケアデザイン I	1	1	1	1	1	1	1												
	看護教育学 I	1	1	1	1	1	1	1												
	合計	3		3		6		6		1		0		0		0	18	0		
	専門科目	ライフサイクルと看護																		
		生活機能支援論実習Ⅰ-①(老年)	1	1	1	1	1	1	1											
		生活機能支援論実習Ⅰ-②(母性)																		
		生活機能支援論実習Ⅰ-③(小児)																		
生活機能支援論実習Ⅰ-④(急性)																				
生活機能支援論実習Ⅰ-⑤(慢性)																				
生活機能支援論実習Ⅱ-①(母性)																				
生活機能支援論実習Ⅱ-②(小児)																				
生活機能支援論実習Ⅱ-③(急性)																				
生活機能支援論実習Ⅱ-④(慢性)																				
生活機能支援論実習Ⅱ-⑤(慢性)																				
生活機能支援論実習Ⅲ-①(急性)																				
生活機能支援論実習Ⅲ-②(慢性)																				
生活機能支援論実習Ⅲ-③(慢性)																				
生活機能支援論実習Ⅳ-①(老年)																				
生活機能支援論実習Ⅳ-②(老年)																				
合計	1		0		6		6		6		13		0		0	32	0			
専門科目	メンタルヘルス・アセスメント	1	1	1	1	1	1	1												
	メンタルヘルス・プロモーション																			
	生活機能支援論Ⅴ-①(精神)																			
	生活機能支援論Ⅴ-②(精神)																			
	地域包括ケア論Ⅰ(在宅)																			
	地域包括ケア論Ⅱ(在宅)																			
	地域包括ケア論Ⅲ(地域・学校)																			
	地域包括ケア論Ⅳ(在宅)																			
	チーム医療論																			
	合計	1		0		1		3		5		1		5		1	17	0		
	専門科目	看護研究 I																		
		看護研究 II																		
看護研究 III																				
看護研究 IV																				
国際看護 I																				
災害看護 I																				
ケアデザイン II																				
合計																				
合計		11		11		24		17		15		16		8		2	104	0		
合計		22		20		25		20		16		16		8		5	120	0		

●履修モデル

看護学部看護学科(看護師国家試験受験資格・養護教諭一種免許状取得)

学則別表2-4 養護教諭一種免許状 履修規程

印刷:必修、○:選択(ただし、養護教諭一種に必要な選択必修科目に※)

単位 150単位

科目区分		1年			2年			3年			4年			必修	選択	選択	合計			
		前期	後期	単位	前期	後期	単位	前期	後期	単位	前期	後期	単位							
共通教育科目	人間と社会	キリスト教と人間	現代とキリスト教	1			人間論(哲学)	1								4	4			
	社会と人間	心理学 ○ 教育心理学 I ○※	ライフサイエンス	1												4	4			
		キャリア入門	生命倫理	1			サービスマナー セルフイメージ	1								1	1			
	健康と個人・青年	体育講義 ○※ スポーツと健康 ○※	くらしと色彩 ○※	1													3	3		
		基礎ゼミ 情報倫理 情報リテラシー I	就業ゼミ 情報リテラシー II ○※	1			クリティカルシンキング	1								5	1			
	富と個人・国際文化	Speaking & Listening	Reading I Writing	1			Reading II ○※ Process Writing ○※	1						時事英語 ○※	1	3	3			
																	2	2		
	合計		10	10	1	4	1	1									2	16		
	専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能(解剖学)	人体の構造と機能Ⅱ	1	1	1	2	1									28	1	
人体の構造と機能Ⅰ			人体の構造と機能Ⅲ	1	1	1	1	1												
社会心理学			生化学	1	1	1	1	1												
心のしくみと働き			微生物学・免疫学	1	1	1	1	1												
小計			3	3	6	6	6	6	1	0							0	28		
		看護教育科目	看護概論	看護倫理	1	1	2	2	1	1									18	1
基礎技術Ⅰ			基礎技術Ⅱ	2	2	1	1	2	1											
小計			3	3	6	6	6	6	1	0								0	18	
		ライフサイエンスと看護	生涯発達看護論Ⅰ(母性)	生涯発達看護論Ⅱ(小児)	2	2	1	1	1	2										
			生涯発達看護論Ⅲ(成人)	生涯発達看護論Ⅳ(老年)	1	1	1	1	1	1	1									
			生活機能支援論Ⅰ-①(急性)	生活機能支援論Ⅱ-①(急性)	1	1	1	1	1	1	1	1								
	生活機能支援論Ⅲ-②(慢性)		生活機能支援論Ⅳ-②(慢性)	1	1	1	1	1	1	1	1									
小計		1	1	6	6	6	6	1	3	2	1	1	1	1	1	2	1	32		
	メンタルヘルス・コミュニケーションと看護	メンタルヘルス・アセスメント	メンタルヘルス・プロモーション	1	1	1	1	2					1	1	1	1	1			
小計																				
	看護の発展				1	1	2	1	1											
合計				11	11	25	17	3	19	2	16	3	2	1	2	3	9			
教育科目			教育原理	2													21	1		
			教育論	1																
			教育制度論	1																
			教育心理学	2																
	合計			6	0	0	0	8	0	2							2	21		
合計			21	27	29	21	28	10	16	3	16	3	2	1	2	5	21			

短大 子ども教育学科・四大 教育学部 教育学科 前期 時間割

授業時間	学年 コース	I				II				III				IV				V																		
		コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室															
月	短・子 2年生	A	現代とキリスト教[a]	宮本	J201	保育内容(表現)	荒木 東前 東本	J206 ML J301 J101 J102	算数科指導法【小免選択必修】 園芸論【選択】	平田 寺田	J205 T203	外国語(英語)指導法【小免選択必修】 ガーデニング【選択】	佐久 寺田	J205 T203	ガーデニング【選択】	寺田	T203	ガーデニング【選択】	寺田	T203	ガーデニング【選択】	寺田	T203													
		G																						Speaking & Listening ③ Writing ④ Reading I ⑤ 情報リテラシー I ①	アラン 尾崎 佐久 市川 井内	J205 J204 J203 T105	保育内容総論①	小川	J204	Speaking & Listening ② Writing ① Reading I ⑧ 情報リテラシー I ③	アラン 佐久 井野崎 市川 井内	J202 J203 J204 T105	フランス語 I【選択】	エマニエル	J201	情報倫理 <前半8回>
B	こども音楽療育演習【選択】 ペアレント・エデュケーション【選択】 障害児保育【選択】	岩井 芝 智原																																		
C			心理学 <前半8回> 看 社会福祉論 <後半8回>(廣森)	齊藤	本4F 大講義室	教育原理	船寄	J201 J202	保育原理	森	J201 J202	初等図工論 I ①	東本 松崎	J101 J102	看 生命化学(高井)	東本 松崎	J101 J102																			
短・子 2年生	A	音図体実践力アップ講座(音楽 I) 【選択必修】 English Communication C【選択必修】																代田 佐久	J301 J205	乳児保育 II <前半8回> 教育方法・教育課程論	岡田 市川	J401 T105 J203	体育科指導法【小免選択必修】 乳児保育 II <前半8回>	荒木 岡田	J302 J401	14:40~ 現代と女性 II [a] 高井・岩熊	A今福 G宮本 B程野 C東前	J203 J204 J205 J206	幼児の造形活動[a] 看 現代と女性 II A(足高)	東本 宮本	J101 J102					
短・子 2年生	G		社会福祉論	松端	J201 J202	看 スポーツと健康(荒木)	基礎ゼミ 教育:齊藤・足高・金井・芝・谷原(舞) 看護:上田・西山・西村・高橋・有田	本2F 大講義室 ゼミ室 1~9 3F講義室3	文化人類学(異文化理解)【選択】 <前半8回>	藤井(真)	本4F 大講義室	キリスト教と人間 <前半8回>	宮本	本2F 大講義室																						
短・子 2年生	B														幼児と音楽[a] 東前・金井・奥田・川島・喜多 小齊・谷原(麻)・辻・中世古	東本	J101 J102															幼児と音楽[a] 東前・金井・奥田・川島・喜多 小齊・谷原(麻)・中世古・松田	ピアノセル ML・ 301	特別活動の指導法【小免】<前半8回> 言語表現 <後半8回>	石田 谷原(舞)	J302 (J301)
短・子 2年生	C	Speaking & Listening ⑧ Writing ⑦ Reading I ② 情報リテラシー I ②	アラン 尾崎 井野崎 市川 井内	J205 J204 J203 T105	幼児と環境論① <前半8回> 幼児と言葉論① <後半8回> 幼児と言葉論② <前半8回> 幼児と環境論② <後半8回>	矢野 谷原(舞) 谷原(舞) 矢野	J203 J302	Speaking & Listening ⑥ Writing ③ Reading I ④ 情報リテラシー I ④	アラン 尾崎 井野崎 市川 井内	J205 J203 J204 T105	看 カウンセリング論<前半8回>(芝) 教育学概論 I <前半8回> 教育学概論 II <後半8回> 船寄・梅野・廣森	深川	本館2F 大講義室	看 社会心理学<後半4回>(足高)				障害児保育論	智原	J204 J205																
短・子 2年生	A														子ども家庭支援論 社会と人権(日本国憲法)	芝 足高	J204 J302				音楽科指導法【小免選択必修】 子ども家庭支援論	東前 芝	J206 J203	音図体実践力アップ講座(図画工作 I)【選択必修】 音図体実践力アップ講座(体育 I) 【選択必修】	舟井 荒木	J101 J102 第1・2 体育館	保育内容(環境) 体育(幼児と運動)[a]	程野 馬場	J205 J302	(小教探勉強会) 【集中授業】 情報倫理(井内) 海外語学研修(英語) 国際社会と子どもの保育 教育実習(幼・小)(事前・事後指導を含む)	J205 J302					
短・子 2年生	G	人と音楽【選択】 <前半8回> 体育講義 <後半8回>	金井 梅野 荒木	J206 J201 J202	文章表現【選択】 <前半8回>	足高 谷原(舞)	J201 J202	初等音楽論 I ① 金井・奥田・東前・川島・喜多 楠本・小齊・谷原(麻)・辻・中世古・松田	ピアノセル ML	初等音楽論 I ② 金井・奥田・東前・川島・喜多 楠本・小齊・谷原(麻)・辻・中世古・松田	ピアノセル ML																									
短・子 2年生	B											子ども家庭支援論 社会と人権(日本国憲法)	芝 足高	J204 J302				音楽科指導法【小免選択必修】 子ども家庭支援論	東前 芝	J206 J203												音図体実践力アップ講座(図画工作 I)【選択必修】 音図体実践力アップ講座(体育 I) 【選択必修】	舟井 荒木	J101 J102 第1・2 体育館	保育内容(環境) 体育(幼児と運動)[a]	程野 馬場
短・子 2年生	C	子ども家庭支援論 社会と人権(日本国憲法)	芝 足高	J204 J302	音楽科指導法【小免選択必修】 子ども家庭支援論	東前 芝	J206 J203	音図体実践力アップ講座(図画工作 I)【選択必修】 音図体実践力アップ講座(体育 I) 【選択必修】	舟井 荒木	J101 J102 第1・2 体育館	保育内容(環境) 体育(幼児と運動)[a]				程野 馬場	J205 J302																				
四大・1年生	A											子ども家庭支援論 社会と人権(日本国憲法)	芝 足高	J204 J302			音楽科指導法【小免選択必修】 子ども家庭支援論	東前 芝	J206 J203	音図体実践力アップ講座(図画工作 I)【選択必修】 音図体実践力アップ講座(体育 I) 【選択必修】	舟井 荒木	J101 J102 第1・2 体育館	保育内容(環境) 体育(幼児と運動)[a]	程野 馬場	J205 J302											
四大・1年生	G	人と音楽【選択】 <前半8回> 体育講義 <後半8回>	金井 梅野 荒木	J206 J201 J202	文章表現【選択】 <前半8回>	足高 谷原(舞)	J201 J202	初等音楽論 I ① 金井・奥田・東前・川島・喜多 楠本・小齊・谷原(麻)・辻・中世古・松田	ピアノセル ML	初等音楽論 I ② 金井・奥田・東前・川島・喜多 楠本・小齊・谷原(麻)・辻・中世古・松田	ピアノセル ML																									
四大・1年生	B														子ども家庭支援論 社会と人権(日本国憲法)	芝 足高										J204 J302	音楽科指導法【小免選択必修】 子ども家庭支援論	東前 芝	J206 J203	音図体実践力アップ講座(図画工作 I)【選択必修】 音図体実践力アップ講座(体育 I) 【選択必修】	舟井 荒木	J101 J102 第1・2 体育館	保育内容(環境) 体育(幼児と運動)[a]	程野 馬場	J205 J302	
四大・1年生	C	子ども家庭支援論 社会と人権(日本国憲法)	芝 足高	J204 J302	音楽科指導法【小免選択必修】 子ども家庭支援論	東前 芝	J206 J203	音図体実践力アップ講座(図画工作 I)【選択必修】 音図体実践力アップ講座(体育 I) 【選択必修】	舟井 荒木	J101 J102 第1・2 体育館	保育内容(環境) 体育(幼児と運動)[a]	程野 馬場	J205 J302																							

学年	集中開講科目	担当	開講
1年	野外活動	荒木	後期
1年	国際理解(カボツア研修)	アラン他	前期
1年	異文化交流(海外語学研修)	アラン他	前期
1年	キャリア入門	徳珍・芝	前期

看護教育共通「共通教育科目」

学舎・教室名称等
J 大学1号館(城東学舎)
T 大学2号館(鶴見学舎)
本 本館
J101 図工室
J102 絵画室
J301 リズム室
ML 音楽室
J401 乳児保育実習室
T105 パソコンルーム

※祝日等で各科目の授業時間が不足する場合は土曜日及び空き時間等に補講を行う。

教育学部 教育学科 前期時間割

授業時間	学年 コース	I			II			III			IV			V			
		コード	科目	担当 教室	コード	科目	担当 教室	コード	科目	担当 教室	コード	科目	担当 教室	コード	科目	担当 教室	
月	1年生		Speaking & Listening ③ Writing ④ Reading I ⑤ 情報リテラシー I ①	アラン 尾崎 佐久 市川 井内	J205 J204 J203 T105	保育内容総論①	小川	J204	Speaking & Listening ② Writing ① Reading I ⑥ 情報リテラシー I ③	アラン 佐久 井野崎 市川 井内	J202 J203 J204 T105	フランス語 I【選択】	エマニュエル	J201	情報倫理 <前半8回>	市川 井内	T105
	2年生	初教	初等生活科論	酒井	J302	保育内容指導法(表現)① <後半8回>	東前	J301	初等算数論	坂井	J302	初等社会科論	大山	J205	Process Writing①【選択】	佐久	本2F 中講義室
火	1年生		心理学 <前半8回> 看 社会福祉論 <後半8回>(廣森)	齊藤	本4F 大講義室	教育原理	船寄	J201 J202	保育原理	森	J201 J202	初等図工論 I ①	東本 松崎	J101 J102			
	2年生	初教	データサイエンス【選択】 <前半8回>	上田	J201	初等理科論	高井	J302	教職論	船寄	J204	特別支援教育学①	廣森 智原	J204	子ども音楽療育概論	岩井	J301
水	1年生		社会福祉論	松端	J201 J202	看 スポーツと健康(荒木)			基礎ゼミ 教育:齊藤・足高・金井・芝・谷原(舞) 看護:上田・西山・西村・高橋・有田		本2F 大講義室 ゼミ室 1~9 3F講義 室3	文化人類学(異文化理解)【選択】 <前半8回>	藤井(真)	本4F 大講義室	キリスト教と人間 <前半8回>	宮本	本2F 大講義室
	2年生	初教	リズム演習	代田	J301	幼児音楽指導法 I ①	東前	ML J301	初等家庭科論	田中(順)	J205	幼児造形指導法 I ①	東本 松崎	J101 J102	モンテッソーリ保育論【選択】	竹田	J205
木	1年生		Speaking & Listening ⑥ Writing ⑦ Reading I ② 情報リテラシー I ②	アラン 尾崎 井野崎 市川 井内	J205 J204 J203 T105	幼児と環境論① <前半8回> 幼児と言葉論① <後半8回> 幼児と言葉論② <前半8回> 幼児と環境論② <後半8回>	矢野 谷原(舞) 谷原(舞) 矢野	J203 J302	Speaking & Listening ⑥ Writing ③ Reading I ④ 情報リテラシー I ④	アラン 尾崎 井野崎 市川 井内	J205 J204 T105	教育学概論 I <前半8回> 教育学概論 II <後半8回> 船寄・梅野・廣森	深川	本館2F 大講義室	障害児保育論	智原	J204 J205
	2年生	初教	幼児の理解① <前半8回> 保育内容指導法(環境)① <後半8回> 看 環境と健康 <後半8回>(高井)	小川 矢野	J206	初等体育論 I ①	梅野	J201	セーフティプロモーション【選択】 <前半8回> ジェンダー論【選択】 <後半8回>	徳珍 廣森	本館3F 中講義室	幼児と健康論 <前半8回> 保育内容指導法(健康)① <後半8回> ※後半初教のみ	大森 矢野	J205 J204			
金	1年生		人と音楽【選択】 <前半8回> 体育講義 <後半8回>	金井 梅野 荒木	J206 J201 J202	文章表現【選択】 <前半8回>	足高 谷原(舞)	J201 J202	初等音楽論 I ① 金井・奥田・東前・川島・喜多 楠本・小齊・谷原(麻)・辻・中世古・松田		ピアノ セル ML						
	2年生	初教	サービス・ラーニング(前3回) 足高・高橋・阪上・岡崎・井内・郷司 芝・荒木・谷原(舞)・東本		本館2F 大講義 室、ゼミ 室1~9、 3F講義 室2~3	Reading II ①【選択】 Reading II ②【選択】	佐久 井野崎	J204 J302	初等英語論	アラン	J201	保育内容指導法(人間関係)① <前半8回> 保育内容指導法(言葉)① <後半8回> 保育内容指導法(言葉)② <前半8回> 保育内容指導法(環境)② <後半8回>	矢野 小川 谷原(舞) 矢野	J203 J205			

学年	集中開講科目	担当	開講	学年	集中開講科目	担当	開講
2年~3年	教育実習(幼・小)	深川他	2年秋~3年春	1年	野外活動	荒木	後期
2年	子ども音楽療育実習	岩井	通年	1年	国際理解(カンボジア研修)	アラン他	前期
2年~3年	保育実習 I A	矢野・芝	2年秋~3年春	1年	異文化交流(海外語学研修)	アラン他	前期
2年	サビ・ラーニング	足高他	通年	1年	キャリア入門	徳珍・芝	前期
2年~3年	教職インターンシップ	市川他	2年後期~3年前期				
2年~3年	教育実習事前事後指導	深川他	通年				

※祝日等で各科目の授業時間が不足する場合は土曜日及び空き時間等に補講を行う。

看護教育共通「共通教育科目」

学舎・教室名称等
J 大学1号館(城東学舎)
T 大学2号館(鶴見学舎)
本 本館
J101 図工室
J102 絵画室
J301 リズム室
ML 音楽室
J401 乳児保育実習室
T105 パソコンルーム

教育学部 教育学科 前期時間割

授業時間	学年 コース	I				II				III				IV				V			
		コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室
月	1年生		Speaking & Listening ③ Writing ④ Reading I ⑤ 情報リテラシー I ①	アラン 尾崎 佐久 市川 井内	J205 J204 J203 T105	保育内容総論①	小川	J204	Speaking & Listening ② Writing ① Reading I ⑥ 情報リテラシー I ③	アラン 佐久 井野崎 市川 井内	J202 J203 J204 T105	フランス語 I【選択】	エマニエル	J201	情報倫理 <前半8回>	市川 井内	T105				
		初教	初等生活科論	酒井	J302	保育内容指導法(表現)① <前半8回>	東前	J301	初等算数論	坂井	J302	初等社会科論	大山	J205	Process Writing①【選択】	佐久	本2F 中講義室				
	2年生	初教	保育内容指導法(表現)② <後半8回>	東前	J301	子どもの保健	藤田 (芳)	J201				幼児音楽指導法 I ②	東前	ML J301							
		幼教																			
	3年生	初教				初等生活科教育論	酒井	J302				初等算数科教育論	坂井	J302							
		幼教	子どもの健康と安全① <前半8回>	藤田 (芳)	J201	初等教育方法学②	市川	J205 T105	子どもの健康と安全② <前半8回>	藤田 (芳)	J201										
火	1年生		心理学 <前半8回> 看 社会福祉論 <後半8回>(廣森)	齊藤	本4F 大講義室	教育原理	船寄	J201 J202	保育原理	森	J201 J202	初等図工論 I ①	東本 松崎	J101 J102				初等図工論 I ②	東本 松崎	J101 J102	
		初教	データサイエンス【選択】 <前半8回>	上田	J201	初等理科論	高井	J302	教職論	船寄	J204	特別支援教育学①	廣森 智原	J204	こども音楽療育概論	岩井	J301				
	2年生	初教				特別支援教育学②	廣森 智原	J204	発達心理学 <後半8回>(齊藤)	佐野	J302	保育者論	小川	J205							
		幼教				初等体育科教育論	梅野	J205				初等教育相談	齊藤	J201 J202							
	3年生	初教							子ども家庭支援の心理学	戸田	J205										
		幼教																			
水	1年生		社会福祉論	松端	J201 J202	看 スポーツと健康(荒木)			基礎ゼミ 教育・齊藤・足高・金井・芝・谷原(舞) 看護・上田・西山・西村・高橋・有田	本2F 大講義室 ゼミ室 1~9 3F講義室3	文化人類学(異文化理解)【選択】 <前半8回>	藤井(真)	本4F 大講義室	キリスト教と人間 <前半8回>	宮本	本2F 大講義室					
		初教	リズム演習	代田	J301	幼児音楽指導法 I ①	東前	ML J301	初等家庭科論	田中(順)	J205	幼児造形指導法 I ①	東本 松崎	J101 J102	モンテッソーリ保育論【選択】	竹田	J205				
	2年生	初教				子どもの食と栄養①	田中(順)	J205	保育内容指導法(健康)② <後半8回>	矢野	J302	子どもの食と栄養②	田中(順)	J205							
		幼教				看 教育相談 <前半8回>(齊藤)			初等英語科教育論	佐久	J204										
	3年生	初教				乳児保育 II ①	岡田	J203 J401	看 特別支援教育 <前半8回>(智原)			キリスト教的保育論【選択】	フレックス	J201							
		幼教				乳児保育 II ②	岡田	J203 J401													
木	1年生		Speaking & Listening ⑥ Writing ⑦ Reading I ② 情報リテラシー I ②	アラン 尾崎 井野崎 市川 井内	J205 J204 J203 T105	幼児と環境論① <前半8回> 幼児と言葉論① <後半8回> 幼児と言葉論② <前半8回> 幼児と環境論② <後半8回>	矢野 谷原(舞) 谷原(舞) 矢野	J203 J302	Speaking & Listening ⑥ Writing ③ Reading I ④ 情報リテラシー I ④	アラン 尾崎 井野崎 市川 井内	J205 J203 J204 T105	教育学概論 I <前半8回> 教育学概論 II <後半8回> 船寄・梅野・廣森	深川	本館2F 大講義室	障害児保育論	智原	J204 J205				
		初教	幼児の理解① <前半8回> 保育内容指導法(環境)① <後半8回> 看 環境と健康 <後半8回>(高井)	小川 矢野	J206	初等体育論 I ①	梅野	J201	セーフティプロモーション【選択】 <前半8回> ジェンダー論【選択】 <後半8回>	徳珍 廣森	本館3F 中講義室	幼児と健康論 <前半8回> 保育内容指導法(健康)① <後半8回>* ※後半初教のみ	大森 矢野	J205 J204							
	2年生	初教	初等体育論 I ②	梅野	J201	幼児造形指導法 I ②	東本 松崎	J101 J102													
		幼教				初等工科教育論	松崎	J302 J102	初等教育方法学①	市川	J204 T105	初等音楽科教育論	奥田	J302 J301	初等道徳教育論	毛利	J302	教育学演習 I 船寄・齊藤・高井・梅野・小川・矢野 大森・廣森・市川・金井・佐久	ゼミ室 1~9 小ゼミ室 1~2		
	3年生	初教																			
		幼教																			
金	1年生		人と音楽【選択】 <前半8回> 体育講義 <後半8回>	金井 梅野 荒木	J206 J201 J202	文章表現【選択】 <前半8回>	足高 谷原(舞)	J201 J202	初等音楽論 I ① 金井・奥田・東前・川島・喜多 楠本・小齊・谷原(麻)・辻・中世古・松田	ピアノ セル ML		初等音楽論 I ② 金井・奥田・東前・川島・喜多 楠本・小齊・谷原(麻)・辻・中世古・松田	ピアノ セル ML								
		初教	サービス・ラーニング(前3回) 足高・高橋・阪上・岡崎・井内・郷司 芝・荒木・谷原(舞)・東本	本館2F 大講義室・ゼミ 室1~9 3F講義室2~3	Reading II ①【選択】 Reading II ②【選択】	佐久 井野崎	J204 J302	初等英語論	アラン	J201	保育内容指導法(人間関係)① <前半8回> 保育内容指導法(言葉)① <後半8回> 保育内容指導法(言葉)② <前半8回> 保育内容指導法(環境)② <後半8回>	矢野 小川 谷原(舞) 矢野	J203 J205								
	初教	医療英語①【選択】	田中 (春)	J205	医療英語①【選択】	田中 (春)	J205	人間論(哲学) <前半8回>	富本	本2F 大講義室											

学年	集中開講科目	担当	開講	学年	集中開講科目	担当	開講
2年~3年	教育実習(幼・小)	深川他	2年~3年	教育実習事前事後指導	深川他	通年	2年
2年	こども音楽療育実習	岩井	通年	保育実習指導 I A	矢野・芝	2年~3年	2年
2年~3年	保育実習 I A	矢野・芝	2年~3年	保育実習指導 I B	智原・荒木	通年	2年
3年	保育実習 I B	智原他	後期	保育実習指導 II	矢野・芝	通年	2年
3年	保育実習 II	矢野・芝	後期	保育実習指導 III	智原・荒木	通年	2年
3年	保育実習 III	智原他	後期	野外活動	荒木	後期	2年
2年~3年	教職インターンシップ	市川他	2年~3年	1年 国際理解(カンボジア研修)	アラン他	前期	1年
				1年 異文化交流(海外語学研修)	アラン他	前期	1年
				1年 キャリア入門	徳珍・芝	前期	1年

看護教育共通「共通教育科目」

学舎・教室名称等
J 大学1号館(城東学舎)
T 大学2号館(鶴見学舎)
本 本館
J101 図工室
J102 絵画室
J301 リズム室
ML 音楽室
J401 乳児保育実習室
T105 パソコンルーム

※5月6日(月)~17日(金)は幼稚園教育実習のため、幼児教育コース3年次の他の授業は行わない。それに伴い、3年次前期の授業期間を17週とする。
 ※祝日等で各科目の授業時間が不足する場合は土曜日及び空き時間等に補講を行う。

教育学部 教育学科 前期 時間割

Main curriculum schedule table with columns for 学年コース (Year Course), 科目 (Subject), 担当 (Instructor), 教室 (Classroom), and 授業時間 (Class Time). It is organized by month (月) and day (火, 水, 木, 金).

Summary table of集中開講科目 (Concentrated Lecture Subjects) with columns for 学年 (Year), 集中開講科目 (Concentrated Lecture Subject), 担当 (Instructor), and 開講 (Lecture).

看護教育共通「共通教育科目」 (Nursing Education Common 'Common Education Subjects') table listing 学舎・教室名称等 (Building/Classroom Name etc.) and corresponding room numbers.

※5月中旬は幼稚園教育実習のため、幼児教育コース3年次の授業は行わない。それに伴い、3年次前期の授業期間を17週とする。
※祝日等で各科目の授業時間が不足する場合は土曜日及び空き時間等に補講を行う。

短大 子ども教育学科 ・ 四大 教育学部 教育学科 後期 時間割

授業時間	学年 コース	I			II			III			IV			V			
		コード	科目	担当 教室	コード	科目	担当 教室	コード	科目	担当 教室	コード	科目	担当 教室	コード	科目	担当 教室	
月	短・子 2年生	A	教職論	船寄 J204	子どもの保健	藤田(芳) J205	ヒューマンライツ【選択】 園芸療法論【選択】	足高 寺田 J205 T203	音図体実践力アップ講座(音楽Ⅲ) 【選択必修】 園芸療法実習【選択】	東前 寺田 J301 T203	園芸療法実習【選択】 社会と子ども【選択必修】<前半8回>	寺田 足高 J203					
		B	子どもの保健	藤田(芳) J205	看 教育原理(船寄)												
		C															
火	短・子 2年生	A	子育て支援 <前半8回>	河田 J205	生徒・進路指導論【小・必】	智原 J302	教職実践演習(幼・小)	谷原(舞) 智原 程野 J205 J203 J204 J206	道徳教育の理論と方法【小必】 <前半8回>	長崎 J302	童謡創作(音楽理論)[b]【選択】	金井 J206					
		B	教職論	船寄 J204	子育て支援 <前半8回>	河田 J205						看 ヒューマンライツ I <前半8回>(足高) 看 ヒューマンライツ II <後半8回>(足高)					
		C										看 家庭社会学 <前半8回>(廣森)					
水	短・子 2年生	A	初等国語論①	谷原(舞) J201	ライフサイエンス <前半8回>	高井 東本 J201 J202	子ども家庭福祉	佐野 J201 J202	初等図工論 II ①	東本 松崎 J101・ 102	看 生命科学(高井)	初等図工論 II ②	東本 松崎 J101・ 102				
		B	看 教育制度論 <前半8回>(久保)		科学の楽しみ【選択必修】 <前半8回>	高井 J204											
		C	時代様式と音楽【選択必修】 <後半8回>	金井 J206	English Communication D 【選択必修】	アラン J205											
木	短・子 2年生	A	教養ゼミ	看 藤:上田・長尾・西山・西村・阪上 教育:船寄・高井・廣森・市川・足高	本2F 大講義室 ゼミ室 1~9 3F講義 室?	教育制度論	久保 J201 J202	Speaking & Listening ⑦ Writing ⑧ Reading I ①	アラン 尾崎 井野崎 J205 J204 J302	保育・教育課程論	小川 本2F 大講義室	生命倫理 <前半8回>	松島 本2F 大講義室				
		B	現代とキリスト教【b】	宮本 J201	総合的な学習の時間の指導法	深川 J205	幼児と音楽[b] 東前・奥田・金井・川島・小齊 川島・喜多・松田・谷原(麻)・中世古・小齊	ピアノセル ML・301	幼児と音楽[b] 東前・奥田・金井・川島・小齊 川島・喜多・松田・谷原(麻)・中世古・小齊	ピアノセル ML・301	体育(幼児と運動)[b]	馬場 J204 ・第1・2 体育館	16:20~ 教育実習事前・事後指導 保育実習指導 一斉指導時J201~202	J201 J202			
		C	Speaking & Listening ① Writing ② Reading I ③ 情報リテラシー II ②【選択】	アラン 佐久 井野崎 井内 市川 J205 J204 J302 T105	生活と化学【選択】 <前半8回>	高井 本4F 大講義室	Speaking & Listening ④ Writing ⑤ Reading I ⑥	アラン 尾崎 佐久 J205 本323 本2F 中講義室	初等教育課程論	山口 J201 J202							
金	短・子 2年生	A	モンテッソーリ保育【選択】 キリスト教的保育論【選択】 臨床心理学【選択】	程野 三好 芝 J204 J302 J205	音図体実践力アップ講座(図画工作 II)【選択必修】 看 英語D②<前半5回>(佐久)	舟井 第1・2体 育館・ J203	音図体実践力アップ講座(図画工作 III)【選択必修】 音図体実践力アップ講座(体育II) 【選択必修】 音図体実践力アップ講座(音楽II) 【選択必修】	舟井 馬場 橋本 J101・102 第1・2体 育館・ J203 J301	幼児の造形活動[b]	東本 J101・102	【集中授業】 介護等体験実習 保育実習 I 介護等体験実習の 保育実習 II 事前事後指導 保育実習指導 I 野外活動 保育実習指導 II						
		B	初等音楽論 II ①	看 英語D①<前半5回>(佐久)	幼児と人間関係論① <前半8回>	矢野 小川 J205	体育実技①	荒木 第3体育館 ・J204	幼児と表現論 <前半8回>	東前 J301	看 看護研究の基礎(高井)						
		C	金井・奥田・東前・川島・喜多・橋本・小齊・ 谷原(麻)・辻・中世古・松田	ピアノセル ML	初等音楽論 II ②	金井・奥田・東前・川島・喜多・橋本・小齊・ 谷原(麻)・辻・中世古・松田	ピアノセル ML	幼児と人間関係論② <前半8回>	矢野 小川 J205								

看護教育共通「共通教育科目」

学舎・教室名称等	
J	大学1号館(城東学舎)
T	大学2号館(鶴見学舎)
本	本館
J101	図工室
J102	絵画室
J301	リズム室
ML	音楽室
J401	乳児保育実習輪室
T105	パソコンルーム

教育学部 教育学科 後期 時間割

授業時間	学年 コース	I			II			III			IV			V		
		コード	科目	担当 教室	コード	科目	担当 教室	コード	科目	担当 教室	コード	科目	担当 教室	コード	科目	担当 教室
月	1年生		現代とキリスト教 <前半8回> 社会学【選択】 <後半8回>	宮本 足高	本2F 大講義室 本2F 中講義室	教育心理学	齊藤 J201 J202	看 教育原理(船寄)	Speaking & Listening ⑤ Writing ⑥ Reading I ⑦ 情報リテラシー II ①【選択】	アラン 尾崎 井野崎 井内 市川 T105	J206 J204 J302 T105	フランス語 II【選択】	エマニエル J201	社会と人権(日本国憲法)	小野(晃)	本2F 大講義室
	2年生	初教				ICT活用演習①	市川 T105		児童心理学【選択】	齊藤 J201			初等社会科教育論	大山 J205		
火	1年生		初等国語論① 看 教育制度論 <前半8回>(久保) 体育実技②	谷原(舞) 荒木	J201 第1・2 体育館 ・J203	ライフサイエンス <前半8回> くらしと色彩【選択】 <後半8回>	高井 東本	本2F 大講義室 J101・102	子ども家庭福祉 看 教育心理学(齊藤)	佐野 J201 J202		初等図工論 II ①	東本 松崎 J101・ 102	看 家庭社会学 <前半8回>(廣森)		
	2年生	初教				こども音楽療育演習	岩井 J301		初等体育論 II	梅野 荒木 J204 J205		初等図語論② 看 生命科学(高井)	今福 J205	初等図工論 II ②	東本 松崎 J101・ 102	
水	1年生		敬養ゼミ 看護:上田・長尾・西山・西村・阪上 教育:船寄・高井・廣森・市川・足高		本2F 大講義室 ゼミ室 1~9 3F講義室 ・	教育制度論	久保 J201 J202		Speaking & Listening ⑦ Writing ⑧ Reading I ①	アラン 尾崎 井野崎 J205 J204 J302	J205 J204 J302	保育・教育課程論	小川 本2F 大講義室	生命倫理 <前半8回>	松島	本2F 大講義室
	2年生	初教				初等国語科教育論	谷原(舞) J205		社会調査法【選択】	足高 上田 井内 本4F 大講義室		初等家庭科教育論	榊原 J205			
木	1年生		Speaking & Listening ① Writing ② Reading I ③ 情報リテラシー II ②【選択】	アラン 佐久 井野崎 井内 市川 T105	J205 J204 J302 T105	生活と化学【選択】<前半8回> 看 生化学 <後半8回>(高井)	高井 本4F 大講義室		Speaking & Listening ④ Writing ⑤ Reading I ⑥	アラン 尾崎 佐久 ML・301 J205 本323 本2F 中講義室		初等教育課程論	山口 J201 J202			
	2年生	初教				幼児造形指導法 II ①	東本 松崎 J101・ 102		幼児音楽指導法 II ①	金井 東前 ML J301		Process Writing②【選択】	佐久 本2F 中講義室			
金	1年生		初等音楽論 II ① 金井・奥田・東前・川島・喜多・橋本・小齊・ 谷原(麻)・辻・中世古・松田	ピアノセル ML		幼児と人間関係論① <前半8回>	矢野 小川 J205		体育実技①	荒木 第3体育館 ・J204 J205		幼児と表現論 <前半8回>	東前 J301			
	2年生	初教				初等音楽論 II ② 金井・奥田・東前・川島・喜多・橋本・小齊・ 谷原(麻)・辻・中世古・松田	ピアノセル ML		幼児と人間関係論② <前半8回>	矢野 小川 J205						
	2年生	幼教	サービス・ラーニング(後2回) 足高・高橋・阪上・岡崎・井内・郷司 芝・荒木・谷原(舞)・東本		本館2F 大講義室・ゼミ 室1~ 9・3F講 義室2~ 3	Reading II ③【選択】 Reading II ④【選択】 Reading II ⑤【選択】	井野崎 尾崎 佐久 J201 J302 J204		クリティカル・シンキング <前半8回>	伊東 小野(聡) 本2F 大講義室						

看護教育共通「共通教育科目」

学舎名称等
J 大学1号館(城東学舎)
T 大学2号館(鶴見学舎)
本 本館
J101 図工室
J102 絵画室
J301 リズム室
ML 音楽室
J401 乳児保育実習室
T105 パソコンルーム

教育学部 教育学科 後期 時間割

授業時間	学年 コース	I			II			III			IV			V				
		コード	科目	担当 教員	コード	科目	担当 教員	コード	科目	担当 教員	コード	科目	担当 教員	コード	科目	担当 教員		
月	1年生		現代とキリスト教 <前半8回> 社会学【選択】 <後半8回>	宮本 足高	本2F 大講義室 本2F 中講義室		教育心理学	齊藤 J201 J202		Speaking & Listening ⑤ Writing ⑥ Reading I ⑦ 情報リテラシーII ①【選択】	アラン 尾崎 井野崎 井内 市川 J206 J204 J302 T105		フランス語II【選択】	エマニュエル J201		社会と人権(日本国憲法)	小野(晃) 本2F 大講義室	
		初教					ICT活用演習①	市川 T105		児童心理学【選択】	齊藤 J201		初等社会科教育論	大山 J205				
	2年生	幼教		ICT活用演習②	市川 T105													
		初教																
	3年生	初教																
		幼教																
火	1年生		初等国語論① 看 教育制度論 <前半8回>(久保)	谷原(舞) J201	本2F 大講義室 本2F 中講義室		ライフサイエンス <前半8回> くらしと色彩【選択】 <後半8回>	高井 東本 J101-102		子ども家庭福祉 看 教育心理学(齊藤)	佐野 J201 J202		初等図工論II ①	東本 松崎 J101-102		看 家庭社会学 <前半8回>(廣森)		
		初教		体育実技②	荒木 第1・2 体育館 ・J203		こども音楽療育演習	岩井 J301		初等体育論II	梅野 荒木 J204 J205		初等理科教育論	村津 J201		童謡創作論【選択】	金井 J206	
	2年生	幼教		社会的養護II ① <前半8回>	佐野 J205									初等図工論II ②	今福 J205		看 生命科学(高井)	
		初教																
	3年生	初教					初等生徒・進路指導論	川地 J205										
		幼教					子育て支援① <前半8回>	河田 J201		子育て支援② <前半8回>	河田 J302							
水	1年生		敬養ゼミ 看護:上田・長尾・西山・西村・阪上 教育:船寄・高井・廣森・市川・足高	本2F 大講義室 ゼミ室 1~9 3F講義室3		教育制度論	久保 J201 J202		Speaking & Listening ⑦ Writing ⑧ Reading I ①	アラン 尾崎 井野崎 J205 J204 J302		保育・教育課程論	小川 本2F 大講義室		生命倫理 <前半8回>	松島 本2F 大講義室		
		初教				初等国語科教育論	谷原(舞) J205		社会調査法【選択】	足高 上田 井内 本4F 大講義室		初等家庭科教育論	榊原 J205					
	2年生	幼教					子ども家庭支援論	芝 J302					乳児保育I	岡田 J302-401				
		初教																
	3年生	初教								総合的な学習の指導論 <前半8回> 初等特別活動指導論 <後半8回>	瀬川 川地 J201 J201			田中(春) J201		医療英語②【選択】	田中(春) J201	
		幼教																
木	1年生		Speaking & Listening ① Writing ② Reading I ③ 情報リテラシーII ②【選択】	アラン 佐久 井野崎 井内 市川 J205 J204 J302 T105		生活と化学【選択】 <前半8回> 看 生化学 <後半8回>(高井)	高井 本4F 大講義室		Speaking & Listening ④ Writing ⑤ Reading I ⑥	アラン 尾崎 佐久 J205 本323 本2F 中講義室		初等教育課程論	山口 J201 J202					
		初教		幼児造形指導法II ①	東本 松崎 J101-102					幼児音楽指導法II ①	金井 東前 ML J301		Process Writing②【選択】	佐久 本2F 中講義室				
	2年生	幼教					幼児音楽指導法II ②	金井 東前 ML J301			東本 松崎 J101-102							
		初教																
	3年生	初教																
		幼教															教育学演習II 船寄・齊藤・高井・梅野・小川・矢野 大森・廣森・市川・金井・佐久 ゼミ室 1~9 小ゼミ室 1~2	
金	1年生		初等音楽論II ① 金井・奥田・東前・川島・喜多・橋本・小齊・ 谷原(麻)・辻・中世古・松田	ピアノセル ML		幼児と人間関係論① <前半8回>	矢野 小川 J205		体育実技①	荒木 第3体育館 ・J204		幼児と表現論 <前半8回>	東前 J301					
		初教				初等音楽論II ② 金井・奥田・東前・川島・喜多・橋本・小齊・ 谷原(麻)・辻・中世古・松田	ピアノセル ML			矢野 小川 J205								
	2年生	幼教		サービス・ラーニング(後2回) 足高・高橋・阪上・岡崎・井内・細司 芝・荒木・谷原(舞)・東本	本館2F 大講義室・ゼミ 室1~ 9・3F講 義室2~ 3		Reading II ③【選択】 Reading II ④【選択】 Reading II ⑤【選択】	井野崎 尾崎 佐久 J201 J302 J204		クリティカル・シンキング <前半8回>	伊東 小野(聡) 本2F 大講義室							
		初教																
	3年生	初教								初等音楽論III 金井・奥田・東前・川島・喜多・橋本・小齊・ 谷原(麻)・辻・中世古・松田	ピアノセル ML							
		幼教																

看護教育共通「共通教育科目」

学舎名称等	
J	大学1号館(城東学舎)
T	大学2号館(鶴見学舎)
本	本館
J101	図工室
J102	絵画室
J301	リズム室
ML	音楽室
J401	乳児保育実習室
T105	パソコンルーム

教育学部 教育学科 後期 時間割

Table with columns for 授業時間 (Class Time), 学年コース (Year/Course), and five main sections (I-V) containing course codes, subjects, lecturers, and classrooms. The table is organized by month (月) and day of the week (火, 水, 木, 金).

看護教育共通「共通教育科目」

Table listing building names and room numbers: 学舎名称等, J 大学1号館(城東学舎), T 大学2号館(鶴見学舎), 本 本館, J101 図工室, J102 絵画室, J301 リズム室, ML 音楽室, J401 乳児保育実習室, T105 パソコンルーム.

授業時間 学年 コース	I				II				III				IV				V			
	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室
月	短・3	臨地実習 国家試験対策			T107	臨地実習 国家試験対策			T107	臨地実習 国家試験対策			T107	臨地実習 国家試験対策			T107			
	短・2	成人看護学方法論 I (慢性期)	徳珍		T201	母性看護学方法論 II	郷司		T201	老年看護学概論 <前半8回>	藤田(和) 山中		T201	疾病・治療論Ⅲ <前半4回>	義本		T201	オフィスアワー		
	短・2									老年生活機能アセスメントと 老年看護学 <後半6回>	藤田(和)・有田 山中		T201	在宅看護論方法論 I <後半7回>	阪上		T201			
	四大・1	Speaking & Listening③	アラン		J205					Speaking & Listening②	アラン		J201	フランス語 I【選択】	エマニュエル		J201	情報倫理(前半8回)	市川 井内	T105
四大・1	Writing④ Reading I⑤ 情報リテラシー I①	尾崎 佐久 井内・市川		J204 J203 T105					Writing① Reading I⑥ 情報リテラシー I③	佐久 井内・市川		J203 J204 T105								
火	短・3	臨地実習 国家試験対策			T107	臨地実習 国家試験対策			T107	臨地実習 国家試験対策			T107	臨地実習 国家試験対策			T107			
	短・2	成人看護学方法論 II (急性期)	松井		T201	現代とキリスト教A② <前半8回>	佐嶋		T203	健康生活と栄養学①	田中(順)		T202	小児看護学方法論 I <前半7回>	中野		T201	生命化学	高井	T201
	短・2					現代とキリスト教A① <後半8回>	佐嶋		T203					小児看護学方法論 II <後半6回>	中野		T201			
	四大・1	心理学【選択】<前半8回>	齋藤	本4F 大講義室		心のしくみと働き	齋藤	本3F 中教室						看護概論 <前半8回>	竹中	本2F 中講義室				
四大・1	社会福祉論 <後半8回>	松端							メンタルヘルス・アセスメント <後半8回>	美玉 高橋	本2F 中講義室		社会心理学 <後半8回>	三戸	本2F 中講義室					
水	短・3	臨地実習 国家試験対策			T107	臨地実習 国家試験対策			T107	臨地実習 国家試験対策			T107	臨地実習 国家試験対策			T107			
	短・2	フィジカルアセスメント II①	斎藤・中村・南他		T201 T501	フィジカルアセスメント II ②	斎藤・竹見・中村・ 南他		T201 T501	在宅看護論 <前半8回>	阪上		T201	現代と女性 II A	高井他	T202 T203 T301 T404 T105	健康生活と栄養学②	田中(順)	J201	
	短・2																英語C①	アラン	J205	
	短・2																英語C③	佐久	J203	
四大・1					スポーツと健康【選択】	荒木	体育館		基礎ゼミ 看護:上田・西山・西村・高橋・有田 教育:齋藤・足高・金井・芝・谷原(舞)		本2F大 講義室、3 F講義室 3、ゼミ室 1~9	文化人類学(異文化理 解)【選択】<前半8回>	藤井(真一)	本4F 大講義室	キリスト教と人間 <前半8回>	宮本	本2F 大講義室			
木	短・3	臨地実習 国家試験対策			T107	臨地実習 国家試験対策			T107	臨地実習 国家試験対策			T107	臨地実習 国家試験対策			T107			
	短・2	小児看護学方法論 I <前半6回>	中野		T201	看護管理とリスクマネジ メント <前半7回>	西山		T201	精神看護学方法論 <前半9回>	高橋・夫		T201	カウンセリング論 <前半8回>	芝		T201	疾病・治療論Ⅲ (脳・神経) <前半5回>	原田	T201
	短・2	小児看護学方法論 II <後半7回>	中野		T201	老年生活機能アセスメントと老 年看護学 I <後半7回>	藤田(和) 山中		T201	精神看護の課題と探求 <後半5回>	高橋・夫		T201	精神看護の課題と探求 <後半6回>	高橋・夫		T201	疾病・治療論Ⅲ (運動器) <中半5回>	原田	T201
	短・2																社会心理学 <後半4回>	足高	T201	
四大・1	Speaking & Listening ⑧	アラン		J205	人体の構造と機能 I	松尾	本4F 大講義室		Speaking & Listening⑥	アラン		J205	教育学概論 I 【選択】<前半8回>	深川	本館2F 大講義室					
四大・1	Writing ⑦ Reading I ② 情報リテラシー I ②	尾崎 井内・市川		J204 J203 T105					Writing ③ Reading I ④ 情報リテラシー I ④	尾崎 井内・市川		J203 J204 T105								
金	短・3	臨地実習 国家試験対策			T107	臨地実習 国家試験対策			T107	臨地実習 国家試験対策			T107	臨地実習 国家試験対策			T107			
	短・2	薬理学	大喜多		T201	基礎看護の課題と探求	斎藤・竹見・中 村・南他		T201 T501	英語C②	アラン		T202	精神看護学方法論 <前半5回>	高橋・夫		T201	看護管理とリスクマネジ メント <中3回>	勝	T201
	短・2									英語C④	佐久		T203	在宅看護論方法論 I <後半6回>	阪上		T201	医療と生命倫理(前8回)	松島	T107
	四大・1	人と音楽【選択】 <前半8回>	金井	J206	文章表現【選択】 <前半8回>	足高 谷原(舞)	J201 J202			基礎技術 I	竹見・竹中 秋山 有田・南		T501	基礎技術 I	竹見・竹中 秋山 有田・南	T501	人体の構造と機能 (解剖学) <前半8回>	木村	T201	
四大・1	体育講義【選択】 <後半8回>	梅野・荒木	J201 J202														(看護技術 I 使用することあり)			

看護教育共通(共通教育科目)

学舎・教室名称等	
J	大学1号館(城東学舎)
T	大学2号館(鶴見学舎)
本	本館
J101	図工室
J102	絵画室
J301	リズム室
ML	音楽室
J401	乳児保育実習室
T105	パソコンルーム

授業時間 学年 コース	I				II				III				IV				V			
	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室
短大・1年生		臨地実習 国家試験対策		T107		臨地実習 国家試験対策		T107		臨地実習 国家試験対策		T107		臨地実習 国家試験対策		T107				
		Speaking & Listening③ Writing④ Reading I⑤ 情報リテラシー I①	アラン 尾崎 佐久 井内・市川	J205 J204 J203 T105						Speaking & Listening② Writing① Reading I⑧ 情報リテラシー I③	アラン 佐久 井野崎 井内・市川	J202 J203 J204 T105		フランス語 I【選択】	エマニュエル	J201		情報倫理(前半8回)	市川 井内	T105
短大・2年生		キャリアデザイン I <後半8回>	徳珍	本4F 大講義室		生涯発達看護論 II (小児)	岩澤 檜木野 中野	本4F 大講義室		疾病治療論 II	西本	本4F 大講義室		臨床判断論	西田(頼) 長尾 有田 南	本4F 大講義室		Process Writing【選択】	佐久	本2F 中教室
短大・1年生		臨地実習 国家試験対策		T107		臨地実習 国家試験対策		T107		臨地実習 国家試験対策		T107		臨地実習 国家試験対策		T107				
		心理学【選択】<前半8回> 社会福祉論 <後半8回>	齋藤 松端	本4F 大講義室		心のしくみと働き	齋藤	本3F 中教室		メンタルヘルス・アセスメント <後半8回>	美玉 高橋	本3F 中講義室		看護概論 <前半8回> 社会心理学 <後半8回>	竹中 三戸	本3F 中講義室 本3F 中講義室				
短大・2年生		データサイエンス 【選択】<前半8回> 保健統計学 <後半8回>	上田 上田	J201		健康教育論 <前半8回> 社会健康学 <後半8回>	岩澤 西村 西村	本4F 大講義室		生活機能論 <前半8回> 発達心理学【選択】 <後半8回>	西田(頼) 齋藤	本4F 大講義室		公衆衛生学(疫学) <前半8回> 生涯発達看護論 III (成人) <後半8回>	梅田 西田(頼)	本4F 大講義室				
短大・1年生		臨地実習 国家試験対策		T107		臨地実習 国家試験対策		T107		臨地実習 国家試験対策		T107		臨地実習 国家試験対策		T107				
						スポーツと健康【選択】	荒木	体育館		基礎ゼミ 看護;上田・西山・西村・高橋・有田 教育;齋藤・足高・金井・芝・谷原(舞)		本2F大講義室、3F 講義室3、ゼミ室 1~9		文化人類学(異文化理解) 【選択】<前半8回>	藤井(真一)	本4F 大講義室		キリスト教と人間 <前半8回>	宮本	本2F 大講義室
短大・2年生		フィジカルアセスメント I	西田(頼) 阪上 南	T201 T501		フィジカルアセスメント I	西田(頼) 阪上 南	T201 T501		生涯発達看護論 IV (老年) <前半8回>	長尾	T201		メンタルヘルス・プロモーション <前半8回> 栄養学 <後半8回>	小林 藤田(修)	T201 T201				
短大・1年生		臨地実習 国家試験対策		T107		臨地実習 国家試験対策		T107		臨地実習 国家試験対策		T107		臨地実習 国家試験対策		T107				
		Speaking & Listening ⑧ Writing ⑦ Reading I ② 情報リテラシー I ②	アラン 尾崎 井野崎 井内・市川	J205 J204 J203 T105		人体の構造と機能 I	松尾	本4F 大講義室		Speaking & Listening⑥ Writing ③ Reading I ④ 情報リテラシー I ④	アラン 尾崎 井野崎 井内・市川	J205 J203 J204 T105		教育学概論 I 【選択】<前半8回>	深川	本館2F 大講義室				
短大・2年生		生活機能論 <前半8回> 環境と健康【選択】 <後半8回>	西田(頼) 高井 上田	本4F 大講義室		看護理論 <前半8回>	遠藤・津田(右) 吉田・西田	本2F 中教室		セーフティプロモーション 【選択】<前半8回> ジェンダー論【選択】 <後半8回>	徳珍 廣森	本3F 中講義室 本3F 中講義室		病理学	坂本	本2F 中教室				
短大・1年生		臨地実習 国家試験対策		T107		臨地実習 国家試験対策		T107		臨地実習 国家試験対策		T107		臨地実習 国家試験対策		T107				
		人と音楽【選択】 <前半8回> 体育講義【選択】 <後半8回>	金井 梅野・荒木	J206 J201 J202		文章表現【選択】 <前半8回>	足高 谷原(舞)	J201 J202		基礎技術 I	竹見・竹中 秋山 有田・南	T501		基礎技術 I	竹見・竹中 秋山 有田・南	T501		人体の構造と機能 (解剖学) <前半8回> (看護技術 I 使用することあり)	木村	T201
短大・2年生		サービス・ラーニング(前3回)	足高・高橋・阪上・岡崎・井内・郷司・芝・荒木 谷原・東本	本2F大講義室、3F 講義室2 ~3、ゼミ 室1~9		Reading II ①【選択】 Reading II ②【選択】	佐久 井野崎	J204 J302		生涯発達看護論 I (母性)	遠藤 松尾 郷司	T201		医療倫理 <前半8回> 看護倫理 <後半8回>	松島 吉田・檜木野	T201 T201				

看護教育共通「共通教育科目」

学舎・教室名称等
J 大学1号館(城東学舎)
T 大学2号館(鶴見学舎)
本 本館
J101 図工室
J102 絵画室
J301 リズム室
ML 音楽室
J401 乳児保育実習室
T105 パソコンルーム

授業時間 学年 コース	I				II				III				IV				V			
	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室
月	1年生	Speaking & Listening③ Writing④ Reading I ⑤ 情報リテラシー I ①	アラン 尾崎 佐久 井内・市川	J205 J204 J203 T105						Speaking & Listening② Writing① Reading I ⑧ 情報リテラシー I ③	アラン 佐久 井野崎 井内・市川	J202 J203 J204 T105		フランス語 I【選択】	エマニュエル	J201		情報倫理7(前半8回)	市川 井内	T105
	2年生	キャリアデザイン I <後半8回>	徳珍	本4F 大講義室	生涯発達看護論 II (小児)	岩澤 榎木野 中野	本4F 大講義室		疾病治療論 II	西本	本4F 大講義室		臨床判断論	西田(頼) 長尾 有田 南	本4F 大講義室		Process Writing【選択】	佐久	本2F 中教室	
	3年生	道徳教育の理論と方法 <前半8回>	毛利	T201	教育課程論 <前半8回> 特別活動及び総合的な学習の 指導法 <後半8回>	山口 川地	T201		エンドオブライフケア論 <後半8回>	吉田・秋山	本2F 中教室		学校保健【選択】	徳珍	本2F 中教室		チーム医療論	岩澤 西山 吉田	本4F 大講義室	
火	1年生	心理学【選択】 <前半8回> 社会福祉論 <後半8回>	齋藤 松端	本4F 大講義室	心のしくみと働き	齋藤	本3F 中教室		メンタルヘルス・アセスメント <後半8回>	美王 高橋	本3F 中講義室		看護概論 <前半8回> 社会心理学 <後半8回>	竹中 三戸	本3F 中講義室 本3F 中講義室					
	2年生	データサイエンス 【選択】 <前半8回> 保健統計学 <後半8回>	上田 上田	J201	健康教育論 <前半8回> 社会健康学 <後半8回>	岩澤 西村	本4F 大講義室		生活機能論 <前半8回> 発達心理学【選択】 <後半8回>	西田(頼) 齋藤	本4F 大講義室		公衆衛生学(疫学) <前半8回> 生涯発達看護論 III (成人) <後半8回>	新田 西田(頼)	本4F 大講義室					
	3年生	看護研究 I	遠藤 西山 西村	ゼミ室	エンドオブライフケア論 <前半8回>	吉田・秋山	本2F 中教室		国際看護 I <前半8回>	松尾 竹中 藤井(知)	T107		看護学概説【選択】	徳珍 森田	T203					
水	1年生				スポーツと健康【選択】	荒木	体育館		基礎ゼミ 看護:上田・西山・西村・高橋・有田 教育:齋藤・足高・金井・芝・谷原(舞)		本2F大講義室、 3F講義室 3、ゼミ室 1~9		文化人類学(異文化理解) 【選択】 <前半8回>	藤井(真一)	本4F 大講義室		キリスト教と人間 <前半8回>	宮本	本2F 大講義室	
	2年生	フィジカルアセスメント I	西田(頼) 阪上 南	T201 T501	フィジカルアセスメント I	西田(頼) 阪上 南	T201 T501		生涯発達看護論 IV (老年) <前半8回>	長尾	T201		メンタルヘルス・プロモーション <前半8回> 栄養学 <後半8回>	小林 藤田(修)	T201 T201					
	3年生	教育の方法と技術	深川 井内	本4F 大講義室	教育相談 <前半8回>	齋藤	本4F 大講義室		特別支援教育 <前半8回> 生徒指導 <後半8回>	智原 川地	本4F 大講義室									
木	1年生	Speaking & Listening ⑧ Writing ⑦ Reading I ② 情報リテラシー I ②	アラン 尾崎 井野崎 井内・市川	J205 J204 J203 T105	人体の構造と機能 I	松尾	本4F 大講義室		Speaking & Listening⑥ Writing ③ Reading I ④ 情報リテラシー I ④	アラン 尾崎 井野崎 井内・市川	J205 J203 J204 T105		教育学概論 I 【選択】 <前半8回>	深川	本館2F 大講義室					
	2年生	生活機能論 <前半8回> 環境と健康【選択】 <後半8回>	西田(頼) 高井 上田	本4F 大講義室	看護理論 <前半8回>	遠藤・津田(右) 吉田・西田	本2F 中教室		セーフティプロモーション 【選択】 <前半8回> ジェンダー論【選択】 <後半8回>	徳珍 廣森	本3F 中講義室 本3F 中講義室		病理学	坂本	本2F 中教室					
	3年生	地域包括ケア論 II (在宅・地域)	阪上 秋山 中村	T201	地域包括ケア論 III (地域・学校)	岩澤 西村	T201		看護教育学 I	竹中 岩澤	T201		災害看護 I	松尾 藤井(知)	T201		キャリアデザイン II	松浦他	本3階 中講義室	
金	1年生	人と音楽【選択】 <前半8回> 体育講義【選択】 <後半8回>	金井 梅野・荒木	J206 J201 J202	文章表現【選択】 <前半8回>	足高 谷原(舞)	J201 J202		基礎技術 I	竹見・竹中 秋山 有田・南	T501		基礎技術 I	竹見・竹中 秋山 有田・南	T501		人体の構造と機能 (解剖学) <前半8回> (看護技術 I 使用することあり)	木村	T201	
	2年生	サービス・ラーニング(前3回)	足高・高橋・阪上・岡崎・井内・郷司・芝・荒木・谷原・東本	本2F大講義室、3F講義室2・3、ゼミ室1~9	Reading II ①【選択】 Reading II ②【選択】	佐久 井野崎	J204 J302		生涯発達看護論 I (母性)	遠藤 松尾 郷司	T201		医療倫理 <前半8回> 看護倫理 <後半8回>	松島 吉田・榎木野	T201 T201					
	3年生	医療英語①【選択】	田中(春)	J205	医療英語①【選択】	田中(春)	J205		人間論(哲学) <前半8回>	宮本	本2F 大講義室		生活機能支援論 III-③ (リハビリテーション)	松井・徳珍 桑原・石川	T107					

看護教育共通「共通教育科目」

学舎・教室名称等	
J	大学1号館(城東学舎)
T	大学2号館(鶴見学舎)
本	本館
J101	図工室
J102	絵画室
J301	リズム室
ML	音楽室
J401	乳児保育実習室
T105	パソコンルーム

授業時間 学年 コース	I				II				III				IV				V			
	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室
月	1年生	Speaking & Listening③ Writing④ Reading I ⑤ 情報リテラシー I ①	アラン 尾崎 佐久 井内・市川	J205 J204 J203 T105					Speaking & Listening② Writing① Reading I ⑧ 情報リテラシー I ③	アラン 佐久 井野崎 井内・市川	J202 J203 J204 T105		フランス語 I【選択】	エマニュエル	J201		情報倫理7(8回)	市川 井内	T105	
	2年生	キャリアデザイン I <後半8回>	徳珍	本4F 大講義室	生涯発達看護論 II (小児)	岩澤 榎木野 中野	本4F 大講義室		疾病治療論 II	西本	本4F 大講義室		臨床判断論	西田(頼) 長尾 有田 南	本4F 大講義室		Process Writing【選択】	佐久	本2F 中教室	
	3年生	道徳教育の理論と方法 <前半8回>	毛利	T201	教育課程論 <前半8回>	山口	T201		エンドオブライフケア論 <後半8回>	吉田・秋山	本2F 中教室		学校保健【選択】	徳珍	本2F 中教室		チーム医療論	岩澤 西山 吉田	本4F 大講義室	
	4年生								看護マネジメント論 I	岩澤 松浦 西山	T201		看護マネジメント論 I	岩澤 松浦 西山	T201					
火	1年生	心理学【選択】 <前半8回> 社会福祉論 <後半8回>	齋藤 松端	本4F 大講義室	心のしくみと働き	齋藤	本3F 中教室		メンタルヘルス・アセスメント <後半8回>	美王 高橋	本3F 中講義室		看護概論 <前半8回>	竹中	本3F 中講義室		社会心理学 <後半8回>	三戸	本3F 中講義室	
	2年生	データサイエンス 【選択】 <前半8回> 保健統計学 <後半8回>	上田 上田	J201	健康教育論 <前半8回> 社会健康学 <後半8回>	岩澤 西村	本4F 大講義室		生活機能論 <前半8回> 発達心理学【選択】 <後半8回>	西田(頼) 齋藤	本4F 大講義室		公衆衛生学(疫学) <前半8回> 生涯発達看護論 III (成 人) <後半8回>	新田 西田(頼)	本4F 大講義室					
	3年生	看護研究 I	遠藤 西山 西村	ゼミ室	エンドオブライフケア論 <前半8回>	吉田・秋山	本2F 中教室		国際看護 I <前半8回>	松尾 竹中 藤井(知)	T107		看護学概説【選択】	徳珍 森田	T203					
	4年生																			
水	1年生				スポーツと健康【選択】	荒木	体育館		基礎ゼミ 看護:上田・西山・西村・高橋・有田 教育:齋藤・足高・金井・芝・谷原(舞)		本2F大 講義室、3 F講義室 3、ゼミ室 1~9		文化人類学(異文化理 解)【選択】 <前半8回>	藤井(真一)	本4F 大講義室		キリスト教と人間 <前半8回>	宮本	本2F 大講義室	
	2年生	フィジカルアセスメント I	西田(頼) 阪上 南	T201 T501	フィジカルアセスメント I	西田(頼) 阪上 南	T201 T501		生涯発達看護論 IV (老年) <前半8回>	長尾	T201		メンタルヘルス・プロモ ーション <前半8回> 栄養学 <後半8回>	小林 藤田(修)	T201 T201					
	3年生	教育の方法と技術	深川 井内	本4F 大講義室	教育相談 <前半8回>	齋藤	本4F 大講義室		特別支援教育 <前半8回> 生徒指導 <後半8回>	智原 川地	本4F 大講義室									
	4年生																			
木	1年生	Speaking & Listening ⑧ Writing ⑦ Reading I ② 情報リテラシー I ②	アラン 尾崎 井野崎 井内・市川	J205 J204 J203 T105	人体の構造と機能 I	松尾	本4F 大講義室		Speaking & Listening⑥ Writing ③ Reading I ④ 情報リテラシー I ④	アラン 尾崎 井野崎 井内・市川	J205 J203 J204 T105		教育学概論 I 【選択】 <前半8回>	深川	本館2F 大講義室					
	2年生	生活機能論 <前半8回> 環境と健康【選択】 <後半8回>	西田(頼) 高井 上田	本4F 大講義室	看護理論 <前半8回>	遠藤・津田(右) 吉田・西田	本2F 中教室		セーフティプロモーション 【選択】 <前半8回> ジェンダー論【選択】 <後半8回>	徳珍 廣森	本3F 中講義室 本3F 中講義室		病理学	坂本	本2F 中教室					
	3年生	地域包括ケア論 II (在宅・地域)	阪上 秋山 中村	T201	地域包括ケア論 III (地域・学校)	岩澤 西村	T201		看護教育学 I	竹中 岩澤	T201		災害看護 I	松尾 藤井(知)	T201		キャリアデザイン II	松浦他	本3階 中講義室	
	4年生																			
金	1年生	人と音楽【選択】 <前半8回> 体育講義【選択】 <後半8回>	金井 梅野・荒木	J206 J201 J202	文章表現【選択】 <前半8回>	足高 谷原(舞)	J201 J202		基礎技術 I	竹見・竹中 秋山 有田・南	T501		基礎技術 I	竹見・竹中 秋山 有田・南	T501		人体の構造と機能 (解剖学) <前半8回> (看護技術 I 使用することあり)	木村	T201	
	2年生	サービス・ラーニング(前3回)	足高・高橋・阪 上・岡崎・井 内・郷司・芝 荒木・谷原・東 本	本2F大講 義室、3F 講義室2、 3、ゼミ室 1~9	Reading II ①【選択】 Reading II ②【選択】	佐久 井野崎	J204 J302		生涯発達看護論 I (母性)	遠藤 松尾 郷司	T201		医療倫理 <前半8回> 看護倫理 <後半8回>	松島 吉田・榎木野	T201 T201					
	3年生	医療英語①【選択】	田中(春)	J205	医療英語①【選択】	田中(春)	J205		人間論(哲学) <前半8回>	宮本	本2F 大講義室		生活機能支援論 III-③ (リハビリテーション)	松井・徳珍 桑原・石川	T107					
	4年生	専門職論【選択】 <前半8回>	松浦 吉田	本2F 中教室	看護研究 III	遠藤他	ゼミ室						時事英語①【選択】	佐久	J302					

看護教育共通(共通教育科目)

学舎・教室名称等
J 大学1号館(城東学舎)
T 大学2号館(鶴見学舎)
本 本館
J101 図工室
J102 絵画室
J301 リズム室
ML 音楽室
J401 乳児保育実習室
T105 パソコンルーム

授業時間 学年 コース	I				II				III				IV				V			
	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室
月 短大・2年生		臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策			T107	臨地実習 国家試験対策			T107	臨地実習 国家試験対策			T107				
		在宅看護論方法論Ⅱ	阪上	T201	音楽療法【選択】	岩井	J206		老年生活機能アセスメントと 老年看護学Ⅱ <前半7回>	藤田(和)・有田 山中	T201	成人看護の課題と探求Ⅰ (慢性期)① <前半6回>	徳珍 本村	T201 T501	成人看護の課題と探求Ⅰ (慢性期)② <前半6回>	徳珍 本村	T201 T501			
短大・1年生		現代とキリスト教 <前半8回> 社会学【選択】 <後半8回>	宮本 足高	本2F 大講義室 本2F 中教室	教育原理	船寄	本4F 大講義室		Speaking & Listening⑤ Writing⑥ ReadingⅠ⑦ 情報リテラシーⅡ①【選択】	アラン 尾崎 井野崎 井内・市川	J206 J302 J302 T105	フランス語Ⅱ【選択】	エマニュエル	J201	社会と人権(日本国憲法) 【選択】	小野(晃)	本2F 大講義室			
		臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107				
火 短大・2年生		統計学【選択】	上田	T203	(前半45分) 現代とキリスト教B② (後半45分) 現代とキリスト教B①	佐嶋 佐嶋	T203 T203		小児看護の課題と探求②	中野	T201 T203 T401	小児看護の課題と探求①	中野	T201 T203 T401	ヒューマンライツⅠ 【選択】 <前半8回>	足高	T203			
		教育制度論 <前半8回> 教職論<後半8回>	久保 深川	本4F 大講義室	ライフサイエンス <前半8回> くらしと色彩【選択】 <後半8回>	高井 東本	本2F 大講義室 J101.102		成人看護の課題と探求Ⅱ(急性期)①	松井・桑原	T201 T202 T501	成人看護の課題と探求Ⅱ (急性期)②	松井・桑原	T201 T202 T501	ヒューマンライツⅡ 【選択】 <後半8回>	足高	T203			
水 短大・1年生		臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107				
		英語D④ <前半5回> 英語D②④ <後半8回>	アラン 田中(春)	T202 T203	母性看護の課題と探求② <前半5回> 英語D①③ <後半8回>	郷司 田中(春)	T201 T202 T401 T203		母性看護の課題と探求①	郷司	T201 T202 T401	現代と女性ⅡB	高井他	T202 T203 T301 T404 T105	成人看護学方法論Ⅲ (ターミナル)	徳珍・吉田 本村	T201			
木 短大・1年生		臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107				
		在宅看護論方法論Ⅱ <前半7回> 在宅看護の課題と探求② <後半8回>	阪上	T201 T202	老年生活機能アセスメントと老年看護学Ⅱ <前半6回> 在宅看護の課題と探求① <後半8回>	藤田(和)・有田 山中 阪上	T201 T202		国際看護論 <前半3回> 社会福祉と社会保障論 <後半12回>	磯辺 村松 住田	T201 T201	国際看護論 <前半5回> 成人看護の課題と探求Ⅰ (慢性期)② <後半7回>	磯辺 村松 徳珍 本村	T201 T202 T501	国際看護論 <前半4回> 成人看護の課題と探求Ⅰ (慢性期)① <後半7回>	磯辺・村松 徳珍・本村	T201 T202 T501			
金 短大・1年生		Speaking & Listening ① Writing ② Reading I ③ 情報リテラシーⅡ②【選択】	アラン 佐久 井野崎 井内・市川	J205 J204 J302 T105	生活と化学【選択】 <前半8回> 生化学 <後半8回>	高井 高井	本4F 大講義室		Speaking & Listening ④ Writing ⑤ Reading I ⑥	アラン 尾崎 佐久	J205 本323 本2F 中教室	人体の構造と機能Ⅱ <前半8回> 人体の構造と機能Ⅲ <後半8回>	松尾 松尾	本4F 大講義室						
		臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107				
短大・2年生		英語D① <前半5回> 在宅看護の課題と探求① <後半5回>	佐久 阪上	T203 T201	英語D② <前半5回> 在宅看護の課題と探求② <後半5回>	佐久 阪上	T203 T201		英語D③ <前半5回> キャリアガイダンス【選択】 <後半8回>	アラン 延藤 能勢	T202 T202	臨床検査 <前半8回> 災害看護論 <後半8回>	藤原 中村・西山	本2F 中講義室 本2F 中講義室	看護研究の基礎	高井・上田・ 井内・南・ 松井・徳珍	本2F 中講義室			
		疾病治療論Ⅰ	津田(泰)	本4F 大講義室	基礎技術Ⅱ	竹中・徳珍 竹見・秋山 有田・南	T201	基礎技術Ⅱ	竹中・徳珍 竹見・秋山 有田・南	T201	基礎技術Ⅱ	竹中・徳珍 竹見・秋山 有田・南	T201	基礎技術Ⅱ	竹中・徳珍 竹見・秋山 有田・南	T201				

看護教育共通「共通教育科目」

学舎・教室名称等	
J	大学1号館(城東学舎)
T	大学2号館(鶴見学舎)
本	本館
J101	図工室
J102	輪画室
J301	リズム室
ML	音楽室
J401	乳児保育実習室
T105	パソコンルーム

授業時間 学年 コース	I				II				III				IV				V			
	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室
月 四・一 年生		臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107				
		現代とキリスト教 〈前半8回〉 社会学【選択】 〈後半8回〉	宮本 足高	本2F 大講義室 本2F 中教室	教育原理	船寄	本4F 大講義室	Speaking & Listening⑤ Writing⑥ Reading I ⑦ 情報リテラシー II ①【選択】	アラン 尾崎 井野崎 井内・市川	J206 J204 J302 T105	フランス語 II【選択】	エマニュエル	J201	社会と人権(日本国憲法) 【選択】	小野(晃)	本2F 大講義室				
		疾病治療論Ⅲ 〈前半8回〉 疾病治療論Ⅳ 〈後半8回〉	久保山 大橋	T201 T201	生活機能支援論Ⅳ-① (老年)	松井 有田 山本	T201	生活機能支援論Ⅲ-① (急性)	松井 桑原	T201	(生活機能支援論Ⅲ①使用することあり)									
火 四・一 年生		臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107				
		教育制度論 〈前半8回〉 教職論〈後半8回〉	久保 深川	本4F 大講義室	ライフサイエンス 〈前半8回〉 くらしと色彩【選択】 〈後半8回〉	高井 東本	本2F 大講義室 J101.102	教育心理学	齋藤	本4F 大講義室	生命科学	高井	本4F 大講義室	家族社会学【選択】 〈前半8回〉	廣森	本2F 大講義室				
		地域包括ケア論 I (在宅)	岩澤 阪上	T201	生活機能支援論Ⅴ-① (精神)	西垣 高橋	T201	生活機能支援論Ⅱ-① (小児)	榎木野・岡崎 中野・阪上	T201	生活機能支援論Ⅲ-② (慢性)	吉田・西田(頼) 桑原	T201							
水 四・一 年生		臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107				
		教養ゼミ 看護:上田・長尾・西山・西村・阪上 教育:船寄・高井・廣森・市川・足高		本2F大講義室、3F 講義室 3、ゼミ室 1~9				Speaking & Listening⑦ Writing⑧ Reading I ①	アラン 尾崎 井野崎	J205 J204 J302	微生物学・免疫学 〈前半8回〉	高井	本4F 大講義室	生命倫理 〈前半8回〉	松島	本2F 大講義室				
		家族看護論 〈前半8回〉	榎木野	T201				社会調査法【選択】	足高 上田 井内	本4F 大講義室	疾病治療論 I	津田(泰)	T201							
木 四・一 年生		臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107				
		Speaking & Listening ① Writing ② Reading I ③ 情報リテラシー II ②【選択】	アラン 佐久 井野崎 井内・市川	J205 J204 J302 T105	生活と化学【選択】 〈前半8回〉 生化学 〈後半8回〉	高井 高井	本4F 大講義室	Speaking & Listening ④ Writing ⑤ Reading I ⑥	アラン 尾崎 佐久	J205 本323 本2F 中教室	人体の構造と機能 II 〈前半8回〉 人体の構造と機能 III 〈後半8回〉	松尾 松尾	本4F 大講義室							
					フィジカルアセスメント II	西田(頼) 他	T201 T501	フィジカルアセスメント II	西田(頼) 他	T201 T501	Process Writing【選択】	佐久	本2F 中教室							
金 四・一 年生		臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107	臨地実習 国家試験対策		T107				
		疾病治療論 I	津田(泰)	本4F 大講義室				基礎技術 II	竹中・徳珍 竹見・秋山 有田・南	T201	基礎技術 II	竹中・徳珍 竹見・秋山 有田・南	T201	基礎技術 II	竹中・徳珍 竹見・秋山 有田・南	T201				
		臨床薬理学 〈前半8回〉 サービス・ラーニング(後2回) 足高・高橋・阪上・岡崎・井内・郷司・芝・ 荒木・谷原(舞)・東本	大喜多	T201 本2F 大講義室、ゼミ 室1~9、 3F講義室 2~3	Reading II ③【選択】 Reading II ④【選択】 Reading II ⑤【選択】	井野崎 尾崎 佐久	J201 J302 J204	クリティカル・シンキング 〈前半8回〉	伊東 小野(聡)	本2F 大講義室	生活機能支援論 I-① (母性)	遠藤 郷司	本2F 大講義室							

看護教育共通「共通教育科目」

学舎・教室名称等	
J	大学1号館(城東学舎)
T	大学2号館(鶴見学舎)
本	本館
J101	図工室
J102	絵画室
J301	リズム室
ML	音楽室
J401	乳児保育実習室
T105	パソコンルーム

看護学部 看護学科 後期時間割

【資料39-04-03】

授業時間 学年 コース	I				II				III				IV				V				
	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室	
月	1年生	現代とキリスト教 ＜前半8回＞ 社会学【選択】 ＜後半8回＞	宮本 足高	本2F大講義室 本2F中教室		教育原理	船寄	本4F大講義室		Speaking & Listening⑤ Writing⑥ Reading I⑦ 情報リテラシーⅡ①【選択】	アラン 尾崎 井野崎 井内・市川	J206 J204 J302 T105		フランス語Ⅱ【選択】	エマニュエル	J201		社会と人権(日本国憲法) 【選択】	小野(晃)	本2F大講義室	
	2年生	疾病治療論Ⅲ ＜前半8回＞ 疾病治療論Ⅳ ＜後半8回＞	久保山 大橋	T201 T201		生活機能支援論Ⅳ-① (老年)	長尾 有田 山本	T201		生活機能支援論Ⅲ-① (急性)	松井 桑原	T201		(生活機能支援論Ⅲ①を使用することあり)							
	3年生	(3年後期実習後科目) 生活機能支援論Ⅲ-⑤ (慢性)	吉田 西田(頼) 桑原	T107																	
火	1年生	教育制度論 <前半8回> 教職論<後半8回>	久保 深川	本4F大講義室		ライフサイエンス ＜前半8回> くらしと色彩【選択】 ＜後半8回>	高井 東本	本2F大講義室 J101.102		教育心理学	齋藤	本4F大講義室		生命科学	高井	本4F大講義室		家族社会学【選択】 ＜前半8回>	廣森	本2F大講義室	
	2年生	地域包括ケア論Ⅰ (在宅)	岩澤 阪上	T201		生活機能支援論Ⅴ-① (精神)	西垣 高橋	T201		生活機能支援論Ⅱ-① (小児)	榎木野・岡崎 中野・阪上	T201		生活機能支援論Ⅲ-② (慢性)	吉田・西田 (頼) 桑原	T201					
	3年生	(3年後期実習後科目) 生活機能支援論Ⅴ-② (精神)	西垣 美玉 高橋	T107																	
水	1年生	敬養ゼミ 看護:上田・長尾・西山・西村・阪上 教育:船寄・高井・廣森・市川・足高		本2F大講義室、3F講義室 3、ゼミ室 1～9						Speaking & Listening⑦ Writing⑧ Reading I①	アラン 尾崎 井野崎	J205 J204 J302		微生物学・免疫学 ＜前半8回>	高井	本4F大講義室		生命倫理 <前半8回>	松島	本2F大講義室	
	2年生	家族看護論 <前半8回>	榎木野	T201						社会調査法【選択】	足高 上田 井内	本4F大講義室		疾病治療論Ⅰ	津田(泰)	T201					
	3年生	看護研究Ⅱ	遠藤他	T107		(3年後期実習後科目) 生活機能支援論Ⅱ-② (小児)	榎木野 岡崎 中野	T107						医療英語②【選択】	田中(春)	J201		医療英語②【選択】	田中(春)	J201	
木	1年生	Speaking & Listening ① Writing ② Reading I ③ 情報リテラシーⅡ②【選択】	アラン 佐久 井野崎 井内・市川	J205 J204 J302 T105		生活と化学【選択】 ＜前半8回> 生化学 <後半8回>	高井 高井	本4F大講義室		Speaking & Listening ④ Writing ⑤ Reading I ⑥	アラン 尾崎 佐久	J205 本323 本2F中教室		人体の構造と機能Ⅱ ＜前半8回> 人体の構造と機能Ⅲ ＜後半8回>	松尾 松尾	本4F大講義室					
	2年生					フィジカルアセスメントⅡ	西田(頼) 他	T107 T501		フィジカルアセスメントⅡ	西田(頼) 他	T107 T501		Process Writing②【選択】	佐久	本2F中教室					
	3年生	(3年後期実習後科目) 生活機能支援論Ⅳ-② (老年)	長尾 有田	T107						キャリアデザインⅡ	松浦他	本館3階 中講義室									
金	1年生	疾病治療論Ⅰ	津田(泰)	本4F大講義室						基礎技術Ⅱ	竹中・徳珍 竹見・秋山 有田・南	T201		基礎技術Ⅱ	竹中・徳珍 竹見・秋山 有田・南	T201		基礎技術Ⅱ	竹中・徳珍 竹見・秋山 有田・南	T201	
	2年生	臨床薬理学 <前半8回> サーブिस・ラーニング(後2回) 足高・高橋・阪上・岡崎・井内・郷司・芝・ 荒木・谷原(舞)・東本	大喜多	T201 本館2F大講義室、ゼミ室 1～9、3F講義室 2～3		Reading II ③【選択】 Reading II ④【選択】 Reading II ⑤【選択】	井野崎 尾崎 佐久	J201 J302 J204		クリティカル・シンキング ＜前半8回>	伊東 小野(聡)	本2F大講義室		生活機能支援論Ⅰ-① (母性)	遠藤 郷司	T107					
	3年生	(3年後期実習後科目) 生活機能支援論Ⅲ-④ (急性)	松井 桑原	T107						(3年後期実習後科目) 生活機能支援論Ⅰ-② (母性)	遠藤 郷司	T107									

看護教育共通「共通教育科目」

学舎・教室名称等	
J	大学1号館(城東学舎)
T	大学2号館(鶴見学舎)
本	本館
J101	図工室
J102	絵画室
J301	リズム室
ML	音楽室
J401	乳児保育実習室
T105	パソコンルーム

看護学部 看護学科 後期 時間割

【資料39-04-04】

授業時間 学年 コース	I				II				III				IV				V				
	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室	コード	科目	担当	教室	
月	1年生	現代とキリスト教 〈前半8回〉 社会学【選択】 〈後半8回〉	宮本 足高	本2F 大講義室 本2F 中教室		教育原理	船寄	本4F 大講義室		Speaking & Listening⑤ Writing⑥ Reading I ⑦ 情報リテラシーⅡ①【選択】	アラン 尾崎 井野崎 井内・市川	J206 J204 J302 T105		フランス語Ⅱ【選択】	エマニュエル	J201		社会と人権(日本国憲法) 【選択】	小野(晃)	本2F 大講義室	
	2年生	疾病治療論Ⅲ 〈前半8回〉 疾病治療論Ⅳ 〈後半8回〉	久保山 大橋	T201 T201		生活機能支援論Ⅳ-① (老年)	長尾 有田 山本	T201		生活機能支援論Ⅲ-① (急性)	松井 桑原	T201		(生活機能支援論Ⅲ①使用することあり)							
	3年生	(3年後期実習後科目) 生活機能支援論Ⅲ-⑤ (慢性)	吉田 西田(頼) 桑原	T107																	
	4年生					宗教論 〈後半8回〉	ヌノ リマ	本2F 大講義室							園芸療法入門【選択】 〈前半8回〉	寺田	T203				
火	1年生	教育制度論 〈前半8回〉 教職論〈後半8回〉	久保 深川	本4F 大講義室		ライフサイエンス 〈前半8回〉 くらしと色彩【選択】 〈後半8回〉	高井 東本	本2F 大講義室 J101.102		教育心理学	齋藤	本4F 大講義室		生命科学	高井	本4F 大講義室		家族社会学【選択】 〈前半8回〉	廣森	本2F 大講義室	
	2年生	地域包括ケア論Ⅰ (在宅)	岩澤 阪上	T201		生活機能支援論Ⅴ-① (精神)	西垣 高橋	T201		生活機能支援論Ⅱ-① (小児)	榎木野・岡崎 中野・阪上	T201		生活機能支援論Ⅲ-② (慢性)	吉田・西田 (頼) 桑原	T201					
	3年生	(3年後期実習後科目) 生活機能支援論Ⅴ-② (精神)	西垣 美王 高橋	T107																	
	4年生	看護教育学Ⅱ【選択】 〈前半8回〉 音楽療法入門【選択】 〈後半8回〉	竹中 岩井	本2F 中教室 J206		看護政策論【選択】 〈前半8回〉	岩澤	本2F 中教室													
水	1年生	教養ゼミ 看護:上田・長尾・西山・西村・阪上 教育:船寄・高井・廣森・市川・足高		本2F 大講義室、3F 講義室 3、ゼミ室 1~9						Speaking & Listening⑦ Writing⑧ Reading I ①	アラン 尾崎 井野崎	J205 J204 J302		微生物学・免疫学 〈前半8回〉	高井	本4F 大講義室		生命倫理 〈前半8回〉	松島	本2F 大講義室	
	2年生	家族看護論 〈前半8回〉	榎木野	T201						社会調査法【選択】	足高 上田 井内	本4F 大講義室		疾病治療論Ⅰ	津田(泰)	T201					
	3年生	看護研究Ⅱ	遠藤他	T107		(3年後期実習後科目) 生活機能支援論Ⅱ-② (小児)	榎木野 岡崎 中野	T107						医療英語②【選択】	田中(春)	J201		医療英語②【選択】	田中(春)	J201	
	4年生	看護マネジメント論Ⅱ 【選択】 〈前半8回〉	松浦 西山	本2F 中教室		時事英語②【選択】	佐久	本4F 大講義室		災害看護Ⅱ【選択】 〈前半8回〉	藤井(知)	本2F 中教室									
木	1年生	Speaking & Listening ① Writing ② Reading I ③ 情報リテラシーⅡ②【選択】	アラン 佐久 井野崎 井内・市川	J205 J204 J302 T105		生活と化学【選択】 〈前半8回〉 生化学 〈後半8回〉	高井 高井	本4F 大講義室		Speaking & Listening ④ Writing ⑤ Reading I ⑥	アラン 尾崎 佐久	J205 本323 本2F 中教室		人体の構造と機能Ⅱ 〈前半8回〉 人体の構造と機能Ⅲ 〈後半8回〉	松尾 松尾	本4F 大講義室					
	2年生					フィジカルアセスメントⅡ	西田(頼) 他	T107 T501		フィジカルアセスメントⅡ	西田(頼) 他	T107 T501		Process Writing② 【選択】	佐久	本2F 中教室					
	3年生	(3年後期実習後科目) 生活機能支援論Ⅳ-② (老年)	長尾 有田	T107						キャリアデザインⅡ	松浦他	本館3階 中講義室									
	4年生	地域包括ケア論Ⅳ(在宅)	岩澤・阪上 西村・秋山 中村	T201		看護政策論【選択】 〈前半7回〉	岩澤	T201		教職実践演習	徳珍	本4F 大講義室									
金	1年生	疾病治療論Ⅰ	津田(泰)	本4F 大講義室						基礎技術Ⅱ	竹中・徳珍 竹見・秋山 有田・南	T201		基礎技術Ⅱ	竹中・徳珍 竹見・秋山 有田・南	T201		基礎技術Ⅱ	竹中・徳珍 竹見・秋山 有田・南	T201	
	2年生	臨床薬理学 〈前半8回〉 サービス・ラーニング(後2回) 足高・高橋・阪上・岡崎・井内・郷司・芝・ 荒木・谷原(舞)・東本	大喜多	T201 本館2F 大講義室、ゼミ室 1~9、3F講義室 2~3		ReadingⅡ③【選択】 ReadingⅡ④【選択】 ReadingⅡ⑤【選択】	井野崎 尾崎 佐久	J201 J302 J204		クリティカル・シンキング 〈前半8回〉	伊東 小野(聡)	本2F 大講義室		生活機能支援論Ⅰ-① (母性)	遠藤 郷司	T107					
	3年生	(3年後期実習後科目) 生活機能支援論Ⅲ-④ (急性)	松井 桑原	T107						(3年後期実習後科目) 生活機能支援論Ⅰ-② (母性)	遠藤 郷司	T107									
	4年生					看護研究Ⅳ	遠藤他	T107		時事英語③【選択】	佐久	J202									

看護教育共通「共通教育科目」

学舎・教室名称等
J 大学1号館(城東学舎)
T 大学2号館(鶴見学舎)
本 本館
J101 園工室
J102 絵画室
J301 リズム室
ML 音楽室
J401 乳児保育実習室
T105 パソコンルーム

専任 担当科目経年度移行表

令和4年度前期				令和4年度後期			令和5年度前期			令和5年度後期		
氏名		科目名	授業形態		科目名	授業形態		科目名	授業形態		科目名	授業形態
【令和4年度から大学所属の教員】												
船寄 俊雄	教1 教1	教育学概論Ⅱ 教育原理	講義 講義	教・看1	教養ゼミ	演習	教1 教1 教2	教育学概論Ⅱ 教育原理 教職論	講義 講義 講義	教・看1	教養ゼミ	演習
				短2	教職論	講義						
智原 正行	教1	障害児保育論	講義				教1 教2	障害児保育論 特別支援教育学	講義 演習			
		短2 障害児保育	講義	短2	教職実践演習(幼・小)	演習						
				短2	生徒・進路指導論	講義						
パニヤン アラン	教・看1 教・看1 教・看1	異文化交流(海外語学研修) 国際理解(カンボジア研修) Speaking & Listening	演習 演習 演習	教・看1	Speaking & Listening	演習	教・看1 教・看1 教・看1 教2	異文化交流(海外語学研修) 国際理解(カンボジア研修) Speaking & Listening 初等英語論	演習 演習 演習 講義	教・看1	Speaking & Listening	演習
				短2	English Communication D	演習						
足高 吉夫	教・看1 教・看1	文章表現 基礎ゼミ	講義 演習	教・看1 教・看1	社会学 教養ゼミ	講義 演習	教・看1 教・看1 教・看2通	文章表現 基礎ゼミ サービスラーニング	講義 演習 演習	教・看1 教・看1 教・看2 教・看2通	社会学 教養ゼミ 社会調査法 サービスラーニング	講義 演習 演習 演習
		短2 社会と人権(日本国憲法)	講義	短2	社会と子ども	講義				短3看	看護研究	演習
		短2看 社会心理学	講義	短2	サービスラーニング	演習						
				短2	ヒューマンライツ	講義						
				短2看	ヒューマンライツⅠ	講義						
				短2看	ヒューマンライツⅡ	講義						
				短2看	看護研究の基礎	講義						
				短3看	看護研究	演習						
市川 隆司	教・看1 教・看1	情報倫理 情報リテラシーⅠ	講義 演習	教・看1 教・看1	情報リテラシーⅡ 教養ゼミ	演習 演習	教・看1 教・看1	情報倫理 情報リテラシーⅠ	講義 演習	教・看1 教・看1	情報リテラシーⅡ 教養ゼミ	演習 演習
		短2 教育方法・教育課程論	講義							教2	ICT活用演習	演習
金井 秋彦	教・看1 教・看1 教1	人と音楽 基礎ゼミ 初等音楽論Ⅰ	講義 演習 演習	教1	初等音楽論Ⅱ	演習	教・看1 教・看1 教1	人と音楽 基礎ゼミ 初等音楽論Ⅰ	講義 演習 演習	教1 教2 教2	初等音楽論Ⅱ 幼児音楽指導法Ⅱ 童謡創作論	演習 演習 演習
		短2 童謡創作(音楽理論)[a]	演習	短2	童謡創作(音楽理論)[b]	演習						
		短2 幼児と音楽[a]	演習	短2	幼児と音楽[b]	演習						
				短2	時代様式と音楽	講義						
佐久 正秀	教・看1 教・看1 教・看1 教・看1	Writing ReadingⅠ 異文化交流(海外語学研修) 国際理解(カンボジア研修)	演習 演習 演習 演習	教・看1 教・看1	Writing ReadingⅠ	演習 演習	教・看1 教・看1 教・看1 教・看2 教・看2	Writing ReadingⅠ 異文化交流(海外語学研修) 国際理解(カンボジア研修) Process Writing ReadingⅡ	演習 演習 演習 演習 演習 演習	教・看1 教・看1 教・看2 教・看2	Writing ReadingⅠ Process Writing ReadingⅡ	演習 演習 演習 演習
		短2 English Communication C	演習									
芝 誠貴	教1 教1	キャリア入門 基礎ゼミ	演習 演習				教1 教1	キャリア入門 基礎ゼミ	演習 演習	教・看2通年 教2	サービスラーニング 子ども家庭支援論	演習 講義
		短2 へアレントエデュケーション	講義	短2	臨床心理学	講義						
		短2 子ども家庭支援論	講義									
谷原 舞	教1 教・看1 教・看1 教・看1	幼児と言葉論 文章表現 異文化交流(海外語学研修) 基礎ゼミ	演習 講義 演習 演習	教1	初等国語論	講義	教1 教・看1 教・看1 教・看1 教2	幼児と言葉論 文章表現 異文化交流(海外語学研修) 基礎ゼミ 保育内容指導法(言葉)	演習 講義 演習 演習 演習	教1 教・看2通年 教2	初等国語論 サービスラーニング 初等国語科教育論	講義 演習 講義
		短2 言語表現	演習	短2	教職実践演習(幼・小)	演習						
荒木 雅之	教・看1 看1	体育講義 スポーツと健康	講義 演習	教1 教1	体育実技 野外活動	実習 演習	教・看1 看1	体育講義 スポーツと健康	講義 演習	教1 教1 教2 教・看2通年	体育実技 野外活動 初等体育論Ⅱ サービスラーニング	実習 演習 演習 演習
		短2 保育内容(表現)	演習	短2	音図体実践力アップ講座(体育Ⅲ)	演習						
		短2 体育科指導法	演習									
		短2 音図体実践力アップ講座(体育Ⅰ)	演習									
東本 康栄	教1	初等図工論Ⅰ	演習	教1 教・看1	初等図工論Ⅱ くらしと色彩	演習 講義	教1 教2	初等図工論Ⅰ 幼児造形指導法Ⅰ	演習 演習	教1 教・看1 教・看2通年 教2	初等図工論Ⅱ くらしと色彩 サービスラーニング 幼児造形指導法Ⅱ	演習 講義 演習 演習
		短2 保育内容(表現)	演習	短2	幼児の造形活動[b]	演習						
		短2 幼児の造形活動[a]	演習									
【令和5年度から大学所属の教員】												
高井 明德				教・看1 教・看1 教・看1 看1 看1 看1	教養ゼミ ライフサイエンス 生活と化学 生化学 生命科学 微生物学・免疫学	演習 講義 講義 講義 講義 講義	教2 看2	初等理科論 環境と健康	講義 講義	教・看1 教・看1 教・看1 看1 看1 看1	教養ゼミ ライフサイエンス 生活と化学 生化学 生命科学 微生物学・免疫学	演習 講義 講義 講義 講義 講義
		短2看 生命科学	講義	短2	科学の楽しみ	講義				短3看	看護研究	演習
		短2 現代と女性Ⅱ[a]	講義	短2	現代と女性Ⅱ[b]	講義						
				短3看	看護研究	演習						

大学本館																																					
階	2F												3F												4F												
教室 部屋No	講義室 1	講義室 2	講義室 3	講義室 4	講義室 5	ラーニング C	ラーニング C	講義室 6	講義室 7	講義室 8	中講義室	大講義室	調理実習室	講義室 1	講義室 2	講義室 3	中講義室	ゼミ室 1	ゼミ室 2	ゼミ室 3	ゼミ室 4	ゼミ室 5	ゼミ室 6	ゼミ室 7	ゼミ室 8	ゼミ室 9	小ゼミ室 1	小ゼミ室 2	小ゼミ室 3	小ゼミ室 4	理科実験室	講義室	大講義室	音楽演習室			
収容人数	66	66	66	66	66	66	66	63	63	63	102	351	125	63	63	63	102	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	7	7	7	7	103	63	126	103		
I																																					
II																																					
III																																					
IV																																					
V											Process Writing(1)																										
I																																			心理学 (前8回)		
II																	心のしくみ と働き																			社会福祉論 (後8回)	
III																	メンタルヘルス・アセスメント (後8回)																				
IV																	看護概論 (前8回)																				
V																	社会心理学 (後8回)																				
I																																					
II																																					
III												基礎ゼミ				基礎ゼミ (A)		基礎ゼミ (B)	基礎ゼミ (C)	基礎ゼミ (D)	基礎ゼミ (E)	基礎ゼミ (F)	基礎ゼミ (G)	基礎ゼミ (H)	基礎ゼミ (I)	基礎ゼミ (J)											
IV																																				文化人類学 (異文化理解) (前8回)	
V												キリスト教 と人間 (前8回)																									
I																																					
II																																				人体の構造 と機能 I	
III																																					
IV												教育学概論 I(前8回)																									
V												教育学概論 II(後8回)																									
I																																					
II																																					
III																																					
IV																																					
V																																					

※ 下線は、選択必修科目・選択科目



大学1号館															第1・2 体育館
階	1F			2F						3F			4F	6F	
教室	ラーニング commons	工作室	絵画室	講義室	講義室	講義室	講義室	講義室	音楽室	リズム室	PC教室	ML	保育実習室	ピアノセル	
部屋No		101	102	201	202	203	204	205	206	301	302	303	401	601~613	
収容人数	157	113	94	70	70	70	70	88	83	283	75	69	94	7	
月	I				現代とキリスト教[a]	Reading I ⑤	Writing ④	Speaking& Listening ③							
	II		保育内容 (表現)				保育内容総論①		保育内容 (表現)	保育内容 (表現)		保育内容 (表現)			
	III					Speaking& Listening ②	Writing ①	Reading I ⑧	算数科指導法【小 免選択必修】						
	IV				フランス語 I				外国語(英語)指導法 【小免選択必修】						
	V														
火	I					ベネッセ・エデュケーション	障害児保育			子ども音楽療育演 習					
	II				教育原理		言語表現 (前8回)		社会と人権(日本国 憲法)						
	III				保育原理				子ども家庭支援の 心理学						
	IV		初等図工論 I ①		子どもの健康と安全 (前8回) 社会的養護 II (後 8回)		幼児と言葉論② (前8回) 保育内容指導法②(後 8回)								
	V		初等図工論 I ②						童謡創作(音楽理 論) [a]						
水	I				社会福祉論			English Communi- cation_C		音図体実践力アッ プ講座(音楽 I)					
	II						教育方法・ 教育課程論	保育内容総論②					乳児保育 II (前8回)		
	III									体育科指導法			乳児保育 II (前8回)		
	IV						現代と女性 II [a]	現代と女性 II [a]	現代と女性 II [a]	現代と女性 II [a]					
	V		幼児の造形活動[a]		健康生活と栄養学 ②		英語C③		英語C①						
木	I		幼児の造形活動[a]				Reading I ②	Writing ⑦	Speaking& Litening ⑧				幼児と音楽[a]	幼児と音楽[a]	
	II						幼児と環境論①(前8 回) 幼児と言葉論①(後8 回)					幼児と言葉論② (前8回) 幼児と環境論② (後8回)	幼児と音楽[a]	幼児と音楽[a]	
	III				保育内容 (環境)		Writing ③	Reading I ④	Speaking& Litening ⑥			特別活動の 指導法【小免】 (前8回) 言語表現 (後8回)			
	IV											体育(幼児と運 動) [a]			
	V				教育実習事前・事後指導 保育実習指導(一斉指導時)			障害児保育論							
金	I				体育講義 (後8回)		子ども 家庭支援論		人と音楽 (前8回)			社会と人権(日本国 憲法)			
	II				文章表現 (前8回)		子ども 家庭支援論		音楽科指導法 【小免選択必修】						
	III		音図体実践力アップ講座 (図画工作 I)									初等音楽論 I ①		初等音楽論 I ①	
	IV								保育内容 (環境)			体育(幼児と運 動) [a]	初等音楽論 I ②	初等音楽論 I ②	
	V														

教育学部
短大2年
1年
2年
3年
4年
看護学部
短大2年
短大3年
1年
2年
3年
4年

※ 下線は、選択必修科目・選択科目

大学2号館 (観見学舎)															
教室	1F			2F			3F	4F			5F				
	メディアスペース	PC教室	講義室	大講義室	講義室	講義室	中講義室	母性・小児実習室	小講義室	ラーニングコモンズ	看護学実習室	第1看護演習室	第2看護演習室	第3看護演習室	
部屋No	101	105	107	201	202	203	301	401	404	404	501	502	503	504	
㎡	190	95	99	173	93	74	94	108	40	40	215	36	36	36	
収容人数	60	40	90	144	60	50	60	40	30	30	80	20			
月	I		情報リテラシーⅠ①	臨床実習 国家試験対策	成人看護学方法論Ⅰ (慢性期)										
	II				母性看護学方法論Ⅱ										
	III		情報リテラシーⅠ③		老年看護学概論 (前8回) 老年生活機能アセスメントと老年看護学(後6回)	重五論									
	IV				疾病・治療論Ⅲ (前4回) 在宅看護論方法論Ⅰ(後7回)	ガーデニング									
	V		情報倫理 (前8)												
火	I			臨床実習 国家試験対策	成人看護学方法論Ⅱ (急性期)										
	II				現代とキリスト教 A② (前半45分) 現代とキリスト教 A① (後半45分)										
	III				健康生活と栄養学 ①										
	IV				小児看護学方法論Ⅰ(前7回) 小児看護学方法論Ⅱ(後6回)										
	V				生命化学										
水	I			臨床実習 国家試験対策	フィジカルアセスメントⅡ①						フィジカルアセスメントⅡ①				
	II		教育方法・教育課程論		フィジカルアセスメントⅡ②							フィジカルアセスメントⅡ②			
	III				在宅看護論 (前8回)										
	IV		現代と女性Ⅱ A (E)		現代と女性Ⅱ A (A)	現代と女性Ⅱ A (B)	現代と女性Ⅱ A (C)		現代と女性Ⅱ A (D)						
	V														
木	I		情報リテラシーⅠ②	臨床実習 国家試験対策	小児看護学方法論Ⅰ(前6回) 小児看護学方法論Ⅱ(後7回)										
	II		教育方法・教育課程論		看護管理とリスクマネジメント (前7回) 老年生活機能アセスメントと老年看護学Ⅰ(後7回)										
	III		情報リテラシーⅠ④		精神看護学方法論 (前9回) 精神看護の課題と探求 (後5回)										
	IV				カウンセリング論 (前8回) 精神看護の課題と探求 (後6回)										
	V				疾病・治療論Ⅲ (脳・神経) (前5回) 疾病・治療論Ⅲ (運動器)(中5回) 社会心理学 (後4回)										
金	I			臨床実習 国家試験対策	薬理学										
	II				基礎看護の課題と探求						基礎看護の課題と探求				
	III				英語C②	英語C④					基礎技術Ⅰ				
	IV				精神看護学方法論 (前5回) 看護管理とリスクマネジメント 在宅看護論方法論Ⅰ(後6回)						基礎技術Ⅰ				
	V				医療・生命倫理 (前8回) 人体の構造と機能 (解剖学) (前8回)										

教育部
短大2年
1年
2年
3年
4年
看護学部
短大2年
短大3年
1年
2年
3年
4年

※ 下線は、選択必修科目・選択科目

階	2F													3F													4F										
	講義室1	講義室2	講義室3	講義室4	講義室5	ラウンジC	ラウンジC	講義室6	講義室7	講義室8	中講義室	大講義室	調理実習室	講義室1	講義室2	講義室3	中講義室	ゼミ室1	ゼミ室2	ゼミ室3	ゼミ室4	ゼミ室5	ゼミ室6	ゼミ室7	ゼミ室8	ゼミ室9	小ゼミ室1	小ゼミ室2	小ゼミ室3	小ゼミ室4	理科実験室	講義室	大講義室	音楽演習室			
部屋No	202	203	204	205	206	207	208	211	212	213	210	201	214	321	322	323	320	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	324	411	412	413			
m ²	66	66	66	66	66	66	66	63	63	63	102	351	125	63	63	63	102	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	7	7	7	7	103	63	126	103		
収容人数	40	40	40	40	40	30	30	40	40	40	80	240	50	40	40	40	80	20	20	20	20	20	20	20	20	20	6	6	6	6	50	40	100	50			
月	I											社会学 (後8回)	現代とキリスト教 (前8回)																								
	II																																			教育原理	
	III																																				
	IV																																				
	V																																				
火	I																																			教育制度論 (前8回) 教職論 (後8回)	
	II																																				
	III																																			教育心理学	
	IV																																			生命科学	
	V																																				
水	I																																				
	II																																				
	III																																				
	IV																																			微生物学・免疫学 (前8回)	
	V																																				
木	I																																				
	II																																			生活と化学 (前8回) 生化学 (後8回)	
	III																																				
	IV																																			人体の構造と機能II (前8回) 人体の構造と機能III (後8回)	
	V																																				
金	I																																			疾病治療論 I	
	II																																				
	III																																				
	IV																																				
	V																																				

※ 下線は選択科目・選択必修科目

教育学部	短大2年	1年	2年	3年	4年	看護学部	短大2年	短大3年	1年	2年	3年	4年
		共通教育科目							共通教育科目			

大学1号館

階	1F			2F					3F			4F	6F	体育館		
教室	ラーニング commons	工作室	絵画室	講義室	講義室	講義室	講義室	講義室	音楽室	リズム室	302	ML	保育実習室	ピアノセル		
部屋No		101	102	201	202	203	204	205	206	301	302	303	401	601~613		
m ²	157	113	94	70	70	70	70	88	83	283	75	69	94	7		
収容人数	80	40	40	40	40	40	40	50	50	50	40	30	40	13		
月	I							教職論	子どもの保健							
	II				教育心理学				子どもの保健	音楽療法						
	III							Writing ⑥	ヒューマンライ イズ	Speaking & Listening ⑥		Reading I ⑦				
	IV				フランス語II						音図体実践力 アップ講座 (音楽III)					
	V								社会と子ども (前8回)							
火	I			初等国語論①		体育実技②	教職論	子育て支援 (前8回)								体育実技②
	II		くらしと色彩(後8回)					子育て支援 (前8回)				生徒・進路指 導論【小・ 必】				
	III			子ども家庭福祉		教職実践演習(幼・小)										
	IV		初等図工論II①					初等国語論②				道徳教育の理 論と方法【小 必】(前8回)				
	V		初等図工論II②						童謡創作(音楽 理論)[b]							
水	I								時代様式と音 楽(後8回>							
	II				教育制度論			科学の楽しみ (前8回)	English Communication D							
	III							Writing ⑧	Speaking & Listening ⑦		Reading I ①					
	IV				現代と女性II [b]	現代と女性II [b]	現代と女性II [b]	現代と女性II [b]								
	V															
木	I			現代とキリス ト教 [b]			Writing ②	Speaking & Listening ①			Reading I ③					
	II							総合的な学習 の時間の 指導法				幼児と音楽[b]		幼児と音楽[b]		
	III						体育(幼児と 運動)[b]	Speaking & Listenig ④				幼児と音楽[b]		幼児と音楽[b]		体育(幼児と運 動)[b]
	IV		幼児の造形活動[b]		初等教育課程論			体育(幼児と 運動)[b]								体育(幼児と運 動)[b]
	V				教育実習事前・事後指導 保育実習指導 一斉指導時											
金	I						モンテッソー リ保育	臨床心理学			キリスト教的 保育論	初等音楽論II ①		初等音楽論II ①		
	II		音図体実践力アップ講座(図画 工作II)				音図体実践力 アップ講座 (体育III)		幼児と 人間関係論① (前8回)			初等音楽論II ②		初等音楽論II ②		音図体実践力 アップ講座(体 育III)
	III		音図体実践力アップ講座(図画 工作III)				音図体実践力 アップ講座 (体育II)	体育実技①	幼児と 人間関係論② (前8回)		音図体実践力 アップ講座 (音楽II)					音図体実践力 アップ講座(体 育II)
	IV		幼児の造形活動[b]								幼児と表現論 (前8回)					
	V															

教育学部 短大2年 1年 2年 3年 4年 看護学部 短大2年 短大3年 1年 2年 3年 4年
共通教育科目

※ 下線は選択科目・選択必修科目

第三体育館
体育実技①

大学2号館 (観見学舎)														
	1F			2F			3F	4F		5F				
教室	メディアスペース	PC教室	講義室	大講義室	講義室	講義室	中講義室	母性・小児実習室	小講義室	ラーニングcommons	看護学実習室	第1看護演習室	第2看護演習室	第3看護演習室
部屋No	101	105	107	201	202	203	301	401	404	404	501	502	503	504
面積	190	95	99	173	93	74	94	108	40	40	215	36	36	36
収容人数	60	40	90	144	60	50	60	40	30	30	80	20		
月	I			臨地実習 国家試験対策	在宅看護論方法論II									
	II													
	III	情報リテラシーII①			老年生活機能アセスメントと老年看護学II(前7回)		国語療法論							
	IV				成人看護の課題と探求I(慢性期)①(前6回)		国語療法実習					成人看護の課題と探求I(慢性期)①(前6回)		
	V				成人看護の課題と探求I(慢性期)②(前6回)		国語療法実習					成人看護の課題と探求I(慢性期)②(前6回)		
火	I			臨地実習 国家試験対策			統計学							
	II						(前半45分)現代とキリスト教B②							
	III				小児看護の課題と探求②	成人看護の課題と探求II(急性期)①	小児看護の課題と探求②		小児看護の課題と探求②			成人看護の課題と探求II(急性期)①		
	IV				小児看護の課題と探求①	成人看護の課題と探求II(急性期)②	小児看護の課題と探求①		小児看護の課題と探求①			成人看護の課題と探求II(急性期)②		
	V							ヒューマンライズI(前8回)						
水	I			臨地実習 国家試験対策		英語D④(前5回)								
	II				母性看護の課題と探求②(前5回)	母性看護の課題と探求②(前5回)	英語D②④(後8回)		母性看護の課題と探求②(前5回)					
	III				母性看護の課題と探求①	母性看護の課題と探求①			母性看護の課題と探求①					
	IV		現代と女性II B(E)			現代と女性II B(A)	現代と女性II B(B)	現代と女性II B(C)		現代と女性II B(D)				
	V					成人看護学方法論III(タミナル)								
木	I	情報リテラシーII②		臨地実習 国家試験対策	在宅看護論方法論II(前7回)									
	II				老年生活機能アセスメントと老年看護学II(前6回)	在宅看護の課題と探求①(後8回)								
	III				国際看護論(前3回)									
	IV				社会福祉と社会保障論(後12回)							成人看護の課題と探求I(慢性期)②(後7回)		
	V				国際看護論(前5回)	成人看護の課題と探求I(慢性期)②(後7回)						成人看護の課題と探求I(慢性期)①(後7回)		
金	I			臨地実習 国家試験対策	在宅看護の課題と探求①(後5回)									
	II				在宅看護の課題と探求②(後5回)		英語D①(前5回)							
	III						英語D②(前5回)							
	IV						英語D③(前5回)							
	V					基礎技術II		キャリアガイド(後8回)						

教育学部
短大2年
1年
2年
3年
4年
看護学部
短大2年
短大3年
1年
2年
3年
4年

※ 下線は選択科目・選択必修科目

		大学本館																																						
		2F												3F												4F														
階	教室	講義室1	講義室2	講義室3	講義室4	講義室5	ラーニング C	ラーニング C	講義室6	講義室7	講義室8	中講義室	大講義室	調理実習室	講義室1	講義室2	講義室3	中講義室	ゼミ室1	ゼミ室2	ゼミ室3	ゼミ室4	ゼミ室5	ゼミ室6	ゼミ室7	ゼミ室8	ゼミ室9	小ゼミ室1	小ゼミ室2	小ゼミ室3	小ゼミ室4	理科実験室	講義室	大講義室	音楽演習室					
部屋No	202	203	204	205	206	207	208	211	212	213	210	201	214	321	322	323	320	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	324	411	412	413						
m	66	66	66	66	66	66	66	66	63	63	63	102	351	125	63	63	63	102	32	32	32	32	32	32	32	32	32	7	7	7	7	103	63	126	103					
収容人数	40	40	40	40	40	30	30	40	40	40	80	240	50	40	40	40	80	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	6	6	6	6	50	40	100	50					
月	I																																		キャリアデザインⅠ(後8回)					
	II																																			生涯発達看護論Ⅱ(小児)				
	III																																			疾病治療論Ⅱ				
	IV																																				臨床判断論			
	V																																					Process Writing①		
火	I																																				心理学(前8回)			
	II																																				社会福祉論(後8回)			
	III																																				健康教育論(前8回)			
	IV																																				社会健康学(後8回)			
	V																																					生活機能論(前8回)		
水	I																																				メンタルヘルス・アセスメント(後8回)			
	II																																					看護概論(前8回)		
	III																																					社会心理学(後8回)		
	IV																																					公衆衛生学(疫学)(前8回)		
	V																																					生涯発達看護論Ⅲ(成人)(後8回)		
木	I																																					基礎ゼミ		
	II																																					基礎ゼミ(A)		
	III																																					基礎ゼミ(B)		
	IV																																					基礎ゼミ(C)		
	V																																					基礎ゼミ(D)		
金	I																																					基礎ゼミ(E)		
	II																																					基礎ゼミ(F)		
	III																																					基礎ゼミ(G)		
	IV																																					基礎ゼミ(H)		
	V																																					基礎ゼミ(I)		
土	I																																					基礎ゼミ(J)		
	II																																					文化人類学(異文化理解)(前8回)		
	III																																					キリスト教と人間(前8回)		
	IV																																						看護理論(前8回)	
	V																																						ゼーフティプロモーション(前8回)	
日	I																																					看護理論(前8回)		
	II																																						ジェンダー論(後8回)	
	III																																						教育学概論Ⅰ(前8回)	
	IV																																					病理学		
	V																																					教育学概論Ⅱ(後8回)		

※ 下線は、選択必修科目・選択科目

教育学部 短大2年 1年 2年 3年 4年 共通教育科目

看護学部 短大2年 短大3年 1年 2年 3年 4年 共通教育科目

大学1号館															
階	1F			2F						3F			4F	6F	
教室	ラーニング commons	工作室	絵画室	講義室	講義室	講義室	講義室	講義室	音楽室	リズム室	PC教室	ML	保育実習室	ピアノセル	体育館
部屋No	101	102	201	202	203	204	205	206	301	302	303	401	601-613		
㎡	157	113	94	70	70	70	88	83	283	75	69	94	7		
収容人数	80	40	40	40	40	40	40	50	50	50	40	30	40	13	
月	I					Reading I ⑤	Writing④	Speaking&Listening③		保育内容指導法 (表現) ② (後8回)	初等生活科論				
	II			子どもの保健			保育内容総論①			保育内容指導法 (表現) ① (前8回)					
	III				Speaking&Listening②	Writing①	Reading I ⑥				初等算数論				
	IV			フランス語 I				初等社会科論		幼児音楽指導法 I ②		幼児音楽指導法 I ②			
	V														
火	I			データサイエンス (前8回)											
	II				教育原理		特別支援教育学 ②				初等理科論				
	III				保育原理		教職論				社会的養護 I				
	IV		初等園工論 I ①				特別支援教育学 ①	保育者論							
	V		初等園工論 I ②							こども音楽 療育概論					
水	I			社会福祉論						リトミック 演習					
	II						保育内容総論②	子どもの食と栄養 ①		幼児音楽指導法 I ①		幼児音楽指導法 I ①			スポーツと 健康
	III							初等家庭科論			保育内容指導法 (健康) ② (後8回)				
	IV		幼児造形指導法 I ①					子どもの食と栄養 ②							
	V							モンテッソーリ 保育論							
木	I			初等体育論 I ②		Reading I ②	Writing⑦	Speaking&Listening⑧	幼児の理解① (前8回)	保育内容指導法 (環境) ① (後8回)					
	II		幼児造形指導法 I ②	初等体育論 I ①		幼児と環境論① (前8回)	幼児と言葉論① (後8回)				幼児と言葉論② (前8回)	幼児と環境論② (後8回)			
	III					Writing③	Reading I ④	Speaking&Listening⑤							
	IV							幼児と健康論(前8回)							
	V							保育内容指導法 (健康) ① (後8回)							
金	I				体育講義 (後8回)				人と音楽 (前8回)						
	II				文章表現 (前8回)		Reading II ①				Reading II ②				
	III			初等英語論				初等英語概論 (前8回)	保育内容指導法 (人間関係) ② (後8回)			初等音楽論 I ①		初等音楽論 I ①	
	IV					保育内容指導法 (人間関係) ① (前8回)	保育内容指導法 (言葉) ② (前8回)	保育内容指導法 (環境) ② (後8回)			初等音楽論 I ②			初等音楽論 I ②	
	V							障害児保育論							

教育学部
短大2年
1年
2年
3年
4年
看護学部
短大2年
短大3年
1年
2年
3年
4年

※ 下線は、選択必修科目・選択科目

大学2号館 (鶴見学舎)															
教室	1F			2F			3F	4F			5F				
	メディア スペース	PC教室	講義室	大講義室	講義室	講義室	中講義室	母性・小児実 習室	小講義室	ラーニングコ モンズ	看護学 実習室	第1 看護演習室	第2 看護演習室	第3 看護演習室	
部屋No	101	105	107	201	202	203	301	401	404	404	501	502	503	504	
㎡	190	95	99	173	93	74	94	108	40	40	215	36	36	36	
収容人数	60	40	90	144	60	50	60	40	30	30	80	20			
月	I		情報リテラ シーⅠ①	臨地実習 国家試験対策											
	II														
	III		情報リテラ シーⅠ③												
	IV														
	V		情報倫理 (前8)												
火	I			臨地実習 国家試験対策											
	II														
	III														
	IV														
	V														
水	I			臨地実習 国家試験対策	フィジカルア セスメントⅠ						フィジカルア セスメントⅠ				
	II														
	III					生涯発達看護 論Ⅳ(老年) (前8回)									
	IV					メンタルヘル ス・プロモー ション (前8回) 栄養学 (後8回)									
	V														
木	I		情報リテラ シーⅠ②	臨地実習 国家試験対策											
	II														
	III		情報リテラ シーⅠ④												
	IV														
	V														
金	I			臨地実習 国家試験対策											
	II														
	III					生涯発達看護 論Ⅰ(母性)						基礎技術Ⅰ			
	IV					医療倫理 (前8回) 看護倫理 (後8回)						基礎技術Ⅰ			
	V					人体の構造と 機能(解剖学) (前8回)									

教育学部 短大2年 1年 2年 3年 4年 看護学部 短大2年 短大3年 1年 2年 3年 4年
共通教育科目 共通教育科目

※ 下線は、選択必修科目・選択科目

		大学本館																																					
階		2F												3F												4F													
教室		講義室1	講義室2	講義室3	講義室4	講義室5	ラーニングC	ラーニングC	講義室6	講義室7	講義室8	中講義室	大講義室	調理実習室	講義室1	講義室2	講義室3	中講義室	ゼミ室1	ゼミ室2	ゼミ室3	ゼミ室4	ゼミ室5	ゼミ室6	ゼミ室7	ゼミ室8	ゼミ室9	小ゼミ室1	小ゼミ室2	小ゼミ室3	小ゼミ室4	理科実験室	講義室	大講義室	音楽演習室				
部屋No		202	203	204	205	206	207	208	211	212	213	210	201	214	321	322	323	320	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	324	411	412	413				
m		66	66	66	66	66	66	66	63	63	63	102	351	125	63	63	63	102	32	32	32	32	32	32	32	32	32	7	7	7	7	103	63	126	103				
収容人数		40	40	40	40	40	30	30	40	40	40	80	240	50	40	40	40	80	20	20	20	20	20	20	20	20	20	6	6	6	6	50	40	100	50				
月	I											社会学 (後8回)	現代とキリス ト教 (前8回)																										
	II																																			教育原理			
	III																																						
	IV																																						
	V												社会と人権 (日本国憲法)																										
火	I																																			教育制度論 (前8回)	教職論 (後8回)		
	II												ライフサイ エンス (前8回)																										
	III																																				教育心理学		
	IV																																				生命科学		
	V												家族社会学 (前8回)																										
水	I												教養ゼミ				教養ゼミ (A)	教養ゼミ (B)	教養ゼミ (C)	教養ゼミ (D)	教養ゼミ (E)	教養ゼミ (F)	教養ゼミ (G)	教養ゼミ (H)	教養ゼミ (I)	教養ゼミ (J)													
	II																																						
	III																																				社会調査法		
	IV												保育・教育 課程論																								微生物学・ 免疫学 (前8回)		
	V												生命倫理 (前8回)																										
木	I																																						
	II																																				生活と化学 (前8回)	生化学 (後8回)	
	III											Reading I ⑥					Writing⑤																						
	IV											Process Writing②																									人体の構造 と機能II (前8回)	人体の構造 と機能III (後8回)	
	V																																						
金	I												サービス ラーニング (後1回)				サービス ラーニング (後1回)	サービス ラーニング (後1回)	サービス ラーニング (後1回)	サービス ラーニング (後1回)	サービス ラーニング (後1回)	サービス ラーニング (後1回)	サービス ラーニング (後1回)	サービス ラーニング (後1回)	サービス ラーニング (後1回)	サービス ラーニング (後1回)	サービス ラーニング (後1回)	サービス ラーニング (後1回)	サービス ラーニング (後1回)	サービス ラーニング (後1回)					疾病治療論 I				
	II																																						
	III												クリティカ ル・シンキ ング(前8回)																										
	IV												生活機能支 援論I-① (母性)																										
	V																																						

※ 下線は、選択必修科目・選択科目

教育学部	短大2年	1年	2年	3年	4年	看護学部	短大2年	短大3年	1年	2年	3年	4年
	共通教育科目					共通教育科目		共通教育科目				

大学1号館

階	1F			2F						3F			4F	6F	体育館	
	ラーニング コモンズ	工作室	絵画室	講義室	講義室	講義室	講義室	講義室	音楽室	リズム室	PC教室	ML	保育実習室	ピアノセル		
部屋No	101	102		201	202	203	204	205	206	301	302	303	401	601~613		
m ²	157	113	94	70	70	70	70	88	83	283	75	69	94	7		
収容人数	80	40	40	40	40	40	40	50	50	50	40	30	40	13		
月	I															
	II				教育心理学											
	III				児童心理学			Writing ⑥	Speaking & Listening ⑤		Reading I ⑦					
	IV				フランス語II				初等社会科教育論							
	V															
火	I			初等国語論①			体育実技②		社会的養護II ①(前8回)							体育実技②
	II		くらしと色彩(後8回)								こども音楽療育演習					
	III			子ども家庭福祉				初等体育論II								
	IV		初等図工論II ①	初等理科教育論					初等国語論②		社会的養護II ②(前8回)					
	V		初等図工論II ②							童謡創作論						
水	I															
	II				教育制度論				初等国語科教育論		子ども家庭支援論					
	III							Writing ⑧	Speaking & Listening ⑦		Reading I ①					
	IV								初等家庭科教育論		乳児保育I		乳児保育I			
	V															
木	I		幼児造形指導法II ①					Writing ②	Speaking & Listening ①		Reading I ③					
	II										幼児音楽指導法II ②		幼児音楽指導法II ②			
	III		幼児造形指導法II ②						Speaking & Listening ④		幼児音楽指導法II ①		幼児音楽指導法II ①			
	IV				初等教育課程論											
	V															
金	I											初等音楽論II ①		初等音楽論II ①		
	II				Reading II ③			Reading II ⑤	幼児と人間関係論①(前8回)		Reading II ④	初等音楽論II ②		初等音楽論II ②		
	III							体育実技①	幼児と人間関係論②(前8回)							体育実技①
	IV										幼児と表現論(前8回)					
	V															

教育学部 短大2年 1年 2年 3年 4年 看護学部 短大2年 短大3年 1年 2年 3年 4年
 ※ 下線は、選択必修科目・選択科目

大学2号館 (鶴見学舎)															
教室	1F			2F			3F	4F			5F				
	メディア スペース	PC教室	講義室	大講義室	講義室	講義室	中講義室	母性・小児実 習室	小講義室	ラーニングコ モンズ	看護学 実習室	第1 看護演習室	第2 看護演習室	第3 看護演習室	
部屋No	101	105	107	201	202	203	301	401	404	404	501	502	503	504	
m	190	95	99	173	93	74	94	108	40	40	215	36	36	36	
収容人数	60	40	90	144	60	50	60	40	30	30	80	20			
月	I		ICT活用 演習②	臨地実習 国家試験対策	疾病治療論III (前8回)										
	II		ICT活用 演習①		生活機能支援 論IV-① (老年)										
	III		情報リテラ シーII①		生活機能支援 論III-① (急性)										
	IV														
	V														
火	I			臨地実習 国家試験対策	地域包括ケア 論I (在宅)										
	II				生活機能支援 論V-① (精神)										
	III				生活機能支援 論II-① (小児)										
	IV				生活機能支援 論III-② (慢性)										
	V														
水	I			臨地実習 国家試験対策	家族看護論 (前8回)										
	II														
	III														
	IV				疾病治療論I										
	V														
木	I		情報リテラ シーII②	臨地実習 国家試験対策											
	II				フィジカルアセスメント II						フィジカルアセスメント II				
	III														
	IV														
	V														
金	I			臨地実習 国家試験対策	臨床薬理学 (前8回)										
	II														
	III														
	IV				基礎技術II										
	V														

教育学部
短大2年
1年
2年
3年
4年
看護学部
短大2年
短大3年
1年
2年
3年
4年
共通教育科目
共通教育科目

※ 下線は、選択必修科目・選択科目

階	大学本館																																			
	2F													3F												4F										
教室	講義室1	講義室2	講義室3	講義室4	講義室5	ラーニングC	ラーニングC	講義室6	講義室7	講義室8	中講義室	大講義室	調理実習室	講義室1	講義室2	講義室3	中講義室	ゼミ室1	ゼミ室2	ゼミ室3	ゼミ室4	ゼミ室5	ゼミ室6	ゼミ室7	ゼミ室8	ゼミ室9	小ゼミ室1	小ゼミ室2	小ゼミ室3	小ゼミ室4	理科実験室	講義室	大講義室	音楽演習室		
部屋No	202	203	204	205	206	207	208	211	212	213	210	201	214	321	322	323	320	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	324	411	412	413		
㎡	66	66	66	66	66	66	66	63	63	63	102	351	125	63	63	63	102	32	32	32	32	32	32	32	32	32	7	7	7	7	103	63	126	103		
収容人数	40	40	40	40	40	30	30	40	40	40	80	240	50	40	40	40	80	20	20	20	20	20	20	20	20	20	6	6	6	6	50	40	100	50		
月	I																																		キャリアデザインⅠ(後8回)	
	II																																		生涯発達看護論Ⅱ(小児)	
	III													エンドオブライフケア論(後8回)																					疾病治療論Ⅱ	
	IV													学校保健																					臨床判断論	
	V													Process Writing①																						ゲーム医療論
火	I																																		心理学(前8回)	
	II													看護研究Ⅰ(遠藤)	看護研究Ⅰ(西山)	看護研究Ⅰ(西村)																			社会福祉論(後8回)	
	III													エンドオブライフケア論(前8回)																					健康教育論(前8回)	
	IV																																			社会健康学(後8回)
	V																																			生活機能論(前8回)
水	I																																		生活機能論(前8回)	
	II																																			発達心理学(後8回)
	III																																			公衆衛生学(疫学)(前8回)
	IV																																			生涯発達看護論Ⅲ(成人)(後8回)
	V																																			
木	I																																			教育相談(前8回)
	II																																			特別支援教育(前8回)
	III																																			生徒指導(後8回)
	IV																																			文化人類学(異文化理解)(前8回)
	V																																			
金	I																																			教育の方法と技術
	II																																			教育相談(前8回)
	III																																			特別支援教育(前8回)
	IV																																			生徒指導(後8回)
	V																																			

※ 下線は、選択必修科目・選択科目
 教育学部 短大2年 1年 2年 3年 4年 共通教育科目
 看護学部 短大2年 短大3年 1年 2年 3年 4年 共通教育科目

大学1号館															
階	1F			2F						3F			4F	6F	
教室	ラーニング コモンズ	工作室	絵画室	講義室	講義室	講義室	講義室	講義室	音楽室	リズム室	PC教室	ML	保育実習室	ピアノセル	体育館
部屋No		101	102	201	202	203	204	205	206	301	302	303	401	601~613	
m	157	113	94	70	70	70	70	88	83	283	75	69	94	7	
収容人数	80	40	40	40	40	40	40	50	50	50	40	30	40	13	
月	I			子どもの健康と安全① (前8回)		Reading I ⑤	Writing ④	Speaking& Listening ③		保育内容指導法 (表現)② (後8回)	初等生活科論				
	II			子どもの保健			保育内容総論①	初等教育方法学 ②		保育内容指導法 (表現) ① (前8回)	初等生活科教育科論				
	III			子どもの健康と安全② (前8回)	Speaking& Listening ②	Writing ①	Reading I ⑧				初等算数論				
	IV			フランス語Ⅰ					初等社会科論	幼児音楽指導法Ⅰ② (前8回)	初等算数科教育論	幼児音楽指導法Ⅰ② (前8回)			
	V														
火	I		幼児造形指導法Ⅱ①	データサイエンス(前8回)											
	II		幼児造形指導法Ⅱ②	保健統計学 (後8回)	教育原理		特別支援教育学 ②	初等体育科教育論			初等理科論				
	III				保育原理		教職論	子ども家庭支援の心理学			社会的養護Ⅰ				
	IV		初等図工論Ⅰ①	初等教育相談		特別支援教育学 ①	保育者論								
	V		初等図工論Ⅰ②							こども音楽療育概論					
水	I			社会福祉論						リトミック演習					
	II					乳幼児保育Ⅰ①	保育内容総論②	子どもの食と栄養①		幼児音楽指導法Ⅰ① (前8回)		幼児音楽指導法Ⅰ① (前8回)	乳幼児保育Ⅱ①		スポーツと健康
	III					乳幼児保育Ⅱ②	初等英語科教育論	初等家庭科論			保育内容指導法 (健康) ②(後8回)		乳幼児保育Ⅱ②		
	IV		幼児造形指導法Ⅰ②	キリスト教的保育論				子どもの食と栄養②							
	V							モンテッソーリ保育論							
木	I		初等図工科教育論	初等体育論Ⅱ②		Reading I ②	Writing ⑦	Speaking& Litening ⑧	幼児の理解① (前8回)	保育内容指導法 (環境) ① (後8回)	初等図工科教育論				
	II		幼児造形指導法Ⅰ①	初等体育論Ⅰ①		幼児と環境論① (前8回)	初等教育方法学 ① (後8回)				幼児と言葉論② (前8回)	幼児と環境論② (後8回)			
	III					Writing ③	Reading I ④	Speaking& Litening ⑥			初等音楽科教育論				
	IV							幼児と健康論(前8回)	保育内容指導法 (健康) ① (後8回)			初等道徳教育論			
	V							障害児保育論							
金	I			体育講義 (後8回)				医療英語①	人と音楽 (前8回)						
	II			文章表現 (前8回)		Reading II ①				Reading II ②					
	III			初等英語論				幼児の理解② (前8回)	保育内容指導法 (人間関係) ① (前8回)			初等音楽論Ⅰ①		初等音楽論Ⅰ①	
	IV					保育内容指導法 (言葉) ① (前8回)	保育内容指導法 (言葉) ② (前8回)	保育内容指導法 (環境) ② (後8回)				初等音楽論Ⅰ②		初等音楽論Ⅰ②	
	V														

教育学部 短大2年 1年 2年 3年 4年 看護学部 短大2年 短大3年 1年 2年 3年 4年
共通教育科目 共通教育科目

* 下線は、選択必修科目・選択科目

大学2号館 (鶴見学舎)														
教室	1F			2F			3F	4F			5F			
	メディア スペース	PC教室	講義室	大講義室	講義室	講義室	中講義室	母性・小児実 習室	小講義室	ラーニングコ モンズ	看護学 実習室	第1 看護演習室		
部屋No	101	105	107	201	202	203	301	401	404	404	501	502		
㎡	190	95	99	173	93	74	94	108	40	40	215	36		
収容人数	60	40	90	144	60	50	60	40	30	30	80	20		
月	I		情報リテラ シー I ①		道德教育の理論 と方法 (前8回)									
	II		初等教育方法 学②		教育課程論 (前8回) 特別活動及び総 合的な学習の指 導法 (後8回)									
	III		情報リテラ シー I ③											
	IV													
	V		情報倫理 (前8)											
火	I													
	II													
	III			国際看護 I (前8回)										
	IV					看護学概説								
	V													
水	I				フィジカルアセ スメント I						フィジカルア セスメント I			
	II													
	III				生涯発達看護論 IV(老年) (前8回)									
	IV				メンタルヘル ス・プロモー ション (前8回) 栄養学 (後8回)									
	V													
木	I		情報リテラ シー I ②		地域包括ケア論 II (在宅・地域)									
	II		初等教育 方法学①		地域包括ケア論 III (地域・学校)									
	III		情報リテラ シー I ④		看護教育学 I									
	IV				災害看護 I									
	V													
金	I													
	II													
	III				生涯発達看護論 I(母性)						基礎技術 I			
	IV			生活機能支援 論III-③ (リハビリ テーション)	医療倫理 (前8回) 看護倫理 (後8回)						基礎技術 I			
	V				人体の構造と機 能(解剖学) (前8回)									

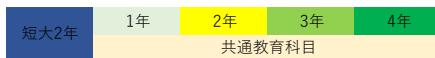
教育学部
短大2年
1年
2年
3年
4年
看護学部
短大2年
短大3年
1年
2年
3年
4年

※ 下線は、選択必修科目・選択科目

階	2F														3F														4F								
	講義室1	講義室2	講義室3	講義室4	講義室5	ラーニングC	ラーニングC	講義室6	講義室7	講義室8	中講義室	大講義室	調理実習室	講義室1	講義室2	講義室3	中講義室	ゼミ室1	ゼミ室2	ゼミ室3	ゼミ室4	ゼミ室5	ゼミ室6	ゼミ室7	ゼミ室8	ゼミ室9	小ゼミ室1	小ゼミ室2	小ゼミ室3	小ゼミ室4	理科実験室	講義室	大講義室	音楽演習室			
部屋No	202	203	204	205	206	207	208	211	212	213	210	201	214	321	322	323	320	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	324	411	412	413			
㎡	66	66	66	66	66	66	66	63	63	63	102	351	125	63	63	63	102	32	32	32	32	32	32	32	32	32	7	7	7	7	103	63	126	103			
収容人数	40	40	40	40	40	30	30	40	40	40	80	240	50	40	40	40	80	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	6	6	6	6	50	40	100	50		
月	I																																				
	II																																				
	III																																				
	IV																																				
	V																																				
火	I																																				
	II																																				
	III																																				
	IV																																				
	V																																				
水	I																																				
	II																																				
	III																																				
	IV																																				
	V																																				
木	I																																				
	II																																				
	III																																				
	IV																																				
	V																																				
金	I																																				
	II																																				
	III																																				
	IV																																				
	V																																				

※ 下線は、選択必修科目・選択科目

教育学部



看護学部



大学1号館

階	1F			2F						3F			4F	6F	体育館	
教室	ラーニング commons	工作室	絵画室	講義室	講義室	講義室	講義室	講義室	音楽室	リズム室	PC教室	ML	保育実習室	ピアノセル		
部屋No		101	102	201	202	203	204	205	206	301	302	303	401	601~613		
m	157	113	94	70	70	70	70	88	83	283	75	69	94	7		
収容人数	80	40	40	40	40	40	40	50	50	50	40	30	40	13		
月	I															
	II			教育心理学												
	III			児童心理学			Writing ⑥	障害児(者)心理学	Speaking & Listening ⑤		Reading I ⑦					
	IV			フランス語II				初等社会科教育論								
	V															
火	I			初等国語論①		体育実技②		社会的養護II ①(前8回)								体育実技②
	II		くらしと色彩(後8回)	子育て支援①(前8回)				初等生徒・進路指導論		こども音楽療育演習						
	III			子ども家庭福祉			初等体育論II				子育て支援②(前8回)					
	IV		初等図工論II ①	初等理科教育論				初等国語論②			社会的養護II ②(前8回)					
	V		初等図工論II ②						童謡創作論							
水	I															
	II			教育制度論				初等国語科教育論			子ども家庭支援論					
	III			総合的な学習の指導論(前8回)			Writing ⑧	Speaking & Listening ⑦			Reading I ①					
	IV			初等特別活動指導論(後8回)					初等家庭科教育論		乳児保育I		乳児保育I			
	V			医療英語②												
木	I		幼児造形指導法II ①				Writing ②	Speaking & Listening ①			Reading I ③					
	II									幼児音楽指導法II ②		幼児音楽指導法II ②				
	III		幼児造形指導法II ②					Speaking & Listenig ④		幼児音楽指導法II ①		幼児音楽指導法II ①				
	IV			初等教育課程論												
	V															
金	I											初等音楽論II ①		初等音楽論II ①		
	II			Reading II ③			Reading II ⑤	幼児と人間関係論①(前8回)			Reading II ④	初等音楽論II ②		初等音楽論II ②		
	III						体育実技①	幼児と人間関係論②(前8回)				初等音楽論III		初等音楽論III		体育実技①
	IV									幼児と表現論(前8回)						
	V															

教育学部 短大2年 1年 2年 3年 4年
共通教育科目

看護学部 短大2年 短大3年 1年 2年 3年 4年
共通教育科目

※ 下線は、選択必修科目・選択科目

大学2号館 (鶴見学舎)													
教室	1F			2F			3F	4F			5F		
	メディアスペース	PC教室	講義室	大講義室	講義室	講義室	中講義室	母性・小児実習室	小講義室	ラーニングコモンズ	看護学実習室	第1看護演習室	
部屋No	101	105	107	201	202	203	301	401	404	404	501	502	
m ²	190	95	99	173	93	74	94	108	40	40	215	36	
収容人数	60	40	90	144	60	50	60	40	30	30	80	20	
月	I		ICT活用演習②	(3年後期実習後科目)生活機能支援論III-⑤(慢性)	疾病治療論III(前8回)								
	II		ICT活用演習①		生活機能支援論IV-①(老年)								
	III		情報リテラシーII①		生活機能支援論III-①(急性)								
	IV												
	V												
火	I			(3年後期実習後科目)生活機能支援論V-②	地域包括ケア論I(在宅)								
	II				生活機能支援論V-①(精神)								
	III				生活機能支援論II-①(小児)								
	IV				生活機能支援論III-②(慢性)								
	V												
水	I			看護研究II	家族看護論(前8回)								
	II			(3年後期実習後科目)生活機能支援論II-②									
	III												
	IV				疾病治療論I								
	V												
木	I		情報リテラシーII②	(3年後期実習後科目)生活機能支援論IV-②									
	II			フィジカルアセスメントII							フィジカルアセスメントII		
	III												
	IV												
	V												
金	I			(3年後期実習後科目)生活機能支援論III-④	臨床薬理学(前8回)								
	II												
	III			(3年後期実習後科目)生活機能支援論I-②	基礎技術II								
	IV			生活機能支援論I-①(母性)									
	V												

教育部
短大2年
1年
2年
3年
4年
共通教育科目
看護学部
短大2年
短大3年
1年
2年
3年
4年
共通教育科目

※ 下線は、選択必修科目・選択科目

階	2F											3F											4F													
	講義室1	講義室2	講義室3	講義室4	講義室5	ラーニングC	ラーニングC	講義室6	講義室7	講義室8	中講義室	大講義室	調理実習室	講義室1	講義室2	講義室3	中講義室	ゼミ室1	ゼミ室2	ゼミ室3	ゼミ室4	ゼミ室5	ゼミ室6	ゼミ室7	ゼミ室8	ゼミ室9	小ゼミ室1	小ゼミ室2	小ゼミ室3	小ゼミ室4	理科実験室	講義室	大講義室	音楽演習室		
教室																																				
部屋No	202	203	204	205	206	207	208	211	212	213	210	201	214	321	322	323	320	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	324	411	412	413		
㎡	66	66	66	66	66	66	66	63	63	63	102	351	125	63	63	63	102	32	32	32	32	32	32	32	32	32	7	7	7	7	103	63	126	103		
収容人数	40	40	40	40	40	30	30	40	40	40	80	240	50	40	40	40	80	20	20	20	20	20	20	20	20	20	6	6	6	6	50	40	100	50		
月	I																																		キャリアデザインⅠ(後8回)	
	II																																			生涯発達看護論Ⅱ(小児)
	III																																			疾病治療論Ⅱ
	IV																																			臨床判断論
	V																																			
火	I																																			心理学(前8回)
	II																																			社会福祉論(後8回)
	III																																			健康教育論(前8回)
	IV																																			社会健康学(後8回)
	V																																			
水	I																																			生活機能論(前8回)
	II																																			発達心理学(後8回)
	III																																			公衆衛生学(疫学)(前8回)
	IV																																			生涯発達看護論Ⅲ(成人)(後8回)
	V																																			
木	I																																			教育の方法と技術
	II																																			教育相談(前8回)
	III																																			特別支援教育(前8回) 生徒指導(後8回)
	IV																																			文化人類学(異文化理解)(前8回)
	V																																			
金	I																																			生活機能論(前8回)
	II																																			環境と健康(後8回)
	III																																			人体の構造と機能Ⅰ
	IV																																			
	V																																			

※ 下線は、選択必修科目・選択科目
 教育学部 短大2年 1年 2年 3年 4年
 看護学部 短大2年 短大3年 1年 2年 3年 4年
 共通教育科目

大学1号館

階	1F				2F					3F			4F	6F	
教室	ラーニング コモンズ	工作室	絵画室	講義室	講義室	講義室	講義室	講義室	音楽室	リズム室	PC教室	ML	保育実習室	ピアノセル	体育館
部屋No		101	102	201	202	203	204	205	206	301	302	303	401	601~613	
m	157	113	94	70	70	70	70	88	83	283	75	69	94	7	
収容人数	80	40	40	40	40	40	40	50	50	50	40	30	40	13	
月	I			子どもの健康 と安全① (前8回)		Reading I ⑤	Writing ④	Speaking& Listening ③		保育内容指導演 (表現)② (後8回)	初等生活科論				
	II			子どもの保健			保育内容総論①	初等教育方法学 ②		保育内容指導演 (表現)① (前8回)	初等生活科 教育科論				
	III			子どもの健康 と安全② (前8回)	Speaking& Listening ②	Writing ①	Reading I ⑧				初等算数論				
	IV			フランス語Ⅰ				初等社会科論		幼児音楽指導演 Ⅰ②	初等算数科 教育論	幼児音楽指導演 Ⅰ②			
	V														
火	I		幼児造形指導演Ⅱ①	データサイエ ンス(前8回) 保健統計学 (後8回)											
	II		幼児造形指導演Ⅱ②	教育原理		特別支援教育学 ②	初等体育科教育 論				初等理科論				
	III			保育原理		教職論	子ども家庭支援 の心理学				社会的養護Ⅰ				
	IV		初等図工論Ⅰ①	初等教育相談		特別支援教育学 ①	保育者論								
	V		初等図工論Ⅰ②								こども音楽 療育願論				
水	I			社会福祉論						リトミック 演習					
	II					乳幼児保育Ⅱ①	保育内容総論②	子どもの 食と栄養①		幼児音楽指導演 Ⅰ①		幼児音楽指導演 Ⅰ①	乳幼児保育Ⅱ①		スポーツと 健康
	III					乳幼児保育Ⅱ②	初等英語科教育 論	初等家庭科論			保育内容指導演 (健康)② (後8回)		乳幼児保育Ⅱ②		
	IV		幼児造形指導演Ⅰ①	キリスト教的保 育論				子どもの 食と栄養②							
	V							エンテツソーリ 保育論							
木	I		初等図工科教育 論	初等体育論Ⅱ②		Reading I ②	Writing ⑦	Speaking& Litening ⑧	幼児の理解① (前8回) 保育内容指導演 (環境)① (後8回)		初等図工科教育 論				
	II		幼児造形指導演Ⅰ②	初等体育論Ⅰ①		幼児と環境論① (前8回) 幼児と言葉論① (後8回)	初等教育方法学 ①				幼児と言葉論② (前8回) 幼児と環境論② (後8回)				
	III					Writing ③	Reading I ④	Speaking& Litening ⑥		初等音楽科教育論					
	IV							幼児と健康論(前8回) 保育内容指導演(健康)① (後8回)			初等道徳教育論				
	V							障害児保育論							
金	I			体育講義 (後8回)					人と音楽 (前8回)						
	II			文章表現 (前8回)		Reading II ①	医療英語①			Reading II ②					
	III			初等英語論				幼児の理解② (前8回) 保育内容指導演 (人間関係) ②(後8回)				初等音楽論Ⅰ①		初等音楽論Ⅰ①	
	IV					保育内容指導演 (人間関係)① (前8回) 保育内容指導演 (言葉)① (後8回)		保育内容指導演 (言葉)② (前8回) 保育内容指導演 (環境)② (後8回)		時事英語①	初等音楽論Ⅰ②		初等音楽論Ⅰ②		
	V														

教育学部 短大2年 1年 2年 3年 4年 看護学部 短大2年 短大3年 1年 2年 3年 4年
 ※ 下線は、選択必修科目・選択科目

大学2号館 (鶴見学舎)													
教室	1F			2F			3F	4F			5F		
	メディアスペース	PC教室	講義室	大講義室	講義室	講義室	中講義室	母性・小児実習室	小講義室	ラーニングコモンズ	看護学実習室	第1看護演習室	
部屋No	101	105	107	201	202	203	301	401	404	404	501	502	
m ²	190	95	99	173	93	74	94	108	40	40	215	36	
収容人数	60	40	90	144	60	50	60	40	30	30	80	20	
月	I		情報リテラシー1①		道德教育の理論と方法(前8回)								
	II		初等教育方法学②		教育課程論(前8回) 特別活動及び総合的な学習の指導法(後8回)								
	III		情報リテラシー1③		看護マネジメント論1								
	IV				看護マネジメント論1								
	V		情報倫理(前8)										
火	I												
	II												
	III			国際看護1(前8回)	メンタルヘルス・アセスメント(後8回)								
	IV							看護学概論					
	V												
水	I				フィジカルアセスメント1						フィジカルアセスメント1		
	II												
	III				生涯発達看護論IV(老年)(前8回)								
	IV				メンタルヘルス・プロモーション(前8回) 栄養学(後8回)								
	V												
木	I		情報リテラシー1②		地域包括ケア論II(在宅・地域)								
	II		初等教育方法学①		地域包括ケア論III(地域・学校)								
	III		情報リテラシー1④		看護教育学1								
	IV				災害看護1								
	V												
金	I												
	II												
	III				生涯発達看護論I(母性)						基礎技術1		
	IV			生活機能支援論III-③(リハビリテーション)	医療倫理(前8回) 看護倫理(後8回)						基礎技術1		
	V				人体の構造と機能(解剖学)(前8回)								

教育学部 短大2年 1年 2年 3年 4年 看護学部 短大2年 短大3年 1年 2年 3年 4年
 共通教育科目 共通教育科目

※ 下線は、選択必修科目・選択科目

大学本館																																						
階	2F												3F												4F													
教室	講義室1	講義室2	講義室3	講義室4	講義室5	ラーニングC	ラーニングC	講義室6	講義室7	講義室8	中講義室	大講義室	調理実習室	講義室1	講義室2	講義室3	中講義室	ゼミ室1	ゼミ室2	ゼミ室3	ゼミ室4	ゼミ室5	ゼミ室6	ゼミ室7	ゼミ室8	ゼミ室9	小ゼミ室1	小ゼミ室2	小ゼミ室3	小ゼミ室4	理科実験室	講義室	大講義室	音楽演習室				
部屋No	202	203	204	205	206	207	208	211	212	213	210	201	214	321	322	323	320	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	324	411	412	413				
m	66	66	66	66	66	66	66	63	63	63	102	351	125	63	63	63	102	32	32	32	32	32	32	32	32	32	7	7	7	7	103	63	126	103				
収容人数	40	40	40	40	40	30	30	40	40	40	80	240	50	40	40	40	80	20	20	20	20	20	20	20	20	20	6	6	6	6	50	40	100	50				
月	I											社会学 (後8回)																										
	II																																			教育原理		
	III																																					
	IV																																					
	V																																					
火	I											看護教育学 II(前8回)																								教育制度論 (前8回) 教職論 (後8回)		
	II											看護政策論 (前8回)																										
	III																																				教育心理学	
	IV																																				生命科学	
	V												家族社会学 (前8回)																									
水	I											看護マネジメント論II (前8回)					教養ゼミ (A)	教養ゼミ (B)	教養ゼミ (C)	教養ゼミ (D)	教養ゼミ (E)	教養ゼミ (F)	教養ゼミ (G)	教養ゼミ (H)	教養ゼミ (I)	教養ゼミ (J)												
	II																																				時事英語②	
	III																																				社会調査法	
	IV													保育・教育 課程論																							微生物学・ 免疫学 (前8回)	
	V													生命倫理 (前8回)																								
木	I																																				生活と化学 (前8回) 生化学 (後8回)	
	II																																					
	III											Reading I ⑥					Writing ⑤	キャリア デザインII																			教職実践 演習	
	IV											Process Writing②																									大体の構造 と機能II (前8回) 小体の構造 と機能III (後8回)	
	V																		教育学 演習II (船寄)	教育学 演習II (齋藤)	教育学 演習II (高井)	教育学 演習II (梅野)	教育学 演習II (津田奈)	教育学 演習II (藤森)	教育学 演習II (市川)	教育学 演習II (金井)	教育学 演習II (大森)	教育学 演習II (佐久)	教育学 演習II (小川)									
金	I											サービス ラーニング (後1回)				サービス ラーニング (後1回)	サービス ラーニング (後1回)	サービス ラーニング (後1回)	サービス ラーニング (後1回)	サービス ラーニング (後1回)	サービス ラーニング (後1回)	サービス ラーニング (後1回)	サービス ラーニング (後1回)	サービス ラーニング (後1回)	サービス ラーニング (後1回)	サービス ラーニング (後1回)									疾病治療論 I			
	II																																					
	III												クリティカル・シン キング(前8回)																									
	IV																																					
	V																		教育学 研究II (船寄)	教育学 研究II (齋藤)	教育学 研究II (高井)	教育学 研究II (梅野)	教育学 研究II (津田奈)	教育学 研究II (藤森)	教育学 研究II (市川)	教育学 研究II (金井)	教育学 研究II (大森)	教育学 研究II (佐久)	教育学 研究II (小川)									

※ 下線は、選択必修科目・選択科目

教育学部	短大2年	1年	2年	3年	4年	看護学部	短大2年	短大3年	1年	2年	3年	4年	
		共通教育科目							共通教育科目				

大学1号館															体育館
階	1F			2F						3F			4F	6F	
教室	ラーニング commons	工作室	絵画室	講義室	講義室	講義室	講義室	講義室	音楽室	リズム室	PC教室	ML	保育実習室	ピアノセル	
部屋No		101	102	201	202	203	204	205	206	301	302	303	401	601-613	
m ²	157	113	94	70	70	70	70	88	83	283	75	69	94	7	
収容人数	80	40	40	40	40	40	40	50	50	50	40	30	40	13	
月	I														
	II				教育心理学										
	III				児童心理学			Writing ⑥	障害児(者)心理学	Speaking & Listening ⑤		Reading I ⑦			
	IV				フランス語II				初等社会科教育論						
	V														
火	I				初等国語論①		体育実技②		社会的養護II ①(前8回)	音楽療法入門 (後8回)				体育実技 ②	
	II		くらしと色彩(後8回)		子育て支援① (前8回)				初等生徒・進路指導論		こども音楽療育演習				
	III				子ども家庭福祉			初等体育論II				子育て支援② (前8回)			
	IV		初等図工論II ①		初等理科教育論				初等国語論②			社会的養護II ②(前8回)			
	V		初等図工論II ②							童話創作論					
水	I														
	II				教育制度論				初等国語科教育論			子ども家庭支援論			
	III				総合的な学習の指導論(前8回) 初等特別活動指導論(後8回)			Writing ⑧	Speaking & Listening ⑦			Reading I ①			
	IV								初等家庭科教育論			乳児保育I		乳児保育I	
	V				医療英語②										
木	I		幼児造形指導法II ①					Writing ②	Speaking & Listening ①			Reading I ③			
	II										幼児音楽指導法II ②		幼児音楽指導法II ②		
	III		幼児造形指導法II ②		教職実践演習(幼・小)				Speaking & Listening ④	教職実践演習(幼・小)	幼児音楽指導法II ①		幼児音楽指導法II ①		
	IV				初等教育課程論										
	V														
金	I											初等音楽論II ①		初等音楽論II ①	
	II				Reading II ③			Reading II ⑤	幼児と人間関係論① (前8回)		Reading II ④	初等音楽論II ②		初等音楽論II ②	
	III					時事英語③		体育実技①	幼児と人間関係論② (前8回)			初等音楽論III		初等音楽論III	
	IV										幼児と表現論 (前8回)				
	V														

教育学部 短大2年 1年 2年 3年 4年 共通教育科目

看護学部 短大2年 短大3年 1年 2年 3年 4年 共通教育科目

※ 下線は、選択必修科目・選択科目

大学2号館 (観見学舎)													
教室	1F			2F			3F	4F			5F		
	メディアスペース	PC教室	講義室	大講義室	講義室	講義室	中講義室	母性・小児実習室	小講義室	ラーニングコモンズ	看護学実習室	第1看護演習室	
部屋No	101	105	107	201	202	203	301	401	404	404	501	502	
m	190	95	99	173	93	74	94	108	40	40	215	36	
収容人数	60	40	90	144	60	50	60	40	30	30	80	20	
月	I		ICT活用演習②	(3年後期実習後科目)生活機能支援論III-⑤(慢性)	疾病治療論III(前8回)								
	II		ICT活用演習①		生活機能支援論IV-①(老年)								
	III		情報リテラシーII①		生活機能支援論III-①(急性)								
	IV												
	V												
火	I			(3年後期実習後科目)生活機能支援論V-②(精神)	地域包括ケア論I(在宅)								
	II				生活機能支援論V-①(精神)								
	III				生活機能支援論II-①(小児)								
	IV				生活機能支援論III-②(慢性)								
	V												
水	I			看護研究II	家族看護論(前8回)								
	II			(3年後期実習後科目)生活機能支援論II-②(小児)									
	III												
	IV				疾病治療論I								
	V												
木	I		情報リテラシーII②	(3年後期実習後科目)生活機能支援論IV-②(老年)	地域包括ケア論IV(在宅)								
	II			フィンテックII	看護政策論(前7回)						フィンテックII		
	III												
	IV												
	V												
金	I			(3年後期実習後科目)生活機能支援論III-④(急性)	臨床薬理学(前8回)								
	II			看護研究IV									
	III			(3年後期実習後科目)生活機能支援論I-②(母性)									
	IV			生活機能支援論I-①(母性)	基礎技術II								
	V												

教育学部 短大2年 1年 2年 3年 4年 看護学部 短大2年 短大3年 1年 2年 3年 4年
 共通教育科目 共通教育科目 共通教育科目

※ 下線は、選択必修科目・選択科目

図書館 (2292.98m²)

大阪信愛学院大学図書館委員会規程（案）

令和●年●月●日

（趣旨）

第 1 条 この規程は、大阪信愛学院大学組織分掌規程第●条の規定に基づき設置する大阪信愛学院大学図書館委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営について定めるものとする。

（審議事項）

第 2 条 委員会は、大阪信愛学院大学図書館(以下「図書館」という。)に関する重要事項を審議する。

- (1) 図書館の事業計画及び管理運営に関する事項
- (2) 図書館の予算に関する事項
- (3) 購入資料の選定に関する事項
- (4) 紀要の企画に関する事項
- (5) 紀要の編集及び発行に関する事項
- (6) その他図書館運営に関する事項

（組織）

第 3 条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 図書館長
- (2) 各学部教授又は准教授のうちから 各 2 名
- (3) 図書館副館長

2 前項第 2 号の委員は、学長が委嘱する。

（任期）

第 4 条 前条第 1 項の委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 前項の委員は、再任されることができる。

（委員長）

第 5 条 委員会に委員長を置き、図書館長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名した委員がその職務を代行する。

(議事)

第6条 委員会は、委員の過半数以上が出席しなければ開くことができない。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3 委員会の委員がやむを得ない理由により欠席するときは、委員長が指名した者が代理出席することができる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員会が必要と認めるときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、図書館において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

1 この規程は、令和●年●月●日から施行する。

学術雑誌目録

教育学部関連

No.	タイトル	出版社
1	教育音楽 小学版	音楽之友社
2	教育科学 国語教育	明治図書出版
3	教育科学 数学教育	明治図書出版
4	教育美術	教育美術振興會
5	教職課程	協同出版
6	社会科教育	明治図書
7	初等教育資料	東洋館出版社
8	教育技術 小一小二	小学館
9	教育技術 小三小四	小学館
10	教育技術 小五小六	小学館
11	総合教育技術	小学館
12	体育科教育	大修館書店
13	月刊保育とカリキュラム	ひかりのくに
14	ピコロ: the idea magazine for teachers	学究研究社
15	健	日本学校保健研修社
16	こころの科学	日本評論社
17	そだちの科学	日本評論社

看護学部関連

No.	タイトル	出版社
1	Nursing canvas	学研メディカル秀潤社
2	Open nursing	メディカ出版
3	赤ちゃんを守る医療者の専門誌 with NEO	メディカ出版
4	がん看護	南江堂
5	看護	医学書院
6	看護教育	医学書院
7	看護研究	医学書院
8	看護実践の科学	看護の科学社
9	看護と情報	看護図書館協議会
10	看護展望	メヂカルフレンド社
11	消化器外科nursing	メディカ出版
12	小児看護	へるす出版
13	助産雑誌	医学書院
14	整形外科看護: seikei-geka kango	メディカ出版
15	精神看護	医学書院
16	統合失調症のひろば	日本評論社
17	糖尿病ケア	メディカ出版
18	プチナース	メディカ出版
19	Brain nursing	照林社
20	訪問看護と介護	医学書院

大学設置後に購入予定の学術雑誌

教育学部関連

No.	タイトル	出版社
1	教育心理学研究	日本教育心理学会
2	発達	ミネルヴァ書局
3	実践障害児教育	学研プラス
4	Educational Psychologist	American Psychological Association
5	Educational Research Review	European Association for Research on Learning and Instruction
6	Journal of Educational Psychology	American Psychological Association

看護学部関連

No.	タイトル	出版社
1	日本看護科学	日本看護科学学会
2	日本看護研究	日本看護研究学会
3	日本看護管理	日本看護管理学会
4	Applied Nursing Research	Elsevier
5	Nursing Outlook	American Academy of Nursing
6	Japan Journal of Nursing Science	World Academy of Nursing Science
7	International Journal of Nursing Studies	Elsevier

【資料 45】

- ◆ 教育学部実習先確保状況
- ◆ 実習先承諾書

<資料編>

実習先の確保状況

実習小学校一覧

実習区分：教育実習（小学校）

	小学校名	住所	電話番号	受け入れ数
1	大阪信愛学院小学校	大阪市城東区古市2-7-30	06-6939-4391	20
2	大阪市立大和田小学校	大阪市西淀川区大和田4-3-24	06-6472-0121	4
3	大阪市立三津屋小学校	大阪市淀川区三津屋中1-4-14	06-6301-0005	4
4	大阪市立中川小学校	大阪市生野区中川3-4-3	06-6753-1822	3
5	大阪市立加美小学校	大阪市平野区加美正覚寺3-13-35	06-6791-7501	4
6	大阪市立日吉小学校	大阪市西区南堀江4-9-19	06-6531-0144	4
7	大阪市立九条南小学校	大阪市西区九条南2-13-17	06-6582-0930	2
8	大阪市立大国小学校	大阪市浪速区大国1-9-3	06-6631-0171	2
9	大阪市立高津小学校	大阪市中央区高津3-4-21	06-6643-2700	6
10	大阪市立高殿南小学校	大阪市旭区高殿3-10-30	06-6953-3851	2
11	大阪市立加賀屋東小学校	大阪市住之江区東加賀屋1-6-25	06-6681-5000	4
12	大阪市立都島小学校	大阪市都島区都島本通3-10-3	06-6921-1434	4
13	大阪市立梅南津守小学校	大阪市西成区梅南3-2-25	06-6651-3428	1
14	大阪市立中大江小学校	大阪市中央区糸屋町2-3-14	06-6942-0221	2
15	大阪市立大隅西小学校	大阪市東淀川区大隅2-3-18	06-6328-6557	4
16	大阪市立田川小学校	大阪市淀川区田川2-9-37	06-6301-1510	4
17	大阪市立今福小学校	大阪市城東区今福南2-1-53	06-6933-3412	2
18	大阪市立嶋野小学校	大阪市城東区嶋野西4-11-48	06-6961-4313	2
19	大阪市立すみれ小学校	大阪市城東区古市2-6-38	06-6933-1210	2
20	大阪市立成育小学校	大阪市城東区成育1-5-19	06-6932-0061	1
21	大阪市立聖賢小学校	大阪市城東区新喜多2-4-35	06-6932-5025	2
22	大阪市立関目小学校	大阪市城東区関目6-5-5	06-6931-0187	3
23	大阪市立関目東小学校	大阪市城東区関目4-12-15	06-6934-4449	4
24	大阪市立鯉江小学校	大阪市城東区今福西3-9-27	06-6939-0023	3
25	大阪市立東中浜小学校	大阪市城東区東中浜5-4-5	06-6962-0087	2
26	門真市立門真小学校	門真市柳町4-1	06-6909-2000	1
27	門真市立大和田小学校	門真市大橋町21-46	072-881-0049	1
28	門真市立二島小学校	門真市三ツ島1丁目5-10	072-883-0016	1

	小学校名	住所	電話番号	受け入れ数
29	門真市立四宮小学校	門真市四宮2-8-1	072-883-3341	1
30	門真市立古川橋小学校	門真市御堂町18-9	06-6901-4444	1
31	門真市立沖小学校	門真市沖町28-1	072-882-6165	1
32	門真市立上野口小学校	門真市上野口町31-1	072-882-0882	1
33	門真市立速見小学校	門真市速見町4-1	06-6909-6500	1
34	門真市立脇田小学校	門真市脇田町4-1	072-883-1628	1
35	門真市立北巢本小学校	門真市北巢本町2-11	072-882-7427	1
36	門真市立五月田小学校	門真市北島町27-1	072-884-3061	1
37	門真市立東小学校	門真市岸和田3-42-1	072-884-4511	1
38	門真市立砂子小学校	門真市三ツ島6-2-1	072-884-3031	1
39	門真市立みらい小学校	門真市浜町22-41	06-6902-2890	1
40	東大阪市立意岐部小学校	東大阪市新家2-11-52	06-6781-2900	4
41	東大阪市立意岐部東小学校	東大阪市荒本西1-3-46	06-6788-4331	4
42	守口市立守口小学校	守口市八島町13-40	06-6995-2509	1
43	守口市立庭窪小学校	守口市佐太中町1-6-10	06-6901-2369	1
44	守口市立八雲小学校	守口市八雲町4-31-31	06-6991-2490	1
45	守口市立錦小学校	守口市寺方錦通2-8-45	06-6998-3661	1
46	守口市立金田小学校	守口市金田町3-11-11	06-6901-6667	1
47	守口市立梶小学校	守口市梶町4-79-12	06-6902-8300	1
48	守口市立藤田小学校	守口市藤田町1-58-18	06-6903-2321	1
49	守口市立八雲東小学校	守口市八雲東2-77-7	06-6909-3221	1
50	守口市立佐太小学校	守口市佐太中町6-11-51	06-6902-1171	1
51	守口市立下島小学校	守口市下島町15-27	06-6993-0201	1
52	守口市立よつば小学校	守口市大久保町2-17-26	06-6901-5425	1
53	守口市立さくら小学校	守口市大宮通1-14-9	06-6991-0313	1
54	守口市立寺方南小学校	守口市寺方元町4-1-45	06-6991-0642	1
55	守口市立さつき学園（前期）	守口市春日町13-26	06-6991-0440	1
56	大阪市立鶴見小学校	大阪市鶴見区鶴見4-14-10	06-6911-5281	2
57	大阪市立三軒家東小学校	大阪市大正区三軒家東2-12-59	06-6301-0005	2
58	大阪市立放出小学校	大阪市城東区放出西2-2-18	06-6967-2251	1
			合計	132

実習校(園) 一覧

実習区分：教職インターンシップ

	小学校名	住所	電話番号	受け入れ数
1	大阪信愛学院小学校	大阪市城東区古市2-7-30	06-6939-4391	50
2	大阪市立今福小学校	大阪市城東区今福南2-1-53	06-6933-3412	3
3	大阪市立鳴野小学校	大阪市城東区鳴野西4-11-48	06-6961-4313	2
4	大阪市立すみれ小学校	大阪市城東区古市2-6-38	06-6933-1210	5
5	大阪市立成育小学校	大阪市城東区成育1-5-19	06-6932-0061	2
6	大阪市立聖賢小学校	大阪市城東区新喜多2-4-35	06-6932-5025	2
7	大阪市立関目小学校	大阪市城東区関目6-5-5	06-6931-0187	3
8	大阪市立鯉江小学校	大阪市城東区今福西3-9-27	06-6939-0023	10
9	大阪市立関目東小学校	大阪市城東区関目4-12-15	06-6934-4449	6
10	大阪市立東中浜小学校	大阪市城東区東中浜5-4-5	06-6962-0087	2
11	大阪市立放出小学校	大阪市城東区放出西2-2-18	06-6967-2251	2
			合計	87

	幼稚園名	住所	電話番号	受け入れ数
1	大阪信愛学院幼稚園	大阪市城東区古市2-7-30	06-6939-4391	80

実習幼稚園一覧

実習の区分：教育実習（幼稚園）

	園名	住所	電話番号	受け入れ数
1	大阪信愛学院幼稚園	大阪市城東区古市2-7-30	06-6939-4391	3
2	認定こども園 あけのほし幼稚園	大阪市旭区太子橋1-1-27	06-6951-2633	4
3	西高殿若葉幼稚園	大阪市旭区高殿4-6-12	06-6951-5205	2
4	学校法人 大阪愛徳学園 大阪愛徳幼稚園	門真市元町5-27	06-6908-2266	6
5	ひかりの子幼稚園	交野市東倉治4-2-13	072-891-9000	2
6	認定こども園 うみのほし幼稚園	枚方市岡南町3-46	072-845-0550	2
7	長尾幼稚園	枚方市長尾東町1-48-23	072-858-5882	2
8	守口幼稚園	大阪府守口市緑町8-6	06-6992-0109	6
9	幼稚園型認定こども園 寺方幼稚園	守口市寺方元町2-2-12	06-6992-7090	2
10	すずらん幼稚園	門真市上島町17-32	072-884-3456	3
11	牧野幼稚園	枚方市牧野阪2-19-21	072-857-7227	2
12	山田敬愛幼稚園	吹田市山田西2-5-3	06-6875-1655	2
13	幼保連携型認定こども園 八戸の里幼稚園	東大阪市中小阪3-16-9	06-6721-7038	2
14	認定こども園 枚岡カトリック幼稚園	東大阪市六万寺町3-6-14	0729-81-5316	4
15	アスール幼稚園	大阪市住之江区南港中3-7-1	06-6614-0700	4
16	朝陽幼稚園	大阪市阿倍野区橋本町6-16	06-6661-2996	2
17	中かがや幼稚園	大阪市住之江区中加賀屋2-18-5	06-6685-5525	2
18	賢明学院幼稚園	堺市堺区霞ヶ丘町4-1-9	072-241-5605	2
19	藤井寺カトリック幼稚園	藤井寺市御舟町11-1	0729-38-8878	2
20	松原ひかり幼稚園	松原市阿保3-16-41	0723-32-1648	2
21	新ひのお台幼稚園	堺市南区新檜尾台4-19-1	072-297-1228	5
22	認定こども園 春木カトリック幼稚園	岸和田市吉井町1-6-15	072-443-5225	4
23	熊取みどり幼稚園	泉南郡熊取町野田1-7-5	072-452-0447	3
24	海星幼稚園	泉南郡岬町深日2240-2	072-492-0489	2
25	登美が丘カトリック幼稚園	奈良市中登美ヶ丘2-1994-2	0742-44-8842	3
26	幼保連携型認定こども園 せいか幼稚園	奈良県香芝市逢坂4-958	0745-77-8900	12
27	高田カトリック幼稚園	大和高田市大中南町6-20	0745-52-5380	2
28	聖愛幼稚園	京田辺市田辺中央2-1-9	0774-63-5506	2
29	大阪ひがし幼稚園	門真市三ツ島3-12-28	072-881-5656	3
			合計	92

実習施設一覧

実習の区分： 保育実習ⅠA

	法令に定める 施設種別	施設名	所在地	設置年月日	入所定員	受け入れ数
1	幼保連携型 認定こども園	旭ヶ丘学園	吹田市朝日が丘町1-5	平成27年4月1日	304人	3
2	幼保連携型 認定こども園	いこまこども園	奈良県生駒市北新町2-11	平成29年4月1日	290人	3
3	幼保連携型 認定こども園	くすのきこども園	東大阪市菱江3丁目12-13	昭和54年3月29日	120人	3
4	幼保連携型 認定こども園	堺東保育園	堺市堺区榎元町5-5-24	昭和54年4月1日	150人	3
5	幼保連携型 認定こども園	さくらいこども園	東大阪市六万寺町2-6-35	平成27年4月1日	166人	2
6	幼保連携型 認定こども園	四條畷すみれ保育園	大阪府四條畷市北出町11-7	平成29年4月1日	62人	3
7	幼保連携型 認定こども園	智島保育園	門真市北島町14-28	平成29年4月1日	213人	3
8	幼保連携型 認定こども園	ふじ保育園	八尾市光町1-38	昭和47年4月1日	250人	2
9	幼保連携型 認定こども園	緑ヶ丘ふじ保育園	八尾市緑ヶ丘1-50	昭和50年4月1日	150人	2
10	幼保連携型 認定こども園	やまゆりこども園	東大阪市内小阪5-15-3	昭和53年3月31日	145人	3
11	幼保連携型 認定こども園	わかばこども園	交野市私部1丁目22-1	平成29年4月1日	154人	4
12	幼保連携型 認定こども園	むぎの穂こども園	東大阪市西堤本通東3-3-27	昭和52年3月31日	139人	2
13	幼保連携型 認定こども園	寺内さくらこども園	大阪府守口市寺内町2-9-16	平成16年2月26日	119	2
14	保育所	育徳園保育所	大阪市阿倍野区阪南町5-12-5	昭和29年5月6日	186人	2
15	認定こども園	桜木保育園	大阪府寝屋川市桜木町6-11	平成30年4月1日	80	2
16	保育所	宇山光の子保育園	枚方市宇山東町8-30	平成16年4月1日	130人	1
17	保育所	大阪YWCA大宮保育園	大阪市旭区大宮5-7-15	昭和53年6月1日	180人	3
18	保育所	風の子保育園	大阪市東淀川区小松1-13-21	昭和31年11月20日	120人	2
19	保育所	大阪信愛学院保育園	大阪市城東区古市2-7-30	平成26年4月1日	46人	3
20	保育所	すみれ保育園	大阪市城東区古市1-20-82	昭和28年5月9日	192人	3
21	保育所	善児園	大阪市港区港晴3-16-6	昭和58年4月1日	120人	2
22	保育所	鶴見学園	大阪市鶴見区鶴見3-11-30	昭和25年9月20日	104人	2
23	保育所	長尾保育園	枚方市長尾東町1-41-1	昭和51年3月5日	170人	3
24	保育所	畷アサヒヶ丘保育園	四条畷市南野6-9-70	昭和55年2月18日	130人	3
25	保育所	平和の子保育園	大阪市旭区新森7-1-5	昭和41年7月1日	147人	2

	法令に定める 施設種別	施設名	所在地	設置年月日	入所定員	受け入れ数
26	認定こども園	千里丘キンダースクール	大阪府吹田市千里丘北1-3	平成18年5月10日	145	3
27	保育所	暁光会ひかり学園	大阪市西成区北津守4-4-35	昭和35年4月1日	100人	3
28	保育所	牧野保育園	枚方市上島東町6-5	昭和57年4月1日	140人	2
29	幼保連携型 認定こども園	東野田ちどり保育園	大阪市都島区東野田町4-15-20	平成27年4月1日	214人	3
30	保育所	なかよしすみれ保育園	大阪市城東区古市1-21-3	昭和47年4月1日	133人	3
31	保育所	今福青い鳥保育園	大阪市城東区今福西1-6-30	平成28年2月1日	96人	2
32	幼保連携型 認定こども園	認定こども園 ちとせ學院	茨木市庄2-7-35	昭和54年4月1日	175人	3
					合計	82

実習施設一覧

実習の区分： 保育実習 IB

	法令に定める施設種別	施設名	所在地	設置年月日	入所定員	受け入れ数	合計(名)
1	児童養護施設	岸和田学園	大阪府岸和田市三田町911	昭和24年6月1日	30人	8月4名, 12月4名, 3月4名	12
2	児童養護施設	救世軍希望館	大阪府茨木市中穂積2-16-11	大正4年10月30日	65人	8月2名, 12月4名, 3月2名	8
3	児童養護施設	聖家族の家	大阪府大阪市東住吉区南田辺4-5-2	昭和22年12月12日	148人	8月2名, 12月2名, 3月2名	6
4	児童養護施設	博愛社	大阪府大阪市淀川区十三元今里3-1-72	昭和27年5月20日	123人	8月0名, 12月2名, 3月0名	2
5	福祉型児童発達支援センター	淡路こども園	大阪府大阪市東淀川区西淡路5-1-12	昭和53年5月1日	30人	8月1名, 12月1名, 3月1名	3
6	児童養護施設	遙学園	大阪府三島郡島本町山崎5-3-18	昭和6年3月1日	134人	8月2名, 12月2名, 3月2名	6
7	医療型児童発達支援センター	吹田療育園	大阪府吹田市川園町1-1	昭和48年4月1日	60人	8月2名, 12月2名, 3月2名	6
8	乳児院	四恩学園乳児院	大阪府大阪市住吉区苅田4-3-9	昭和22年7月1日	35人	8月2名, 12月2名, 3月2名	6
9	乳児院	和泉乳児院	大阪府泉大津市助松町3-8-7	昭和27年8月26日	40人	8月2名, 12月2名, 3月0名	4
10	乳児院	すみれ乳児院	大阪市旭区新森7-8-16	昭和47年4月1日	35人	8月2名, 12月2名, 3月2名	6
11	乳児院	くるみ乳児院	大阪市鶴見区緑1丁目18-30	平成29年7月1日	18人	8月2名, 12月2名, 3月2名	6
12	児童発達支援センター	キンダーハイム	大阪府大阪市東住吉区矢田6-8-29	平成24年4月1日	40人	8月2名, 12月4名, 3月2名	8
13	福祉型児童発達支援センター	高槻市立うの花療育園	大阪府高槻市郡家本町5-5	平成15年4月1日	50人	8月1名, 12月1名, 3月1名	3
14	障害児入所施設	愛の集い学園	奈良県大和高田市根成柿340-1	昭和43年7月1日	30人	8月2名, 12月2名, 3月2名	6
合計							82

※所在地は承諾書記載の法人住所とは異なる場合がある。

実習施設一覧

実習の区分： 保育実習Ⅱ

	法令に定める 施設種別	施設名	所在地	設置年月日	入所定員	受け入れ数
1	幼保連携型 認定こども園	旭ヶ丘学園	吹田市朝日が丘町1-5	平成27年4月1日	304人	3
2	幼保連携型 認定こども園	いこまこども園	生駒市北新町2-11	平成29年4月1日	290人	3
3	幼保連携型 認定こども園	くすのきこども園	東大阪市菱江3丁目12-13	昭和54年3月29日	120人	3
4	幼保連携型 認定こども園	堺東保育園	堺市堺区榎元町5-5-24	昭和54年4月1日	150人	3
5	幼保連携型 認定こども園	さくらいこども園	東大阪市六万寺町2-6-35	平成27年4月1日	166人	2
6	幼保連携型 認定こども園	四條畷すみれ保育園	大阪府四條畷市北出町11-7	平成29年4月1日	62人	3
7	幼保連携型 認定こども園	智鳥保育園	門真市北島町14-28	平成29年4月1日	213人	3
8	幼保連携型 認定こども園	ふじ保育園	八尾市光町1-38	昭和47年4月1日	250人	2
9	幼保連携型 認定こども園	緑ヶ丘ふじ保育園	八尾市緑ヶ丘1-50	昭和50年4月1日	150人	2
10	幼保連携型 認定こども園	やまゆりこども園	東大阪市下小阪5-15-3	昭和53年3月31日	145人	3
11	幼保連携型 認定こども園	わかばこども園	交野市私部1丁目22-1	平成29年4月1日	154人	4
12	幼保連携型 認定こども園	むぎの穂こども園	東大阪市西堤本通東3-3-27	昭和52年3月31日	139人	2
13	幼保連携型 認定こども園	寺内さくらこども園	大阪府守口市寺内町2-9-16	平成16年2月26日	119人	2
14	保育所	育徳園保育所	大阪市阿倍野区阪南町5-12-5	昭和29年5月6日	186人	2
15	認定こども園	桜木保育園	大阪府寝屋川市桜木町6-11	平成30年4月1日	80人	2
16	保育所	宇山光の子保育園	枚方市宇山東町8-30	平成16年4月1日	130人	1
17	保育所	大阪YWCA大宮保育園	大阪市旭区大宮5-7-15	昭和53年6月1日	180人	3
18	保育所	風の子保育園	大阪市東淀川区小松1-13-21	昭和31年11月20日	120人	2
19	保育所	大阪信愛学院保育園	大阪市城東区古市2-7-30	平成26年4月1日	46人	3
20	保育所	すみれ保育園	大阪市城東区古市1-20-82	昭和28年5月9日	192人	3
21	保育所	善児園	大阪市港区港晴3-16-6	昭和58年4月1日	120人	2
22	保育所	鶴見学園	大阪市鶴見区鶴見3-11-30	昭和25年9月20日	104人	2
23	保育所	長尾保育園	枚方市長尾東町1-41-1	昭和51年3月5日	170人	3
24	保育所	畷アサヒヶ丘保育園	四条畷市南野6-9-70	昭和55年2月18日	130人	3
25	保育所	平和の子保育園	大阪市旭区新森7-1-5	昭和41年7月1日	147人	2
26	認定こども園	千里丘キンダースクール	大阪府吹田市千里丘北1-3	平成18年5月10日	145人	3
27	保育所	暁光会ひかり学園	大阪市西成区北津守4-4-35	昭和35年4月1日	100人	3
28	保育所	牧野保育園	枚方市上島東町6-5	昭和57年4月1日	140人	2

	法令に定める 施設種別	施設名	所在地	設置年月日	入所定員	受け入れ数
29	幼保連携型 認定こども園	東野田ちどり保育園	大阪市都島区東野田町4-15-20	平成27年4月1日	214人	3
30	保育所	なかよしすみれ保育園	大阪市城東区古市1-21-3	昭和47年4月1日	133人	3
31	保育所	今福青い鳥保育園	大阪市城東区今福西1-6-30	平成28年2月1日	96人	2
32	幼保連携型 認定こども園	認定こども園 ちとせ學院	茨木市庄2-7-35	昭和54年4月1日	175人	3
					合計	82

実習施設一覧

実習の区分： 保育実習Ⅲ

	法令に定める 施設種別	施設名	所在地	設置年月日	入所定員	受け入れ数
1	児童養護施設	和泉幼児院	大阪府泉大津市助松町3-8-7	昭和27年7月1日	44	2
2	乳児院	和泉乳児院	大阪府泉大津市助松町3-8-7	昭和27年8月26日	40	3
					合計	5

実習時期一覧表

教育学部 教育学科 コース別 実習時期一覧

○初等教育コース

学年	実習	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2年	小学校												
	幼稚園												
2年生後期～3年生前期：教職インターンシップ													

学年	実習	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3年	小学校						4週間						
	幼稚園												
～3年生前期：教職インターンシップ													

学年	実習	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
4年	小学校												
	幼稚園						選択 2週間						

●介護等体験の時期は教育委員会及び社会福祉協議会による設定に従う。

○幼児教育コース

学年	実習	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2年	保育園											保育実習ⅠA 10日間	
	幼稚園						前半2週間						
	施設												
2年生後期～3年生前期：教職インターンシップ													

学年	実習	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3年	保育園						保育実習Ⅱ 10日間						
	幼稚園		後半2週間										
	施設					施設A 10日間	保育実習Ⅲ 10日間			施設B 10日間		施設C 10日間	
※保育実習ⅠBの施設実習は、ABCの3つの時期から一度だけ行く。 但し、保育実習Ⅲ履修者の保育実習ⅠBの施設実習は8月に実施。													
～3年生前期：教職インターンシップ													

学年	実習	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
4年	保育園												
	幼稚園												
	施設												
	小学校							選択 2週間					

実習巡回指導計画（完成年度）

実習巡回指導計画表（完成年度）：教育実習（幼・小）（初等教育コース）

3年次 初等教育コース：9月1日～9月30日（4週間）

夏季休業期間中に実施

訪問担当 A…アラン バニヤン B…大森宏一 C…廣森直子 D…足高巻夫 E…市川隆司 F…金井秋彦 G…佐久正秀
H…芝誠貴 I…矢野正 J…荒木雅之 K…谷原舞 L…東本康栄 M…斎藤誠一 N…村津啓太

実習施設名	人数	9月1日 (月)	9月2日 (火)	9月3日 (水)	9月4日 (木)	9月5日 (金)	9月6日 (土)	9月7日 (日)	9月8日 (月)	9月9日 (火)	9月10日 (水)	9月11日 (木)	9月12日 (金)	9月13日 (土)	9月14日 (日)	9月15日 (月・祝)
大阪信愛学院小学校	20						休み	休み						休み	休み	休み
大阪市立大和田小学校	4						休み	休み						休み	休み	休み
大阪市立三津屋小学校	4						休み	休み						休み	休み	休み
大阪市立中川小学校	3						休み	休み						休み	休み	休み
大阪市立加美小学校	4						休み	休み						休み	休み	休み
大阪市立日吉小学校	4						休み	休み						休み	休み	休み
大阪市立九条南小学校	2						休み	休み						休み	休み	休み
大阪市立大田小学校	2						休み	休み						休み	休み	休み
大阪市立高津小学校	6						休み	休み						休み	休み	休み
大阪市立高殿南小学校	2						休み	休み						休み	休み	休み
大阪市立加賀屋東小学校	4						休み	休み						休み	休み	休み
大阪市立都島小学校	4						休み	休み						休み	休み	休み
大阪市立梅南津守小学校	1						休み	休み						休み	休み	休み
大阪市立中大江小学校	2						休み	休み						休み	休み	休み
大阪市立大隅西小学校	4						休み	休み						休み	休み	休み
大阪市立田川小学校	4						休み	休み						休み	休み	休み
大阪市立今福小学校	2						休み	休み						休み	休み	休み
大阪市立嶋野小学校	2						休み	休み						休み	休み	休み
大阪市立すみれ小学校	2						休み	休み						休み	休み	休み
大阪市立成育小学校	1						休み	休み						休み	休み	休み
大阪市立聖賢小学校	2						休み	休み						休み	休み	休み
大阪市立関目小学校	1						休み	休み						休み	休み	休み
合計	80															

実習施設名	人数	9月16日 (火)	9月17日 (水)	9月18日 (木)	9月19日 (金)	9月20日 (土)	9月21日 (日)	9月22日 (月)	9月23日 (火・祝)	9月24日 (水)	9月25日 (木)	9月26日 (金)	9月27日 (土)	9月28日 (日)	9月29日 (月)	9月30日 (火)
大阪信愛学院小学校	20					休み	休み		休み	A			休み	休み		
大阪市立大和田小学校	4					休み	休み		休み	B			休み	休み		
大阪市立三津屋小学校	4					休み	休み		休み	B			休み	休み		
大阪市立中川小学校	3					休み	休み		休み	C			休み	休み		
大阪市立加美小学校	4					休み	休み		休み	D			休み	休み		
大阪市立日吉小学校	4					休み	休み		休み	D			休み	休み		
大阪市立九条南小学校	2					休み	休み		休み		E		休み	休み		
大阪市立大田小学校	2					休み	休み		休み		E		休み	休み		
大阪市立高津小学校	6					休み	休み		休み		F		休み	休み		
大阪市立高殿南小学校	2					休み	休み		休み		G		休み	休み		
大阪市立加賀屋東小学校	4					休み	休み		休み		G		休み	休み		
大阪市立都島小学校	4					休み	休み		休み		H		休み	休み		
大阪市立梅南津守小学校	1					休み	休み		休み			I	休み	休み		
大阪市立中大江小学校	2					休み	休み		休み			I	休み	休み		
大阪市立大隅西小学校	4					休み	休み		休み			J	休み	休み		
大阪市立田川小学校	4					休み	休み		休み			J	休み	休み		
大阪市立今福小学校	2					休み	休み		休み			K	休み	休み		
大阪市立嶋野小学校	2					休み	休み		休み			K	休み	休み		
大阪市立すみれ小学校	2					休み	休み		休み			L	休み	休み		
大阪市立成育小学校	1					休み	休み		休み			L	休み	休み		
大阪市立聖賢小学校	2					休み	休み		休み			M	休み	休み		
大阪市立関目小学校	1					休み	休み		休み			N	休み	休み		
合計	80															

実習巡回指導計画表（完成年度）：教育実習（幼・小）前半（幼児教育コース）

2年次 幼児教育コース：9月1日～9月12日（2週間）

夏季休業期間中に実施

訪問担当 A…齋藤誠一 B…バニヤン アラン C…大森宏一 D…廣森直子 E…足高孝夫 F…市川隆司
G…金井秋彦 H…佐久正秀 I…芝誠貴 J…矢野正 K…荒木雅之 L…谷原舞 M…東本康栄 N…村津啓太

実施施設名	人数	9月1日 (月)	9月2日 (火)	9月3日 (水)	9月4日 (木)	9月5日 (金)	9月6日 (土)	9月7日 (日)	9月8日 (月)	9月9日 (火)	9月10日 (水)	9月11日 (木)	9月12日 (金)	9月13日 (土)	9月14日 (日)
大阪信愛学院幼稚園	3								A					休み	休み
認定こども園 あけのほし幼稚園	4						休み	休み		A				休み	休み
西高般若業幼稚園	2						休み	休み	B					休み	休み
学校法人 大阪愛徳学園 大阪愛徳幼稚園	3						休み	休み		B				休み	休み
ひかりの子幼稚園	2						休み	休み	C					休み	休み
認定こども園 うみのほし幼稚園	2						休み	休み		C				休み	休み
長尾幼稚園	2						休み	休み	D					休み	休み
守口幼稚園	6						休み	休み		D				休み	休み
幼稚園型認定こども園 寺方幼稚園	2						休み	休み	E					休み	休み
すずらん幼稚園	3						休み	休み		E				休み	休み
牧野幼稚園	2						休み	休み	F					休み	休み
山田敬愛幼稚園	2						休み	休み		F				休み	休み
幼保連携型認定こども園 八戸の里幼稚園	2						休み	休み	G					休み	休み
認定こども園 枚岡カトリック幼稚園	4						休み	休み		G				休み	休み
アスール幼稚園	4						休み	休み	H					休み	休み
朝陽幼稚園	2						休み	休み		H				休み	休み
中かがや幼稚園	2						休み	休み	I					休み	休み
賢明学院幼稚園	2						休み	休み		I				休み	休み
藤井寺カトリック幼稚園	2						休み	休み	J					休み	休み
松原ひかり幼稚園	2						休み	休み		J				休み	休み
新ひのお台幼稚園	3						休み	休み	K					休み	休み
認定こども園 春木カトリック幼稚園	4						休み	休み		K				休み	休み
熊取みどり幼稚園	3						休み	休み	L					休み	休み
海星幼稚園	2						休み	休み		L				休み	休み
登美が丘カトリック幼稚園	3						休み	休み	M					休み	休み
幼保連携型認定こども園 せいか幼稚園	5						休み	休み		M				休み	休み
高田カトリック幼稚園	2						休み	休み	N					休み	休み
聖愛幼稚園	2						休み	休み	N					休み	休み
大阪ひがし幼稚園	3						休み	休み		N				休み	休み
合計	80														

実習巡回指導計画表（完成年度）：教育実習（幼・小）後半（幼児教育コース）

3年次 幼児教育コース：5月12日～5月23日（2週間）

訪問担当 A…齋藤誠一 B…矢野正 C…大森宏一 D…廣森直子 E…足高孝夫 F…市川隆司
G…金井秋彦 H…バニヤン アラン I…佐久正秀 J…芝誠貴 K…荒木雅之 L…谷原舞 M…東本康栄 N…村津啓太

実施施設名	人数	5月12日 (月)	5月13日 (火)	5月14日 (水)	5月15日 (木)	5月16日 (金)	5月17日 (土)	5月18日 (日)	5月19日 (月)	5月20日 (火)	5月21日 (水)	5月22日 (木)	5月23日 (金)	5月24日 (土)	5月25日 (日)
大阪信愛学院幼稚園	3						休み	休み	A					休み	休み
認定こども園 あけのほし幼稚園	4						休み	休み	A					休み	休み
西高般若業幼稚園	2						休み	休み		B				休み	休み
学校法人 大阪愛徳学園 大阪愛徳幼稚園	3						休み	休み		B				休み	休み
ひかりの子幼稚園	2						休み	休み	C					休み	休み
認定こども園 うみのほし幼稚園	2						休み	休み	C					休み	休み
長尾幼稚園	2						休み	休み	D					休み	休み
守口幼稚園	6						休み	休み	D					休み	休み
幼稚園型認定こども園 寺方幼稚園	2						休み	休み		E				休み	休み
すずらん幼稚園	3						休み	休み		E				休み	休み
牧野幼稚園	2						休み	休み		F				休み	休み
山田敬愛幼稚園	2						休み	休み		F				休み	休み
幼保連携型認定こども園 八戸の里幼稚園	2						休み	休み		G				休み	休み
認定こども園 枚岡カトリック幼稚園	4						休み	休み		G				休み	休み
アスール幼稚園	4						休み	休み		H				休み	休み
朝陽幼稚園	2						休み	休み		H				休み	休み
中かがや幼稚園	2						休み	休み		I				休み	休み
賢明学院幼稚園	2						休み	休み		I				休み	休み
藤井寺カトリック幼稚園	2						休み	休み	J					休み	休み
松原ひかり幼稚園	2						休み	休み	J					休み	休み
新ひのお台幼稚園	3						休み	休み		K				休み	休み
認定こども園 春木カトリック幼稚園	4						休み	休み		K				休み	休み
熊取みどり幼稚園	3						休み	休み	L					休み	休み
海星幼稚園	2						休み	休み	L					休み	休み
登美が丘カトリック幼稚園	3						休み	休み	M					休み	休み
幼保連携型認定こども園 せいか幼稚園	5						休み	休み		M				休み	休み
高田カトリック幼稚園	2						休み	休み		N				休み	休み
聖愛幼稚園	2						休み	休み		N				休み	休み
大阪ひがし幼稚園	3						休み	休み		N				休み	休み
合計	80														

巡回教員の授業配置と巡回計画

教員名	時限	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	
A 齋藤誠一	1限		心理学						巡回	心理学				
	2限		心のしくみと働き	教育相談						心のしくみと働き				
	3限		発達心理学	基礎ゼミ						発達心理学	基礎ゼミ			
	4限													
	5限					教育学研究Ⅰ								教育学研究Ⅰ
B 矢野正	1限				保育内容指導法(理論)①				巡回			保育内容指導法(理論)①		
	2限				幼児と環境②							幼児と環境②		
	3限			保育内容指導法(健康)②		保育内容指導法(人間関係)②					保育内容指導法(健康)②		保育内容指導法(人間関係)②	
	4限				保育内容指導法(健康)①	保育内容指導法(人間関係)①						保育内容指導法(健康)①	保育内容指導法(人間関係)①	
	5限					教育学研究Ⅰ								教育学研究Ⅰ
C 大森宏一	1限								巡回					
	2限													
	3限													
	4限				幼児と健康論							幼児と健康論		
	5限					教育学研究Ⅰ								教育学研究Ⅰ
D 廣森直子	1限								巡回					
	2限		特別支援教育学②								特別支援教育学②			
	3限				ジェンダー論							ジェンダー論		
	4限		特別支援教育学①		教育学概論Ⅱ							特別支援教育学①	教育学概論Ⅱ	
	5限					教育学研究Ⅰ								教育学研究Ⅰ
E 足高孝夫	1限					サービスラーニング			巡回				サービスラーニング	
	2限					文章表現								文章表現
	3限			基礎ゼミ								基礎ゼミ		
	4限													
	5限													
F 市川隆司	1限	情報リテラシー1①			情報リテラシー1②				巡回	情報リテラシー1①			情報リテラシー1②	
	2限													
	3限	情報リテラシー1③			情報リテラシー1④							情報リテラシー1③		情報リテラシー1④
	4限													
	5限	情報倫理				教育学研究Ⅰ					情報倫理			教育学研究Ⅰ
G 金井秋彦	1限					人と音楽			巡回				人と音楽	
	2限													
	3限			基礎ゼミ		初等音楽論Ⅰ①						基礎ゼミ		初等音楽論Ⅰ①
	4限					初等音楽論Ⅰ②								初等音楽論Ⅰ②
	5限					教育学研究Ⅰ								教育学研究Ⅰ
H バニヤン アラン	1限	Speaking & Listening③			Speaking & Listening④				巡回			Speaking & Listening④		
	2限													
	3限	Speaking & Listening②			Speaking & Listening⑤	初等英語論						Speaking & Listening⑤	初等英語論	
	4限													
	5限													
I 佐久正秀	1限	ReadingⅠ⑤							巡回	ReadingⅠ⑤				
	2限				ReadingⅡ①								ReadingⅡ①	
	3限	Writing①		初等英語科教育論								初等英語科教育論		
	4限				時事英語①								時事英語①	
	5限	Process Writing①				教育学研究Ⅰ					Process Writing①			教育学研究Ⅰ
J 芝誠貴	1限					サービスラーニング			巡回				サービスラーニング	
	2限													
	3限			基礎ゼミ								基礎ゼミ		
	4限													
	5限													
K 荒木雅之	1限					サービスラーニング 体育講義			巡回				サービスラーニング 体育講義	
	2限			スポーツと健康							スポーツと健康			
	3限													
	4限													
	5限													
L 谷原舞	1限					サービスラーニング			巡回				サービスラーニング	
	2限				幼児と音楽論①	文章表現						幼児と音楽論①	文章表現	
	3限			基礎ゼミ	幼児と音楽論②							基礎ゼミ		幼児と音楽論②
	4限				保育内容指導法(音楽)①	保育内容指導法(音楽)②							保育内容指導法(音楽)①	保育内容指導法(音楽)②
	5限													
M 東本康栄	1限					サービスラーニング			巡回				サービスラーニング	
	2限				幼児造形指導法Ⅰ②							幼児造形指導法Ⅰ②		
	3限													
	4限		初等図工論Ⅰ①	幼児造形指導法Ⅰ①							初等図工論Ⅰ①	幼児造形指導法Ⅰ①		
	5限		初等図工論Ⅰ②									初等図工論Ⅰ②		
N 村津啓太	1限								巡回					
	2限													
	3限													
	4限													
	5限													

実習巡回指導計画表（完成年度）：保育実習ⅠA

2年次：2月16日～2月27日（2週間10日間）

春季休業期間中に実施

訪問担当 A…バニヤン アラン B…大森宏一 C…廣森直子 D…足高亮夫 E…市川隆司 F…金井秋彦 G…佐久正秀
H…芝誠貴 I…矢野正 J…荒木雅之 K…谷原舞 L…東本康栄 M…梅野圭史 N…村津啓太

実習施設名	人数	2月16日 (月)	2月17日 (火)	2月18日 (水)	2月19日 (木)	2月20日 (金)	2月21日 (土)	2月22日 (日)	2月23日 (月・祝)	2月24日 (火)	2月25日 (水)	2月26日 (木)	2月27日 (金)
旭ヶ丘学園	3							休み	休み	A			
いこまこども園	3							休み	休み	A			
くすのきこども園	3							休み	休み	B			
堺東保育園	3							休み	休み	B			
さくらいこども園	2							休み	休み		B		
四條畷すみれ保育園	3							休み	休み		C		
智鳥保育園	3							休み	休み		C		
ふじ保育園	2							休み	休み	C			
緑ヶ丘ふじ保育園	2							休み	休み	D			
やまゆりこども園	3							休み	休み	D			
わかばこども園	4							休み	休み		D		
むぎの穂こども園	2							休み	休み		E		
寺内さくらこども園	2							休み	休み		E		
育徳園保育所	2							休み	休み		F		
桜木保育園	2							休み	休み		F		
宇山光の子保育園	1							休み	休み	G			
大阪YWCA大宮保育園	3							休み	休み	G			
風の子保育園	2							休み	休み	H			
大阪信愛学院保育園	3							休み	休み	H			
すみれ保育園	3							休み	休み		I		
善児園	2							休み	休み		I		
鶴見学園	2							休み	休み	J			
長尾保育園	3							休み	休み	J			
畷アサヒヶ丘保育園	3							休み	休み		J		
平和の子保育園	2							休み	休み		K		
千里丘キンダースクール	3							休み	休み		K		
曙光会ひかり学園	3							休み	休み		L		
牧野保育園	2							休み	休み		L		
東野田ちどり保育園	3							休み	休み	M			
なかよしすみれ保育園	3							休み	休み	M			
今福青い鳥保育園	2							休み	休み	N			
認定こども園 ちとせ学院	1							休み	休み	N			
合計	80												

実習巡回指導計画表（完成年度）：保育実習ⅠB

3年次：8月18日～8月29日（2週間10日間）、12月8日～12月19日（2週間10日間）、2月16日～2月28日（2週間10日間）のいずれか1つの期間

夏季・冬季・春季休業期間中に実施

訪問担当 A…梅野圭史 B…バニヤン アラン C…大森宏一 D…廣森直子 E…足高孝夫 F…市川隆司
G…金井秋彦 H…佐久正秀 I…芝誠貴 J…矢野正 K…荒木雅之 L…谷原舞 M…東本康栄 N…村津啓太

◎ 8月18日～8月29日（2週間10日間）

実習施設名	人数	8月18日 (月)	8月19日 (火)	8月20日 (水)	8月21日 (木)	8月22日 (金)	8月23日 (土)	8月24日 (日)	8月25日 (月)	8月26日 (火)	8月27日 (水)	8月28日 (木)	8月29日 (金)	8月30日 (土)
岸和田学園	4						休み	休み	A					休み
救世軍希望館	2						休み	休み	B					休み
聖家族の家	2						休み	休み	C					休み
淡路こども園	1						休み	休み		D				休み
遙学園	2						休み	休み		E				休み
吹田療育園	2						休み	休み		F				休み
四思学園乳児院	2						休み	休み		G				休み
和泉乳児院	2						休み	休み		H				休み
すみれ乳児院	2						休み	休み		I				休み
くるみ乳児院	2						休み	休み		J				休み
キンダーハイム	2						休み	休み		K				休み
高槻市立うの花療育園	1						休み	休み		L				休み
愛の集い学園	2						休み	休み		M				休み
合計	26													

◎ 12月8日～12月19日（2週間10日間）

実習施設名	人数	12月8日 (月)	12月9日 (火)	12月10日 (水)	12月11日 (木)	12月12日 (金)	12月13日 (土)	12月14日 (日)	12月15日 (月)	12月16日 (火)	12月17日 (水)	12月18日 (木)	12月19日 (金)	12月20日 (土)
岸和田学園	4						休み	休み	B					休み
救世軍希望館	4						休み	休み	C					休み
聖家族の家	2						休み	休み		D				休み
博愛社	2						休み	休み		E				休み
淡路こども園	1						休み	休み		F				休み
遙学園	2						休み	休み		G				休み
吹田療育園	2						休み	休み		H				休み
四思学園乳児院	2						休み	休み		I				休み
和泉乳児院	2						休み	休み		J				休み
すみれ乳児院	2						休み	休み		K				休み
くるみ乳児院	2						休み	休み		L				休み
キンダーハイム	4						休み	休み		M				休み
高槻市立うの花療育園	1						休み	休み		N				休み
愛の集い学園	2						休み	休み		N				休み
合計	32													

◎ 2月16日～2月28日（2週間10日間）

実習施設名	人数	2月16日 (月)	2月17日 (火)	2月18日 (水)	2月19日 (木)	2月20日 (金)	2月21日 (土)	2月22日 (日)	2月23日 (月・祝)	2月24日 (火)	2月25日 (水)	2月26日 (木)	2月27日 (金)	2月28日 (土)
岸和田学園	2						休み	休み	休み	A				
救世軍希望館	2						休み	休み	休み	B				
聖家族の家	2						休み	休み	休み	C				
淡路こども園	1						休み	休み	休み		D			
遙学園	2						休み	休み	休み		E			
吹田療育園	2						休み	休み	休み		F			
四思学園乳児院	2						休み	休み	休み		G			
すみれ乳児院	2						休み	休み	休み		H			
くるみ乳児院	2						休み	休み	休み		I			
キンダーハイム	2						休み	休み	休み		J			
高槻市立うの花療育園	1						休み	休み	休み		K			
愛の集い学園	2						休み	休み	休み		L			
合計	22													
3期間の総計	80													

実習巡回指導計画表（完成年度）：保育実習Ⅱ

3年次: 9月8日～9月19日(2週間10日間)

夏季休業期間中に実施

訪問担当 A…バニヤン アラン B…大森宏一 C…廣森直子 D…足高寿夫 E…市川隆司 F…金井秋彦 G…佐久正秀
H…芝誠貴 I…矢野正 J…荒木雅之 K…谷原舞 L…東本康栄 M…梅野主史 N…村津啓太

実習施設名	人数	9月8日 (月)	9月9日 (火)	9月10日 (水)	9月11日 (木)	9月12日 (金)	9月13日 (土)	9月14日 (日)	9月15日 (月・祝)	9月16日 (火)	9月17日 (水)	9月18日 (木)	9月19日 (金)
旭ヶ丘学園	3							休み	休み	A			
いこまこども園	3							休み	休み	A			
くすのきこども園	3							休み	休み	B			
堺東保育園	3							休み	休み	B			
さくらいこども園	2							休み	休み		C		
四條畷すみれ保育園	3							休み	休み		C		
智鳥保育園	3							休み	休み	D			
ふじ保育園	2							休み	休み	D			
緑ヶ丘ふじ保育園	2							休み	休み		D		
やまゆりこども園	3							休み	休み		E		
わかぼこども園	4							休み	休み		E		
むぎの穂こども園	2							休み	休み		E		
寺内さくらこども園	2							休み	休み		F		
育徳園保育所	2							休み	休み		F		
桜木保育園	2							休み	休み		F		
宇山光の子保育園	1							休み	休み	G			
大阪YWCA大宮保育園	3							休み	休み	G			
風の子保育園	2							休み	休み	H			
大阪信愛学院保育園	3							休み	休み	H			
すみれ保育園	3							休み	休み		I		
善児園	2							休み	休み		I		
鶴見学園	2							休み	休み	I			
長尾保育園	3							休み	休み	J			
畷アサヒヶ丘保育園	3							休み	休み	J			
平和の子保育園	2							休み	休み		K		
千里丘キンダースクール	3							休み	休み		K		
曙光会ひかり学園	3							休み	休み		L		
牧野保育園	2							休み	休み		L		
東野田ちどり保育園	3							休み	休み	M			
なかよしすみれ保育園	3							休み	休み	M			
今福青い鳥保育園	2							休み	休み		N		
認定こども園 ちとせ学院	1							休み	休み		N		
合計	80												

実習巡回指導計画表（完成年度）：保育実習Ⅲ

3年次: 9月8日～9月19日(2週間10日間)

夏季休業期間中に実施

訪問担当 A…廣森直子 B…荒木雅之

実習施設名	人数	9月8日 (月)	9月9日 (火)	9月10日 (水)	9月11日 (木)	9月12日 (金)	9月13日 (土)	9月14日 (日)	9月15日 (月・祝)	9月16日 (火)	9月17日 (水)	9月18日 (木)	9月19日 (金)
和泉幼児院	2							休み	休み	A			
和泉乳児院	3							休み	休み	B			
合計	5												

教育実習手引き

教育学部 教育学科

初等教育コース

1 実習の意義・目的について

実習は、実習までに本学で修得した教科全体の知識・技能を基礎として、実習を通じ、小学校教諭や幼稚園教諭の業務・役割を理解し、自らの実践力を養うと同時に、実践で学んだことと理論を結び付けて習熟させることを目的とする。実習が有意義になるように、実習実施の意義・目的をおさえたうえで、既習内容を復習しながら実習までを過ごすことが大切である。ここでは各実習の意義・目的をおさえておく。

[実習の意義・目的]

小学校教育 実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の小学校での観察・参加・指導実習を通して、小学校の機能・役割、一日の流れや教諭の様々な役割を把握する。 ・担任の補助を行い、児童が主体的・対話的・深い学びに向かうことのできる学習環境の在り様を学び、自らも教育・保育を実践する。 ・観察・参加実習において実習生自ら児童と関わり、児童の実態を把握し、個々に応じた適切な支援・援助を実践し、省察する。 ・教壇授業や研究授業の経験を通して児童の主体的・対話的で深い学びを目指した指導案を作成・実践し、環境構成や指導・保育実践について学びを深める。 ・指導教諭の学級経営において観察・参加・指導を行う中で、生徒指導や学級経営の重要性を学び、実践のための基礎を修得する。
幼稚園教育 実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の幼稚園での観察・参加・指導実習を通して、幼稚園の機能・役割、一日の流れや教諭の様々な役割を把握する。 ・担任の補助を行い、幼児が主体的に遊びに向かう環境の在り様を学び、自らも教育・保育を実践する。 ・観察・参加実習において実習生自ら幼児と関わり、幼児の実態を把握し、個々に応じた適切な支援・援助を実践し、省察する。 ・責任実習の中で指導案を作成・実践し、環境構成や指導・保育実践について学びを深める。
教職インター ンシップ	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育、小学校教育における授業、特別活動、部活動などの教員の日常業務を観察、体験し、学校における教育活動についての具体的理解を深める。 ・学校教育の様々な場면을観察し、教員の業務について知る。 ・学校における、教員と幼児・児童との関係について具体的理解を深める。

2 実習のスケジュールについて

時期	教育実習（小学校）	備考	幼稚園教育実習（選択）	備考
1年			指定の専門教育科目・教職科目履修	
1年12月	「コースの決定」の書類を提出 「教職インターンシップ」受講希望調査			
2年前期	「教育実習事前事後指導」 「教育実習（幼・小）」履修			
2年後期から	「教職インターンシップ」受講（選択）	「基礎ゼミ」「教養ゼミ」「教育原理」「教育心理学」「保育内容総論」を修得済みのこと。		
3年6月	個人票，自己課題等作成	実習担当委員の捺印要		
3年6月	小学校実習配属先決定			
3年7月	オリエンテーションアポのための電話		「幼稚園教育実習」履修希望提出	
3年8月	オリエンテーション			
3年9月2週目から10月1週目	「教育実習」（小学校）（4週間）	「教育心理学」「保育内容総論」「基礎ゼミ」「教養ゼミ」「教育原理」「初等国語科教育論」「初等算数科教育論」を修得済みのこと。 実習中に訪問指導を受ける。期間変更の場合は，実習担当委員に連絡のこと。		

時期	教育実習（小学校）	備考	幼稚園教育実習（選択）	備考
4年4月			「幼稚園教育実習」履修	「教育実習（幼・小）」「教育実習事前事後指導」を修得済みのこと。
4年5月			幼稚園実習配属先決定	
4年6月			個人票，自己課題等作成	実習担当委員の捺印要
4年7月			オリエンテーション アポのための電話	
4年8月			オリエンテーション	
4年9月 1週目から2週目			「幼稚園教育実習」（2週間）	実習中に訪問指導を受ける。
終了後1週間以内	実習記録を実習校・園に提出，お礼状を実習校・園に送付。			
終了後1か月以内	実習校・園に実習記録を取りに行く。実習記録・出勤簿を教務に提出。			
終了後1か月半～2か月	振り返りの事後指導受講。課題提出。			
実習終了後の8月 or 3月末	単位認定			

※呼び出しや，各種掲示をするので，必ず毎日確認すること。呼び出しがあった場合，速やかに来ること。

3 本学の実習について

本学では、小学校教諭1種あるいは幼稚園教諭1種免許状を取得するために必要な実習が小学校・幼稚園の協力を得て、下記のように実施されます。

① 小学校教諭1種免許状取得に必要な実習と単位

「教育実習（幼・小）」4単位，「教育実習事前事後指導」1単位の計5単位

3年次 原則として9月2週目から10月1週目

② 幼稚園教諭1種免許状取得に必要な実習と単位

小学校教諭1種免許状を取得希望で、小学校にて4週間の教育実習を行うものは、幼稚園教育実習を免除される。しかし、幼稚園にて実習を行いたいものは2週間行くことができる。

「幼稚園教育実習」（2単位）

4年次 原則として9月1週目から2週目

4 実習の履修と評価

① 履修

「教育実習（幼・小）」（小学校実習4週間）を行うための条件

- ・「基礎ゼミ」「教養ゼミ」「教育原理」「教育心理学」「保育内容総論」「初等国語科教育論」「初等算数科教育論」を修得していること。

「幼稚園教育実習」を行うための条件

- ・「教育実習事前事後指導」「教育実習（幼・小）」を修得していること。

「教職インターンシップ」を行うための条件

- ・「基礎ゼミ」「教養ゼミ」「教育原理」「教育心理学」「保育内容総論」を修得していること。

※上記実習はすべて、当該実習までに課されている「教育実習事前事後指導」の全プログラムが完了していること。

② 評価

(1) 「教育実習（幼・小）」

実習校・園での評価、実習前に立てた各自の実習の課題とその振り返りができているか、観察・参加実習で経験したことや実践場面を考察できているか、実習後の新たな今後の課題の構築ができているかを踏まえ、総合的に評価する。

(2) 「教育実習事前事後指導」

- ・受講態度及び提出物の提出状況によって評価する。
- ・提出物が期限を守って提出されていること。提出物の期限が守られていない場合、評価は保留となる。
- ・「実習の自己課題」，「個人票」，「事前訪問報告書」，「お礼状」，「実習の振り返り課題」，その他の課題を終了していること。
- ・実習事後指導に必ず参加すること。

(3) 「教職インターンシップ」

- ・小論文（事後報告会にて提出），毎回の記録・報告会での報告内容と実習における活動状況との総合判断による。

5 実習校・園について

(1) 「小学校教育実習」

本学では，「小学校教育実習」は同法人立の大阪信愛学院小学校もしくは，公立の小学校での実習を認める。3親等以内の親族が在籍する学校での実習は認めない。

(2) 「幼稚園教育実習」

本学では，「幼稚園教育実習」は，公立の幼稚園あるいは学校法人立の幼稚園，幼稚園型認定こども園，学校法人立の幼保連携型認定こども園での実習を認める。対象園は原則指定の協力園から選ぶことができる。

協力園が学生の居住区から適した距離にない場合は，新規園を希望することもできるが，帰省等遠方での実習は認めない。原則大阪府下での実習を行う。3親等以内の親族が在籍する園での実習は認めない。また本人のアルバイト・ボランティア先等は認めない。

(3) 「教職インターンシップ」

本学では，「教職インターンシップ」は，原則，同法人立の大阪信愛学院小学校もしくは，城東区内の公立の小学校で行う。

6 実習の準備

書類の準備（オリエンテーションまでに仕上げること）

- ①「実習の課題」実習で研究する課題について明確にし，実習担当委員の指導を受け，捺印を受けること。
- ②「個人票」
- ③「誓約書」（個人情報保護法に関する書類）

実習生が実習校・園で得た児童・園児や保護者や教師等々の情報に関して守秘義務がある。「誓約書」はその守秘義務を厳守するという誓約書である。万一，守秘義務を破った場合，実習の中止等の罰則が科せられることがある。児童・園児の安全を守り，人権を守るために厳守するということを肝に銘じて行うこと。

④「健康診断証明書」

大学での健康診断を受診すること。実習先より，実施直前の健康診断証明書が必要となった場合は，個人で医療機関を受診し証明書を受けること。

※ ①—④の書類が実習までに整わなかった場合，実習中止となる恐れがある。

その他の準備

① 実習用通学定期券

実習施設に通勤するために，通常の通学区間とは別ルート of 定期券を発行することができる。

教務課で通学定期の申請受付を行っている。必要に応じて活用のこと。実習定期は実習期間のみである。(オリエンテーション除く)

② 実習における通勤については公共交通機関利用のこと。事故に遭遇した場合、大学からの補償は公共交通機関を利用していた場合に限る。自転車での通勤は原則認めない。

③ 通常のルートが大きく逸脱した場所での事故等は補償しない。

7 オリエンテーションについて（事前訪問）

① オリエンテーションの目的

オリエンテーションの目的は、実習校・園を訪問し、小学校・幼稚園の概要や教育方針、そして実習に関する具体的説明、実習までに準備しておく事柄及び注意事項等を聴くことである。また、オリエンテーション時に、実習園の見学を実施することもある。複数人で実習を行う場合は、実習生全員がそろって参加すること。

② オリエンテーションを行う日程

実習の1か月前を目安に先方に電話をし、日程確認する。複数人で行く場合は、代表者を立ててすること。日程が決まれば、訪問担当教員に連絡すること。夏休みを挟む場合は、夏休み前に確認のこと。またオリエンテーションの日程が先方から指定されている時は、数日前に、確認と挨拶の電話を入れること。

③ オリエンテーションの内容

実習がスムーズに始められるように準備するために行われる。オリエンテーションでは、以下の点を参考に確認する。

- ・実習校・園の教育方針
- ・年齢別・男女別園児数・児童数とクラス数
- ・クラスの配属及び主任や実習担当者（担任）の紹介
- ・実習の留意事項
- ・一日の実習の流れ
- ・実習実施計画及び実習中の行事等
- ・校舎・校庭や園舎・園庭、及び遊具などの環境
- ・出勤及び退勤に関する事柄
- ・身だしなみ（服装・髪形・装飾品等々）
- ・実習生の仕事内容
- ・実習までに準備しておく課題
- ・見学時にメモを取ることにについての可否について
- ・その他
- ・アレルギー等、身体の心配がある人は必ず校長・園長と大学の実習担当委員に知らせること。

※ オリエンテーション終了後、「教育実習事前訪問報告書」に必要事項を記入の上、事後必ず教務課に提出すること。

④ オリエンテーションの心構え

- ・訪問の際にはスーツを基本とし、みだしなみや行動に注意し、装飾品は一切身につけない。
- ・オリエンテーションには時間厳守し、全員揃って実習校・園を訪問する。
- ・実習校・園内では携帯電話等は絶対に使用しない（電源を切る）。
- ・実習校・園に到着したら、まず、受付で来校・園の意向を告げる。
- ・実習校・園内で出会った人には、必ず会釈し挨拶をする。

⑤ オリエンテーション時に持っていくもの

- (1) 「挨拶状」
- (2) 「評価表」(年度, 学籍番号, 氏名の記入)
- (3) 評価表返信用封筒
- (4) 「出勤表」(氏名等必要事項の記入)
- (5) 「誓約書」(期日はオリエンテーション日, 押印の確認)
- (6) 「個人票」(清書: 実習担当委員に最終チェックを受ける) 写真1枚
- (7) 「実習の記録」(「自己課題」を清書しておく)

8 実習中の諸注意

① 服装・所持品

- ・職員, 子ども等に不快感, 違和感を与えるような服装, 髪型, 化粧はしないこと。
- ・名札, 上履き等は, 実習先のとりきめ(オリエンテーションで確認したこと)を厳守すること。
- ・現金や貴重品は各自の責任で管理すること。
- ・実習中は携帯電話を持たず, 電源を切ってかばんの中に入れておくこと。

② 実習中の問題時について

- (1) 万一, 実習生の不注意で事故が起きたり, 児童・園児に怪我をさせたり, 物損をおこした場合には, 事故が起きた状況や対応を校長・園長先生や担任に正確に報告し, 指示をあくこと。また, 必ず早急に実習担当委員あるいは教務課に電話連絡すること。

→ この場合対応は大学が行う。なお物損の場合は, 写真を撮っておくこと。

- (2) 体調不良などが起きた場合は, その旨を園に知らせ, 実習担当委員あるいは教務課に連絡すること。その場合必ず受診すること。

欠勤が実習の実質日数の3分の1を超えた場合は、『学生便覧』の規定に従い, 当該実習は失格となる。実習中の欠勤日数分は補充を行う。公欠及びインフルエンザや感染症以外の欠席による補充は, 通常の欠席扱いとする。

→ 補充の日程調整は各自で行い, 実習担当委員に報告のこと。

- (3) 何かしらの事情で遅刻をする場合(あってはならないが)

→ 校・園にすぐに連絡をする。その後大学の実習担当委員に連絡すること。

出勤後は, すぐに校長・園長に事情説明に出向くこと。

※無断欠勤・多遅刻等を含め実習中に支障が生じた場合には, 当該実習を中止とする。

(4) 交通機関に遅れが生じ、出勤時間に間に合わないときは、すぐに校・園に連絡を入れ、その後大学にも連絡すること。

→ 延着証明書をもらうこと。

(5) 地震や台風等で出勤できない場合は実習校・園と大学の実習担当委員に連絡をすること。通勤途中で地震などは、まずは自身の安全を第一に行動すること。連絡方法が途絶えることも考えられるが、身の安全を第一に考え、回線復帰後すぐに連絡をすること。

実習校・園で被災し、実習継続が困難な場合、実習は直ちに停止とし、その後実習担当委員あるいは教務課との連絡によって指示を受けること。ただし帰宅が困難な場合などは、無理をせず実習校・園で待機させてもらうこと。

地震や台風等の影響で実習期間が延長となり授業を欠席せざるを得ない場合は、通常の欠席とは異なる「実習による欠席扱い」となる。実習担当委員より授業担当者に伝達の上、授業担当者の裁量により補講またはオンデマンド授業等で授業内容の補足を行う。

(6) 通勤途中で交通事故にあった場合

→ すぐに実習校・園と大学の実習担当委員に連絡を取り、事故証明を取ること。

(7) 実習中に子どもとぶつかり骨折等した。

→ すぐに実習校・園と大学の実習担当委員に連絡を取り、医師の診断書を取ること。

通常のルートを大きく逸脱した場所での事故等は保障しない。

連絡先

大阪信愛学院大学 教務課

電話 06-6939-4391 (代表) (遅刻・欠勤・怪我等の緊急時)

メールアドレス: tpractice@osaka-shinai.ac.jp (事前訪問報告書等、緊急時以外)

メールを使用する際は、件名に学籍番号、名前を記入すること。

9 記録等の書き方

(1) 教育における記録とは

教育において記録とは、自分の教育を客観的・具体的に振り返り省察する過程である。記録をもとに、子どもの育ちと自らの教育を省察することにより、次の教育の課題と見直しへとつながっていく。

計画 → 実践 → 記録 → 省察 → 評価 → 次の計画

(2) 実習記録の目的と意義

実習記録も、教育における記録と同様、記録することを通してその日の教育を省察し、次の日の実践へと繋げる意義がある。実習によって得た経験・知識・反省・考察をその場限りのものにしないうために、記録が不可欠である。実習記録の具体的な目的を以下に挙げる。

・観察、経験したことを冷静に振り返り、漠然としていたことを整理整頓する。自分の行動を意識化し、自己理解を深める。

- ・その日の問題点、反省点を整理する。自分の課題に対して何を学んだのかを明確にし、翌日の課題を設定する。
- ・指導者との対話の手がかりとする。振り返りによって整理した問題意識、課題を指導者へ伝え、適切な助言を得る。

(3) 日誌の書き方について

※記録の書き方については本手引きでの指示を原則とするが、実習先で記録の書き方について指導を受けたときは、実習先の指導に従うこと。

① メモについて

- ・実習中にメモを取るものの可否は、オリエンテーションで確認すること。たとえ可であったとしても手短かに終わらせ、本題の教育を見ることがおろそかにならないこと。
- ・筆記具は危険であるので、取り扱いに注意すること。休憩時間等を利用し、気付いたこと、疑問などを記録すること。

② 様式について

- ・清書は、黒ボールペンで記入する。鉛筆、消せるペン等は使用不可である。
- ・修正が必要な時は二重線を引き、印鑑押印の上加筆すること。修正液、修正テープの使用は原則不可である。
- ・児童・園児の名前、教員の名前は原則イニシャルでかくこと。表記の仕方については、事前に指導者に確認のこと。
- ・誤字脱字はないか、字の大きさは適切か、話し言葉になっていないか、主語・述語が適切か見直すこと。
- ・書き上げた記録をいつ、だれに提出するのか確認すること。
- ・一日分のスペースに収まるよう要点をまとめること。(不足がある場合は、別紙を付け足すこと)
- ・ただの感想や日記は不要である。教師の目線で客観的に捉え、教育の中での意義、目的を押さえること。

小学校

一時間ずつの授業記録は、基本は自分のための記録用紙である。教師の問いかけによって、授業が応答性を増し、児童の探求心が増す。そのような言動を見かけたときは記録し自分の糧とすること。また昨日の授業を伏線として、本時の授業で展開を迎えた時などは、その流れについて記録すること。グループ活動において教師のアドバイスや、言葉の投げかけにより話し合いが活

発になることがあるため、記録しておくで自分の糧となる。この授業記録をもとにまとめ、授業日誌を書きあげること。授業日誌については担当指導教員に目を通してもらい反省会でも生かすこと。

幼稚園

初日用) 初日 (十分把握できなかつた場合は2日目も使用), もしくは, 途中でクラス変更があつた場合, または行事等の非日常の流れで行われる日は, 初日用を用い, 一日の流れから示すこと。

2日目以降用) 2日目以降は, デイリープログラムの中で常時活動ではないものを記録し, そのねらい, 環境などを記録し, 子どもの姿を記入し考察すること。またそれ以外のエピソード, 例へば喧嘩の場面であれば, 喧嘩の流れ, 子ども同士の会話, 保育者の関わり, 他児の関わり等を記入し, その意味や, 育ちに必要な関わりについて考察すること。

(4) 小学校指導案の書き方

〇〇科学習指導案

日 時：令和 年 月 日 () 第 限

学習者： 年 組 名前

指導教諭：

実習生：

1 単元（題材）名 _____

教科・領域によっては「題材名」「主題名」

2 単元（題材）の目標

単元の学習を通して、児童にどのような力を身に付けさせるかを記述する。

学習指導要領に示す、教科は学年の目標を踏まえて具体的に記述する。

「～する」「～できる」等、児童を主語にして記述する。

(知識・技能)・・・

(思考力・判断力・表現力等)・・・

(学びに向かう力)・・・

3 単元観・・・指導者の立場で記述。

(1) 教材観

取り上げる教材の概要や特徴、教材の系統性、単元（題材）の目標を実現するにあたっての必要性と妥当性を記述する。

(2) 児童観

単元を学習するにあたっての児童の実態、既習事項の定着状況等を記述する。

(3) 指導観

単元の目標を実現するための、教材観、児童観を踏まえた適切な指導形態、指導方法、学習活動を記述する。

4 指導計画（全 ○ 時間）

(時間)	学習指導内容	おもな評価規準
1		
2		
3		

:

:

:

本時の展開

① 本時の目標

1、本時のねらい

(単元の目標を達成するために、本時において児童生徒にどのような力を身に付けさせたいか記述)
「～ができる」等と記述。

児童がどのような知識・技能等を習得するのか、どのような能力を身に付けるのか等、主としてねらう内容を、評価規準と関連付けて具体的に書く。

2、準備・資料

あれば記述する。

② 本時の展開 (本時 /)

時間	学習活動	指導上の留意点	評価 (観点, 方法等)
時間配分を記入	児童の立場で書く。 学習する内容を簡潔に書く。 主な発話と予想される、児童の意識について書く。	児童の立場から考えて、考慮すべき事柄を教師の立場で書く。 どのような時に、どのような支援・援助をするのか。 個に応じた指導・支援の視点で、指導形態、指導方法について記述。	評価の観点, 評価規準を記述。 1 単位時間で 1-2 個の評価規準が標準。
	本時のめあて を枠の中に書く。板書計画の中のねらいと一致させること		
	例) ~について確認する。 ~について話し合う。	指導 は目標に向かって教えたり, 考えさせたりすること等, 教師の計画的かつ意図を含んだ教育行為。 支援 は教師による指導の一形態で, 子どもの主体性を重視した指導。自ら目標に向かって学ぼうとする姿勢を支援助けること。 例) ~のために, ~する。 ~につまずいている児童にヒントカードを渡す。 ~するよう促す。	例) (思考力) 自分なりに工夫して新しいやり方を試行する。
板書計画			

(5) 幼稚園指導案の書き方

ねらいを明瞭にし、物的環境・人的環境を詳細に記入すること。あくまでも子どもが主体であるから、「～させる」「～するよう指示する」という言い方は違和感がある。子どもの遊びを支えられるような保育を考えることが大切であろう。

保育指導案（部分・全日実習）

月 日()曜日 天候	実習生名	園長	主任	指導教諭	印	
クラス名	組	歳児	出席者	男児 名	女児 名	計 名
【子どもの姿】 クラスの様子、興味関心など			【ねらい】 本時の活動でねらう子どもの育ち			
【主な活動】 何をするのか？			【準備するもの】 詳細に。数、色なども			
時間	環境構成	予想される園児の活動		指導・援助の留意点		
	物的環境。 どこに、何を、いつ、出すのか？	ここが主になる。子どもが主体になるように考える。決して保育はやらせるのではない。子どもが自ら遊びを見つけ遊びに集中できるように、環境を整えること。		主の子どもの活動をどのように援助したら、子どもは自ら遊びを進められるだろうか、という目線で指導援助を書く。 園児の活動と、時間軸を合わせて書くこと。		
【保育実践の省察】 子ども同士の関係性、保育者との関係性なども考慮しながら、客観的視点により、子どもの行動を捉得ることが大切である。単なる感想にならないように、あらゆる角度から考察すること。						
【指導者の助言】						

(6) 自己課題の書き方

自己課題は、2, 3点を箇条書きにあげること。あいまいな課題ではなく、具体的に記すことが大切である。その課題をより詳細化し、どのような実践の姿を見たいのかをそれぞれ挙げる。ここを詳細に記載することで、実習は深まりを持つはずである。

またその課題について、今できることをどのくらい学んできたのかを記す。授業で使用したテキストだけではなく、それにまつわる書籍を探して読んでいること。あるいは後ろに記載されている参考文献の中から、あらかじめ数冊を読み、学びを深めてから実践に参加することで、より効果が期待できる。

(7) 自己課題の振り返りの書き方

自己課題を詳細に挙げることで、実習では学びが深まったはずである。それを詳細に書き留め、考察を加えることで、理論と実践の関係性もより明瞭化するであろう。自己課題をもとにいくつかの実践例を取り上げながら考察をすること。またそのうえで、自分にまだ不足していると思われる点について挙げ、今後の課題とすること。

(8) 実習園・施設からのコメントを記入されないところもあるが、その場合は空白で提出してよい。

10 介護等体験について

① 介護等体験とは

小学校教員免許を取得するためには、「介護等体験」が必要となる。介護等体験特例法には、以下のようになっている。「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性に鑑み、教員としての資質の向上を図り、義務教育のいっそうの充実を期する観点から、小学校または中学校の教諭の普通免許の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらのものとの交流などの体験を行わせる」。

② 介護等体験の内容

18歳に達した後に、特別支援学校や社会福祉施設で7日間の体験を行うことが必要。7日間の内訳は、文部科学省の通達により、特別支援学校2日、社会福祉施設5日が望ましいとされている。

③ 介護等体験の依頼方法

大学が学生からの申し込みを仲介する。必要経費は都道府県によって異なる。参加前に徴収する。1日当たり1500円程度だと思われるので、心づもりをすること。対象は基本的には2年次以降で募集する。申し込みは、随時ではなく年度初めになるので、希望者は大学からの募集のアナウンスを逃さず、申し込みをすること。社会人は前職によって、一部の人は免除される。「社会福祉施設等受け入れ調整事業実施要項」が各県にあるので参考のこと。

11 学内担当教員の役割

実習について担当する学内教員である「実習担当委員」「訪問担当教員」の役割は、以下の通りである。

「実習担当委員」：主に事前・事後の実習先との連絡・調整，全体の学生指導を行う。

「訪問担当教員」：実習担当委員の指導の下に緊密な連絡を取りながら，主に実習中の実習先巡回訪問・指導を行う。

幼児教育コース対象用

教育・保育実習手引き

教育学部 教育学科
幼児教育コース

1 実習の意義・目的について

実習は、実習までに本学で修得した教科全体の知識、技能を基礎として、実習を通じ、幼稚園教諭や保育士の業務・役割を理解し、自らの実践力を養うと同時に、実践で学んだことと理論を結び付けて習熟させることを目的とする。実習が有意義になるように、実習実施の意義目的を抑えたうえで、既習内容を復習しながら実習までを過ごすことが大切である。ここでは各実習の意義・目的を抑えておく。

[実習の意義・目的]

幼稚園教育実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の幼稚園での観察・参加・指導実習を通して、幼稚園の機能・役割、一日の流れや教諭の様々な役割を把握する。 ・担任の補助を行い、幼児が主体的に遊びに向かう環境の在り様を学び、自らも教育・保育を実践する。 ・観察・参加実習において実習生自ら幼児と関わり、幼児の実態を把握し、個々に応じた適切な支援・援助を実践し、省察する。 ・部分実習や半日・1日実習を含む責任実習の中で指導案を作成・実践し、環境構成や指導・保育実践について学びを深める。
保育実習 I A	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の保育所での観察・参加実習を通して、保育所の一日の流れを把握し、保育所の役割と機能について理解 ・保育士の補助や保育活動（食事・午睡等）での参加・実践を通して、保育士の様々な役割と業務内容、保育実践について体験的に学ぶ。 ・子どもと関わりながら通所児の実情を把握し、得たことを基にして個々の発達に応じた声掛けや適切な援助について学ぶ。 ・責任実習の経験を通して保育計画と保育の展開について学び、総合的な学びを深める。
保育実習 I B	<ul style="list-style-type: none"> ・「保育実習指導 I B」や他の関連教科での学びを基盤とし、施設での観察・参加実習を通して施設の一日の流れを把握し、施設の役割や機能を具体的に理解する。 ・施設の指導員の補助を行い、施設における保育士の役割や他職員との連携を含めた業務内容、職業倫理について体験的に学ぶ。 ・施設の利用者や入所者と実際に関わることを通してその理解を深め、状況に応じた適切な声掛けや支援・援助を行い、実践力を高める。
保育実習 II	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習 I A で学習したこと基に、参加・指導実習を通して子ども理解をし、一人一人に対するきめ細かい援助方法を身に付ける。 ・保育士の役割や配慮について実践的に学び、職業倫理についても理解を深める。 ・責任実習（部分実習または一日実習）の経験を通して、長期的視野を持った指導案作成の意義と方法、保育実践力を養う。 ・保育全般に参加しながら、子どもの家庭支援・保護者支援、地域社会との関わりに

	<p>についても理解を深める。</p>
<p>保育実習Ⅲ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習ⅠBでの学びを基盤とし、観察・参加・指導実習を通してさらなる経験を積むことによって施設の役割や機能について理解を深める。 ・保育士の業務の補助や、利用者に対して主体的に援助を行うことによって、施設における保育士としての必要な資質や能力を習得する。 ・様々な困難さを持つ利用者との関わりによって、利用者の人権に配慮した最善の利益を追求する支援・援助について学び、その理解を深める。 ・部分実習・責任実習を通して、支援計画作成と実践、評価について学ぶ。 ・家庭と地域の生活実態に触れ、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力や判断力を養い、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。
<p>小学校教育実習 (選択・2年次末の GPA が 3.0 以上の小学校教諭一種免許状取得希望者に限る)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の小学校での観察・参加・指導実習を通して、小学校の機能・役割、一日の流れや教諭の様々な役割を把握する。 ・担任の補助を行い、児童が主体的・対話的・深い学びに向かうことのできる学習環境の在り様を学び、自らも教育・保育を実践する。 ・観察・参加実習において実習生自ら児童と関わり、児童の実態を把握し、個々に応じた適切な支援・援助を実践し、省察する。 ・教壇授業や研究授業を通して児童の主体的・対話的で深い学びを目指した指導案を作成・実践し、環境構成や指導・保育実践について学びを深める。 ・指導教諭の学級経営において観察・参加・指導を行う中で、生徒指導や学級経営の重要性を学び、実践のための基礎を修得する。
<p>教職インターシップ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育、小学校教育における授業、特別活動、部活動などの教員の日常業務を観察、体験し、学校における教育活動についての具体的理解を深める。 ・学校教育の様々な場面を観察し、教員の業務について知る。 ・学校における、教員と幼児・児童との関係について具体的理解を深める。

2 実習のスケジュールについて

時期	幼稚園教育実習	備考	保育実習	備考
1年	指定の専門教育科目・保育士科目履修			
1年12月	「コース希望」の書類を提出 「教職インターンシップ」受講希望調査			
2年前期	「教育実習事前事後指導」「教育実習(幼・小)」履修	「教育原理」「保育内容総論」「教育心理学」「基礎ゼミ」「教養ゼミ」を修得済みであること。2年前期末までに開講されている領域に関する専門的事項及び保育内容の指導法に関する科目を修得していること。		
2年6月	幼稚園実習配属先決定			
2年7月	個人票, 自己課題等作成	実習担当委員の捺印を受けること。		
2年7月	オリエンテーションアポのための電話			
2年8月	オリエンテーション			
2年9月	幼稚園教育実習(前半2週間)	実習中に訪問指導を受ける。期間変更の場合は, 実習担当委員に連絡のこと。		
2年後期	教職インターンシップ受講(選択)	「基礎ゼミ」「教養ゼミ」「教育原理」「教育心理学」「保育内容総論」を修得済みのこと。	「保育実習指導ⅠA」「保育実習ⅠA」履修	「社会的養護Ⅰ」「社会福祉論」「基礎ゼミ」「教養ゼミ」「保育原理」「保育内容総論」を修得済みのこと。
2年10月			保育実習Ⅱ・Ⅲ選択希望調査	

時期	幼稚園教育実習	備考	保育実習	備考
2年11月			保育実習ⅠA 実習配属先決定	
2年12月			個人票，自己課題等作成	実習担当委員の捺印要
2年1月末			オリエンテーションアポのための電話	
2年1月			オリエンテーション	
2年2月下旬			保育実習ⅠA 実施(10日間)	実習中に訪問指導を受ける。期間変更の場合は，実習担当委員に連絡のこと。
3年前期	自己課題作成	領域に関する専門的事項及び保育内容の指導法に関する科目をすべて修得していること。	「保育実習ⅠB」「保育実習指導ⅠB」「保育実習ⅡまたはⅢ」「保育実習指導ⅡまたはⅢ」履修	「乳児保育Ⅰ」「子どもの保健」「子どもの食と栄養」を修得済みのこと。
3年4月		オリエンテーションアポのための電話		
3年4月末		オリエンテーション		
3年5月中旬	「幼稚園教育実習」(後半2週間) ※実習期間中，他の授業は行わない。それに伴い，3年次前期の授業期間を17週とする。 ※祝日等で各科目の授業時間が不足する場合は土曜日及び空き時間等に補講を行う。	実習中に訪問指導を受ける。期間変更の場合は，実習担当委員に連絡のこと。	保育実習ⅠB・Ⅲ配属先決定	

時期	幼稚園教育実習	備考	保育実習 小学校教育実習（選択）	備考
I B 実習 1 か月前			オリエンテーションア ポのための電話	
1 か月前			オリエンテーション	
3 年 8・12・ 2 月のいず れか			3 期のいずれかで保育 実習 I B 実施（10 日 間）（保育実習Ⅲを選択 した人は，8 月に I B 実施）	実習中に訪問 指導を受ける。 期間変更の場 合は，実習担当 委員に連絡の こと。
3 年 7 月中 に			「保育実習Ⅱ・Ⅲ」の 実習課題等作成	実習担当委員 の捺印要
3 年 8 月			オリエンテーションア ポのための電話	
3 年 8 月			オリエンテーション	
3 年 9 月中 旬			保育実習Ⅱまたは保育 実習Ⅲ実施（10 日間）	実習中に訪問 指導を受ける。 期間変更の場 合は，実習担当 委員に連絡の こと。
4 年 4 月			「小学校教育実習」履 修（選択・2 年次末の GPA が 3.0 以上の小学校 教諭一種免許状取得希 望者に限る）	「教育実習事 前事後指導」 「教育実習 （幼・小）」「初 等国語科教育 論」「初等算数 科教育論」を修 得済みのこと
4 年 6 月			個人票，自己課題等作 成	実習担当委員 の捺印要
4 年 6 月			小学校実習配属先決定	

時期	幼稚園教育実習	備考	保育実習 小学校教育実習（選択）	備考
4年7月			オリエンテーションア ポのための電話	
4年8月			オリエンテーション	
4年9月2 週目から9 月3週目			「小学校教育実習」（2 週間）	実習中に訪問 指導を受ける。 期間変更の場 合は、実習担当 委員に連絡の こと。
終了後1週 間以内	実習記録を実習園・施設に提出・お礼状を実習施設に送付。			
終了後1か 月以内	実習園・施設に実習記録を取りに行く。実習記録等を教務に提出。			
終了後1か 月半～2か 月	振り返りの事後指導（事後報告会）受講。課題提出。			
実習終了後 の8月 or3 月	単位認定			

※呼び出しや、各種掲示をするので、必ず毎日確認すること。呼び出しがあった場合、速やかに来ること。

3 本学の实習について

本学では、幼稚園教諭1種免許状あるいは保育士資格を取得するために必要な実習が幼稚園、保育所（園）、及び社会福祉施設の協力を得て、下記のように実施される。

① 幼稚園教諭1種免許状取得に必要な実習と単位

「教育実習（幼・小）」（4単位）「教育実習事前事後指導（1単位）」の合計5単位

2年次 原則として9月中旬（原則、参加実習に重点）

3年次 原則として5月中旬（原則、指導実習に重点）

② 保育士資格取得に必要な実習と単位

（1）「保育実習 IA・IB」（2単位・2単位）及び「保育実習指導 IA・IB」（1単位・1単位）の合計6単位

IA 保育所（園）での実習

2年次 原則として2月3週目から4週目の10日間（80時間）

I B 施設（保育所以外の児童福祉施設）での実習

3年次 原則として，8月または12月，2月の3期に分かれ，10日間（80時間）

(2) 「保育実習Ⅱ」（2単位）及び「保育実習指導Ⅱ」（1単位）の合計3単位

または「保育実習Ⅲ」（2単位）及び「保育実習指導Ⅲ」（1単位）の合計3単位

・保育実習Ⅱを選択した場合：保育所（園）での実習

3年次 原則として9月中旬の10日間（80時間）

・保育実習Ⅲを選択した場合：児童養護施設または乳児院での実習

3年次 原則として9月中旬の10日間（80時間）

ただし施設就職を視野に入れている学生に限ることとする。最大5名までとし，超える場合は成績によって判断する。

4 実習の履修と評価

① 履修

(1) 「教育実習（幼・小）」は併せて「教育実習事前事後指導」を履修すること。なお，履修するためには「教育原理」「保育内容総論」「教育心理学」「基礎ゼミ」「教養ゼミ」を修得していること。

2期にわたる幼稚園教育実習に参加するまでに，開講されている領域に関する専門的事項及び保育内容の指導法に関する科目を修得していること。

(2) 「保育実習ⅠA」は「保育実習指導ⅠA」を，「保育実習ⅠB」は「保育実習指導ⅠB」を併せて履修すること。なお，履修するためには「社会的養護Ⅰ」「社会福祉論」「基礎ゼミ」「教養ゼミ」「保育原理」「保育内容総論」を修得していること。

(3) 「保育実習Ⅱ」は「保育実習指導Ⅱ」を，「保育実習Ⅲ」は「保育実習指導Ⅲ」を併せて履修すること。なお，履修するためには，「乳児保育Ⅰ」「子どもの保健」「子どもの食と栄養」を修得していること。

(4) 「小学校教育実習」を履修するためには，「教育実習（幼・小）」「教育実習事前事後指導」を修得していること。また「初等国語科教育論」「初等算数科教育論」を修得していること。

※すべての実習は，当該実習までに課されている実習指導の全課題が完了していること。

② 評価

(1) 「教育実習（幼・小）」・「保育実習ⅠA，ⅠB，Ⅱ，Ⅲ」

実習園・施設での評価，実習前に立てた各自の実習の課題とその振り返りができているか，観察・参加実習で経験したことや実践場面を考察できているか，実習後の新たな今後の課題の構築ができているかを踏まえ，総合的に評価する。

(2) 「教育実習事前事後指導」・「保育実習指導ⅠA，ⅠB，Ⅱ，Ⅲ」

・受講態度及び提出物の提出状況によって評価する。

・提出物が期限を守って提出されていること。提出物の期限が守られていない場合，評価は保留となる。

・「実習の自己課題」，「個人票」，「事前訪問報告書」，「お礼状」，「事後の振り返り課題」，

その他の課題を終了していること。

- ・実習事後指導に必ず参加すること。

(3) 「教職インターンシップ」

- ・小論文（実習事後指導にて提出），毎回の記録・報告会での報告内容と実習における活動状況との総合判断による。

③幼稚園教諭免許状取得には前半2週間・後半2週間の両方を修得しなくてはならない。保育士資格取得には，保育実習ⅠA・ⅠB・ⅡまたはⅢを全て修得しなくてはならない。

5 実習園について

(1) 「幼稚園教育実習」

本学では，「教育実習（幼・小）」は原則公立の幼稚園あるいは，学校法人立の幼稚園，幼稚園型認定こども園，学校法人立の幼保連携型認定こども園での実習を認める。対象園は原則指定の協力園から選ぶことができる。

協力園が学生の居住区から適した距離にない場合は，新規園を希望することもできるが，帰省等遠方での実習は認めない。原則大阪府下での実習を行う。3親等以内の親族が在籍する園での実習は認めない。また本人のアルバイト・ボランティア先等は認めない。

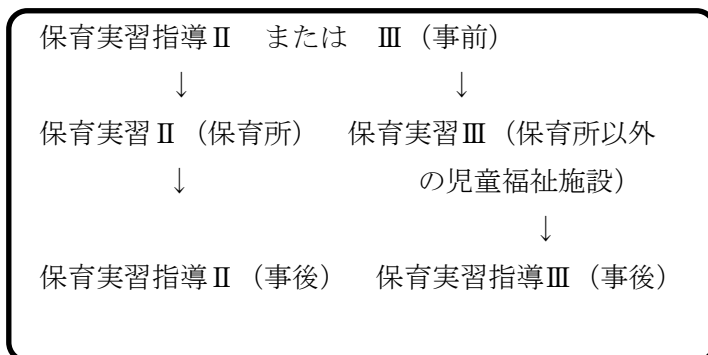
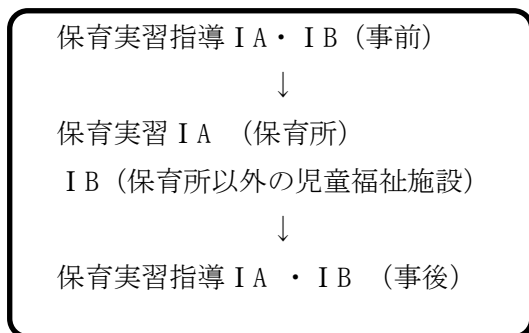
(2) 「保育実習ⅠA」「保育実習Ⅱ」

本学では，保育所保育実習は公立の保育所あるいは社会福祉法人立の保育所，保育所型認定こども園，社会福祉法人立の幼保連携型認定こども園での実習を認める。対象園は原則指定の協力園から選ぶことができる。

本人のアルバイト・ボランティア先等では認めない。また3親等以内の親族がいる園での実習は認めない。2年次2月下旬～「保育実習ⅠA」10日間，3年次9月に「保育実習Ⅱ」10日間実施する。保育実習Ⅱを希望する者は，原則ⅠAと同園にて実習を行う。

(3) 「保育実習ⅠB」「保育実習Ⅲ」

本学では，公立，社会福祉法人立の保育所以外の児童福祉施設で実習を行う。対象施設は，原則指定の協力施設から配属する。保育実習Ⅲは，限定5名のみ行うことができる。それを超える場合は，成績を考慮し，実習担当委員による選抜にて行う。保育実習ⅠBの実習施設とは，異なる施設にて実習を行う。



6 実習の準備

書類の準備（オリエンテーションまでに仕上げること）

①「実習の課題」 実習で研究する課題について明確にし、実習担当委員の指導を受け、捺印を受けること。

②「個人票」

③「誓約書」（個人情報保護法に関する書類）

「誓約書」は、実習生が実習園で得た園児・利用者や保護者、保育士等々の情報に関して守秘義務を厳守するというものである。万一、守秘義務を破った場合、実習の中止等の罰則が科せられることがある。園児・利用者の安全を守り、人権を守るために厳守するということを肝に銘じて行うこと。

④「健康診断証明書」

大学での健康診断を受診すること。実習先より、実施直前の健康診断証明書が必要となった場合は、個人で医療機関を受診し証明書を取得すること。

⑤「腸内細菌検査証明書」（保育所実習・施設実習において）

実習終了日1か月前に所定の場所に提出すること。検体の提出期間は、早めに手帳等に控え、忘れないこと。実施日を誤った場合、再検査にかかる費用は実費負担である。

※ ①～⑤の書類が実習までに整わなかった場合、実習中止となる恐れがある。

その他の準備

①実習用通学定期券

実習園・施設に通勤するために、通常の通学区間とは別ルート of 定期券を発行することができる。教務課で通学定期の申請受付を行っている。必要に応じて活用のこと。実習定期は実習期間のみである。（オリエンテーション除く）

②実習における通勤については公共交通機関利用のこと。事故に遭遇した場合、公共交通機関を利用していただけの場合に限る。自転車での通勤は原則認めない。

③通常のルートを大きく逸脱した場所での事故等は保障しない。

7 オリエンテーションについて（事前訪問）

①オリエンテーションの目的

オリエンテーションは、実習を円滑に行うための大切な一日である。オリエンテーションの目的は、実習園を訪問し、園の概要や教育・保育方針、そして実習に関する具体的説明、実習までに準備しておく事柄及び注意事項等を聴くことである。また、オリエンテーション時に、実習園の見学を実施することもある。複数人で実習を行う場合は、実習生全員がそろって参加すること。

②オリエンテーションを行う日程

実習の1か月前を目安に先方に電話をし、日程確認をする。複数人で行く場合は、代表者を立てて電話すること。日程が決まれば、実習担当委員に連絡すること。夏休みを挟む場合は、夏休み前に確認のこと。またオリエンテーションの日程が先方から指定されている時は、数日前に、

確認と挨拶の電話を入れること。

③オリエンテーションの内容

実習がスムーズに始められるように準備するため行われる。オリエンテーション終了後、「実習事前訪問報告書」に必要事項を記入の上、事後必ず実習メールにて提出すること。オリエンテーションでは、以下の点を参考に確認する。

- ・実習園の教育方針
- ・年齢別・男女別園児数とクラス数
- ・クラスの配属及び主任や実習担当者（担任）の紹介
- ・実習の留意事項
- ・一日の保育の流れ（デイリープログラム）
- ・実習実施計画及び実習中の行事等
- ・園舎・園庭及び遊具などの環境
- ・出勤及び退出に関する事柄
- ・身だしなみ（服装・髪形・装飾品等々）
- ・実習生の仕事内容
- ・実習までに準備しておく課題
- ・見学実習時、筆記具使用の不可について
- ・その他
- ・アレルギー等、身体の心配がある人は必ず園長と大学実習担当委員に知らせること。

④オリエンテーションの心構え

- ・訪問の際にはスーツを基本とし、みだしなみや行動に注意し、装飾品は一切身につけない。
- ・オリエンテーションには時間厳守し、全員揃って実習園を訪問する。
- ・実習園内では携帯電話等は絶対に使用しない（電源を切る）。
- ・実習園に到着したら、まず、受付で来園の意向を告げる。
- ・実習園内で出会った人には必ず会釈し、「こんにちは」「失礼いたします」の挨拶をする。

⑤オリエンテーション時に持っていくもの

- 1 「挨拶状」
- 2 「評価表」（年度、学籍番号、氏名の記入）
- 3 評価表返信用封筒
- 4 「出勤表」（氏名等必要事項の記入）
- 5 「誓約書」（期日は事前訪問日、押印の確認）
- 6 「個人票」（清書：実習担当委員が最終チェック、捺印を受けること） 写真1枚
- 7 「実習の記録」（「自己課題」を清書しておく）

8 実習中の諸注意

①服装・所持品

- ・職員、子ども等に不快感、違和感を与えるような服装、髪型、化粧はしないこと。
- ・名札、上履き等は、実習先のとりきめ（オリエンテーションで確認のこと）を厳守すること。
- ・現金や貴重品は各自の責任で管理すること。
- ・実習中は携帯電話を持たず、電源を切っただけの中に入れておくこと。

②実習中の問題時について

(1) 万一、実習生の不注意で事故が起きたり、園児に怪我をさせてしまったり、物損をおこした場合には、事故が起きた状況や対応を園長先生や担任に正確に報告し、指示をあおぐこと。また、必ず早急に実習担当委員あるいは教務課に電話連絡すること。

→ この場合対応は大学が行う。なお物損の場合は、写真を撮っておくこと。

(2) 体調不良などが起きた場合は、その旨を園に知らせ、実習担当委員、あるいは教務課に連絡すること。その場合必ず受診すること。

欠勤が実習の実質日数の三分の一を超えた場合は、『学生便覧』の規定に従い、当該実習は失格となる。なお、実習中の欠勤日数分は補充を行う。公欠及びインフルエンザや感染症以外の欠席による補充は、通常の欠席扱いとする。

→ 補充の日程調整は各自で行い、実習担当委員に報告のこと。

(3) 何かしらの事情で遅刻をする場合（あってはならないが）

→ 園・施設にすぐに連絡をする。その後大学の実習担当委員に連絡をすること。

出勤後は、すぐに園長・施設長に事情説明に向かうこと。

※無断欠勤・多遅刻等を含め実習中に支障が生じた場合には、当該実習を中止とする。

(4) 交通機関に遅れが生じ、出勤時間に間に合わないときは、すぐに園に連絡を入れ、その後大学にも連絡すること。

→ 延着証明書をもろうこと。

(5) 地震や台風等で出勤できない場合は実習担当委員に連絡をすること。通勤途中での地震などは、まずは自身の安全を第一に行動すること。連絡方法が途絶えることも考えられるが、身の安全を第一に考え、回線復帰後すぐに連絡をすること。

園・施設で被災し実習継続が困難な場合、実習は直ちに停止とし、その後実習担当委員あるいは教務課との連絡によって指示を受けること。ただし、帰宅が困難な場合などは、無理をせず、園・施設で待機させてもらうこと。

地震や台風等の影響で実習期間が延長となり授業を欠席せざるを得ない場合は、通常の欠席とは異なる「実習による欠席扱い」となる。実習担当委員より授業担当者に伝達の上、授業担当者の裁量により補講またはオンデマンド授業等で授業内容の補足を行う。

(6) 通勤途中で交通事故にあった場合

→ すぐに園・施設と大学の実習担当委員に連絡を取り、事故証明を取ること。

(7) 実習中に子どもとぶつかり骨折等した。

→ すぐに園・施設と大学の実習担当委員に連絡を取り、医師の診断書を取ること。

通常のルートを大きく逸脱した場所での事故等は保障しない。

連絡先

大阪信愛学院大学 教務課

電話 06-6939-4391 (代表) (遅刻・欠席・怪我等の緊急時)

メールアドレス：tpractice@osaka-shinai.ac.jp (上記以外 例：事前訪問報告書など)

メールを使用する際は、件名に学籍番号，名前を記入すること。

9 記録等の書き方

(1) 保育における記録とは

保育において記録とは，自分の保育を客観的・具体的に振り返り省察する過程である。記録をもとに，子どもの育ちと自らの保育を省察することにより，次の保育の課題と見直しへとつながっていく。

計画 → 実践 → 記録 → 省察 → 評価 → 次の計画 ……

(2) 実習記録の目的と意義

実習記録も，保育における記録と同様，記録することを通してその日の保育を省察し，次の保育へと繋げる意義がある。実習によって得た経験・知識・反省・考察をその場限りのものにしないうために，記録が不可欠である。実習記録の具体的な目的を以下に挙げる。

- ・観察，経験したことを冷静に振り返り，漠然としていたことを整理整頓する。自分の行動を意識化し，自己理解を深める。
- ・その日の問題点，反省点を整理する。自分の課題に対して何を学んだのかを明確にし，翌日の課題を設定する。
- ・指導者との対話の手がかりとする。振り返りによって整理した問題意識，課題を指導者へ伝え，適切な助言を得る。

(3) 日誌の書き方について

※記録の書き方については本手引きでの指示を原則とするが，実習先で記録の書き方について指導を受けたときは，実習先の指導に従うこと。

①メモについて

- ・実習中にメモを取ることは，オリエンテーションで確認すること。たとえ可であったとしても手短かに終わらせ，本題の保育を見ることがおろそかにならないこと。
- ・筆記具は危険であるので，取り扱いに注意すること。休憩時間等を利用し，気付いたこと，疑問などを記録すること。

②様式について

- ・清書は、黒ボールペンで記入する。鉛筆、消せるペン等は不可である。
- ・修正が必要な時は二重線を引き、印鑑押印の上加筆すること。修正液、修正テープの使用は原則不可である。
- ・子どもの名前、保育者の名前は原則イニシャルでかくこと。表記の仕方については、事前に指導者に確認のこと。
- ・誤字脱字はないか、字の大きさは適切か、話し言葉になっていないか、主語・述語が適切か見直すこと。
- ・書き上げた記録をいつ、だれに提出するのか確認すること。
- ・一日分のスペースに収まるよう要点をまとめること。(不足がある場合は、別紙を付け足すこと)
- ・ただの感想や日記は不要である。保育者の目線で客観的に捉え、保育の中での意義、目的を抑えること。

幼稚園・保育所

初日用) 初日 (十分把握できなかった場合は2日目も使用), もしくは, 途中でクラス変更があった場合, または行事等の非日常の流れで行われる保育日は, 初日用を用い, 一日の流れを示すこと。

2日目以降用) 2日目以降は, デイリープログラムの中で常時活動ではないものを記録し, そのねらい, 環境などを記録し, 子どもの姿を記入し考察すること。またそれ以外のエピソード, 例えば喧嘩の場面であれば, 喧嘩の流れ, 子ども同士の会話, 保育者の関わり, 他児の関わり等を記入し, その意味や, 育ちに必要な関わりについて考察すること。

施設

実習施設の一日の流れを把握しつつ, 流れの記述に終わらず, 施設種目にもよるが, 実際のエピソードを取り上げ, その対応や, 留意点の記述に重点を置くこと。実習生の動きも, したことのみを記録するのではなく, それが何につながるのか, なぜ必要なのかを考察すること。

(4) 指導案の書き方

ねらいを明瞭にし, 物的環境・人的環境を詳細に記入すること。あくまでも子どもが主体であるから, 「～させる」「～するよう指示する」という言い方は違和感がある。子どもの遊びを支えられるような保育を考えることが大切であろう。

保育指導案（部分・全日実習）

月 日()曜日 天候	実習生名	園長	主任	指導教諭	印
クラス名	組	歳児	出席者	男児 名	女児 名 計 名
【子どもの姿】 クラスの様子、興味関心など			【ねらい】 本時の活動でねらう子どもの育ち		
【主な活動】 何をするのか？			【準備するもの】 詳細に。数、色なども		
時間	環境構成	予想される園児の活動		指導・援助の留意点	
	物的環境。 どこに、何を、いつ、出すのか？	ここが主になる。子どもが主体になるように考える。決して保育はやらせるのではない。子どもが自ら遊びを見つけ遊びに集中できるように、環境を整えること。		主の子どもの活動をどのように援助したら、子どもは自ら遊びを進められるだろうか、という目線で指導援助を書く。 園児の活動と時間軸を合わせて書くこと。	
【保育実習の省察】 子ども同士の関係性、保育者との関係性なども考慮しながら、客観的視点により、子どもの行動を捉得ることが大切である。単なる感想にならないように、あらゆる角度から考察すること。					
【指導者の助言】					

(5) 自己課題の書き方

自己課題は、2, 3点を箇条書きにあげること。あいまいな課題ではなく、具体的に記すことが大切である。その課題をより詳細化し、どのような実践の姿を見たいのかをそれぞれ挙げる。ここを詳細に記載することで、実習は深まりを持つはずである。

またその課題について、今できることをどのくらい学んできたのかを記す。授業で使用したテキストだけではなく、それにまつわる書籍を探して読んでいること。あるいは後ろに記載されている参考文献の中から、あらかじめ数冊を読み、学びを深めてから実践に参加することで、より効果が期待できる。

(6) 自己課題の振り返りの書き方

自己課題を詳細に挙げることで、実習では学びが深まったはずである。それを詳細に書き留め、考察を加えることで、理論と実践の関係性もより明瞭化するであろう。自己課題をもとにいくつかの実践例を取り上げながら考察をすること。またそのうえで、自分にまだ不足していると思われる点について挙げ、今後の課題とすること。保育実習Ⅱ・Ⅲ、または幼稚園教育実習の後半実習では、前半の振り返りを十分生かして課題設定すること。

(7) 実習園・施設からのコメントを記入されないところもあるが、その場合は空白で提出してよい。

10 学内担当教員の役割

実習に関わる学内教員である「実習担当委員」「訪問担当教員」の役割は、以下の通りである。

「実習担当委員」：主に事前・事後の実習先との連絡・調整、全体の学生指導を行う。

「訪問担当教員」：実習担当委員の指導の下に緊密な連絡を取りながら、主に実習中の実習先巡回訪問・指導を行う。

すべての子どもは、豊かな愛情のなかで心身ともに健やかに育てられ、自ら伸びていく無限の可能性を持っています。

私たちは、子どもが現在(いま)を幸せに生活し、未来(あす)を生きる力を育てる保育の仕事に誇りと責任をもって、自らの人間性と専門性の向上に努め、一人ひとりの子どもを心から尊重し、次のことを行います。

私たちは、子どもの育ちを支えます。

私たちは、保護者の子育てを支えます。

私たちは、子どもと子育てにやさしい社会をつくります。

(子どもの最善の利益の尊重)

1. 私たちは、一人ひとりの子どもの最善の利益を第一に考え、保育を通してその福祉を積極的に増進するよう努めます。

(子どもの発達保障)

2. 私たちは、養護と教育が一体となった保育を通して、一人ひとりの子どもが心身ともに健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境を用意し、生きる喜びと力を育むことを基本として、その健やかな育ちを支えます。

(保護者との協力)

3. 私たちは、子どもと保護者のおかれた状況や意向を受けとめ、保護者とより良い協力関係を築きながら、子どもの育ちや子育てを支えます。

(プライバシーの保護)

4. 私たちは、一人ひとりのプライバシーを保護するため、保育を通して知り得た個人の情報や秘密を守ります。

(チームワークと自己評価)

5. 私たちは、職場におけるチームワークや、関係する他の専門機関との連携を大切にします。
また、自らの行う保育について、常に子どもの視点に立って自己評価を行い、保育の質の向上を図ります。

(利用者の代弁)

6. 私たちは、日々の保育や子育て支援の活動を通して子どものニーズを受けとめ、子どもの立場に立ってそれを代弁します。

また、子育てをしているすべての保護者のニーズを受けとめ、それを代弁していくことも重要な役割と考え、行動します。

(地域の子育て支援)

7. 私たちは、地域の人々や関係機関とともに子育てを支援し、そのネットワークにより、地域で子どもを育てる環境づくりに努めます。

(専門職としての責務)

8. 私たちは、研修や自己研鑽を通して、常に自らの人間性と専門性の向上に努め、専門職としての責務を果たします。

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

全国保育協議会

全国保育士会

私たちは、入所してきた子どもたちが、安全に安心した生活を営むことができるよう、子どもの生命と人権を守り、育む責務があります。

私たちは、子どもの意思を尊重しつつ、子どもの成長と発達を育み、自己実現と自立のために継続的な援助を保障する養育をおこない、子どもの最善の利益の実現をめざします。

1. 私たちは、子どもの利益を最優先した養育をおこないます
一人ひとりの子どもの最善の利益を優先に考え、24 時間 365 日の生活をとおして、子どもの自己実現と自立のために、専門性をもった養育を展開します。
2. 私たちは、子どもの理解と受容、信頼関係を大切にします
自らの思いこみや偏見をなくし、子どもをあるがままに受けとめ、一人ひとりの子どもとその個性を理解し、意見を尊重しながら、子どもとの信頼関係を大切にします。
3. 私たちは、子どもの自己決定と主体性の尊重につとめます
子どもが自己の見解を表明し、子ども自身が選択し、意思決定できる機会を保障し、支援します。また、子どもに必要な情報は適切に提供し、説明責任をはたします。
4. 私たちは、子どもと家族との関係を大切にした支援をおこないます
関係機関・団体と協働し、家族との関係調整のための支援をおこない、子どもと、子どもにとってかけがえのない家族を、継続してささえます。
5. 私たちは、子どものプライバシーの尊重と秘密を保持します
子どもの安全安心な生活を守るために、一人ひとりのプライバシーを尊重し、秘密の保持につとめます。
6. 私たちは、子どもへの差別・虐待を許さず、権利侵害の防止につとめます
いかなる理由の差別・虐待・人権侵害も決して許さず、子どもたちの基本的人権と権利を擁護します。
7. 私たちは、最良の養育実践を行うために専門性の向上をはかります
自らの人間性を高め、最良の養育実践をおこなうために、常に自己研鑽につとめ、養育と専門性の向上をはかります。
8. 私たちは、関係機関や地域と連携し、子どもを育みます
児童相談所や学校、医療機関などの関係機関や、近隣住民・ボランティアなどと連携し、子どもを育みます。
9. 私たちは、地域福祉への積極的な参加と協働につとめます
施設のもつ専門知識と技術を活かし、地域社会に協力することで、子育て支援につとめます。

10. 私たちは、常に施設環境および運営の改善向上につとめます

子どもの健康および発達のための施設環境をととのえ、施設運営に責任をもち、児童養護施設が高い公共性と専門性を有していることを常に自覚し、社会に対して、施設の説明責任にもとづく情報公開と、健全で公正、かつ活力ある施設運営につとめます。

(平成9年10月22日制定)

前文

知的障害のある人たちが、人間としての尊厳が守られ、豊かな人生を自己実現できるように支援することが、私たちの責務です。そのため、私たちは支援者のひとりとして、確固たる倫理観をもって、その専門的役割を自覚し、自らの使命を果たさなければなりません。

ここに倫理綱領を定め、私たちの規範とします。

1. 生命の尊厳

私たちは、知的障害のある人たちの一人ひとりを、かけがえのない存在として大切にします。

2. 個人の尊厳

私たちは、知的障害のある人たちの、ひとりの人間としての個性、主体性、可能性を尊びます。

3. 人権の擁護

私たちは、知的障害のある人たちに対する、いかなる差別、虐待、人権侵害も許さず、人としての権利を擁護します。

4. 社会への参加

私たちは、知的障害のある人たちが、年齢、障害の状態などにかかわらず、社会を構成する一員としての市民生活が送れるよう支援します。

5. 専門的な支援

私たちは、自らの専門的役割と使命を自覚し、絶えず研鑽を重ね、知的障害のある人たちの一人ひとりが豊かな生活を実感し、充実した人生が送れるよう支援し続けます。

社会福祉法人全国社会福祉協議会
全国乳児福祉協議会

平成 15 年 3 月 13 日制定

平成 26 年 3 月 14 日改定

前文に障害者権利条約の理念の遵守を追加

全国身体障害者施設協議会に加盟する施設は、『障害者の権利に関する条約』の理念を遵守し、「最も援助を必要とする最後の一人の尊重」「可能性の限りない追求」「共に生きる社会づくり」という本会の基本理念を実現するため、ここに倫理綱領を定めます。

- 【1】 私たちは、基本的人権を尊重し、利用者一人ひとりのその人らしい生活を支援します。
- 【2】 私たちは、日々の実践を検証し、利用者に安全、安心、快適なサービスを提供します。
- 【3】 私たちは、自己研鑽に努め、専門的な知識と技術と価値観をもって、良質なサービスを提供します。
- 【4】 私たちは、利用者に必要な情報をわかりやすい方法で提供し、要望にはすみやかに対応します。
- 【5】 私たちは、広く重度の障害のある方々のためのサービスを開発し、提供します。
- 【6】 私たちは、重度の障害のある方々をとりまく環境の改善と福祉文化の醸成に努めます。
- 【7】 私たちは、関連機関・団体、地域住民等とともに、事業を展開します。
- 【8】 私たちは、透明性を堅持し、健全かつ活力ある経営にあたります。

前文

知的障害のある人たちが、人間としての尊厳が守られ、豊かな人生を自己実現できるように支援することが、私たちの責務です。そのため、私たちは支援者のひとりとして、確固たる倫理観をもって、その専門的役割を自覚し、自らの使命を果たさなければなりません。

ここに倫理綱領を定め、私たちの規範とします。

1. 生命の尊厳

私たちは、知的障害のある人たちの一人ひとりを、かけがえのない存在として大切にします。

2. 個人の尊厳

私たちは、知的障害のある人たちの、ひとりの人間としての個性、主体性、可能性を尊びます。

3. 人権の擁護

私たちは、知的障害のある人たちに対する、いかなる差別、虐待、人権侵害も許さず、人としての権利を擁護します。

4. 社会への参加

私たちは、知的障害のある人たちが、年齢、障害の状態などにかかわらず、社会を構成する一員としての市民生活を送れるよう支援します。

5. 専門的な支援 私たちは、自らの専門的役割と使命を自覚し、絶えず研鑽を重ね、知的障害のある人たちの一人ひとりが豊かな生活を実感し、充実した人生を送れるよう支援し続けます。

公益財団法人 日本知的障害者福祉協会

看護学臨地実習要項（案）



大阪信愛学院大学 看護学部

学籍番号		学生氏名	
------	--	------	--

目次

- I. 学院標語
- II. ICN 看護師の倫理綱領(2015年改訂版)
 - 1. 看護者の倫理綱領
- III. 大学の教育理念・目的・ディプロマ・ポリシー
 - 1. 教育理念・目標
 - 2. ディプロマ・ポリシー
- IV. 看護学実習における基本事項
 - 1. 看護学実習における基本的な考え方
 - 2. 看護学実習の目標
 - 3. 看護学実習の科目構成と概要
 - 4. 看護実践能力育成の取り組み
 - 5. 実習記録
 - 6. 実習科目終了時の単位認定合否基準
 - 7. 実習生としての義務
 - 7-1 倫理的配慮
 - 7-2 感染防止
 - 8. 看護学実習時の安全対策ガイドライン
 - 9. 事故発生時の対応および報告手続き
 - 10. 実習指導者と教員の役割
 - 表1. 実習の構成および概要
 - 表2. 看護学士課程におけるコアコンピテンシー
 - 表3. 看護学実習履修要件
 - 表4. インシデント・アクシデントの患者影響度分類

V. 科目別実習要項

1. ヒューマンケア実習 I
2. ヒューマンケア実習 II
3. 生活機能支援論実習 I (母性)
4. 生活機能支援論実習 II (小児)
5. 生活機能支援論実習 III-① (急性)
6. 生活機能支援論実習 III-② (慢性)
7. 生活機能支援論実習 IV-① (老年)
8. 生活機能支援論実習 IV-② (老年)
9. 生活機能支援論実習 V (精神)
10. 地域包括ケア論実習 I (老年)
11. 地域包括ケア論実習 II (在宅)
12. 地域包括ケア実習論 III-① (統合:管理)
13. 地域包括ケア実習論 III-② (統合:地域)

IV-3. 看護学実習の科目構成と概要

実習は学生が学修した知識、技術、態度・行動を統合して実践力を育成するための重要な教授学習方法である。1年次から4年次まで病院・施設・地域の多様な場で実習を組み、看護の各専門領域の学修を講義、学内演習、実習と進める。実習終了後には実習経験を主体的に振り返り、学修課題を見出して取り組むための演習科目を組んでいる。養護教諭1種免許に必要な養護実習等は4年次に組んでいるがここでは省略する。

毎年、始業後に学年ごとの全実習科目のガイダンスを実施し、各科目のガイダンスは実習要項を基に実習開始前1ヵ月をめどに行う。各科目のガイダンス時に、学生に実習の事前・事後課題を提示する。

1) 実習科目毎の単位数

実習科目は1単位45時間とし、看護学実習13科目計23単位を設定している。各実習科目の単位数、期間、開講年次は以下の表の通りである。

表 実習科目と単位数・期間及び開講年次

	実 習 科 目	単位数	期間	開講年次
1	ヒューマンケア実習Ⅰ	1 単位	1 週間	1 年後期
2	ヒューマンケア実習Ⅱ	2 単位	2 週間	2 年後期
3	生活機能支援論実習Ⅰ（母性）	2 単位	2 週間	3 年前期
4	生活機能支援論実習Ⅱ（小児）	2 単位	2 週間	3 年前期
5	生活機能支援論実習Ⅲ－①（急性）	3 単位	3 週間	3 年後期
6	生活機能支援論実習Ⅲ－②（慢性）	3 単位	3 週間	3 年後期
7	生活機能支援論実習Ⅳ－①（老年）	1 単位	1 週間	1 年前期
8	生活機能支援論実習Ⅳ－②（老年）	2 単位	2 週間	3 年後期
9	生活機能支援論実習Ⅴ（精神）	2 単位	2 週間	3 年前期
10	地域包括ケア論実習Ⅰ（老年）	1 単位	1 週間	4 年前期
11	地域包括ケア論実習Ⅱ（在宅）	2 単位	2 週間	4 年前期
12	地域包括ケア論実習Ⅲ－①（統合：管理）	1 単位	1 週間	4 年前期
13	地域包括ケア論実習Ⅲ－②（統合：地域）	1 単位	1 週間	4 年前期
	合 計	23 単位		

2) 各実習科目の概要

各実習科目の概要を年次進行でまとめ以下に示す。

表 各実習科目の概要

学年	時期	実習科目名	実習概要
1	前期	生活機能支援論実習Ⅳ-① (老年)	生活者としての高齢者を知り、多様な能力に気づき、幅広い年齢層の健康ニーズについて理解する。生活者としての高齢者が理解できる。高齢者との関係性を築くため、相手を尊重したコミュニケーションをとる。高齢者が受けているケアの目的は何か理解する。高齢者および家族の生活を支える地域サービスの役割について理解する。地域サービス機関における看護職や関係職種の役割について理解する。
	後期	ヒューマンケア実習Ⅰ	保健医療福祉の現場で看護の対象者とコミュニケーションをとる体験をする。対象との間で生じた現象について、学生自身が感じ・考えたことを認識し、コミュニケーション場面を振り返ることにより、看護の対象者の理解と自己理解を深める。また、保健医療福祉の現場で専門職として活躍する人々の活動に触れることにより、看護職像及び役割へのイメージを明確にして、今後の学修の目標を見出す。
2	後期	ヒューマンケア実習Ⅱ	「基礎看護技術」「フィジカルアセスメント」「看護理論」「臨床判断論」で学んだ知識や技術をもとに、療養生活を営んでいる対象者への看護を実践的に学ぶ。対象者の発達段階や健康状態から日常生活の課題に気づき、解釈し、解決のための支援を考え実践して省察するまでの一連の過程を体験する。原則として、実習期間中に一人の対象者を受け持ち、専門職である看護師と活動を共にし、実践的に学び、倫理的態度で振り返る。
3	前期	生活機能支援論実習Ⅰ (母性)	マタニティサイクルにある母と子、およびその家族の特性を理解し、健康状態の維持・増進のために必要な看護の知識、技術とともに倫理的な態度を学修しながら、看護を提供できる基礎的する能力を獲得する。
		生活機能支援論実習Ⅱ (小児)	子どもを発達主体としてとらえ、子どもと家族の健康生活を踏まえ、健康状態が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、必要な看護を実践できる基礎的能力を修得できる。子どもと家族を包括的に理解し、個別性のある看護を安全に展開できる。また子どもと家族の健康を支えるための保健・医療・教育・福祉などの機能とこれらの協働・連携を理解し、チームの中での小児看護の役割が考えられる。
		生活機能支援論実習Ⅴ (精神)	精神に障害を持つ対象とのかかわりを通して、生命の尊厳、人間としての基本的な権利を尊重する基本的姿勢を涵養できる。また、精神に障害を持つために、生活や対人関係に困難を抱えていることを理解し、自らをケアの道具として最大限に生かし、人格を有する全人的存在として、個別性を尊重したケアを実践できる基礎的能力を育む。
	後期	生活機能支援論実習Ⅲ-① (急性)	健康状態の急激な変化が患者・家族に及ぼす影響を理解する。そして患者の生命を守るとともに安楽を提供し、治療効果を最大に引き出す看護実践力を養い、患者が新たな健康管理能力を身に付けるための援助を学ぶ。

		生活機能支援論実習Ⅲ－② (慢性)	慢性期にある患者と家族の特徴を理解し、患者自ら疾患や障がいの悪化予防と健康の維持・増進、QOLの向上に向けて、セルフマネジメント能力を身につけるための援助の在り方を学ぶ。
		生活機能支援論実習Ⅳ－② (老年)	加齢や疾患による諸機能低下が日常生活におよぼす影響とその援助技術と適応方法の実際を体験し必要な看護を実践できる基礎的能力を修得する。高齢者施設入所者への看護の専門性と多職種連携を理解し、高齢者の自立支援における看護の役割が理解できる。加齢や疾患による機能低下や障害により発生する問題をアセスメントする。残存機能の維持向上と自立支援に必要な制度の活用について説明する。高齢者の尊厳を保ち安全で安心な生活を送るために必要な看護の実際について説明する。認知症高齢者の全人的な看護の実際を体験し、必要な看護を実践できる基礎的能力を修得する。高齢者のエンド・オブ・ライフについて学んだことを考察する。QOLの視点および個別性を尊重した看護を展開する。
4	前期	地域包括ケア論実習Ⅰ (老年)	高齢者の特徴を理解するとともに、地域や施設で生活する高齢者を総合的にとらえ、高齢者の健康に関わる顕在的・潜在的能力が発揮できるように看護活動を実践できる基礎的能力を養う。また、高齢者の生活を支える保健・医療・福祉職等、多職種連携・協働における看護師の役割について学ぶ。
		地域包括ケア論実習Ⅱ (在宅)	在宅療養者とその家族の理解を深め、保健・医療・福祉サービス機関と連携・協働しながら在宅療養者の生活を支援する看護活動を展開できる能力を養う。在宅療養者とその家族のQOL向上を目指した看護活動の一連の展開方法を理解する。また、在宅ケアシステムにおける在宅ケアサービス機関の連携・多職種との協働の実際および社会資源の活用、訪問看護やケアマネジメントの機能を理解する。
		地域包括ケア論実習Ⅲ－① (統合：管理)	看護師や看護管理者の看護実践や看護マネジメントの実際を見学し、保健医療福祉制度や看護政策等に看護に対する考えを深めることにより、チームの一員としての看護に対する自己の考えを明らかにし、自己の看護観や倫理観の構築を目指す。
		地域包括ケア論実習Ⅲ－② (統合：地域)	これまでに修得した知識・技術を統合し、看護の対象となる人々が適切な健康状態を維持することができるよう看護ケアを提供するための科学的根拠に基づいた判断力、臨床実践能力を高める。特に、人々が生活する地域全体において、様々な発達段階、健康レベル、生活の場にある人々が、住み慣れた地域で生活を継続することが出来るようにするための地域包括ケアにおける保健医療福祉サービスの提供機関とその仕組みを理解する。また、多様な専門職および地域の人々と連携・協働し、看護職の役割を学ぶ。

V-1. 科目別実習内容

ヒューマンケア実習 I

- ①単位数：1単位
- ②開講年次：1年後期
- ③実習期間：1週間

1. 実習目的

保健医療福祉の現場で看護の対象者とコミュニケーションをとる体験をする。対象との間で生じた現象について、学生自身が感じ・考えたことを認識し、コミュニケーション場面を振り返ることにより、看護の対象者の理解と自己理解を深める。また、保健医療福祉の現場で専門職として活躍する人々の活動に触れることにより、看護職像及び役割へのイメージを明確にして、今後の学習の目標を見出す。

2. 実習目標

- 1) 実習病院の機能や役割、病院・病棟の構造を説明できる。
- 2) 病院における看護実践に参加し、看護活動における生活支援の意味を考え、述べることができる。
- 3) 入院患者の生活の実際を観察し、コミュニケーションを図り看護の対象者の理解と自己理解を深めることができる。
- 4) 病院の中で活躍している様々な看護職の存在を知り、自己の看護職へのイメージを明確にすることができる。

3. 実習施設及び指導教員等

病院名	グループ（学生数）	指導教員等	備考
大阪赤十字病院	4グループ（20名）	教授 竹中泉 講師 西山史江 講師 美王真紀 助手 3名	1グループ5名 16グループ （80名）の 学生が同一時期 に実習を行う
市立ひらかた病院	4グループ（20名）	准教授 竹見八代子 講師 高橋篤信 助手 2名	
国立循環器病研究センター	4グループ（20名）	教授 西村美八 講師 有田弥棋子 助教 南裕美 助手 1名	
愛染橋病院	3グループ（15名）	准教授 阪上由美 講師 郷司律子 講師 秋山正子	
牧病院	1グループ（5名）	准教授 徳珍温子	

4. 実習方法

1) 実習方法および内容

- (1) 病院・病棟の機能や構造について説明を受け、探究的に観察する。
- (2) 病棟看護職員および教員とともに患者とコミュニケーションをとり、入院生活における患者の思いについて知る。
- (3) 病院の中で働いている多職種のあり方を観察し、看護職と同行し学ぶ。
 - ①オリエンテーションを受け、病院・病棟の機能や構造を考察する。
 - ②病棟看護職員および教員とともに患者とのコミュニケーションをとり、入院生活における患者の思いを知り、看護職としてかかわる意味を考える。
 - ③毎日、カンファレンスを行いグループ内で、学びを共有する。
 - ④病院実習終了日には目的・目標の学びについて共有する。
 - ⑤実習最終日は学内でまとめを行う。

2) 実習スケジュール

実習時間 病院；8時30分～16時15分（昼休憩1時間）
学内；9時～16時35分（昼休憩50分）

日程	実習場所	学 習 内 容
1日目	病院	病院全体のオリエンテーション 病棟のオリエンテーション
2日目	病院	看護師と行動を共にし、看護活動の実際を見学する 看護活動について感じ考えたことについてカンファレンスを行う
3日目	病院	看護活動の一部に看護師の指導を受けながら参加する 参加した看護活動において患者について観察したことをカンファレンスでグループメンバーと共有する
4日目	病院	指導者の指導を受けながら一部のケアに参加し、ケアを通してコミュニケーションを体験する 実習目標に対する学びと自己評価をカンファレンスで発表する
5日目	学内	学内で実習グループごとのまとめを行い、全体で発表・意見交換をおこない学びを深める

ヒューマンケア実習Ⅱ

- ①単位数：2単位
- ②開講年次：2年後期
- ③実習期間：2週間

1. 実習目的

「基礎看護技術」「フィジカルアセスメント」「看護理論」「臨床判断論」で学んだ知識や技術をもとに、療養生活を営んでいる対象者への看護を実践的に学ぶ。対象者の発達段階や健康状態から日常生活の課題に気づき、解釈し、解決のための支援を考え実践して省察するまでの一連の過程を体験する。原則として、実習期間中に一人の対象者を受け持ち、専門職である看護師と活動を共にし、実践的に学び、倫理的態度で振り返ることができる。

2. 実習目標

- 1) 療養生活を営んでいる対象者と援助的人間関係を築けるよう関わることができる。
- 2) 対象者の生活支援が必要な状況に気づき、援助の必要性をアセスメントすることができる。
- 3) 対象者に必要な生活支援について計画的に実践し、その結果を省察することができる。
- 4) 看護師のように思考し、実践するための自己の課題を明確にすることができる。

3. 実習施設及び指導教員等

病院名	グループ（学生数）	指導教員等	備考
大阪赤十字病院	4グループ（20名）	准教授 竹見八代子 講師 西山史江 助教 桑原唯 助手 1名	16グループ （80名）の学生 が同一時期に実 習を行う
八尾市立病院	5グループ（25名）	教授 竹中泉 講師 美王真紀 助手 3名	
愛染橋病院	3グループ（15名）	講師 郷司律子 助教 南裕美 助手 1名	
大阪大学医学部附属病院	2グループ（10名）	講師 有田弥棋子 講師 秋山正子	
牧病院	2グループ（10名）	准教授 徳珍温子 講師 高橋篤信	

4. 実習方法

1) 実習方法および内容

- (1) 毎朝、一日の実習目標を発表し、行動計画の助言を受ける。
- (2) 受け持ち患者の看護活動では、担当看護職に同行する。
- (3) 看護職の実践を見学し、患者の反応をとらえ、分析する。
- (4) 看護職の臨床判断について理解した内容を整理する。
- (5) 日常生活上必要なケアの目標・看護計画を考える。
- (6) 自ら計画したケアは、必ず担当看護師の指導を受け、実践する。
- (7) 実践したケアの評価を行う。
- (8) 病棟看護師とともに受け持ち患者のケアを実践する。
 - ①毎日、カンファレンスを行い、グループ内で学びを共有する。
 - ②病院実習終了時には目的・目標の学びについて共有する。
 - ③実習最終日は学内でまとめを行う

2) 実習スケジュール

実習時間 病院；8時30分～16時15分（昼休憩1時間）

学内；9時～16時35分（昼休憩50分）

日程	実習場所	学 習 内 容
1日目	病院	病棟オリエンテーションを受ける 受け持ち対象者の決定 看護師が行うケアに参加し、対象者の実際を知る
2日目	病院	対象者のケアを看護師と一緒にいき、対象者が必要としている 援助に気づく 気づいた情報を整理し、ケアの方向性について知る
3日目	病院	必要な援助の中で実践できる援助について計画を立てる (計画が対象者に実践できなければ看護師のケアに参加し、援助内容の再検討をする)
4日目	病院	
5日目	病院	計画したケアを看護師と共に実践する 結果を省察し、看護師の省察と自己の省察の違いに気づき、翌週 の看護実践計画の方向性を確認する
6日目	病院	対象者の理解を整理したうえで、支援が必要な内容の計画を具 体的に考え、実践する
7日目	病院	
8日目	病院	実践結果をもとに気づきを整理し、看護師とディスカッション し計画を修正する
9日目	病院	8日目と同様 実習目標に対する学びの状況をグループで共有する
10日目	学内	学内で実習グループごとのまとめを行い、全体で発表・意見交 換を行い学びを深める

生活機能支援論実習 I (母性)

- ①単位数：2単位
- ②開講年次：3年前期
- ③実習期間：2週間

1. 実習目的

マタニティサイクルにある母と子、およびその家族の特性を理解し、健康状態の維持・増進のために必要な看護の知識、技術とともに倫理的な態度を学修しながら、看護を提供できる基礎的能力を修得する。

2. 実習目標

- 1) 産後の母子1組を受け持ち、身体的・心理的特徴を理解し・看護過程を展開することで情報収集、アセスメント、ケア計画、実施、評価のプロセスを学ぶ。
- 2) 可能であれば分娩時の進行と看護を見学によって学ぶ。
- 3) 外来実習を通して、妊婦・褥婦の身体的・心理的特徴を把握し、行われている健康診査と看護を見学によって学ぶ。
- 4) 入院している妊産褥婦、新生児に提供されている健康診査と相談(保健指導)を看護職のシャドウイングから学ぶ。
- 5) 代表的なハイリスク妊産婦および新生児の病態や看護ケア、諸制度の活用など、臨床講義によって学修を深める。

3. 実習施設及び指導教員等

病院名	グループ (学生数)	指導教員等	備考
大阪赤十字病院	4 グループ (20名)	教授 遠藤俊子 講師 郷司律子 助手 1名	1 グループ 5名 各グループの 実習時期と 指導教員は 資料 50-4 3 年次実習計画 参照
大阪市立総合医療センター	3 グループ (15名)		
市立ひらかた病院	1 グループ (5名)		
八尾市立病院	3 グループ (15名)		
済生会野江病院	1 グループ (5名)		
小阪産病院	2 グループ (10名)		
愛染橋病院	2 グループ (10名)		

4. 実習方法

1) 実習方法および内容

- (1) 実習指導者に、日々の行動目標・行動計画、看護計画の指導を受け、看護過程を展開する。
- (2) 可能であれば分娩時の進行と看護を見学する。
- (3) 外来実習を通して、妊婦・褥婦の身体的・心理的特徴を把握し、行われている健康診査と看護を見学する。
- (4) 妊産褥婦、新生児に提供されている看護を看護職に同行し、見学する。
- (5) 代表的なハイリスク妊産婦および新生児の病態や看護ケア、諸制度の活用など、臨床講義を受ける。
- (6) 知識及び母性看護技術の事前学習を行い、学習ノートの作成を義務付ける。
 - ①カンファレンス：毎日 30 分程度行い、学びを共有する。また病棟実習終了時には学びについて情報共有を行う。
 - ②実習最終日は学内でまとめを行う。

2) 実習スケジュール

実習時間 病院；8時30分～16時15分（昼休憩1時間）
学内；9時～16時35分（昼休憩50分）

日程	実習場所	学 習 内 容
1 日目	病院	学内オリエンテーション (事前学習および技術に関する演習)
2 日目	病院	病棟・外来にて実習を行う カンファレンス
3 日目	病院	病棟・外来にて実習を行う カンファレンス
4 日目	病院	病棟・外来にて実習を行う カンファレンス
5 日目	病院	病棟・外来にて実習を行う 指導者を交えたカンファレンス
6 日目	病院	病棟・外来にて実習を行う カンファレンス
7 日目	病院	病棟・外来にて実習を行う カンファレンス
8 日目	病院	病棟・外来にて実習を行う カンファレンス
9 日目	病院	病棟・外来にて実習を行う 実習全体の振り返りカンファレンス
10 日目	学内	学内にて実習の学びのまとめ（個別面接及び記録の提出）

生活機能支援論実習Ⅱ（小児）

- ①単位数：2単位
- ②開講年次：3年前期
- ③実習期間：2週間（病院1週間、保育園等1週間）

1. 実習目的

子どもを発達主体としてとらえ、子どもと家族の健康生活を踏まえ、健康状態が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、必要な看護を実践できる基礎能力を修得できる。子どもと家族を包括的に理解すると同時に、個別性のある看護を安全に展開し、倫理的態度で振り返ることができる。また、子どもと家族の健康を支える為の保健・医療・教育・福祉などの機能とこれらの協働・連携を理解し、チームの中での小児看護の役割が考えられる。

2. 実習目標

- 1) 子どもの成長発達を評価できる。
- 2) 子どもと家族の包括的なアセスメントをし、必要な看護を実践できる。
- 3) 子どもと家族に必要な社会資源が理解できる。
- 4) 保健・医療・教育・福祉などの専門職との協働・連携を理解し、チーム医療における小児看護の役割を考察できる。

3. 実習施設及び指導教員等

病院名	グループ(学生数)	指導教員等	備考
大阪赤十字病院	5グループ(25名)	教授 檜木野裕美 講師 中野幸子 講師 岡崎裕子 助手 1名	1グループ5名 各グループの実習時期と指導教員は資料50-4 3年次実習計画参照
国立循環器病研究センター	3グループ(15名)		
大阪私立総合医療センター	3グループ(15名)		
八尾市立病院	2グループ(10名)		
愛染橋病院	3グループ(15名)		
市立ひらかた病院	2グループ(10名)		
幼稚園・保育園・障がい児施設名			
すみれ保育園	2グループ(10名)		
なかよしすみれ保育園	2グループ(10名)		
平和の子保育園	2グループ(10名)		
大阪信愛学院幼稚園	5グループ(25名)		
大手前整肢学園	5グループ(25名)		

4. 実習方法

1) 実習方法および内容

実習形態

- 1 週目：保育園または障がい児施設で、主に子どもの発達、生活について観察する。
- 2 週目：原則として1人の子どもを受け持ち、看護過程を展開する。

実習の進め方

- ・保育園または障害児施設では、クラス担任または実習指導者に、日々の行動目標・行動計画の指導を受けて子どもの発達・生活について観察する。
- ・医療機関では、実習指導者に、日々の行動目標・行動計画、看護計画の指導を受け子どもと家族の看護を実践する。
- ・カンファレンス：毎日30分程度行う。また実習終了時には学びについて反省会を行う。実習最終日は学内でまとめを行う。

2) 実習スケジュール

実習時間 病院・保育園；8時30分～16時15分（昼休憩1時間）
学内；9時～16時35分（昼休憩50分）

日程	実習場所	学 習 内 容
1 日目	学内	学内オリエンテーション
2 日目	保育園 または 障がい 児施設	子どもの発達、生活について観察
3 日目		子どもの発達、生活について観察
4 日目		子どもの発達、生活について観察
5 日目	学内	学内まとめ、次週の受け持ち決定
6 日目	病院	1人の子どもを受け持ち、看護過程を展開
7 日目	病院	1人の子どもを受け持ち、看護過程を展開
8 日目	病院	1人の子どもを受け持ち、看護過程を展開
9 日目	病院	1人の子どもを受け持ち、看護過程を展開
10 日目	学内	学内まとめ

生活機能支援論実習Ⅲ－①（急性）

- ①単位数：3単位
- ②開講年次：3年後期
- ③実習期間：3週間

1. 実習目的

健康状態の急激な変化が患者・家族に及ぼす影響を理解する。そして患者の生命を守るとともに安楽を提供し、治療効果を最大に引き出す看護実践力を養い、患者が新たな健康管理能力を身に付けるための援助並びに倫理的態度を学ぶ。

2. 実習目標

- 1) 手術を受ける患者または急性期にある患者のインフォームド・コンセントを支援し健康状態のアセスメントを通して、患者が主体的に治療過程に参加する準備を整える。
- 2) 手術中の患者の手術侵襲と麻酔による生体反応の変化を理解し、術後合併症の予防苦痛の緩和、早期回復に必要な援助を行う。
- 3) 急性期にある患者または生命の危機的状況にある患者の、全身状態および心理社会面のアセスメントを通して、回復のための全身管理を行うとともに、苦痛の緩和の援助を行う。
- 4) 再発や回復への不安を抱えるがん患者の苦痛(スピリチュアルペイン)を理解した援助を行う。
- 5) 患者の健康状態の回復に応じたセルフケアを支援し、健康管理能力を身につけるための教育を行う。
- 6) 救命救急治療を受ける患者の疾病背景、医療体制、人権擁護を学習し、救急医療と救急看護の実際を学ぶ。

3. 実習施設及び指導教員等

病院名	グループ(学生数)	指導教員等	備考
大阪赤十字病院	10グループ(50名)	教授 松井幸子 助教 桑原唯 助手 2名	1グループ5名
国立循環器病研究センター	3グループ(15名)		各グループの実習時期と指導教員は資料50-4
大阪市立総合医療センター	1グループ(5名)		3年次実習計画
八尾市立病院	1グループ(5名)		参照
済生会野江病院	1グループ(5名)		

4. 実習方法

1) 実習方法および内容

実習の進め方

- (1) 実習指導者に、日々の行動目標・行動計画、看護計画の指導を受け看護過程を展開する。
- (2) 受け持ち患者の状況に応じて、看護職とともに看護の実践に参加する。
- (3) 特徴的な状態の看護について臨床講義を受ける。
 - ①カンファレンス：毎日30分程度行い、学びを共有する。
 - ②病院実習終了時には目的・目標の学びについて情報共有を行う。
 - ③実習最終日は学内でまとめを行う。

2) 実習スケジュール

実習時間 病院；8時30分～16時15分（昼休憩1時間）
学内；9時～16時35分（昼休憩50分）

日程	実習場所	学 習 内 容
1日目	学内	実習オリエンテーション、事前学習知識の確認・技術演習により強化
2日目	病院	病棟オリエンテーション、受け持ち患者決定・情報収集・アセスメント 救命救急センター・ICU/HCU・手術室見学実習、学生カンファレンス
3日目	病院	受け持ち患者決定・情報収集・アセスメント・受け持ち患者回復過程に応じた看護ケアの実施、学生カンファレンス
4日目	病院	受け持ち患者手術見学、術前・術中・術後の情報収集・アセスメント・課題の明確化、回復に応じた看護援助、学生カンファレンス
5日目	病院	受け持ち患者手術見学、術前・術中・術後の情報収集・アセスメント・課題の明確化、回復に応じた看護援助、学生カンファレンス
6日目	病院	カンファレンスにて看護援助計画発表・実施・評価
7日目	病院	カンファレンスにて看護援助計画発表・実施・評価
8日目	学内	個人面談により担当教員と共に実習前半の振り返りから、助言・指導を受けて後半の実習への方向付けを確認する。看護計画の修正・補充
9日目	病院	回復過程に応じた課題の優先順位の計画・実施・評価、学生カンファレンス
10日目	病院	回復過程に応じた課題の優先順位の計画・実施・評価、学生カンファレンス
11日目	病院	回復過程に応じた課題の優先順位を考察した計画・実施・評価 退院に向けて患者教育（パンフレット等の作成・指導）学生カンファレンス
12日目	病院	回復過程に応じた課題の優先順位を考察した計画・実施・評価 退院に向けて患者教育（パンフレット等の作成・指導）学生カンファレンス
13日目	病院	回復過程に応じた課題の優先順位を考察した計画・実施・評価 退院に向けて患者教育（パンフレットの作成・指導）隣地最終カンファレンス
14日目	学内	実習を振り返り、グループメンバーの受け持ち患者の看護援助についてメンバーの経験をグループで共有する（受け持ち患者手術見学、ICU/CCU 見学実習）
15日目	学内	最終カンファレンスにて、実習目標に沿ってまとめをする。記録の充実 目標の達成度について担当教員と面談にて最終評価をする。記録類の最終提出

生活機能支援論実習Ⅲ-②（慢性）

- ①単位数：3単位
- ②開講年次：3年後期
- ③実習期間：3週間

1. 実習目的

慢性期にある患者と家族の特徴を理解し、患者自ら疾患や障がいの悪化予防と健康の維持・増進、QOLの向上に向けて、セルフマネジメント能力を身につけるための援助の在り方並びに倫理的態度を学ぶ。

2. 実習目標

- 1) 慢性疾患のある患者の健康レベルに応じた看護を実践するために必要な知識・技術・態度を修得する。
- 2) 慢性疾患の各機能障害のある患者の治療、病期や障害に応じた看護の基本を理解する。
- 3) 慢性疾患の症状コントロールや治療に伴うセルフマネジメント、医療的ケアや看護技術を理解し、一部実践することができる。
- 4) 疾患・障がいと共に生活する患者・家族に対して障がいの受容やエンパワメント、自己効力感を高める支援をする。
- 5) 慢性期にある患者・家族の体験や価値観、家族機能を理解し看護計画を立案、適切な看護援助を実践する。
- 6) 慢性期にある患者に関わる多職種チームの役割と機能について理解する。

3. 実習施設及び指導教員等

病院名	グループ(学生数)	指導教員等	備考
大阪赤十字病院	12グループ(60名)	教授 吉田智美 教授 西田頼子 助教 桑原唯 助手 2名	1グループ5名
市立ひらかた病院	1グループ(5名)		各グループの 実習時期と 指導教員は 資料50-4
八尾市立病院	2グループ(10名)		3年次実習計画 参照
済生会野江病院	1グループ(5名)		

4. 実習方法

1) 実習方法および内容

実習の進め方

- (1) 実習指導者に、日々の行動目標・行動計画、看護計画の指導を受け看護過程を展開する。
- (2) 受け持ち患者の状況に応じて、看護職とともに看護の実践に参加する。
- (3) 特徴的な状態の看護について臨床講義を受ける。
 - ①カンファレンス：毎日30分程度行い、学びを共有する。
 - ②病棟実習終了時には目的・目標の学びについて情報共有を行う。
 - ③実習最終日は学内でまとめを行う。

2) 実習スケジュール

実習時間 病院；8時30分～16時15分（昼休憩1時間）
学内；9時～16時35分（昼休憩50分）

日程	実習場所	学 習 内 容
1日目	学内	実習オリエンテーション、事前学習知識・技術演習の強化
2日目	病院	実習病棟オリエンテーション、病院・病棟・関連部署受け持ち患者の情報・アセスメント、カンファレンス
3日目	病院	受け持ち患者の情報・アセスメント、援助の実際、カンファレンス
4日目	病院	受け持ち患者の情報・アセスメント、援助の実践、カンファレンス
5日目	病院	カンファレンスにて看護計画の発表・指導
6日目	病院	カンファレンスにて看護計画の発表・指導
7日目	学内	実習の後半に向けて個別面談、中間カンファレンス
8日目	病院	午前：透析室見学実習 受け持ち患者の援助計画に沿って実施・評価、カンファレンス
9日目	病院	午後：糖尿病外来（フットケア）見学実習 受け持ち患者の援助計画に沿って実施・評価 カンファレンス
10日目	学内	記録の補充、透析室と糖尿病外来見学実習の共有
11日目	病院	援助計画に沿って実施・評価
12日目	病院	援助計画に沿って実施・評価
13日目	病院	援助計画に沿って実施・評価、最終カンファレンス
14日目	学内	体験できなかった項目について共有、知識の強化
15日目	学内	学習生理、個別面談、最終カンファレンス、記録提出

生活機能支援論実習Ⅳ-①（老年）

- ①単位数：1単位
- ②開講年次：1年前期
- ③実習期間：1週間

1. 実習目的

生活者としての高齢者を知り、多様な能力に気づき、幅広い年齢層の健康ニーズをについて理解することができる。

2. 実習目標

- 1) 生活者としての高齢者が理解できる
- 2) 高齢者との関係性を築くため、相手を尊重したコミュニケーションをとることができる
- 3) 高齢者が受けているケアの目的は何か理解できる
- 4) 高齢者および家族の生活を支える地域サービスの役割について理解できる
- 5) 地域サービス機関における看護職や関係職種の役割について理解できる

3. 実習施設及び指導教員等

施設名	グループ（学生数）	指導教員等	備考
ATC エイジレスセンター 火曜日 水曜日	8グループ（40名） 8グループ（40名）	教授 長尾匡子 助手 1名	
デイサービス手塚山東 デイサービスつるみ デイサービスねやがわ デイサービスいわふねの森 平野郷デイサービス しぎの黄金の里 諏訪荘 グリーンライフ 牧すこやかセンター 鶴見緑地病院 通所リハビリテーションセンター 橋波リハビリセンター 旭さくら苑 城東さくら苑 鶴見緑地苑 上山病院デイ・ケア施設	各グループ（5名）	教授 西村美八 准教授 阪上由美 講師 西山史江 講師 有田弥棋子 講師 藤井知美 講師 秋山正子 助教 南裕美 助手 6名	1グループ5名 16グループ（80名）の学生が同一時期に実習を行う 各グループの実習時期と指導教員は資料50-2 1年次実習計画参照

4. 実習方法

1) 実習方法および内容

- (1) 施設におけるデイ・ケア、デイサービスの実際と参加している高齢者の様子を参加観察する。
- (2) 施設の見学を通して、高齢者の生活を支えるための生活環境や支援機器などを見学・体験する。
- (3) 地域の高齢者の生活の実際を観察する場所は学生が主体的に調べ、選択し決定する。
 - ①デイ・ケア、デイサービスを利用している高齢者とコミュニケーションをとり、生活の実際について理解できるようにする。
 - ②大学周辺の地域の特性を調べ、地域で暮らす高齢者の生活理解につながる探索的活動を行う。

2) 実習スケジュール

実習時間 施設；9時～17時（昼休憩1時間）
 地域探索・学内；9時～16時（昼休憩50分）

2グループにわかれて実習を行う

日程	実習場所		学 習 内 容
	A 班	B 班	
1 日 目	デイ・ケアまたは デイサービス	地域探索	(1)施設におけるデイ・ケア、デイサービスの実際と参加している高齢者の様子を参加観察する。 (2)施設の見学を通して、高齢者の生活を支えるための生活環境や支援機器などを見学・体験する。 (3)地域の高齢者の生活の実際を観察する場所は学生が主体的に調べ、選択し決定する。 ①デイ・ケア、デイサービスを利用している高齢者とコミュニケーションをとり、生活の実際について理解できるようにする。 ②大学周辺の地域の特性を調べ、地域で暮らす高齢者の生活理解につながる探索的活動を行う。
2 日 目		ATC エイジレスセンター	
3 日 目	ATC エイジレスセンター	デイ・ケアまたは デイサービス	
4 日 目	地域探索		
5 日 目	学内	学内	

生活機能支援論実習Ⅳ-②（老年）

- ①単位数：2単位
- ②開講年次：3年後期
- ③実習期間：2週間

1. 実習目的

加齢や疾患による諸機能低下が日常生活におよぼす影響とその援助技術と適応方法の実際を体験し必要な看護を実践できる基礎的能力並びに倫理的態度を修得する。高齢者施設入所者への看護の専門性と多職種連携を理解し、高齢者の自立支援における看護の役割が理解できる。

2. 実習目標

- 1) 加齢や疾患による機能低下や障害による発生する問題をアセスメントできる。
- 2) 残存機能の維持向上と自立支援に必要な制度の活用について説明できる。
- 3) 高齢者の尊厳を保ち安全で安心な生活を送るために必要な看護の実際について説明できる。
- 4) 認知症高齢者の全人的な看護の実際を体験し、必要な看護を実践できる基礎的能力が修得できる。
- 5) 高齢者のエンド・オブ・ライフについて学んだことを考察できる。
- 6) QOLの視点および個別性を尊重した看護を展開することができる。

3. 実習施設及び指導教員等

施設名	グループ(学生数)	指導教員等	備考
グリーンランドみずき	8グループ(40名)	教授 長尾匡子 講師 有田弥棋子 助手 2名	1グループ5名 各グループの 実習時期と 指導教員は 資料50-4 3年次実習計画 参照
しぎの黄金の里	2グループ(10名)		
至善荘	2グループ(10名)		
牧すこやかセンター	2グループ(10名)		
グリーンライフ	2グループ(10名)		

4. 実習方法

1) 実習方法および内容

- 1週目：受け持ちの高齢者に必要な生活支援を分析し、看護計画を立案する。
- 2週目：看護過程の展開を通して、生活支援の基本的な実践を行う。

- (1) 実習指導者に、日々の行動目標・行動計画、看護計画の指導を受け高齢者の看護を実践する。
- (2) カンファレンス：毎日30分程度行い、学びを共有する。また施設実習終了時には学びについて情報共有を行う。
- (3) 実習最終日は学内でまとめを行う。

2) 実習スケジュール

実習時間 施設；9時～17時（昼休憩1時間）
学内；9時～16時（昼休憩50分）

日程	実習場所	学 習 内 容
1日目	施設	オリエンテーション 担当する高齢者の紹介・情報収集・アセスメント
2日目	施設	情報収集・アセスメント・援助の見学・実施
3日目	施設	学習の整理（個別面談指導）
4日目	施設	情報収集・アセスメント・援助の見学・実施
5日目	施設	援助の見学・実施・看護問題の方向性の確認・看護計画立案
6日目	施設	援助の見学・実施・ケースカンファレンス （看護計画の発表、指導、助言）
7日目	施設	援助の見学・実施・ケースカンファレンス （看護計画の発表、指導、助言）
8日目	施設	援助計画に沿って援助の実施、評価
9日目	施設	援助計画に沿って援助の実施、評価・病棟最終カンファレンス
10日目	学内	学習の整理（個別面談）・最終カンファレンス

生活機能支援論実習V（精神）

- ①単位数：2単位
- ②開講年次：3年前期
- ③実習期間：2週間

1. 実習目的

精神に障がいを持つ対象とのかかわりを通して、生命の尊厳、人間としての基本的な権利を尊重する基本的姿勢を涵養できる。また、精神に障害を持つために、生活や対人関係に困難を抱えていることを理解し、自らをケアの道具として最大限に生かし、人格を有する全人的存在として、個別性を尊重したヒューマンケアを実践できる基礎的能力並びに倫理的態度を育む。

2. 実習目標

- 1) 精神に障がいを持つ対象者を総合的に理解し、人間としての基本的な権利を尊重する基本的姿勢を涵養できる。
- 2) プロセスレコードを用いて、患者 - 看護師間の治療的関係を形成することができる。
- 3) 受け持ち患者に対して、インフォームド・コンセントに基づいたケアプランを立案し、実施できる。
- 4) 精神に障がいを持つ対象者及び家族の地域での生活を理解し、社会資源や医療、多職種との連携について説明することができる。

3. 実習施設及び指導教員等

病院名	グループ（学生数）	指導教員等	備考
八尾こころのホスピタル	6グループ（30名）	准教授 西垣里志 講師 美王真紀 講師 高橋篤信 助手 1名	1グループ5名 各グループの 実習時期と 指導教員は 資料50-4 3年次実習計画 参照
ねや川サナトリウム	6グループ（30名）		
榎坂病院	4グループ（20名）		

4. 実習方法

1) 実習方法および内容

- 1 週目：精神科病棟で、精神障害を持つ人を受け持ち、人間関係形成プロセスについてプロセスレコードを用いて振り返り、分析する
- 2 週目：看護過程の展開を通して、生活支援の基本的な実践を行う。
病院と地域（デイ・ケア、作業所、作業療法、グループホーム、訪問看護センター）の多職種連携と看護の役割について学ぶ。

- (1) カンファレンス：毎日 30 分程度行い、学びを共有する。
- (2) 病院実習終了時には目的・目標の学びについて共有する。
- (3) 実習最終日は学内でまとめを行う。

2) 実習スケジュール

実習時間 病院；8 時 30 分～16 時 15 分（昼休憩 1 時間）
学内；9 時～16 時 35 分（昼休憩 50 分）

日程	実習場所	学 習 内 容
1 日目	学内	学内オリエンテーション 精神科病棟で、精神障害を持つ人を受け持ち、人間関係形成プロセスについてプロセスレコードを用いて振り返り、分析する
2 日目	病院	
3 日目	病院	
4 日目	病院	
5 日目	病院	
6 日目	病院	計画立案・実施 看護過程の展開を通して、生活支援の基本的な実践を行う
7 日目	病院	
8 日目	病院	病院と地域（デイ・ケア、作業所、作業療法、グループホーム、訪問看護センター）の多職種連携と看護の役割について学ぶ
9 日目	病院	病棟最終カンファレンス
10 日目	学内	学内 まとめ

地域包括ケア論実習Ⅰ（老年）

- ①単位数：1単位
- ②開講年次：4年前期
- ③実習期間：1週間

1. 実習目的

高齢者の特徴を理解するとともに、地域や施設で生活する高齢者を総合的にとらえ、高齢者の健康に関わる顕在的・潜在的能力が発揮できるように看護活動を実践できる基礎的能力並びに倫理的態度を養う。また、高齢者の生活を支える保健・医療・福祉職等、多職種連携・協働における看護師の役割について学ぶ。

2. 実習目標

- 1) 高齢者の価値観や思いを尊重し総合的な理解を深め、対象者との援助的関係を築くことができる。
- 2) 高齢者の生活史や人生観、価値観などを知り、個別性のあるエンド・オブ・ライフへの支援の実際を学ぶ。
- 3) 高齢者に適応されている保健、医療、福祉サービス内容を知り、高齢者を取り巻く社会環境と支援の実際、多職種連携・協働における看護師の役割について学ぶ。

3. 実習施設及び指導教員等

施設名	グループ（学生数）	指導教員等	備考
パル都島	8グループ（32名） （1グループ4名）	教授 長尾匡子 講師 有田弥棋子 助手 2名	2グループ（10名）の学生を 4名×2と2名に再編成する 実習時期と指導教員は資料45-5 4年次実習計画参照
さくら	8グループ（16名） （1グループ2名）		
まきグループホーム	8グループ（32名） （1グループ4名）		

4. 実習方法

1) 実習方法および内容

- (1) 高齢者の生活の実際を観察する。
- (2) 状況に応じて施設看護師と行動を共にする。
 - ①実習指導者に、日々の行動目標・行動計画の指導を受け、高齢者の生活支援について理解する。
 - ②カンファレンス：毎日 30 分程度行い、学びを共有する。また施設実習終了時には学びについて学びの共有を行う。
 - ③実習最終日は学内でまとめを行う。

2) 実習スケジュール

実習時間 施設；9時～17時（昼休憩 1 時間）
学内；9時～16時（昼休憩 50 分）

日程	実習場所	学 習 内 容
1 日 目	施設	オリエンテーション・担当高齢者紹介・情報収集・アセスメント
2 日 目	施設	情報収集・アセスメント・援助の見学・実施
3 日 目	施設	情報収集・アセスメント・援助の見学・実施
4 日 目	施設	援助の見学・実施
5 日 目	学内	学習の整理（個別面談指導）

地域包括ケア論実習Ⅱ（在宅）

- ①単位数：2単位
- ②開講年次：4年前期
- ③実習期間：2週間

1. 実習目的

在宅療養者とその家族の理解を深め、保健・医療・福祉サービス機関と連携・協働しながら在宅療養者の生活を支援する看護活動を展開できる能力を養う。在宅療養者とその家族のQOL向上を目指した看護活動の一連の展開方法を理解する。また、在宅ケアシステムにおける在宅ケアサービス機関の連携・多職種との協働の実際および社会資源の活用、訪問看護やケアマネジメントの機能を理解し、倫理的態度で振り返る。

2. 実習目標

- 1) 在宅療養者と家族を生活者としてとらえ、生活の場での看護を展開することができる。
- 2) 訪問看護ステーションの概要と特徴を理解できる。
- 3) 訪問看護における看護の役割と支援方法を理解できる。
- 4) 在宅療養者と家族が生活する地域の在宅ケアシステムについて理解できる。
- 5) 在宅療養者と家族のニーズに対応した地域包括ケアシステムにおける在宅ケアサービス機関や関係職種との連携方法、看護職の役割を理解できる。
- 6) 在宅療養者と家族を尊重した看護職としての態度・行動をとることができる。

3. 実習施設及び指導教員等

施設名	学生数	指導教員等	備考
牧訪問看護ステーション	3名×4クール(12名)	准教授 阪上由美 講師 秋山正子 助教 中村千賀 助手 6名	2グループ10名の学生を3名と2名に再編成する 実習時期と指導教員は資料50-54年次実習計画参照
牧訪問看護ステーション高殿営業所	2~3名×3クール(8名)		
訪問看護ステーションおおみち	3名×3クール(9名)		
訪問看護ステーション東成おおみち	3名×3クール(9名)		
やさしい空訪問看護ステーション	2名×4クール(8名)		
上山病院訪問看護ステーション	2名×3クール(6名)		
星ヶ丘医療センター訪問看護ステーション	2~3名×3クール(8名)		
ヘルスコープおおさか病院訪問看護ステーション	2~3名×4クール(10名)		
トム・ソーヤ訪問看護ステーション	2名×4クール(8名)		

4. 実習方法

1) 実習方法および内容

訪問看護ステーションで実習を行う。

臨地実習は9日間とし、実習のまとめは実習期間最終日に学内で実施する。

- (1) 実習オリエンテーションを通して、訪問看護ステーションの概要や特徴を学ぶ。
- (2) 訪問看護師に同行し、在宅療養者と家族とのコミュニケーションを行い、援助の見学・実施を通して、訪問看護における看護の役割と支援方法の理解を深める。また、在宅療養環境や在宅ケアシステムにおける社会資源および多職種連携・協働の実際を学ぶ。
- (3) 訪問事例「1例」において、訪問看護計画を立案し、看護ケアを実施、評価する。
- (4) 退院前カンファレンスやサービス担当者会議等に参加し、地域包括ケアシステムにおける在宅ケアサービス機関や関係職種との連携方法、看護職の役割の理解を深める。
- (5) 在宅療養支援診療所もしくは在宅療養支援歯科診療所の医師が診療へ行く際に同行することがあれば経験させる。
- (6) 適宜、カンファレンスを実施し、療養者および家族の理解、看護実践内容、社会資源および多職種連携・協働の実際を検討し、学びの共有を図る。

2) 実習スケジュール

実習時間 病院；9時～17時（昼休憩1時間）

学内；9時～16時（昼休憩50分）

日程	実習場所	学 習 内 容
1日目	訪問看護 ステーション	オリエンテーション 同行訪問 受け持ち療養者紹介・情報収集・アセスメント
2日目		同行訪問 受け持ち療養者の情報収集・アセスメント
3日目		午前：同行訪問 受け持ち患者の情報収集・アセスメント 午後：中間まとめ・個別面談 ※可能であれば学内で実施
4日目		同行訪問 受け持ち療養者の情報収集・アセスメント
5日目		同行訪問 中間カンファレンス (受け持ち療養者の全体像と看護の方向性を発表)
6日目	訪問看護 ステーション	同行訪問 援助計画に沿って援助の実施、評価
7日目		同行訪問 援助計画に沿って援助の実施、評価
8日目		同行訪問 援助計画に沿って援助の実施、評価
9日目		同行訪問 援助計画に沿って援助の実施、評価 訪問看護ステーションでの学びのカンファレンス
10日目	学内	学修の整理（個別面談） 最終カンファレンス

地域包括ケア論実習Ⅲ-①（統合：管理）

- ①単位数：1単位
- ②開講年次：4年前期
- ③実習期間：1週間

1. 実習目的

看護師や看護管理者の看護実践や看護マネジメントを観察、看護に対する考えを深めることにより、チームの一員としての看護に対する自己の考えを明らかにし、自己の看護観や倫理観の構築を目指す。

2. 実習目標

- 1) チームメンバー、チームリーダー、病棟師長のシャドウイングにより看護管理の実際を理解する。
- 2) 看護部長から管理の実際を聞き、トップマネージャーの役割を理解する。
- 3) 多職種チーム活動や認定看護師活動のシャドウイングからチーム医療の実際を理解する。
- 4) 看護実践における自己の課題を明確にし、課題達成のための方策を考える。
- 5) 看護の学びを通して、看護の専門性について考え、自己の看護観や倫理観を深めることができる。
- 6) ポートフォリオを使用し、自己の成果を確認することができる。

3. 実習施設及び指導教員等

病院名	グループ（学生数）	指導教員等	備考
大阪赤十字病院	16グループ（80名）	教授 松浦正子 講師 西山史江	1グループ5名 同一時期に 2グループが 実習を行う

4. 実習方法

- 1) 実習方法および内容
 - (1) 複数受け持ち、チームリーダー、病棟師長のシャドウイングを通して、看護管理について知ることができる。
 - (2) 複数受け持ち、チームリーダ、病棟師長、副看護部長、看護部長の看護実践やディスカッションからそれぞれの看護観を知ることができる。

- (3) 同行実習を行いながら、自己の看護観について考えることができる。
- (4) カンファレンスにおいて、自己の課題と達成状況をグループのメンバーにわかりやすく説明することができる。
- (5) 看護倫理を踏まえて自己の看護観を話すことができる。

2) 実習スケジュール

実習時間 病院；8時30分～17時（昼休憩1時間）
 学内；9時～16時（昼休憩50分）

日程			学 習 内 容				
			学生 A	学生 B	学生 C	学生 D	学生 E
1 日目	午前	病院	オリエンテーション				
	午後		看護部長からトップマネージャーの役割を講義				
2 日目		病院	チーム リーダー	複数 受け持ち	病棟師長	複数 受け持ち	専門看護師 認定看護師
3 日目		病院	複数 受け持ち	病棟師長	複数 受け持ち	チーム リーダー	チーム リーダー
4 日目		病院	専門看護師 認定看護師	チーム リーダー	チーム リーダー	病棟師長	複数 受け持ち
5 日目	午前	学内	各自シャドウイングからのリフレクションと成果の自己評価と ポートフォリオの整理				
	午後		プレゼンテーションにより学修の共有				

地域包括ケア論実習Ⅲ-②（統合：地域）

- ①単位数：1単位
- ②開講年次：4年前期
- ③実習期間：1週間

1. 実習目的

これまでに修得した知識・技術を統合し、看護の対象となる人々が適切な健康状態を維持することができるよう看護ケアを提供するための科学的根拠に基づいた判断力、臨床実践能力を高める。特に、人々が生活する地域全体において、様々な発達段階、健康レベル、生活の場にある人々が、住み慣れた地域で生活を継続することが出来るようにするための地域包括ケアにおける保健医療福祉サービスの提供機関とその仕組みを理解する。また、多様な専門職および地域の人々と連携・協働し、看護職の役割を学ぶ。

2. 実習目標

- 1) 地域包括ケアの概念、対象や特徴について理解できる。
- 2) 地域包括ケアの対象となる人々の様々な生活背景、ライフサイクル、健康レベル、地域特性や文化、対象者のニーズについて多角的・多面的に理解し、健康支援の必要性を理解できる。
- 3) 地域包括ケアの対象となる人々の自己決定を支援し、強みや主体性を引き出しながら、セルフケア能力の発揮を促す看護職の役割、具体的な支援について理解できる。
- 4) 地域包括ケアに関連するケアサービス提供機関について説明でき、関係する他職種・他機関との連携・協働の実際を理解できる。また、連携・協働の必要性を理解できる。
- 5) 地域の様々な社会資源について理解することができ、地域包括ケアの対象となる人々にどのように活用できるかを理解できる。
- 6) 地域包括ケアの対象となる人々が安全・安心に生活できる地域づくりの必要性について理解できる。また、組織的、系統的に支援する必要性を理解できる。

3. 実習施設及び指導教員等

施設名	グループ（学生数）	指導教員等	備考
城東区城陽地域包括支援センター	8グループ（40名）	教授 岩澤和子 教授 西村美八	1グループ5名
城東・放出地域包括支援センター	8グループ（40名）		同一時期に 2グループが 実習を行う

4. 実習方法

1) 実習方法および内容

- (1) 地域包括支援センターに所属する看護職の指示のもと、看護職と行動を共にし、看護職の業務を実際に体験する。学生は実習指導者または施設職員との同行訪問、事業参加・見学等を通じて地域包括支援センターや看護職の役割を学ぶ。
- (2) 臨地実習は4日間とし、実習のまとめは実習期間最終日に学内で実施する。

2) 実習スケジュール

実習時間 病院；9時～17時（昼休憩1時間）
学内；9時～16時（昼休憩50分）

日程	実習場所	内容
1日目	地域包括支援センター	オリエンテーション、業務内容の見学、対象者へのサービスの実際や他職種との連携についての見学等
2日目	地域包括支援センター	①実習オリエンテーションにより、地域包括支援センターの概要や特徴を学ぶ。 ②地域包括支援センターで行われている各種事業・会議に参加、対象者への同行訪問により、対象者の理解を深め、サービスの実際を学ぶ。
3日目	地域包括支援センター	③地域包括支援センターで行われている他職種との連携や協働の実際、社会資源の活用から、地域におけるマネジメントおよびチームアプローチの実際を学ぶ。
4日目	地域包括支援センター	④地域包括ケアにおける看護職の具体的な活動を通して、看護職の役割を学ぶ。また、現状から今後の課題や方向性を考える。
5日目	地域包括支援センター	

1年次実習科目：生活機能論Ⅳ-①(老年)、ヒューマンケア論実習Ⅰ

1グループ学生5名	4					5					6					7					8					9					10					11					12					1					2					3				
	月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52						
グループ1～16																																																												

2年次実習科目：ヒューマンケア論実習Ⅱ

1グループ学生5名	4					5					6					7					8					9					10					11					12					1					2					3									
	月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52											
グループ1～16																																																																	

3年次実習科目：生活機能支援論実習Ⅰ(母性)・Ⅱ(小児)・Ⅲ-①(成人急性)・Ⅲ-②(成人慢性)・Ⅳ-②(老年)・Ⅴ(精神)

1グループ学生5名	4					5					6					7					8					9					10					11					12					1					2					3				
	月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52						
グループ1																																																												
グループ2																																																												
グループ3																																																												
グループ4																																																												
グループ5																																																												
グループ6																																																												
グループ7																																																												
グループ8																																																												
グループ9																																																												
グループ10																																																												
グループ11																																																												
グループ12																																																												
グループ13																																																												
グループ14																																																												
グループ15																																																												
グループ16																																																												

- 3年次 実習配置凡例
- 生活機能支援論実習Ⅰ 母性
 - 生活機能支援論実習Ⅱ 小児
 - 生活機能支援論実習Ⅲ 精神
 - 生活機能支援論実習Ⅳ Ⅰ
 - 生活機能支援論実習Ⅳ Ⅱ
 - 生活機能支援論実習Ⅳ Ⅲ

4年次実習科目：地域包括ケア論実習Ⅰ(老年)・地域包括ケア論実習Ⅱ(在宅)・地域包括ケア論実習Ⅲ-①(統合・管理)・地域包括ケア論実習Ⅲ-②(統合・地域)

1グループ学生5名	4					5					6					7					8					9					10					11					12					1					2					3				
	月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52						
グループ1																																																												
グループ2																																																												
グループ3																																																												
グループ4																																																												
グループ5																																																												
グループ6																																																												
グループ7																																																												
グループ8																																																												
グループ9																																																												
グループ10																																																												
グループ11																																																												
グループ12																																																												
グループ13																																																												
グループ14																																																												
グループ15																																																												
グループ16																																																												

【資料 51】

大阪信愛学院大学 看護学部看護学科 実習委員会規程（案）

（令和 年 月 日〇〇決定）

（趣旨）

第1条 この規程は、大阪信愛学院大学組織分掌規程第〇条の規定に基づき設置する大阪信愛学院大学看護学部看護学科実習委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（任務）

第2条 委員会は次に掲げる事項を審議する。

- （1）臨地実習教育方針に基づいた実習要項の作成
- （2）具体的な臨地実習年間計画の立案・調整
- （3）実習連絡協議会議開催の計画立案と実施・運営
- （4）助手の教育能力向上のためのFDや研修計画と実施・運営
- （5）臨地実習指導者研修会の計画立案と実施・運営
- （6）学生への臨地実習オリエンテーションの実施（感染予防対策を含む）
- （7）実習評価表（目標評価基準と規準）の作成
- （8）学年毎の実習全体の評価並びに改善点の明確化
- （9）実習施設での教員研修実施企画・連絡調整
- （10）実習指導に関するFDの企画・運営

（組織）

第3条 委員会に委員長及び委員を置く。

- 2 委員長及び委員は、〇〇会議の議を経て学長が決定する。

（任期）

第4条 委員会の委員長及び委員の任期は、原則として2年とする。ただし、補欠の委員の任期は前任者の残任期間とする。

- 2 委員は、再任されることができる。

（会議）

第5条 委員長は、委員会の会議を招集し、その議長となる。

- 2 委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、委員長があらかじめ指名した委員が、その職務を代行する。
- 3 委員会の委員がやむを得ない事由により欠席するときは、委員長が指名した物が代理

出席することができる。

- 4 委員会の会議は、委員の過半数以上の出席がなければ開くことができない。
- 5 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長が決するところによる。
- 6 委員会は、委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴く事ができる。

(審議結果の報告)

第6条 委員長は、委員会において審議した結果を学部長及び学長に報告しなければならない。

(委任)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

(委員会の庶務)

第8条 委員会の庶務は、事務局〇〇課において処理する。

(改正)

第9条 この規程の改正は、〇〇会議の議を経て行う。

附則

この規程は、令和〇年〇月〇日から施行する。

【資料 52】

表 実習における専任教員と実習指導者の役割と責任の分担

項目	専任教員	実習指導者
実習全体の計画立案	主として行う	—
実習連絡協議会	実習目的・目標、実習時期・期間、実習展開方法など説明し、実習施設関係者の理解を得る。	所属部署の実習に関する連絡協議会に参加し、大学の実習目的・目標と内容を理解し、実習受け入れ準備に役立てる。
実習前ガイダンス	各学年で実習ガイダンスの時間を設け、学生に対し、科目毎の実習目的・目標等の周知徹底を行う。	—
実習前打合せ	実習指導者に実習内容に関する質問がないか確認を行い、可能であれば学生が受け持つ対象者の情報を得る。	実習に関する説明内容の不明点があれば専任教員に確認し、受け持ち対象者の選定状況を伝える。
実習場でのオリエンテーション	実習指導者のオリエンテーション内容を学生が理解できているか確認し、必要に応じ補足説明を行い、学生が学びの準備状態を整えられるように支援する。	学生の実習に必要な内容のオリエンテーションをする。
受け持ち対象者への説明と同意	受け持ち対象者への説明と同意は、対象者に教育への理解と協力が得られるように説明し、同意を得る。	対象者の状況により、対象者の代理人への説明と同意書の受け取りを行う。
受け持ち対象者の看護計画の指導	看護計画を立案するための臨床判断の思考整理、実習記録用紙の記載に関する指導を行う。	日々の実習計画について学生の実施内容を確認し、専門的な判断を行い調整や指導をする。
日々の受け持ち対象者への看護実践の指導	実習指導者と連携し、実践の指導を行い、学生と対象者の安全を守れるようにする。	実践モデルとして学生と行動を共に指導する。対象者へのケア提供の責任をもつ。
日々の受け持ち対象者への看護実践の評価	学生が実施（見学）した看護実践の自己評価を確認し、実習指導者からの評価の意味が理解できるよう指導する。	学生が実施した看護実践に対して対象者の反応を踏まえた評価と助言をフィードバックする。
日々の実習カンファレンス	学生にカンファレンステーマ及び内容を確認し、実習における学修を学生が主体的に参加できるよう助言・指導する。	場所の確保、時間の調整をする。カンファレンステーマを理解し、効果的な助言を行う。
学内日の実習カンファレンス	実習目標に基づき、テーマカンファレンスを設定する。実習での学びの整理となり、学生が主体的に参加し、効果的な実習の振り返りによって学修を深めることができるよう助言・指導する。その結果を実習指導者にフィードバックする。	専任教員からの情報を部署の関係者に周知し、必要に応じて学生の実習環境をみなおす。
実習目的、目標の達成状況の形成的評価	学生の状況を確認し、実習指導者と情報交換しながら形成的評価を行い、その後の実習指導に活用する。	専任教員へ実習場面での具体的な状況について情報提供をし、形成評価結果を共有し、その後の実習指導に活用する。
実習評価	学生の状況の自己評価も確認し、実習指導者と情報交換しながら実習目標の達成状況の評価を行う。	学生の自己評価を実習状況に照らして、専任教員へ情報提供する。

大阪信愛学院大学 看護学部看護学科 実習連絡協議会規程（案）

（令和 年 月 日〇〇決定）

（趣旨）

第1条 この規程は、大阪信愛学院大学組織分掌規程第〇条の規程に基づき設置する大阪信愛学院大学看護委員会実習連絡協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（任務）

第2条 協議会は次に掲げる事項を審議する。

- （1） 臨地実習教育方針に基づいた実習方法
- （2） 具体的な臨地実習年間計画の調整
- （3） 各実習科目における具体的な内容
- （4） 実習目標到達状況
- （5） 臨地実習指導者研修会の企画

（組織）

第3条 協議会に会長及び会員を置く。

- 2 会長及び会員は、〇〇会議の議を経て学長が決定する。

（任期）

第4条 協議会の会長及び会員の任期は、原則として2年とする。ただし、補欠の会員の任期は前任者の残任期間とする。

- 2 会員は、再任されることができる。

（会議）

第5条 会長は、協議会の会議を招集し、その議長となる。

- 2 会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、会長があらかじめ指名した会員が、その職務を代行する。
- 3 協議会の会員がやむを得ない事由により欠席するときは、会長が指名した物が代理出席することができる。
- 4 協議会の会議は、会員の過半数以上の出席がなければ開くことができない。
- 5 協議会の議事は、出席会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長が決するところによる。
- 6 協議会は、会長が必要と認めたときは、会員以外の者の出席を求め、その意見を聴く

ことができる。

(審議結果の報告)

第6条 会長は、協議会において審議した結果を学部長及び学長に報告しなければならない。

(委任)

第7条 この規程に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

(委員会の庶務)

第8条 協議会の庶務は、事務局〇〇課において処理する。

(改正)

第9条 この規程の改正は、〇〇会議の議を経て行う。

附則

この規程は、令和〇年〇月〇日から施行する。

大阪信愛学院大学学則（案） 抜粋

第9章 学修の評価及び修了認定及び卒業

（学修の評価）

第32条 授業科目の成績評価は、S・A・B・C・Dの評価をもって表し、S・A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。

- 2 前項の成績評価による学業結果を総合的に判断する指標として、総合平均点（Grade Point Average に相当するもの。以下「GPA」という。）を用いる。
- 3 前項に定める GPA は、成績評価のうち、Sにつき 4.0、Aにつき 3.0、Bにつき 2.0、Cにつき 1.0、Dにつき 0 をそれぞれ評価点として与え、各授業科目の評価点にその単位数を乗じて得た積の合計を登録科目の総単位数で除して算出する。

看護学実習に関する説明および同意書

_____様・ご家族の皆様

大阪信愛学院大学看護学部 _____ 実習にあたり、 _____ 年 _____ 月 _____ 日から _____ 年 _____ 月 _____ 日までの間、 _____ 年次の _____ が受け持ちとして、療養上のお世話（日常生活援助）および診療・治療に伴う援助等をさせていただきます。

なお、学生の実習におきましては、以下の基本的な考え方で臨むことしております。看護教育の必要性をご理解いただき、ご協力をよろしくお願いいたします。

1. 実習にあたって学生は、ご本人・ご家族様からお話をおうかがいしたり、施設の記録を閲覧させていただいたりすることがございますが、個人情報の保護には十分に留意いたします。
2. 学生は看護援助等について事前に説明を行い、同意をいただいたうえで実施します。
3. ご本人様の安全を最優先に考え、学生は大学で学んだ看護の知識と技術を、本施設の実習指導者と大学の専任教員の指導のもと行います。
4. 実習の協力に同意されなくても、ご本人様の治療や看護に不利益を生じることは全くありません。同意はいつでも撤回できます。その場合も不利益になることはありません。

実習に関して何かご不明な点等ございましたら、いつでも実習指導者や専任教員にお申し出ください。

年 月 日

説明者：実習施設名 _____ 実習指導者氏名（自署） _____

大阪信愛学院大学看護学部 専任教員氏名（自署） _____

私は、大阪信愛学院大学看護学部 _____ 年次に在籍する学生 _____ が、実習を行うことについて書面にて説明を受けました。

その内容について理解、納得しましたので、実習への協力に同意します。

年 月 日

ご本人氏名（自署） _____

代諾者氏名（自署）〔本人との関係〕 _____ [_____]

大学連絡先：大阪信愛学院大学看護学部
〒538-0053 大阪市鶴見区鶴見6丁目2-28
電話番号 06-6180-1041（直通）

臨地実習の誠実な履行並びに個人情報等の保護に関する誓約書
(施設提出用)

病院長 ○○○○
施設長 ○○○○
管理者 ○○○○ 殿

1. 私は大阪信愛学院大学学生として、実習施設において臨地実習を行うにあたり、臨地実習の誠実な履行並びに個人情報及び病院等の法人機密情報の保護に関する事項を十分に理解しましたので、これを遵守いたします。
2. 私は実習施設の定める諸規則・心得等を遵守し、実習指導者の指示に従って、臨地実習を誠実に履行いたします。
3. 私は、実習の期間中はもちろん、その後においても、臨地実習において知り得た個人情報等を第三者に漏えいいたしません。
4. 私は、その故意又は過失により、実習施設、その関係者、あるいは第三者に事故、器物破損、個人情報及び法人機密情報の漏えいその他の損害を与えた場合は、その賠償責任を負います。

以上、誓約いたします。

年 月 日

大阪信愛学院大学看護学部

学籍番号 _____

氏名 (自署) _____

(注 複写頁は大学へ提出)

実習における事故報告書 教員用

大阪信愛学院大学

20〇〇年 月 日

学部長 _____ 様

報告者氏名 _____

1. 事故発生年月日、時間
2. 事故発生場所
3. 学生の学籍番号 _____ 氏名
4. 事故の発生状況および経過（事実状況を詳しく記述する）
5. 事故の発生理由
6. 当該学生への事故への対応
7. 当該学生の事前の学修状況、行動の特徴、健康状態
8. 今後事故を防止するための課題
9. 実施した教育上の事後処理

実習における事故報告書 学生用

大阪信愛学院大学

20〇〇年 月 日

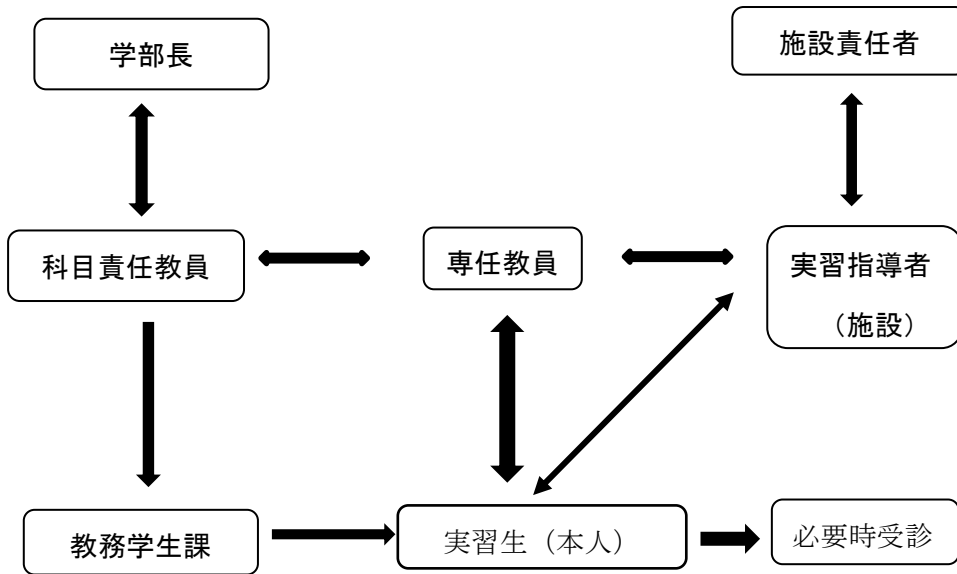
学部長 _____ 様

学籍番号 _____

学生氏名 _____

1. 事故発生年月日、時間
2. 事故発生場所
3. 事故の発生状況および経過（事実状況を詳しく記述する）
4. 事故の発生理由
5. 今後事故を防止するための課題

実習における事故等発生時の連携体制



実習施設名	〒	住所	開設者又は 長の職名・氏名	使用開始 年度	実習科目	ヒューマンケアⅠ		ヒューマンケアⅡ		生活機能 支援Ⅰ		生活機能 支援Ⅱ		生活機能支 援Ⅱ		生活機能支 援Ⅲ-①		生活機能支 援Ⅲ-②		生活機能支 援Ⅴ		地域包括ケア Ⅱ (在宅)		地域包括ケア Ⅲ-①(管理)		大学 から の 距 離	大 学 か ら の 所 要 時 間	病 院 病 床 数	
						実習期間 日数	1年 後期 1週間	受入 学生 数	2年 後期 2週間	受入 学生 数	3年 前期 2週間	受入 学生 数	3年 前期 1週間	受入 学生 数	3年 後 期 3週間	受入 学生 数	3年 後 期 3週間	受入 学生 数	3年 前 期 2週間	受入 学生 数	4年 前期 2週間	受入 学生 数	4年 前期 1週間	受入 学生 数	訪問看護 ステーション				病院
1 病院 大阪赤十字病院	543-8555	大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-30	院長 坂井 義治	2022年度	4グループ	20	4グループ	20	4グループ	20			5グループ	25	10グループ	50	12グループ 予備2グループ	60	10	-	-	-	-	16グループ	80	7.3km	45分	964	
2 施設 大阪赤十字病院附属大手前整肢学園	543-8555	大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-30	院長 坂井 義治	2024年度								25															7.3km	45分	964
3 病院 大阪大学医学部附属病院	565-0871	吹田市山田丘2番15号	病院長 土岐祐一郎	2023年度			2グループ	10																		19.4km	90分	1086	
4 病院 国立循環器病研究センター	564-8565	吹田市岸部新町6番1号	理事長 小川 久雄	2022年度	4グループ	20	-	-	-	-	-	3グループ	15	3グループ	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10.8km	60分	550	
5 病院 大阪市立総合医療センター	534-0021	大阪市都島区都島本通2-13-22	病院長 瀧藤 伸英	2024年度					3グループ	15	-	3グループ	15	1グループ	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4km	35分	1063	
6 病院 市立ひらかた病院	573-1013	枚方市禁野本町2-14-1	病院長 林 道廣	2024年度	4グループ	20	予備 2グループ	10	1グループ	5	-	予備 3グループ	15			1グループ 予備1グループ	5	5	-	-	-	-	-	-	23km	60分	335		
7 病院 八尾市立病院	581-0069	八尾市龍華町1-3-1	病院長 田村茂行	2023年度	予備 1グループ	5	5グループ	25	3グループ	15	-	2グループ	10	1グループ	5	2グループ	10	-	-	-	-	-	-	-	16km	50分	380		
8 病院 大阪府済生会 野江病院	536-0001	大阪市城東区古市1-3-25	院長 三嶋 理晃	2024年度					1グループ	5	-	-	-	1グループ 予備2グループ	5	10	1グループ 予備1グループ	5	5	-	-	-	-	-	07km	10分	400		
9 病院 小阪産病院	577-0807	東大阪市菱屋西 3-6-8	理事長 竹村秀雄	2024年度			-		2グループ	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.7km	45分	61		
10 病院 石井記念愛染園 附属 愛染橋病院	556-0005	大阪市浪速区日本橋5-16-15	院長代行 押谷伸英	2023年度	3グループ	15	3グループ	15	2グループ	10	-	-	3グループ	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14.6km	40分	253		
11 病院 牧病院	535-0022	大阪市旭区新森7丁目10番28号	理事長 牧 恭彦	2022年度	1グループ 予備1グループ	5 5	2グループ	10																	1km	20分	75		
12 病院 牧整形外科病院	536-0008	大阪市城東区関目6丁目15番30号	理事長 牧 恭彦	2022年度	予備 2グループ	10	予備 2グループ	10																	1.4km	17分	80		
13 病院 ねや川サナトリウム	572-0854	寝屋川市寝屋川公園2370-6	理事長 長尾喜一郎	2024年度					-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ねや川 サナトリウム	20				11km	60分	267		
14 病院 八尾こころのホスピタル	581-0025	八尾市天王寺屋6丁目59番地	院長 松村 博隆	2024年度					-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	八尾こころの ホスピタル	30				14km	60	444		
15 病院 榎坂病院	564-0063	吹田市江坂町4-32-1	理事長 関山 隆史	2024年度					-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	榎坂病院	30				11km	60分	360		
16 施設 星ヶ丘医療センター 訪問看護ステーション	573-8511	枚方市星丘4-8-1	院長 増山 理	2025年度					-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	星ヶ丘医 療 センター	8		18km	60分		
17 施設 牧訪問看護ステーション	535-0021	大阪市旭区清水4丁目2番22号	理事長 牧 恭彦	2025年度					-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	牧 清水	12		1.6km	20分		
18 施設 牧訪問看護ステーション高殿	535-0031	大阪市旭区高殿6丁目18番41号-107	理事長 牧 恭彦	2025年度					-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	牧 高殿	8		2.8km	30分		
19 施設 ヘルスコープおおさか 訪問看護ステーション	538-0053	大阪市鶴見区鶴見3丁目6番24号	理事長 向井 明彦	2025年度					-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	コープ大阪	10		0.7km	12分		
20 施設 訪問看護ステーションおおみち	536-0025	大阪市城東区森之宮2丁目森之宮第2団地6号棟102号室	理事長 大道 道大	2025年度					-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	おおみち	11		4.6km	35分		
21 施設 訪問看護ステーション東成おおみち	537-0021	大阪市東成区東中本2丁目9番26号ジョイフル遠山1F	理事長 大道 道大	2025年度					-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	東成 おおみち	9		5.8km	30分		
22 施設 やさしいそら訪問看護ステーション	553-0003	大阪市福島区福島7丁目6番7号大阪HTSビル6階	代表取締役 中村千賀	2025年度					-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	AIP やさしい空	8		12km	60分		
23 施設 上山病院訪問看護ステーション	572-0848	寝屋川市泰町3-2	理事長 小林 卓	2024年度					-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	上山病院	6		23.2km	90分		
24 施設 トム・ソーヤ訪問看護ステーション	535-0022	大阪市旭区新森3丁目3番31号	理事長 水野 郁子	2025年度					-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	トム・ソーヤ 訪問看護ス テーション	8		4km	35分		

実習施設一覧（看護2）

	実習施設名	〒	住所	開設者又は 長の職名・氏名	実習科目 実習期間 日数	生活機能支援Ⅱ 3年 前期 火・水・木 保育園・ 障がい児施設	生活機能支援Ⅳ-① 受入 学生 数	生活機能支援Ⅳ-② 1年 前期 2日間 受入 学生 数	生活機能支援Ⅳ-③ 3年 後期 2週間 受入 学生 数	地域包括ケアⅠ（老 年） 4年 前期 4日間 グループホーム 小規模多機能施設 受入 学生 数	地域包括ケアⅡ （在宅） 4年 前期 2週間 訪問看護 ステーション 受入 学生 数	地域包括ケアⅢ-②（地 域） 4年 前期 2日 地域包括 支援センター 受入 学生 数		大学 から の 距 離	大 学 か ら の 所 要 時 間	
25	施設 デイサービスいわふねの森	576-0031	大阪府交野市森南1丁目17番6号	代表理事 所 清司	2022年度	—	5						16km	60分		
26	施設 デイサービスねやがわ	572-0867	寝屋川市高宮あさひ丘25番13号	代表理事 所 清司	2022年度	—	5						10km	60分		
27	施設 デイサービスつるみ	538-0041	大阪市鶴見区今津北1丁目11番32号	代表理事 所 清司	2022年度	—	5						2.1km	25分		
28	施設 平野郷デイサービス	547-0044	大阪市平野区平野本町3丁目13番13号	代表理事 所 清司	2022年度	—	5						9.7km	60分		
29	施設 老人デイサービスセンター 旭東地域在宅サービスステーション 旭さくら苑	535-0021	大阪市旭区清水3丁目15-23	理事長 水野 智志	2022年度	—	5						1.9km	25分		
30	施設 城東さくら苑リハビリセンター	536-0004	大阪市城東区今福西6丁目6番20号	理事長 水野 智志	2022年度	—	5						1.5km	20分		
31	施設 鶴見緑地苑デイサービスセンター	570-0032	大阪府守口市菊水通3丁目16番2号	理事長 水野 智志	2022年度	—	5						2.9km	60分		
32	施設 小規模多機能ホーム さくら	535-0021	大阪市旭区清水3-15-17	理事長 水野 智志	2022年度	—				小規模多機能ホームさくら	16		1.8km	25分		
33	施設 鶴見緑地病院 通所リハビリテーションセンター	570-0044	大阪府守口市南寺方南通3-4-8	理事長 水野 郁子	2022年度	—	5						1.5km	20分		
34	施設 鶴見緑地病院 橋波リハビリセンター	570-0039	大阪府守口市橋波西之町2-4-19	理事長 水野 郁子	2022年度	—	5						3.5km	50分		
35	施設 特別養護老人ホーム 至善荘	536-0016	大阪市城東区蒲生4-2-10	施設長 岡部 哲也	2024年度	—			至善荘	10			2.1km	35分		
36	施設 特別養護老人ホーム グリーンランドみずき	538-0054	大阪市鶴見区緑三丁目16番27号	施設長 杉浦 康哲	2024年度	—			グリーンランドみずき	40			3km	30分		
37	施設 介護老人保健施設 牧すこやかセンター	535-0031	大阪市旭区高殿6丁目14番41号	所長 井田 公一郎	2022年度	—	10		牧すこやかセンター	10			1.5km	15分		
38	施設 特別養護老人ホーム しぎの黄金の里	536-0013	大阪市城東区嶋野東2-26-12	施設長 松井 彬	2022年度	—	10		しぎの黄金の里	10			2.3km	27分		
39	施設 介護老人保健施設グリーンライフ	536-0023	大阪市城東区東中浜9-3-9	理事長 大道 道大	2022年度	—	5		グリーンライフ	10			5km	30分		
40	施設 城東区城陽地域包括支援センター	536-0013	大阪市城東区嶋野東2-26-12	施設長 松井 千佳	2025年度								城東区城陽地域包括支援センター	40	4km	30分
41	施設 城東・放出 地域包括支援センター	536-0021	大阪市城東区諏訪4丁目12番28号	センター長 野村 哲雄	2025年度								城東・放出地域包括支援センター	40	5km	30分
42	施設 小規模多機能型居宅介護 パル 都島	534-0012	大阪市都島区御幸町2丁目13番9号	代表理事 所 清司	2025年度	—				小規模多機能パル 都島	32		2.5km	20分		
43	施設 まきグループホーム	535-0004	大阪市旭区生江2丁目14番24号	ホーム長 米田 智子	2025年度					まきグループホーム	32		5.1km	32分		
44	施設 諏訪荘 デイサービスセンター	536-0021	大阪市城東区諏訪4丁目12番28号	施設長 小林 史郎	2022年度		5		諏訪荘				5km	20分		
45	施設 上山病院 デイケア施設	572-0848	寝屋川市泰町15番3号	理事長 小林 卓	2022年度		5		上山病院 デイケア施設				23.2km	90分		
46	施設 すみれ保育園	536-0001	大阪市城東区古市1-20-82	園長 遠藤 佳代子	2024年度	すみれ保育園	10						0.6km	10分		
47	施設 なかよしすみれ保育園	536-0001	大阪市城東区古市1-21-3	園長 平野 桃子	2024年度	なかよしすみれ保育園	10						0.6km	10分		
48	施設 平和の子保育園	535-0022	大阪市旭区新森7丁目1-5	理事長 松野 五郎	2024年度	平和の子保育園	10						1.3km	17分		
49	施設 大阪信愛学院幼稚園	536-8585	大阪市城東区古市2-7-30	園長 岩熊 美奈子	2024年度	信愛幼稚園	25						0.7km	10分		

実習学校一覧

実習の区分：教育実習（養護）

	学校名	住所	電話番号	受け入れ数
1	大阪信愛学院幼稚園	大阪市城東区古市2-7-30	06-6939-4391	5
2	大阪信愛学院小学校	大阪市城東区古市2-7-30	06-6939-4391	5
3	大阪信愛学院中学校	大阪市城東区古市2-7-30	06-6939-4391	5
4	大阪信愛学院高等学校	大阪市城東区古市2-7-30	06-6939-4391	5
5	大阪市立大和田小学校	大阪市西淀川区大和田4-3-24	06-6472-0121	2
6	大阪市立三軒家東小学校	大阪市大正区三軒家東2-12-59	06-6551-8000	1
7	大阪市立三津屋小学校	大阪市淀川区三津屋中1-4-14	06-6301-0005	2
8	大阪市立中川小学校	大阪市生野区中川3-4-3	06-6753-1822	3
9	大阪市立加美小学校	大阪市平野区加美正覚寺3-13-35	06-6791-7501	2
10	大阪市立日吉小学校	大阪市西区南堀江4-9-19	06-6531-0144	1
11	大阪市立九条南小学校	大阪市西区九条南2-13-17	06-6582-0930	2
12	大阪市立大国小学校	大阪市浪速区大国1-9-3	06-6631-0171	1
13	大阪市立高津小学校	大阪市中央区高津3-4-21	06-6643-2700	6
14	大阪市立高殿南小学校	大阪市旭区高殿3-10-30	06-6953-3851	1
15	大阪市立加賀屋東小学校	大阪市住之江区東加賀屋1-6-25	06-6681-5000	1
16	大阪市立都島小学校	大阪市都島区都島本通3-10-3	06-6921-1434	2
17	大阪市立梅南津守小学校	大阪市西成区梅南3-2-25	06-6651-3428	1
18	大阪市立中大江小学校	大阪市中央区糸屋町2-3-14	06-6942-0221	1
19	大阪市立大隅西小学校	大阪市東淀川区大隅2-3-18	06-6328-6557	2
20	大阪市立田川小学校	大阪市淀川区田川2-9-37	06-6301-1510	2
21	大阪市立今福小学校	大阪市城東区今福南2-1-53	06-6933-3412	1
22	大阪市立嶋野小学校	大阪市城東区嶋野西4-11-48	06-6961-4313	2
23	大阪市立すみれ小学校	大阪市城東区古市2-6-46	06-6933-210	1
24	大阪市立成育小学校	大阪市城東区成育1-5-19	06-6932-0061	1
25	大阪市立聖賢小学校	大阪市城東区新喜多2-4-35	06-6932-5025	2
26	大阪市立関目小学校	大阪市城東区関目6-5-5	06-6931-0187	3
27	大阪市立関目東小学校	大阪市城東区関目4-12-15	06-6934-4449	4
28	大阪市立東中浜小学校	大阪市城東区東中浜5-4-5	06-6962-0087	1
29	大阪市立放出小学校	大阪市城東区放出西2-2-18	06-6967-2251	1
30	大阪市立鶴見小学校	大阪市鶴見区鶴見4-14-10	06-6911-5281	2

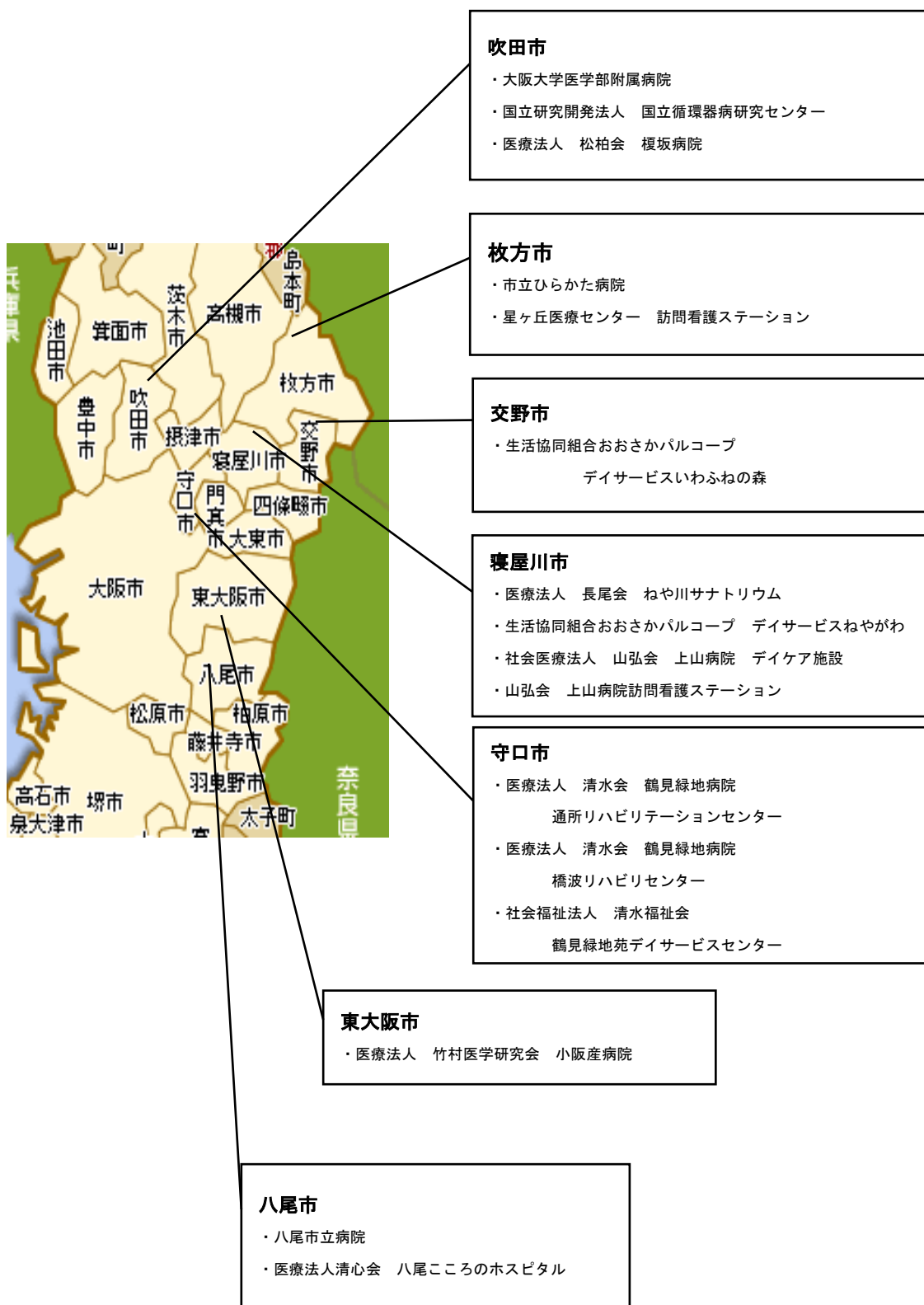
31	門真市立門真小学校	門真市柳町4-1	06-6909-2000	1	
32	門真市立大和田小学校	門真市大橋町21-46	072-881-0049	1	
33	門真市立二島小学校	門真市三ツ島1丁目5-10	072-883-0016	1	
34	門真市立四宮小学校	門真市四宮2-8-1	072-883-3341	1	
35	門真市立古川橋小学校	門真市御堂町18-9	06-6901-4444	1	
36	門真市立沖小学校	門真市沖町28-1	072-882-6165	1	
37	門真市立上野口小学校	門真市上野口町31-1	072-882-0882	1	
38	門真市立速見小学校	門真市速見町4-1	06-6909-6500	1	
39	門真市立脇田小学校	門真市脇田町4-1	072-883-1628	1	
40	門真市立北巢本小学校	門真市北巢本町2-11	072-882-7427	1	
41	門真市立五月田小学校	門真市北島町27-1	072-884-3061	1	
42	門真市立東小学校	門真市岸和田3-42-1	072-884-4511	1	
43	門真市立砂子小学校	門真市三ツ島6-2-1	072-884-3031	1	
44	門真市立みらい小学校	門真市浜町22-41	06-6902-2890	1	
45	東大阪市立意岐部小学校	東大阪市新家2-11-52	06-6781-2900	2	
46	東大阪市立意岐部東小学校	東大阪市荒本西1-3-46	06-6788-4331	2	
47	守口市立守口小学校	守口市八島町13-40	06-6995-2509	1	
48	守口市立庭窪小学校	守口市佐太中町1-6-10	06-6901-2369	1	
49	守口市立八雲小学校	守口市八雲町4-31-31	06-6991-2490	1	
50	守口市立錦小学校	守口市寺方錦通2-8-45	06-6998-3661	1	
51	守口市立金田小学校	守口市金田町3-11-11	06-6901-6667	1	
52	守口市立梶小学校	守口市梶町4-79-12	06-6902-8300	1	
53	守口市立藤田小学校	守口市藤田町1-58-18	06-6903-2321	1	
54	守口市立八雲東小学校	守口市八雲東2-77-7	06-6909-3221	1	
55	守口市立佐太小学校	守口市佐太中町6-11-51	06-6902-1171	1	
56	守口市立下島小学校	守口市下島町15-27	06-6993-0201	1	
57	守口市立よつば小学校	守口市大久保町2-17-26	06-6901-5425	1	
58	守口市立さくら小学校	守口市大宮通1-14-9	06-6991-0313	1	
59	守口市立寺方南小学校	守口市寺方元町4-1-45	06-6991-0642	1	
60	守口市立さつき学園（前期	守口市春日町13-26	06-6991-0440	1	
				合計	100

実 習 学 校 一 覧

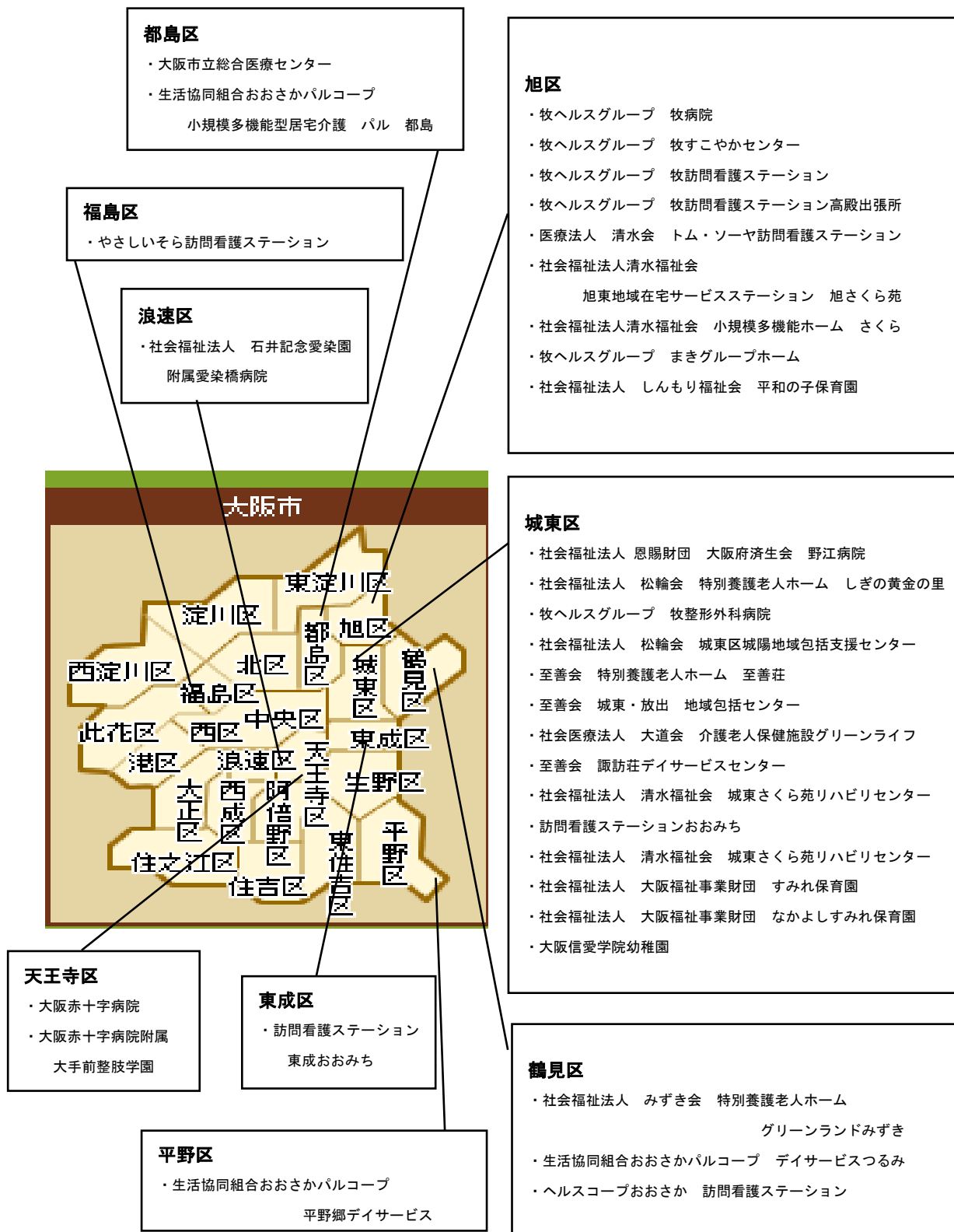
実習の区分：教職インターンシップ（養護）

	小学校名	住所		受け入れ数	クラス数
1	大阪信愛学院幼稚園	大阪市城東区古市2-7-30	06-6939-4391	20	10
2	大阪信愛学院小学校	大阪市城東区古市2-7-30	06-6939-4391	20	9
3	大阪信愛学院中学校	大阪市城東区古市2-7-30	06-6939-4391	20	6
4	大阪信愛学院高等学校	大阪市城東区古市2-7-30	06-6939-4391	20	14
			合計	80	

大阪府内・大阪市外の実習施設



大阪市内の実習施設



実習委託契約書（案）

教育機関 大阪信愛学院大学（以下、「教育機関」とする）と、施設 〇〇法人 〇〇〇〇
（以下、「施設」とする）との間に、次のとおり学生実習委託に関する契約を締結する。

第1条 本契約は、教育機関の学生（実習生）が施設実習を行うにあたり、施設がその趣旨を理解し、実習に協力する上で必要な事項について定めるものである。

第2条 教育機関は施設に対して施設実習にかかる協力を委託し、施設はこれを受託する。

第3条 施設実習にあたって、教育に関する責任は教育機関が負うものとする。

第4条 施設における実習方法・実習時期等については、あらかじめ両者が協議を行い定めるものとする。

第5条 実習生は施設における諸規則を遵守しなければならない。

1. 実習生は施設における実習の規定に違反し、または実習生としてふさわしくない行為があったときは、施設は当該実習を停止させ、または第2条の受託を取り消すことが出来る。
2. 実習生は、施設の個人情報保護規定の厳守に努め、実習中に知り得た患者の個人情報の取り扱いには十分に注意する。記録物等に関する取り扱い等については教育機関が責任をもって指導する。

第6条 実習に伴う費用の請求は、1名1日につき、 円とする。

1. 実習の実施状況は、教員及び指導者が実習実施確認表にて確認をする。
2. 教育機関は、学年の当院全実習終了後、実習終了報告書を提出する。
3. 施設は実習終了報告書に基づき、教育機関に実習実施費用を請求する。

第7条 実習に伴う費用について、教育機関は費用請求の通知を受けたのち、指定日以外に施設所定の口座に実習費用を振り込むものとする。

第8条 この契約書に定めていない事項については、教育機関と施設がそれぞれ協議し、処理・解決するものとする。

第9条 この契約の期間は、令和 年4月1日から令和 年3月31日までとする。

本契約の成立を証する為、本書2通を作成し、記名押印の上、双方で各1通保有する。

平成 年 月 日

施設名

代表者名

印

教育機関 大阪信愛学院大学

代表者名 学長

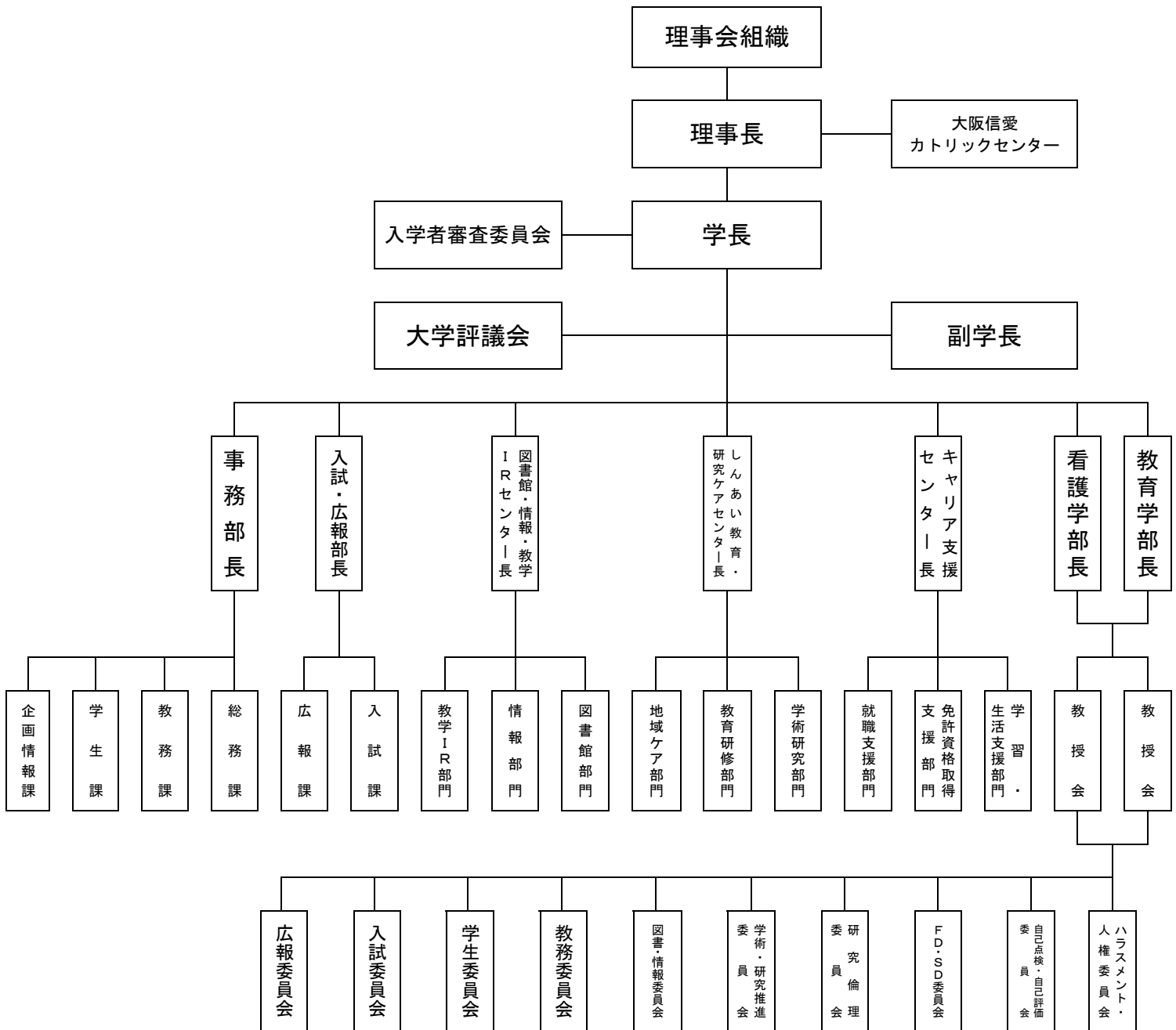
印

【資料 63】

教職インターンシップ 信愛学院 行事資料

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
4月	入園式 始業式 クラス懇談会 親子遠足	入学式 1年生歓迎遠足	入学式 春の遠足 学院創立記念日 学力テスト	入学式 春の遠足 学院創立記念日 スタディサポート
5月	保育参観(母の日) 教育会総会 園外保育 聖母をたたえて 健康診断 (内科・歯科・眼科)	修学旅行 体験学習5年 マリア様をたたえる集い	中間考査 学級懇談 参観 聖母祭 遠足 1年生合宿説明会 芸術鑑賞 1年生勉強合宿 健康診断	中間考査 参観日 聖母祭 芸術鑑賞 健康診断
6月	日曜参観(父の日) プール指導 保育参観(自由参観) 避難訓練	日曜参観 健康診断	教育実習期間 社会人講演会 球技大会 英語検定	球技大会 英語検定
7月	七夕 お泊り保育(年長児) 1学期終業式 夏期保育 バザー	体験学習3年 体験学習4年 イングリッシュキャンプ ^o 6年 個別懇談 終業式	期末考査 3年生修学旅行 2年生自然体験学習 個人懇談	夏期特別プログラム 期末考査 個人懇談 漢字検定
8月	夏期保育 夏期預り保育	始業式	宿題テスト	海外英語研修 夏期講座
9月	2学期始業式 保育参観(自由参観) 入園説明会	運動会	体育大会 文化祭	体育大会 文化祭
10月	運動会 園外保育	英語暗唱大会 秋の遠足	中間考査 学力テスト 社会人講演会 英語検定	中間考査 英語検定 赤い羽根街頭募金 修学旅行
11月	一日動物村 七五三祝い 学院追悼式 避難訓練	追悼式 学習発表会	個人懇談 学力テスト 追悼ミサ 英語発表会	個人懇談 学院追悼式 漢字検定
12月	クリスマス会(聖劇) クリスマスキャロル 個人懇談 2学期終業式	個別懇談 クリスマスを祝う会 終業式	期末考査 合唱コンクール イングリッシュキャンプ クリスマス祭 冬期講習	期末考査 クリスマス祭
1月	3学期始業式 講演会 お楽しみ会	始業式	宿題テスト 新春カルタ会 英語検定 漢字検定	漢字検定 英語検定 到達度試験 大学共通テスト
2月	節分 保育参観(自由参観) 避難訓練 お別れお茶会	マラソン大会 練成会(6年)	学力テスト 学院奉献祭 練成会 社会人講演会	学院奉献祭 修養会 卒業式
3月	ひな祭り お別れ会 卒園式 3学期終業式	卒業感謝ミサ 卒業式 <small>6年生を送る会</small> 終業式	学年末考査 スケート教室 春期講習 卒業式	学年末考査 春期講座

大学の管理運営組織<案>



大学評議会
(管理組織)

- 学長 (議長)
- 副学長
- 学部長
- センター長
- 図書館長
- 教授 2 名 (学長が委嘱する教授)
- 事務部長
- 外部の学識経験者 2 名